

(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団発掘報告第216集  
関越自動車道(上越線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書第43集

Yata Site vol.VIII

# 矢田遺跡VIII

*Yoshii, Tano, Gunma*  
群馬県多野郡吉井町

中近世編 (併古代以前非竪穴遺構)

1 9 9 7

群 馬 県 教 育 委 員 会  
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団  
日 本 道 路 公 団



(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団発掘報告第216集  
関越自動車道(上越線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書第43集

Yata Site vol.VIII

# 矢田遺跡VIII

*Yoshii, Tano, Gunma*

群馬県多野郡吉井町

中近世編 (併古代以前非竪穴遺構)

1 9 9 7

群馬県教育委員会  
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団  
日本道路公団



# 序

「鎬の谷」を形成する鎬川下流域の多野郡吉井町大字矢田は、国指定史跡多胡碑の碑文に記された「八田郷」にかかわる由緒ある地です。この地域の南に高速道路・上信越自動車道が通過し、吉井インターチェンジが建設されることとなり、昭和61年度から平成3年度の6年間にわたって発掘調査が行われました。

調査対象地域は約9万㎡の広域に及び、750軒余の古墳から奈良・平安時代の竪穴住居をはじめとする多数の遺構・遺物が発見され、多胡郡の歴史を解明する上で貴重な資料を得ることができました。その成果は、平成2年から始めた整理事業により発掘調査報告書『矢田遺跡Ⅰ～Ⅶ』として、逐次刊行してまいりました。

本書『矢田遺跡Ⅷ』は、古代以前の竪穴住居を除いた遺構・遺物を報告したものです。これら遺構の中で特に注目されるのは、天王原館跡として命名された中世の方形居館があげられるでしょう。居館の内部には堀で囲われた区画が見られ、さらに外側には道路をはさんで掘立柱建物群・井戸跡・墓地などが多数検出されました。それは、中世の在地土豪の生活の一端を知る貴重な資料を提供しています。

ここに、矢田遺跡最終の発掘調査報告書として本書が刊行の運びとなりました。発掘調査から刊行に至るまで、日本道路公団東京第二建設局、同高崎工事事務所、群馬県教育委員会、吉井町教育委員会をはじめとする関係諸機関、並びに発掘調査・整理事業にかかわった多くの皆様のご協力とご支援に厚くお礼を申し上げます。そして、本書が地域の歴史を解明する上で、多くの方に広く活用されますことを願い、序といたします。

平成9年3月

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

理事長

小寺弘之

# 例 言

1 本書は、矢田遺跡(群馬県多野郡吉井町大字矢田・多胡・多比良所在)の上信越自動車道建設に伴う発掘調査報告書の内、中近世及び古代以前(竪穴住居を除く)の調査成果の報告書である。

2 本遺跡の発掘調査は、当事業団が昭和61(1986)年4月1日より平成3(1991)年11月26日まで行った。古代以前の竪穴住居の調査成果については、『矢田遺跡Ⅰ～Ⅶ』として平成2(1990)～8(1996)年に刊行済みである。

3 発掘調査は、次の体制で行った。

調査担当 鬼形芳夫・依田治雄・中沢 悟・春山秀幸・関口功一・内木真琴・富田一仁・関口博幸

事務担当 関越道上越線調査事務所

所長 井上 信・高橋一夫・阿部千明・松本浩一・吉田 肇

総括次長 片桐光一・大澤友治 次長 原田恒弘・徳江 紀

調査課長 長谷部達雄・鬼形芳夫・依田治雄

庶務 黒沢重樹・宮川初太郎・国定 均・笠原秀樹・吉田有光

## 発掘作業員

青木いせ・天田文子・(故)新井克巳・新井幸子・新井すみ子・新井高子・新井まつ子・新井 緑・  
新井富貴子・新井真弓・飯塚和良・飯塚初代・飯塚 房・伊倉茂登子・井田松寿・今井 好・  
浦野千代子・江原まさ子・遠藤秀子・大木みさ子・大木みつ・落合君子・鬼形田鶴子・加藤節子・  
金井すみ江・金井はる・金沢友次・神戸ハツエ・神戸 啓・喜多川源造・木村ハナ子・工藤きみよ・  
栗原 清・黒沢敦子・黒沢京子・黒沢 治・小嶋八重子・小林愛子・小林きよ子・小林善三・小林初美・  
佐藤千代子・斎藤友枝・斎藤初子・斎藤英子・斎藤政宏・斎藤美知子・志賀シゲ子・志賀 大・  
紫藤カヲル・紫藤 孝・篠崎とよ・篠崎太郎・島田八千代・清水桂子・清水千代・白井精一・神保恵子・  
神保すみ江・神保 進・杉田さく子の・鈴木ふさ子・鈴木幸男・高田 嵩・高田三枝子・高橋智恵子・  
高橋ちよ子・高橋春代・滝沢利子・竹内栄子・建部すみ子・田中みき江・田端春治・佃 満・寺尾克代・  
中村いち・髭島静子・(故)髭島豊統・野口節郎・野口照子・野中正江・長谷川良一・長谷川高子・  
林 敏子・原口葉子・平田 昇・藤本ひろ子・本間敏子・松本タツノ・松本良子・三ヶ島富二郎・  
三木時一・宮下憲子・村上繁代・望月登代子・百瀬美子・森 利子・森 基司・谷田部喜代美・山崎孝子・  
湯浅安代・吉田良子・吉田たづ子・(故)吉田一子・若林さく子・若林てい子・若林トヨ子

4 整理作業は、次の体制で1995年4月1日～97年3月31日(平成7・8年度)に行った。

事務担当 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団事務局

事務局長 原田恒弘 調査研究部担当部長 神保侑史(7年度)・赤山容造(8年度)

調査研究部担当課長 岸田治男(7年度)・平野進一(8年度)

整理担当 山口逸弘(7年度)・坂井 隆(8年度)

## 整理作業員

7年度 猪野熊洋子・加藤和子・鈴木紀子・高橋フジ子・長岡美和子・中橋たみ子・萩原由美子

8年度 新井加寿恵・串渕すみ江・佐藤信子・須田はつ江・南雲繁子・丸橋富美子・吉原清乃

保存処理 関 邦一

遺物撮影 佐藤元彦

5 本書は、8年度整理担当である坂井が責任編集し、署名部分を除いて執筆した。また景観の推定復元図は新井加寿恵が描いた。縄文晩期土器については、当事業団の大木紳一郎の助言による。

# 凡 例

## 1 整理報告の基本方針

速やかな報告書刊行を最大の目的とした。後述のように本書の報告対象とされたのは、竪穴住居以外の縄文時代を除く遺構・遺物である。しかし、責任編集者にはその区分の意味は理解できず、中近世の遺構・遺物の報告を主とし、古代以前の竪穴住居以外の遺構・遺物については事実報告にとどめざるをえなかった。

## 2 本報告書の構成

主な遺構について地区別に報告し、その後に調査時に「ピット」と総称されたものを小型遺構として地区別に掲載した。

## 3 遺構について

- ア 掲載対象 : 小型遺構は、ほとんど遺物出土のものに限定せざるをえなかった。
- イ 遺構番号 : 調査時の呼称に関わらず、内容に応じて種別ごとに通番を付した。また内容の乏しいものは削除したため、番号は完全には継続していない。
- ウ 報告の焦点 : 可能な限り立地条件を現すことを優先した。図だけではなく、原則として本文に従って掲載した遺構景観写真を併用されることが望まれる。
- エ グリッド : 調査時の国土座標に基づく5×5mの小グリッドを踏襲した(南西側を原点とし、北東端の点により、Y軸方向-X軸方向の順で呼称)。
- オ 掲載順序 : 時代に関わらず、大字矢田分の西から東、大字多比良分、そして大字多胡分の順で掲載した。時代・遺構番号による検索は、遺構索引(P.193)を利用されたい。
- カ 基本層序 : 参照『矢田遺跡Ⅰ～Ⅶ』

## 4 遺物について

- ア 掲載対象 : 責任編集者は、本報告で掲載した遺物について、陶磁器と金属器・骨類を除いて、その選択理由を物理的要件により引き継いでいない。そのため、遺構と遺物の関係は完全な状態では報告できなかった。
- イ 遺物番号 : 4桁の通番を付け、第1桁を次のように分けた。  
0 : 土器・陶磁器類 1 : 石製品類 2 : 金属製品類 3 : 骨類
- ウ 報告の焦点 : 中近世の遺構の時代観と性格を把握することを中心とした。古代以前の遺物については本遺跡の竪穴住居関連の報告書で詳述されてあるはずだが、やはり物理的要件によりそれらとの照合は行っていない。
- エ 出土状態認識 : 上述のように、遺構からの出土状態については明確にはできなかった。
- オ 実測方針 : 古代以前の土器については、初年度整理に実測されたものを時間的制約によりそのまま踏襲したため、その表現と仕上がりについて責任編集者は関係していない(須恵器坏類の底部拓本については省略した)。それ以外の土器類は使用痕表現を最優先した。

## 5 その他

- 略 称 : 群埋文：(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- ア 石材認定 : 飯島静男氏(群馬地質研究会)
- イ トレース : 遺構図・遺物図 (株)測研 小池智賀子他
- ウ コンピュータグラフィック : (株)四門

# 抄 録

## 1 遺跡の概要

本遺跡は多野郡吉井町大字矢田・多胡・多比良にまたがって所在する。鑷川右岸に注ぐ支流矢田川と多胡川に挟まれた矢田段丘南端に立地する。

発掘調査は、昭和61(1986)年4月1日より平成3(1991)年11月26日まで行った。現在は、上信越自動車道の吉井・高崎南インターチェンジとその東に接する高速道本線となった。

本遺跡調査成果の中で古代以前の竪穴住居については、『矢田遺跡Ⅰ～Ⅶ』として平成2(1990)～8(1996)年に刊行してある。

## 2 遺構数量

種別	時代	主な種類	数量	特記事項
生産 交通	近代	畠 道路	18	近世後期の浅間山爆発以後に形成された道路に区画された畠地 現在の字界に一致
			5	
交通 生産 生産	近世	道路	6	浅間山爆発以前から存在していた道路そして耕地の区画を示した溝と畠地周縁に普通見られる短冊形土坑を中心に多数の農耕に関係する土坑が多い
		溝	31	
		土坑	46	
居住 居住 交通 埋葬	中世	掘立柱	11	13世紀を上限とする方形居館がある その外側の平坦地には掘立柱建物群と井戸で形成される居住区画が別に広がる 墓坑群を含めた外側居住空間と居館は堀状の道路によって区分されている
		館跡	1	
		道路	1	
		墓坑	3	
居住 生産 生活	古代	掘立柱	9	大型掘り方を持つ掘立柱群 総柱建物が多い 竪穴住居内で検出した小鍛冶は周辺に鉄滓の分布がある 低地際には大甕や碗・坏などの日常器の須恵器集積が見られる
		小鍛冶	3	
		土器集積	4	
居住 自然	古墳	柱穴列	3	掘立柱建物になる可能性もある柱穴列が集中 その西側の多胡川旧流路では石敷遺構がある
		旧河川	2	
生産	縄文	土坑	1	晩期東信濃の水式土器甕片出土

## 3 まとめ

1 **近世・近代** 広大な段丘上平坦面は、基本的に畠地として広く利用されていた。しかし、18世紀後半の天明年間の浅間山爆発により、それまでの景観を構成していた道路と畠は荒廃し、その後復興された道路と畠は現在に至る大字・小字の地境を決定した。地形的には不自然な本調査地での矢田と多胡の境界もこの時に形成された可能性がある。

2 **中世** 天王原館跡として確認した方形環濠居館は、核心部分は調査対象にはならなかったが内部に柱穴列による区画と方形竪穴を配する構造を検出した。この居館は、13世紀を上限として成立しており、西側には北の鎌倉街道方向に向かう堀状の道路が接している。さらに道路の西側の平坦地には、堀などで囲われない状態での掘立柱建物群、そして墓坑群が見られた。この建物群は、15世紀頃と推定される環濠居館の廃絶後も利用が続いた可能性がある。

3 **古代** 掘立柱建物群の数はかなり多く、従来言及されてきた、この時代の集落が竪穴住居のみで構成されていたという印象が、事実とは異なることが判明した。鍛冶業もこの集落の一つの重要な生業として存在したことは間違いなく、日常用の土器の集積状況は、低地部の利用の仕方と関係があるだろう。

4 **古墳時代** 南西側で見られた柱穴列群は、掘立柱建物になる可能性もある。この時代においても竪穴住居のみで集落が構成されていたのではないことは確かである。旧河川での石敷遺構は、川での何らかの生活を示唆するものである。

5 **縄文時代** 弥生前期並行の西からの土器文化は、早い速度で甘楽回廊を東進したことを示している。



# 目 次

序	例言	凡例	抄録	目次
一 本文				
	<b>I 序章</b>			P.9
	1 調査整理経過			P.11
	2 中近世の環境			P.12
	<b>II 検出遺構と遺物</b>			P.19
	1 概要			P.21
2	遺物概要と大型遺構			P.25
	ア 北西側地区			P.25
	イ 東側地区			P.65
	ウ 南西側地区			P.81
3	小型遺構と遺構外遺物			P.118
	ア 北西側地区			P.118
	イ 東側地区			P.128
	ウ 南西側地区			P.136
	4 表面採集遺物			P.153
	<b>III 遺物の特徴</b>			P.159
	1 陶磁器			P.161
	2 中近世土器			P.163
	3 錢貨			P.164
	4 金属製品			P.166
	5 石製品類			P.167
6	獣人骨 宮崎重雄			P.168
	<b>IV 遺構の特徴</b>			P.171
	1 中世居館と道路			P.173
	2 掘立柱建物			P.179
	3 景観復元			P.181
	<b>V 調査成果まとめ</b>			P.183
	1 近世以降			P.185
	2 中世			P.187
	3 古代以前			P.189
	<b>VI 索引</b>			P.191
	遺構索引・遺物索引			P.193
	summary			P.198
	報告書抄録			P.199

## 二 写真図版

遺跡の立地と遺物(原色)	PL.1
眺望・景観・全景・作業風景(単色)	PL.7
北西側地区大型遺構と遺物(単色)	PL.16
東側地区大型遺構と遺物(単色)	PL.43
南西側地区大型遺構と遺物(単色)	PL.53
小型遺構と遺物(単色)	PL.71
表面採集遺物(単色)	PL.90
錢貨(単色)	PL.94

## 三 資料

表目次・利用法	P.299
遺構一覧	P.301
土器陶磁器類一覧	P.307
石製品類一覧	P.331
有機物一覧	P.331
金属製品一覧	P.331

# 一 本 文



## 第 I 章 序章



# 1 調査整理経過

関越自動車道上越線（上信越自動車道）は首都圏と上信越地方を結ぶ高速自動車国道である。路線は東京都練馬～群馬県藤岡市まで関越自動車道新潟線と併用し、群馬西部の藤岡J Cから藤岡市・吉井町・甘楽町・富岡市・妙義町・松井田町・下仁田町を経て長野県佐久市に至り、長野県内を通過して新潟県上越市までの約280kmに及ぶ。平成5（1993）年3月に藤岡インターから佐久インター間約69kmが開通した。

昭和47（1972）年、関越自動車道上越線（群馬県藤岡市～長野県佐久市間）の基本計画が策定され、同54年に建設大臣から日本道路公団へ施行命令がなされた。昭和56（1981）年、藤岡市より松井田町までの東部の路線が、同57（1982）年には松井田町から長野県佐久市に至る西部の路線が発表された。

## ア 発掘調査に至る経過

昭和49年度 群馬県教育委員会は県企画部幹線交通対策課に対して協議要請

昭和55年度 県教委文化財保護課、路線及びその周辺の埋蔵文化財包蔵地の調査を実施

昭和59年度 日本道路公団からの依頼で県教委文化財保護課、包蔵地の詳細分布調査を実施

昭和60年度 県教委文化財保護課、発掘調査想定面積を約100万㎡、55遺跡と回答

調査の基本方針を次のように策定

- ① 発掘調査は昭和61～66年の6年間。後に昭和65年度（平成2年）までの5年間に変更。
  - ② 発掘調査の中核機関となる当事業団が藤岡市～富岡市の約76万㎡を担当し、他の22万㎡は関係市町村で調査会を組織し対応。
  - ③ 当事業団は上越線調査事務所を開設し、整理事業も合わせて実施。
- ※ 調査の実施にあたり、日本道路公団と県教委は年度毎に委託契約を締結する。県教委はそれを受けて当事業団、関係市町村の遺跡調査会に対し再委託契約を締結。

## イ 発掘調査の実施と整理

吉井・高崎南インターとその東側隣接地である矢田遺跡は、昭和61（1986）年度から調査を実施した。以後調査は工事の進捗に先んじて、約90,000㎡に及ぶ対象地を足かけ6年間に渡り順次行った（詳細については『矢田遺跡Ⅰ～Ⅶ』参照）。

整理は、延べ9年間の期間が必要であるとされ、平成1（1989）年より継続されてきた。当初策定された基本方針は、「地域を区切ることが困難なため、時代別（地域を加味する）に実施し、最終整理で全体をまとめる」とされた。

その際に決められた区分では、平安時代住居跡編3冊（Ⅰ～Ⅲ）、奈良時代住居跡編1冊（Ⅶ）、古墳時代住居跡編3冊（Ⅳ～Ⅵ）、旧石器・縄文時代1冊（Ⅳに併記）となり、本書Ⅷの対象は「住居跡以外の遺構編」とされた。

平成7年度から本書の対象を整理してきたが、①対象そのものの設定が曖昧であり、②7・8年度整理担当は共に発掘調査に参加しておらず、③それまでの整理担当者の本書整理対象に対する理解が明確でなく、④物理的要件により7年度整理の引継が十分でなかったため、遺憾ながら本書の報告は理想的な形にはならなかった。

そのため責任編集者は、速やかな刊行を最大の目的としながら、これまでの整理の対象にはなっていなかった中近世の遺構・遺物の報告を本書の報告内容とした。また、古代以前の竪穴住居以外の遺構と遺物については事実報告にとどめざるをえなかった。そのため、本書は「全体をまとめた」最終報告書ではない。

## 2 中近世の環境

### ア 自然環境

#### A 本州中部山地の要衝、甘楽回廊

本遺跡北の利根川支流<sup>かぶつ川</sup>鑄川は、水源の上信国境<sup>あらふね</sup>荒船山(海拔1422m)から約50キロ東流して、関東平野に入ってから、他の大きな支流と共に利根川本流に合流している。

鑄川の流域は、北の碓氷川との間に奇峰妙義山(海拔1104m)から続く比高100m弱<sup>いわのや</sup>の岩野谷丘陵が連なり、南は神流川との間に赤久縄山(海拔1522m)と西御荷鉾山(海拔1286m)をピークとする急峻な山脈が走り、その裾には河岸段丘が発達している。両側の山地に挟まれた現在水田となっている平地は南北の幅が1～3キロ程度と狭いが、鑄川の流れは平地が形成される富岡市南蛇井付近から東は大きな蛇行がないため、東西方向は眺望が良く開放的な景観を示している。そのため、鑄川流域(古代名は甘楽)全体は、東西走向の回廊地形として認識できる。

荒船山は頂上が長く平坦で、航空母艦のような特異な形状をしているため、頂上北側の内山峠への断崖を含めて、背後の活火山浅間山(海拔2542m)と共に、広く関東平野北部全体から識別できる。碓氷峠など荒船山に連なるいくつかの関東山地の峠を越えると、千曲川上流の長野県佐久地方に達する。千曲川は下流では信濃川と呼ばれて新潟で日本海に注いでおり、荒船山周辺は本州の分水嶺にあたるが、この山の周辺には通行がそれほど難しくなく峠が多い。

また佐久地方から南西には蓼科山塊<sup>なてしな</sup>が広がるが、そこにあるいくつかの峠を経て遠州灘に流れる天竜川源流の諏訪湖に達することは容易である。甘楽回廊は中部山地へ深く入り込んだ関東平野の最西端であると同時に、本州中部山地の東の末端としても見る事ができる。

#### B 段丘面の最南端、「天久山」

甘楽回廊の中で富岡市街地南部の高瀬丘陵東半より東では、右岸(南側)に2段の段丘が発達しているが、この段丘面は南の赤久縄・御荷鉾山系から北流する小河川により分けられている。本遺跡は、そのような河川矢田川<sup>たご川</sup>と多胡川が東西両側を削って形成された上位段丘面である矢田段丘面(南北1.5km東西0.5km)の南端に位置している。

この地域では、南側の山は赤久縄・御荷鉾山系の前衛である熊倉山(896m)山系が屹立し、さらにその前面北側には、大きく開析を受けて独立峰状に連なる牛伏山<sup>うしふせ</sup>(490m)山系が、段丘面の直接背後の山として並んでいる。両河川はこの牛伏山の北裾を源流としている。

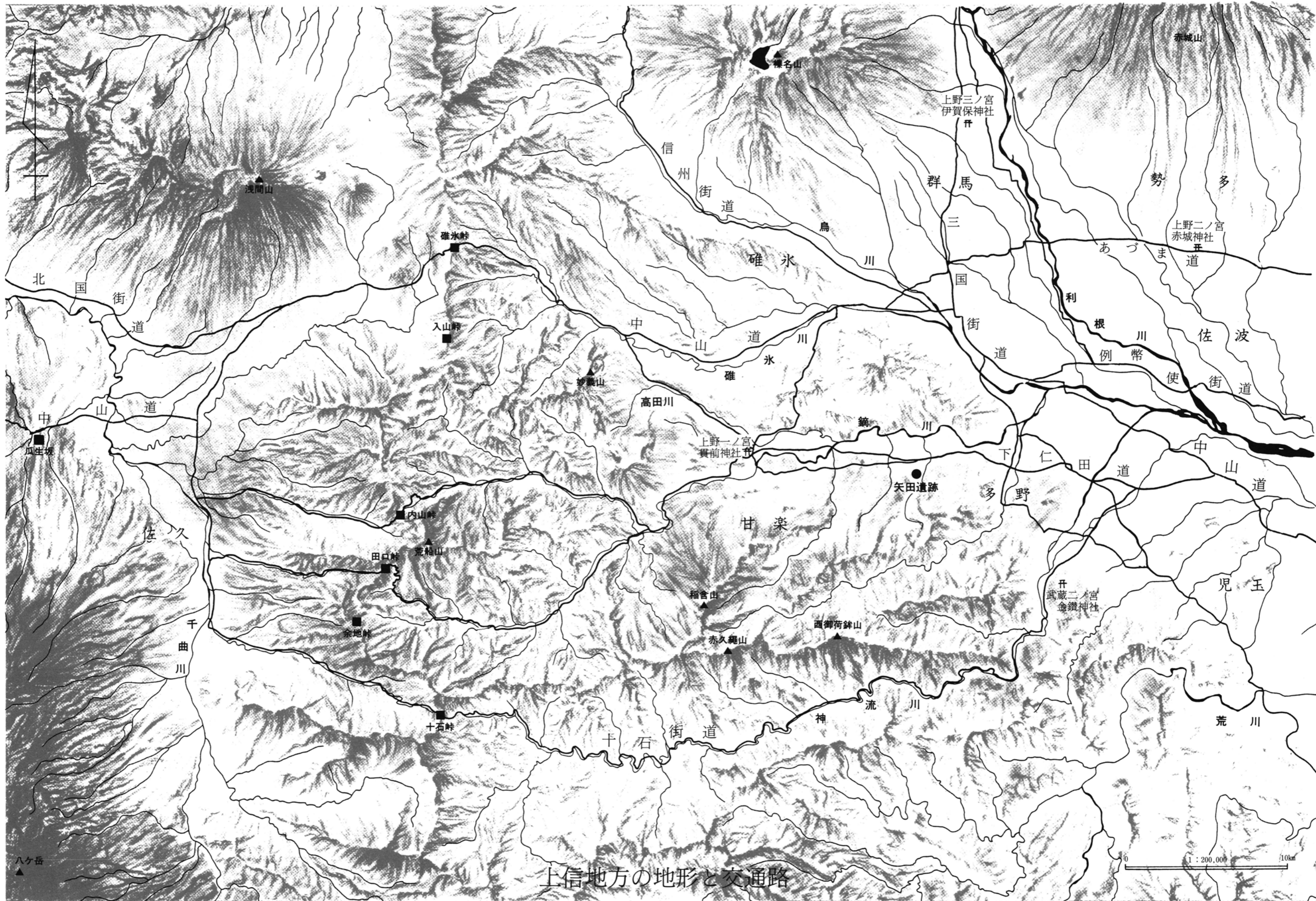
本遺跡地は、牛伏山山頂から北北東2.5kmに位置し、牛伏山系の末端の無名小丘陵(221m)の北麓に面する。矢田段丘面は、この小丘陵の直下から平坦面として北に延びているが、小丘陵最北端<sup>あまく</sup>が天久山(観音山182m)である。ほぼ四方に眺望の良い天久山の下部30mの北・西側に本遺跡は展開している。比較的平坦な天久山山頂の南と東は、50mの急斜面が矢田川低地まで達している。

この天久山丘陵から北北東方向に矢田川に向かって2本の低地(稲荷久保・前久保低地と杉之久保・尾崎久保低地)が延びており、そのため、概ね東西方向に延びる今回の調査地は、3個の平坦面に区分される。しかし、この3個の平坦面は均一ではなく、東端の天久山直下部分では矢田川まで30mの比高を持つやや急な傾斜地であるのに対し、最西端は多胡川まで10mの比高で緩やかに下がっている。

#### C 気象状況

南西15kmの稲含山は、夏季の雷の発生地として知られており、本遺跡地もその初期段階の通過地点である。



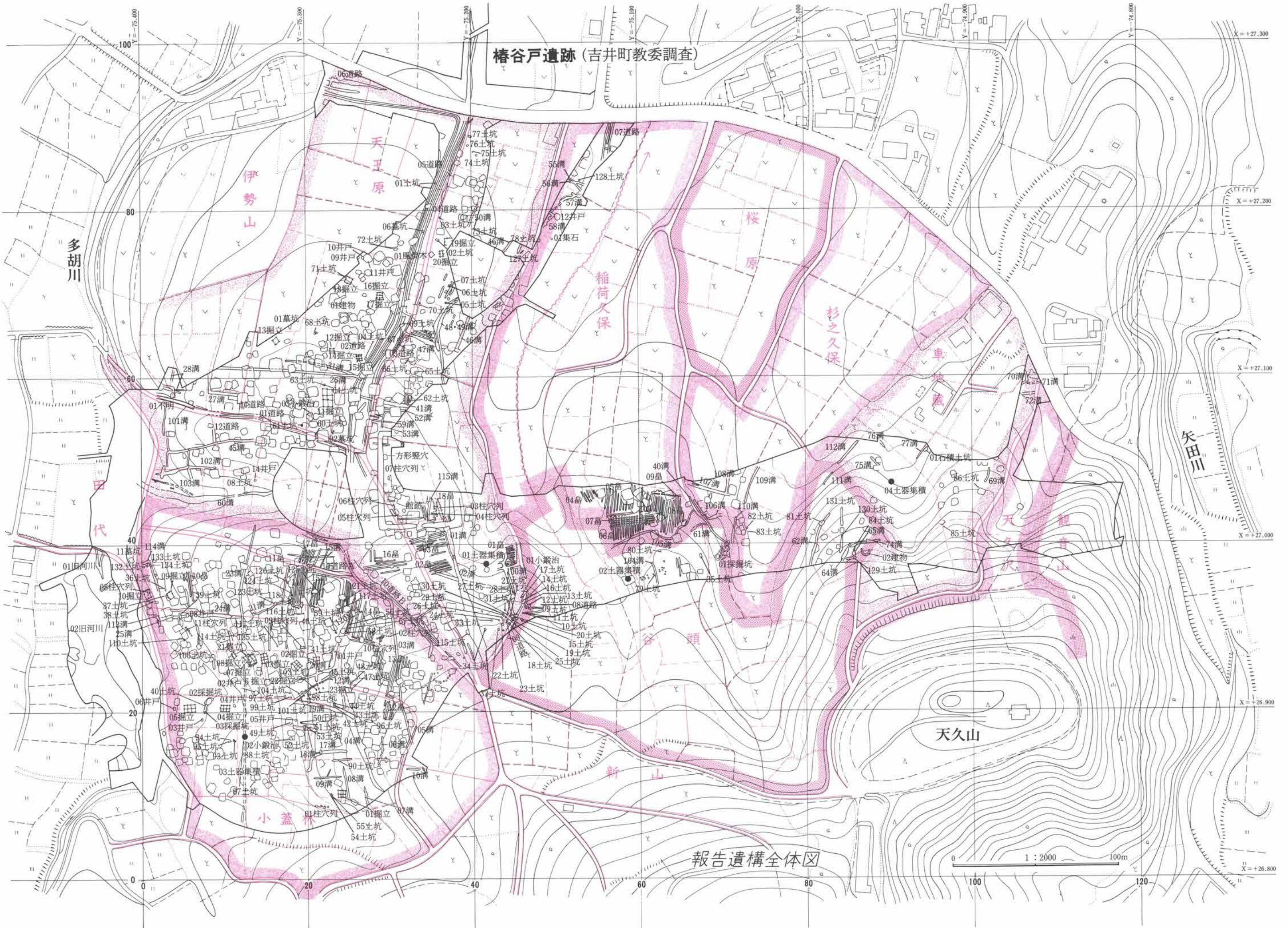


上信地方の地形と交通路

1 : 200,000 10km



椿谷戸遺跡 (吉井町教委調査)



報告遺構全体図

1 : 2000 100m



## 周辺の中近世遺跡一覧

番号	遺跡名	中世	近世	文献	番号	遺跡名	中世	近世	文献
1	矢田	○	○	本書	53	黒熊海道端		○	吉. 1995
2	馬場城	○		県. 1988	54	中(黒熊)城	○		県. 1988
3	奥平城	○		県. 1988	55	黒熊栗崎		○	埋. 1995
4	奥平地域城	○		県. 1988	56	黒熊中西		○	埋. 1992 B, 94 B
5	坂口城	○		県. 1988	57	新堀(多比良)城	○		県. 1988
6	庭谷城	○		県. 1988	58	瀬戸(向平)城	○		県. 1988
7	甘楽条里		○	甘. 1983/88	59	中ノ原城	○	○	吉. 1989 B
8	小棚城	○		県. 1988	60	天引城	○		県. 1988
9	片山の砦	○		県. 1988	61	八束城	○		県. 1988
10	本郷城	○		県. 1988	62	一郷山城	○		県. 1988
11	塩川の砦	○		県. 1988	63	平井城	○		藤青. 1991
12	吉井陣屋		○	県. 1988	64	東平井の砦	○		県. 1988
13	池城	○		県. 1988	65	藤岡平地区遺跡群	○		藤. 1994
14	上池館	○		県. 1988	66	F12飛石の砦	○		埋. 1994 A
15	岩崎城	○		県. 1988	67	東平井官正前	○		埋. 1994 A
16	入道谷屋敷	○		県. 1988	68	東平井官正前	○	○	埋. 1994 A
17	中林城	○		県. 1988	69	東平井土井下		○	埋. 1994 A
18	間庭城	○		県. 1988	70	常岡(神田)城	○		県. 1988
19	下山		○	吉. 1990 A	71	F13b西平井天神			藤. 1994
20	根小屋城	○		県. 1988	72	F13b西平井島	○		藤. 1994
21	寺尾下城(山名城)	○		県. 1988	73	F2大工ヶ谷戸		○	藤. 1994
22	浅場城	○		県. 1988	74	F2緑埜上郷		○	藤. 1994
23	仁比屋城	○		県. 1988	75	白石大御堂	○	○	埋. 1991
24	天引狐崎	○	○	埋. 1996 A	76	F9薬師原	○		藤. 1985
25	天引口明塚	○		埋. 1992 A	77	鮎川城	○		県. 1988
26	倉内城	○		県. 1988	78	上大塚城	○		県. 1988
27	長根城	○		県. 1988	79	白塩道南	○		藤. 1985
28	長根宿	○	○	吉. 1987	80	A2北山	○		藤. 1987
29	長根羽田倉			埋. 1990	81	白石の砦	○		県. 1988
30	神保館	○		県. 1988	82	美土里地区Na2	○		藤. 1983
31	神保富士塚	○		埋. 1993	83	東原II	○		藤岡市史
32	神保植松		○	埋. 1996 B	84	白石北原	○	○	藤. 1993
33	神保(植松)城	○		埋. 1996 B	85	美土里地区Na4	○		埋. 1991
34	折茂の砦	○		県. 1988	86	平井地区Na11	○		埋. 1991
35	高の砦	○		県. 1988	87	落合城	○		県. 1988
36	多胡下の城(金沢城)			県. 1988	88	岡の砦	○		県. 1988
37	多胡館	○		県. 1988	89	美土里地区Na1	○		埋. 1991
38	多胡城	○		県. 1988	90	勳堂城	○		県. 1988
39	川内	○		吉. 1982	91	中大塚(駒形)城	○		県. 1988
40	河内の砦	○		県. 1988	92	中大塚	○		埋. 1989
41	椿谷戸	○		吉. 1989 A, 90 B	93	美土里地区Na11	○		埋. 1991
42	矢田城		○	県. 1988	94	上栗須寺前	○	○	埋. 1996 C
43	天王原屋敷	○		県. 1988 及 本書	95	岡屋敷	○		県. 1988
44	天久沢陣城	○		県. 1988	96	上栗須		○	埋. 1989
45	多比良追部野	○	○	埋. 1997	97	中城	○		県. 1988
46	祝神	○	○	埋. 1991	98	森西館	○		県. 1988
47	峰山城	○		県. 1988	99	C12立石堀		○	埋. 1991
48	入野	○		吉. 1985, 86	100	山名館	○		県. 1988
49	黒熊遺跡群			吉. 1984	101	木部城	○		県. 1988
50	小串館	○		県. 1988	102	木部館	○		県. 1988
51	小串塚原	○		吉. 1983	103	一八様	○		埋. 1991
52	三ツ木(中)城	○		県. 1988	104	竹沼・緑埜遺跡群	○	○	埋. 1997 B

### 文献一覧 (中世・近世の遺構遺物検出について何らかの記述があるもの)

甘：甘楽町教育委員会 1983/88. 『甘楽条里遺跡Ⅰ～Ⅵ』 県：群馬県教育委員会 1988. 『群馬県の中世城館跡』 藤：藤岡市教育委員会 1983. 『藤岡市遺跡詳細分布調査報告Ⅱ』 1985. 『F9薬師原遺跡』 1987. 『A2藤岡北山遺跡他』 1993. 『市内遺跡Ⅰ』 1994. 『F12藤岡平地区遺跡群』 藤青：藤岡青年会議所 1991. 『シンポジウム中世東国の都平井城の時代』 埋：群馬県埋蔵文化財調査事業団 1989. 『上栗須・中大塚・上大塚遺跡』 1990. 『長根羽田倉遺跡』 1991. 『白石大御堂遺跡』 1992 A. 『神保下條遺跡』 92 B. 『黒熊中西遺跡Ⅰ』 1993. 『神保富士塚遺跡』 1994 A. 『飛石の砦跡・東平井塚間遺跡他』 94 B. 『黒熊中西遺跡Ⅱ』 1995. 『黒熊栗崎遺跡』 1996 A. 『天引狐崎遺跡Ⅱ』 96 B. 『神保植松遺跡』 96 C. 『上栗須寺前遺跡Ⅲ』 1997 A. 『多比良追部野遺跡』 97 B. 『緑埜遺跡群他』 吉：吉井町教育委員会 1982. 『川内遺跡図版編』 1983. 『塚原遺跡黒熊第1遺跡』 1984. 『黒熊遺跡群』 1985. 『入野遺跡』 1986. 『入野遺跡Ⅱ』 1987. 『西場脇長根宿遺跡』 1989 A. 『椿谷戸遺跡』 89 B. 『中ノ原城跡』 1990 A. 『下山遺跡』 90 B. 『椿谷戸遺跡Ⅱ』 1995. 『黒熊海道端遺跡』

## イ 歴史的環境

本遺跡地をとりまく中世以降の歴史的に重要な要素は、次の二点に集約できる。

### A 伝鎌倉街道と信濃との関係

近世に甘楽回廊には、下仁田道と通称する中山道の脇往還が走っていた。中世以前においては、上信間の幹線路としてこの甘楽回廊ルートが北の碓氷川ルートより主体的な役割を担っている。本遺跡の北側も含めた上位段丘の裾を鎌倉街道の名が残る古道が走り、その周辺には多くの中世遺跡が展開している。

最も直接的な資料は、この道の橋桁として長く転用されていた13世紀中葉の紀年銘を持つ甘楽町小川の大日碑(長3.5m)である。残念ながら、発掘調査により路面が検出された例はこの地域ではまだないが、周辺に残存する石造物はかなり多い。

また長根城(西北西2.5km)など、上位段丘の崖線を利用した中世城郭の数も少なくない。

中世に甘楽回廊一体を支配したのは、甘楽町小幡<sup>おぼた</sup>に本拠を持っていた小幡氏である。すでに13世紀には文献に登場しており、この地域の石造物の増築にも大きく関与していた。

12世紀前半に当地が多胡庄と呼ばれていた頃、その管理者として木曾義仲の父義賢が、多胡館(西北西0.5km)に本拠を置いていたと言う。後、信濃で挙兵した義仲はただちに甘楽回廊を下り、当地を勢力圏に置いてから、北陸方面に向かっている。一方、中世前期には、小幡氏の同族である奥平氏が鐺川北方の奥平の谷に盤踞していた。奥平氏は南北朝争乱期に三河に移ったとされる。

15世紀以降、関東管領山内上杉氏は、本拠地を鎌倉から平井城(南西4km)に移しているが、それは甘楽回廊の入り口部を押さえることの意味が大きかったためだろう。16世紀中葉の甲斐武田信玄の西上野制圧にあたっては、小幡氏の協力のもと、当地を拠点として北方の箕輪城攻撃を行っている。

このように、当地を含めた甘楽回廊の中世は、西方の信濃さらにその先の三河・甲斐あるいは北陸などとの予想以上に頻繁な動きを見ることができる。

### B 牛伏砂岩の動き

南部の山地は古生代の三波川系変成岩帯に属しており、さまざまな石材の供給源であった。代表的なものは、武蔵荒川水系上流と共に中世の板碑材料としてあまりにも有名な緑色などの片岩そしてその近縁の蛇紋岩・滑石があるが、それと同程度以上に歴史的に広く利用されたものが、牛伏層から供給される牛伏砂岩<sup>あまびき</sup>(天引石・多胡石)である。

脆さのため板状の石材にほぼ限定される片岩や小型品に限定される滑石に対して、牛伏砂岩は加工がしやすいものの比較的頑健で、大型の石材として古くから多用されてきた。

碑石としての最も著名な例は、吉井町池に残る8世紀初頭の多胡碑(北2.5km)である。日本三大古碑として、また上野三碑としても数えられるこの碑の石材と形態は後世にも受け継がれ、14世紀初頭前後の天引笠塔婆群(甘楽町天引)はその代表的なものである。その他にも五輪塔や大型板碑などにも多用されている。

15世紀後半から16世紀前半にかけては、平井城に本拠を置いた関東管領山内上杉氏の勢力下に、五輪塔石材として広く利用され、また近世では18世紀代に鳥居石材としての利用がある。

牛伏層の分布は、当遺跡南面に屹立する牛伏山系と一致しており、東から並ぶ牛伏山(490m)・城山(453m)・旭岳(448m)のいづれでも採石されている。

#### 参考文献

秋池 武.1988「関東管領山内上杉氏と牛伏砂岩・多孔質角閃石安山岩について」『群馬の考古学』群埋文  
群馬県教委.1983『歴史の道調査報告書 鎌倉街道』.1988『群馬県の中世城館』

## 第II章 検出遺構と遺物





# 1 概要

## 【報告原則】

序章で記したように、本報告は矢田遺跡の調査で検出した遺構・遺物の中で、古代以前の竪穴住居とそれに関わる遺物以外の全てを対象としている。

広大な面積の調査地に散らばる時代・遺構種類共に多岐に渡るものを的確に報告することには、少なからず無理を生じることが避けられなかった。そのような条件のもとに存在する選択肢の中で、ここでは中近世の報告を主とすることを第一とし、次に比較的理解が容易であることを考慮して、以下の原則を考えた。

- 1 大字・小字ごとに遺構を区分する。
- 2 各小字内の遺構相互の位置関係を重視する。
- 3 遺構出土とされる遺物は時代・種類にかかわらず、そこで全てを紹介する。
- 4 遺構に伴わない遺物は小字ごとに時代・種類別にまとめる。

ここで「遺構」としたものは、当然竪穴住居を含んでいない。

また、調査時に「ピット」と総称された数多い比較的小さな遺構(通常、土坑として扱われるものも多く含んでおり、中には径1mの掘立の大型柱穴になったものも複数ある)があった。この扱いは、グリッド別にそれぞれ個別番号があったため、性格を識別するには非常に煩雑であった。そのため報告は、次のように行った。

- 5 調査時に通しの個別番号が付与されていた遺構(溝・掘立など)は大型遺構とし、それらとは区別して小型遺構と総称して、別に小字ごとに報告する。
- 6 ただし、大型遺構の報告欄内でも可能であれば、小型遺構の報告を行う。
- 7 小型遺構の中で、平面図もしくは遺構写真のある単独存在のものを「土坑」と名付け、通し番号を付与する。
- 8 7の条件にあわない遺物及びグリッド出土遺物を遺構外遺物として小字ごとに報告し、最後に出土状態不明の遺物を表面採集遺物として時代・種類ごとに報告する。

序章で記したように、古代以前の遺物については責任編集者は、その選択に関わっていないため報告基準を理解しておらず、出土遺構との厳密な関係も検討する機会を得なかったことを付記しておく。

## 【地域区分】

検出遺構全体図(23頁)に記したように、本調査の範囲は次のように多数の大字・小字に分かれている。

大字	小字
矢田	<small>てんのうほら</small> 天王原・ <small>やつかしら</small> 稲荷久保・ <small>あまくさわ</small> 谷頭・杉之久保・車地蔵・天久沢
<small>た い り</small> 多比良	観音山
<small>た こ</small> 多胡	<small>こふたぼやし</small> 小蓋林

以上の中で、多比良観音山では全く遺構を検出しなかった。地形的状況も考えて、ここでは以上の各大字・小字検出遺構と遺物を、以下のようにまとめた。

北西側地区	矢田天王原
東側地区	矢田稲荷久保～天久沢・多比良観音山
南西側地区	多胡小蓋林

## 第II章 検出遺構と遺物

これらは、地形的にはそれぞれまとまりがある。

北西側地区 段丘上の平坦面 調査前は畠地  
 東側地区 丘陵直下の急傾斜地 矢田川に入る2本の開析谷源流部  
 南西側地区 丘陵裾の緩傾斜地 多胡川谷に面する

### 【検出遺構総数】

以上の各地区で検出した遺構は、次のように分かれる。

	北西側	東側	南西側
近世・近代	溝 14	溝 20	溝 15
	土坑 8	土坑 29	土坑 16
	畠 5	畠 6	畠 7
	道路 8	道路 2	道路 1
	墓坑 1	建物 1 石積土坑 1	柱穴列 1 掘立 1
中世	井戸 3	井戸 1	井戸 3
	掘立 7		掘立 4
	墓坑 2		墓坑 1
	溝 1		採掘坑 2
	道路 1		土坑 2
	小鍛冶 1		
	柱穴列 5		
	方形竪穴 1 館跡堀 1		
古代	溝 5	溝 1	溝 1
	土器集積 1	土器集積 2	土器集積 1
	土坑 17	土坑 8	土坑 27
	掘立 1		掘立 8
	小鍛冶 1		井戸 3 柱穴列 2
古墳	溝 1	土坑 1	柱穴列 3 旧河川 2
		土坑 1	
縄文（晩期）		土坑 1	
不明	土坑 3	土坑 1	土坑 17
	溝 1	溝 5	溝 4
	井戸 1	集石 1	井戸 1
	掘立 2	採掘坑 1	
	建物 1		
	風倒木 1		
	不明遺構 1		

# 周辺の中・近世遺跡分布



▲ 城跡・屋敷跡  
● 遺跡

A 下仁田道  
B 伝蔵倉街道

0 1000 2000m

(国土地理院 1:25,000 資料「上野吉井」高橋「藤岡」を使用)

旭岳

城山

牛伏山



## 2 遺物概要と大型遺構

### ア 北西側地区

この地区は、大字矢田の字天王原の6割以上をしめる。ただし、インターチェンジのゲート用地であるため不規則な形状となり、調査範囲中には3箇所の非調査地が島状に残る。

前述のように、検出遺構は多彩な様相を示し、出土遺物から初期的に判断した時代区分は、古墳～近代と幅広い。単純な数では古代の土坑が最大である。同時に時期不明のもの、種類・数量もかなり多い。

ここで報告する北西側地区出土全遺物の種類・時代は、次の通りである。

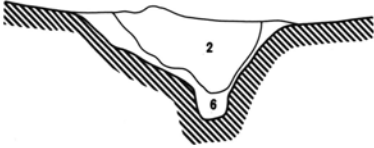
	土器類	石製品類	金属製品	その他
近代	国産磁器 1			
近世	国産磁器 3 国産陶器 4 土師質土器 1	砥石 1	鉛製品 1 銅製品 1 鉄製品 5	牛骨 1
中世	舶載陶磁 4 国産陶器 4 瓦質土器 7 土師質土器 10	臼 3 砥石 1	鉄製品 4 銭貨 12	
古代	国産陶器 5 須恵器 135 土師器 19 土錘・甗 7 瓦 14	紡錘車 4 砥石 2		
古墳	須恵器 7 土師器 8	玉類 4 その他 1		
不明			鉄製品 3 鉄滓 5	人骨 1 馬骨 3

以上のように、報告遺物の中で最も多いのは古代の須恵器だが、その内訳は次の通りである。

食器	碗	20 (転用碗 1)
	小型碗	3
	坏	20
	蓋	3 (転用碗 1)
	皿	4
	盤	2
調度具	硯	2
貯蔵具	瓶	5
	長頸瓶	2
調理具	甗	64
	羽釜	10

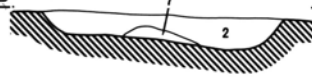
既述のように本報告は古代の竪穴住居を対象にしているが、以上の非竪穴住居出土の古代須恵器は一般に古代竪穴住居から出土するものに構成が似ている。

A L=150.30m



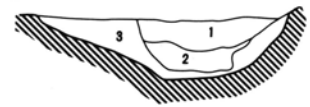
A'

B L=150.30m



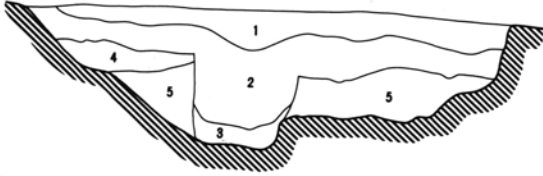
B'

D L=150.90m



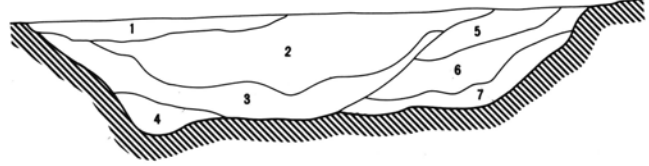
D'

C L=150.00m



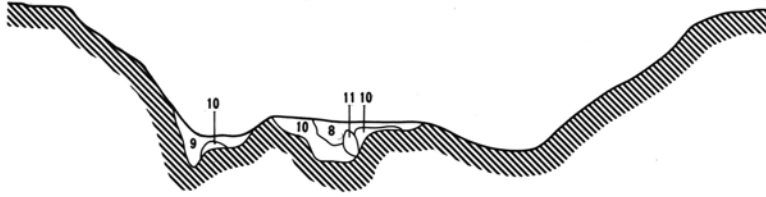
C'

E L=151.80m



E'

F L=151.10m



F'

I L=152.90m



I'

G L=152.40m



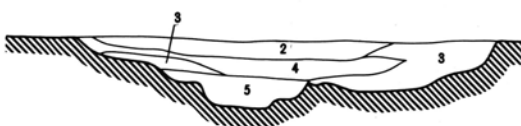
G'

H L=152.90m



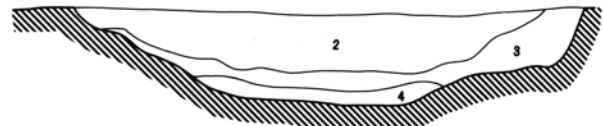
H'

J L=153.80m



J'

K L=153.80m



K'

L L=153.80m



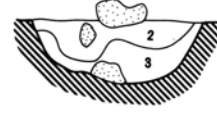
L'

M L=153.80m



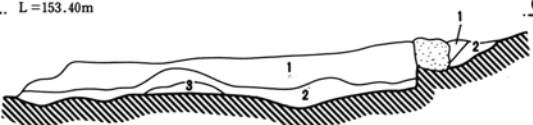
M'

N L=153.80m



N'

O L=153.40m



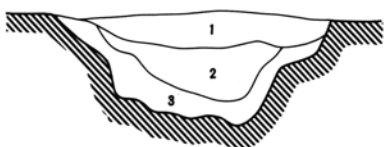
O'

P L=152.80m

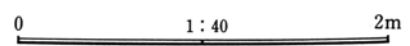


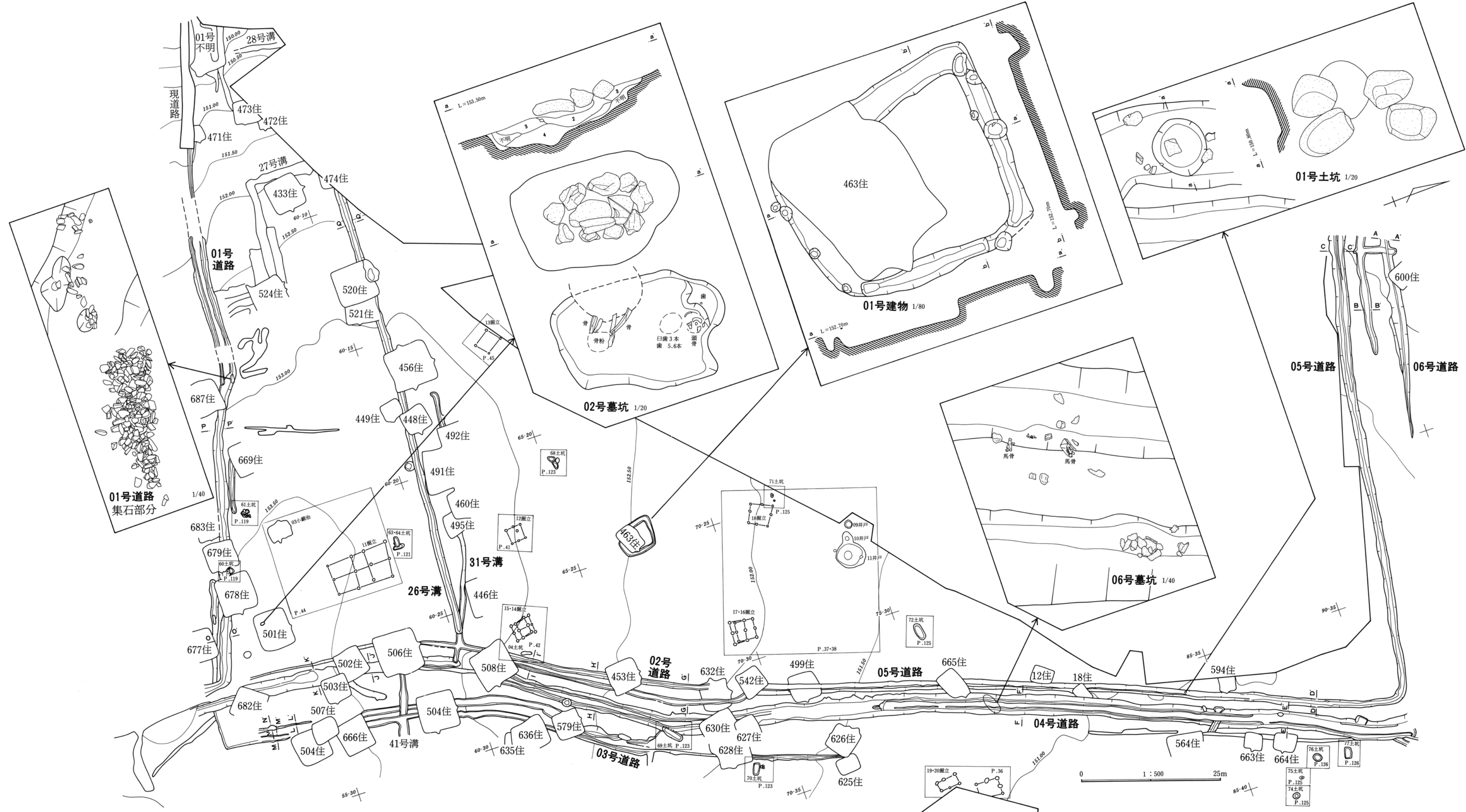
P'

Q L=152.70m



Q'





01号不明  
28号溝  
150.00  
150.50  
151.00  
151.50  
152.00  
152.50  
153.00

現道路  
473住  
472住  
471住  
27号溝  
433住  
474住  
01号道路  
524住  
520住  
521住

687住  
669住  
683住  
679住  
678住  
677住  
501住  
502住  
503住  
504住  
506住  
507住  
508住  
509住  
510住  
511住  
512住  
513住  
514住  
515住  
516住  
517住  
518住  
519住  
520住  
521住  
522住  
523住  
524住  
525住  
526住  
527住  
528住  
529住  
530住  
531住  
532住  
533住  
534住  
535住  
536住  
537住  
538住  
539住  
540住  
541住  
542住  
543住  
544住  
545住  
546住  
547住  
548住  
549住  
550住  
551住  
552住  
553住  
554住  
555住  
556住  
557住  
558住  
559住  
560住  
561住  
562住  
563住  
564住  
565住  
566住  
567住  
568住  
569住  
570住  
571住  
572住  
573住  
574住  
575住  
576住  
577住  
578住  
579住  
580住  
581住  
582住  
583住  
584住  
585住  
586住  
587住  
588住  
589住  
590住  
591住  
592住  
593住  
594住  
595住  
596住  
597住  
598住  
599住  
600住  
601住  
602住  
603住  
604住  
605住  
606住  
607住  
608住  
609住  
610住  
611住  
612住  
613住  
614住  
615住  
616住  
617住  
618住  
619住  
620住  
621住  
622住  
623住  
624住  
625住  
626住  
627住  
628住  
629住  
630住  
631住  
632住  
633住  
634住  
635住  
636住  
637住  
638住  
639住  
640住  
641住  
642住  
643住  
644住  
645住  
646住  
647住  
648住  
649住  
650住  
651住  
652住  
653住  
654住  
655住  
656住  
657住  
658住  
659住  
660住  
661住  
662住  
663住  
664住  
665住  
666住  
667住  
668住  
669住  
670住  
671住  
672住  
673住  
674住  
675住  
676住  
677住  
678住  
679住  
680住  
681住  
682住  
683住  
684住  
685住  
686住  
687住  
688住  
689住  
690住  
691住  
692住  
693住  
694住  
695住  
696住  
697住  
698住  
699住  
700住

01号道路集石部分  
1/40

01号土坑 1/20  
02号墓坑 1/20  
01号建物 1/80  
06号墓坑 1/40

05号道路  
06号道路  
600住

02号道路  
03号道路  
04号道路  
05号道路

68号土坑 P.123  
71号土坑 P.125  
72号土坑 P.125  
75号土坑 P.125  
74号土坑 P.125  
77号土坑 P.126

13掘立 P.45  
12掘立 P.41  
11掘立 P.42  
10掘立 P.37-38  
9掘立 P.36  
8掘立 P.36

臼齒 3本  
齒 5.6本  
骨  
骨粉

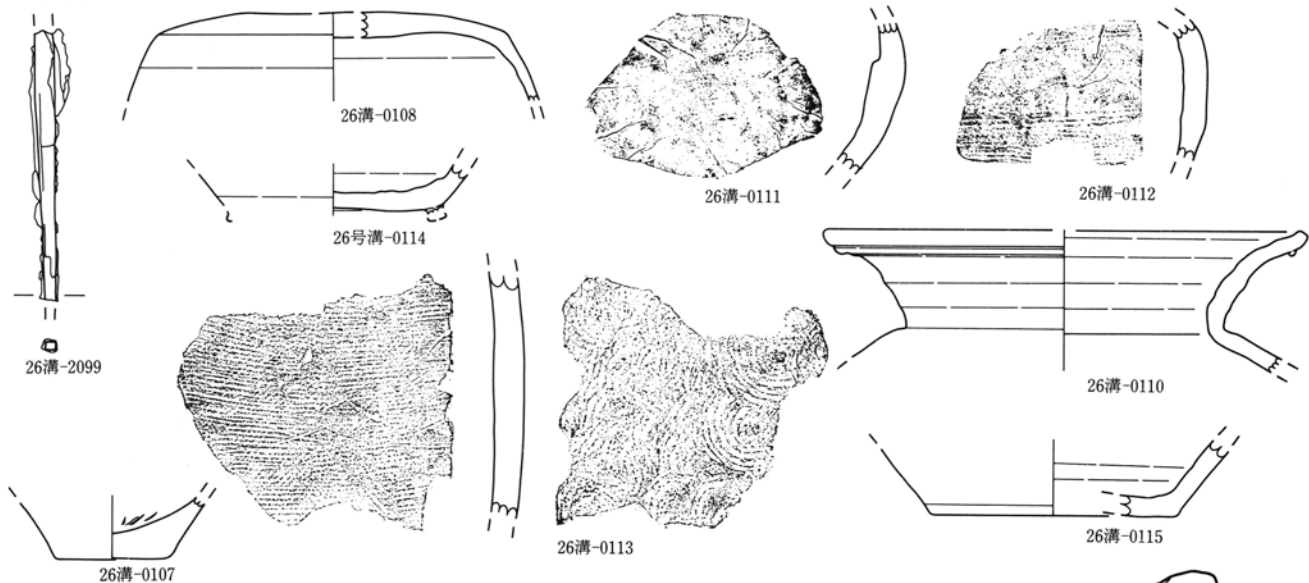
09小龕  
04土坑 P.42  
03土坑 P.123  
02土坑 P.123  
01土坑 P.123

0 1:500 25m  
85-40  
85-35  
85-30  
70-35  
75-30  
70-25  
65-25  
65-20  
60-25  
60-20  
60-15  
60-10  
55-30

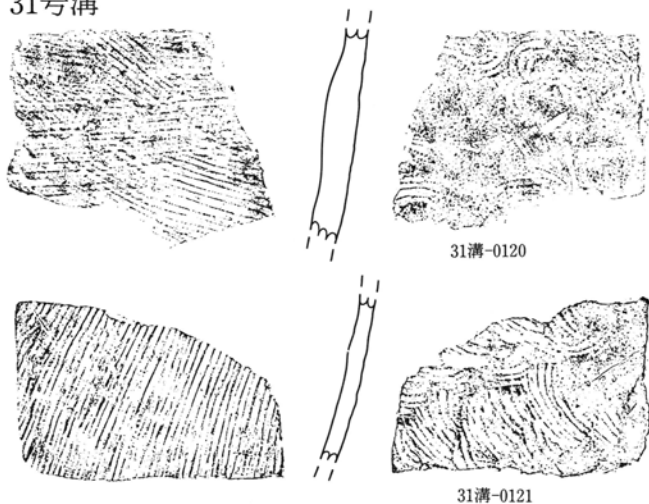




26号沟



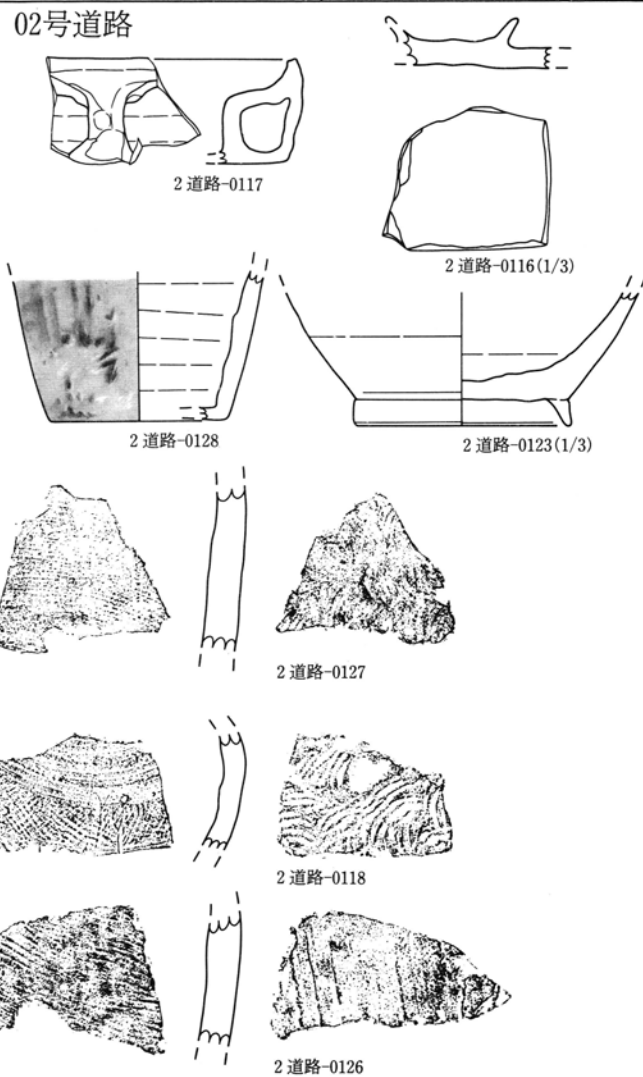
31号沟



01号道路

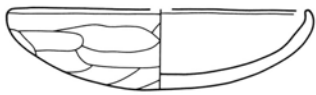


02号道路



0 1 : 4 20cm

02号道路



2 道路-0122 (1/3)



2 道路-1005 (1/3)

03号道路

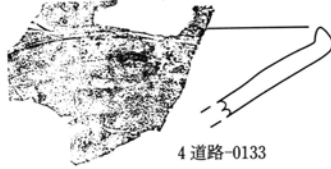


3 道路-0640 (1/3)

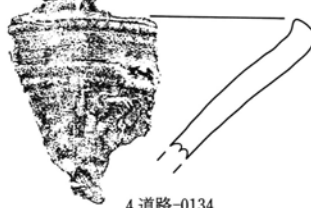
04号道路



4 道路-1006 (1/3)



4 道路-0133



4 道路-0134



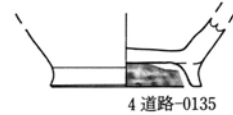
4 道路-0666 (1/3)



4 道路-2050 (1/1)



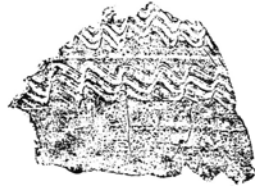
4 道路-2059 (1/1)



4 道路-0135



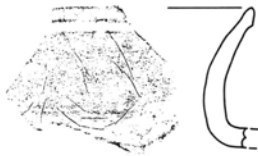
4 道路-0132 (1/3)



4 道路-0136



4 道路-0139



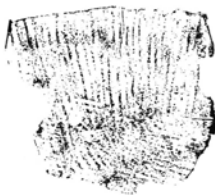
4 道路-0137



4 道路-0138



4 道路-0140



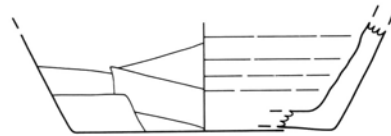
4 道路-0141



4 道路-0145



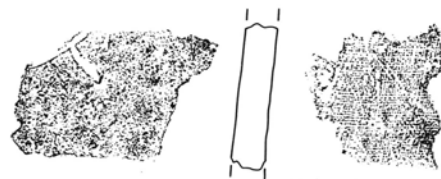
4 道路-0147



4 道路-0175



4 道路-0142



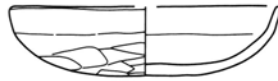
4 道路-0143

0 1 : 4 20cm

04号道路



4道路-0174 (1/3)



4道路-0131 (1/3)

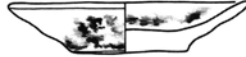


5道路-2109 (1/2)

05号道路



4道路-0144



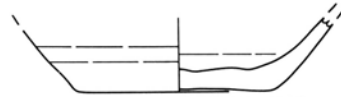
5道路-0675 (1/3)



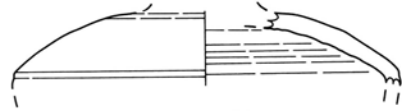
5道路-0676 (1/3)



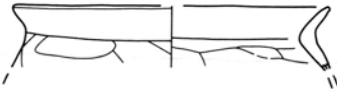
5道路-0677 (1/3)



5道路-0148 (1/3)



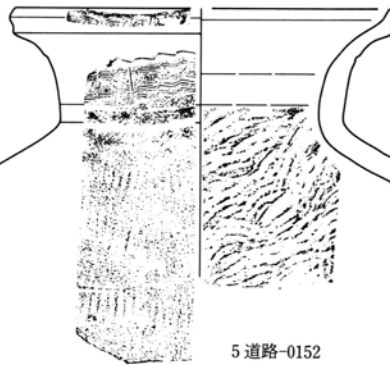
5道路-0170



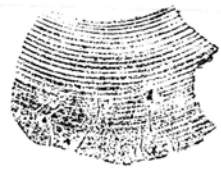
5道路-0150



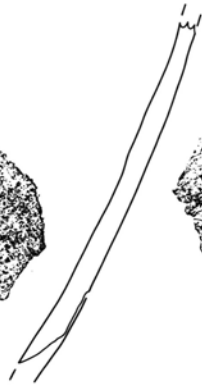
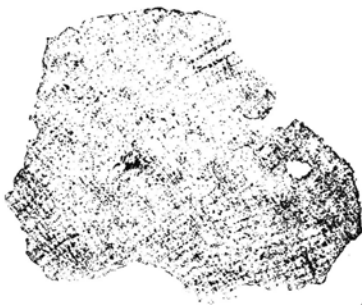
5道路-0151



5道路-0152



5道路-0153



5道路-0154



5道路-0156



5道路-0155



5道路-0157

1 : 4

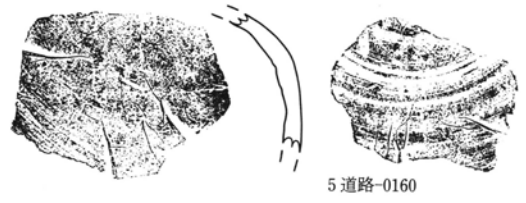
20cm



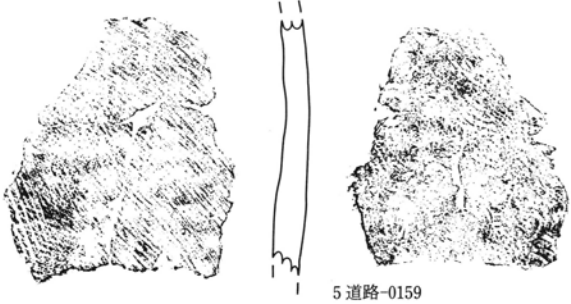
05号道路



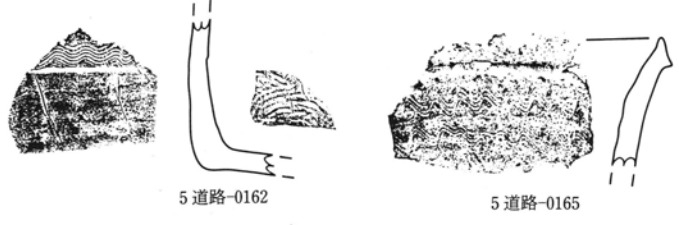
5道路-0158



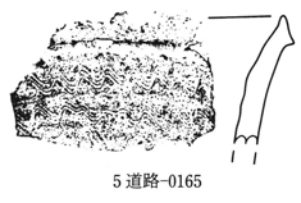
5道路-0160



5道路-0159



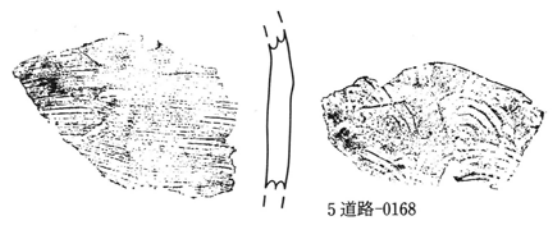
5道路-0162



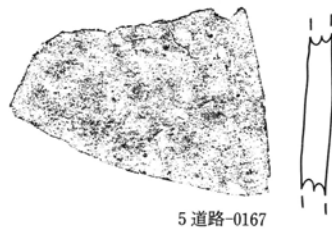
5道路-0165



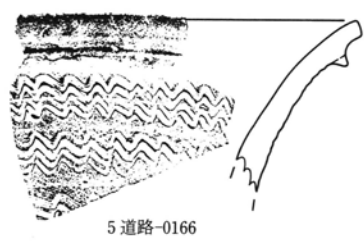
5道路-0163



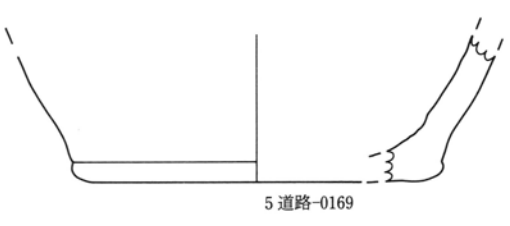
5道路-0168



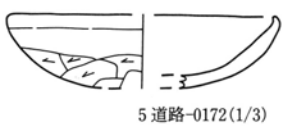
5道路-0167



5道路-0166



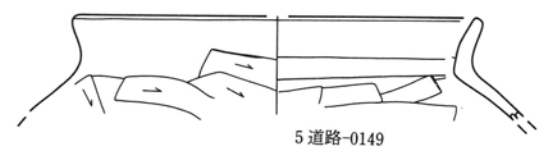
5道路-0169



5道路-0172 (1/3)



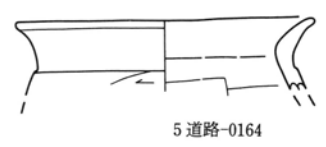
5道路-0130



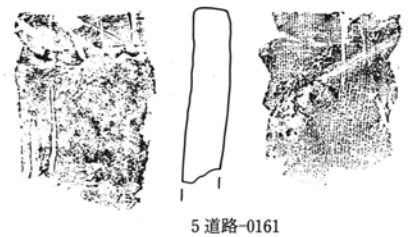
5道路-0149



5道路-0171



5道路-0164



5道路-0161

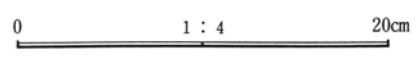
06号道路



6道路-0173



6道路-1024 (1/1)



## 01～06号道路、26・31号溝、01号建物、02・06号墓坑、01号土坑【図P.26～32 PL.16～25】

本地区北西側際で検出した遺構群。

**01号道路【埋土】**断面OP 1 黒褐色土白色軽石多含 2 暗褐色土1+ローム 3 地山【重複】東端で02号道路と合流。関係不明。【形態】東西方向に走り（道幅約1m）途切れながら両側溝を持つ。中央部の路面に集石が見られたが、性格不明。東端の合流点で南東方向に曲がる。【遺物】土師器甕(0374)が見られた。【備考】調査前現道と重なるため、近世後期～近代の遺構と考えられる。

**02号道路【埋土】**断面G～K 1 黒褐色土微ローム白色軽石含 2 暗褐色土白色軽石多含固く凝固 3 黄褐色土ローム塊多含固く締まる 4 暗青灰褐色鉄分凝固固く締まる 5 暗黄褐ローム地山固く締まる【重複】01,05号道路・31号溝と重複するが関係不明。【形態】両側溝をもってややカーブしながら南北方向に走る（道幅0.5～1.8m）。南側では溝状掘り込みの路面構築層が見られる。【遺物】土師質焙烙片(0117)が見られた。【備考】路面構築層は天明の浅間山軽石降下復旧の措置と思われる。近世後期。

**03号道路【埋土】**断面LMN 1 黒色土ローム非含 2 黒褐色土ローム塊含 3 暗褐色土ローム粒含【重複】41号溝と重なる。【形態】両側溝をもってややカーブしながら南北方向に走る（道幅0.7～1.4m）。北側は西側溝不明瞭。【遺物】1650年代の肥前染付皿片(0640)が出土。【備考】調査前現道と重なるため、近世前期～近代の遺構と考えられる。

**04号道路【埋土】**断面EF 1 暗褐色土軽石含固く締 2 同前軽土ローム塊少混締 3 同前ローム塊多含締 4 暗黄褐色土ローム塊混 5 暗褐色土ローム塊軽石混 6 同前ローム塊多混 7 暗黄褐色土ローム塊多混締 8 灰色砂固く凝固 9 黒色土 10 地山 11 攪乱【重複】南側で02号道路と重なる。中央部で06号墓坑に切られる。【形態】堀状で部分的に底に両側溝を持つ路面がある（上幅3.5m底幅1.9m道幅0.9m）。南北方向にほぼ直線状に走る。【遺物】推定近世の砥沢石砥石(1006)もあるが、竜泉窯青磁碗片(0666)・瓦質土器コネ鉢片(0133,34)・北宋銭(2050,59)など中世遺物がやや多い。【備考】調査前現道と平行。中世に築かれ、近世後期には完全に埋没し上面が路面になった可能性がある。

**05号道路【埋土】**断面D 1 暗褐色土軽石多量含やや締 2 同前ローム塊混やや締 3 暗褐色土ローム塊混やや締【重複】南側で02号道路、北側で06号道路と重なる。北側底に01号土坑がある。【形態】直線状に南北走向の西側溝（上幅1.2～1.8m底幅0.4～0.9m）のみ。北端で直角に西折し06号道路となる。【遺物】推定近世の鉄釘片(2109)と中世の土師質土器小皿(0675～77)が出土。【備考】調査前現道と平行。04号道路の埋没途中で西側側溝として掘られたと推定。

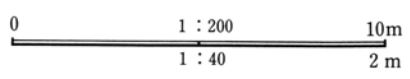
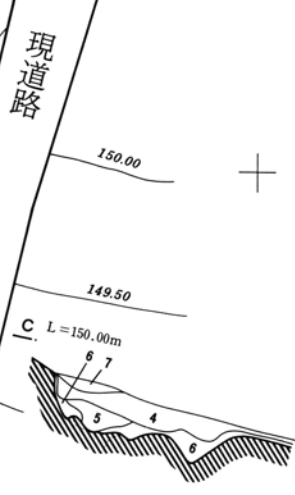
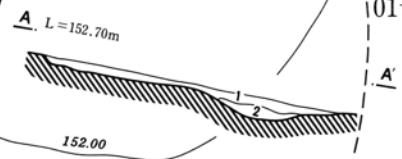
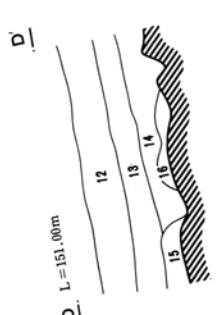
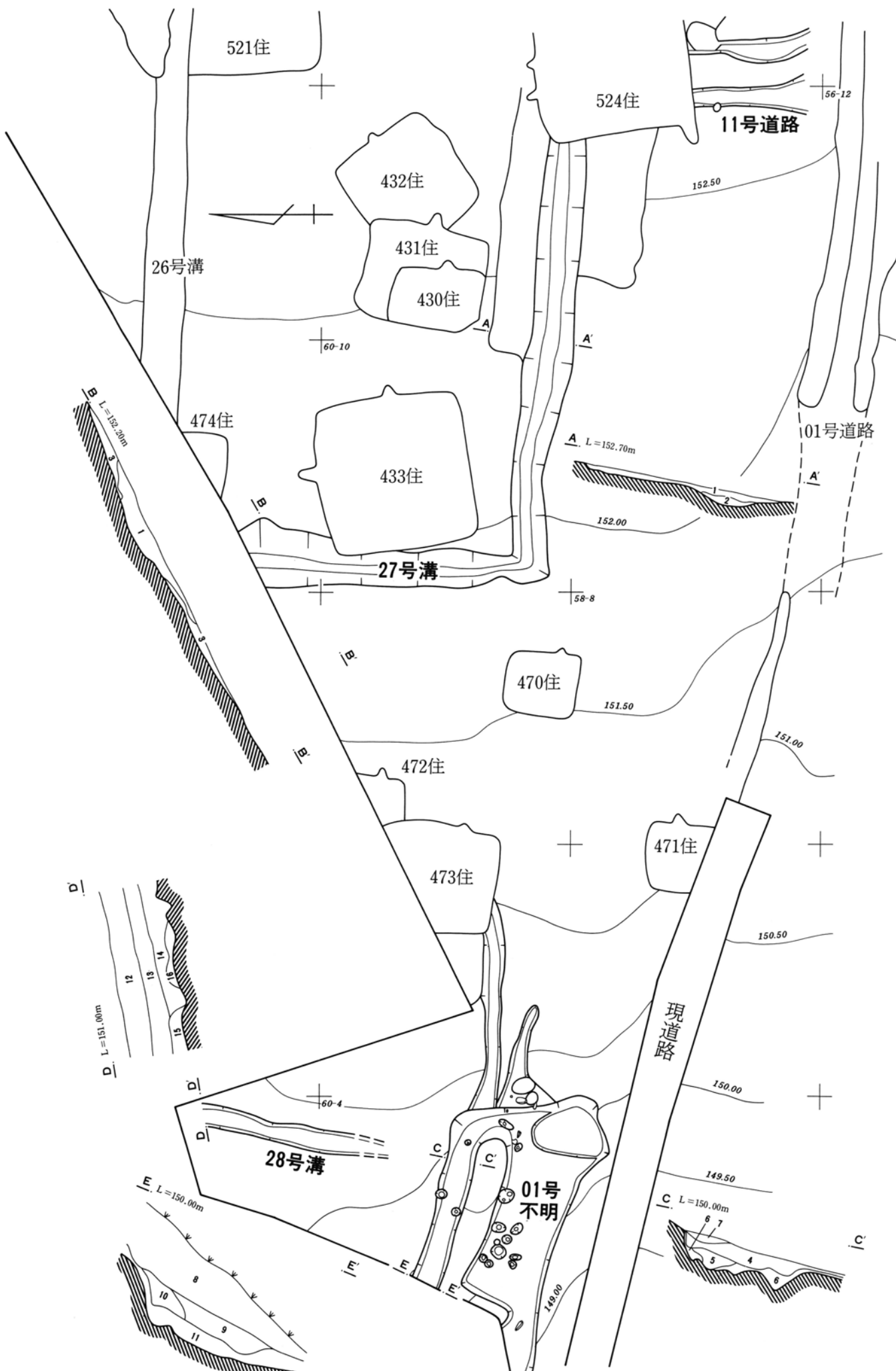
**06号道路【埋土】**断面ABC 1 暗褐色土締無 2 暗褐色土ローム塊混 3 同前やや締 4 攪乱 5 黄褐色土ローム塊多含 6 暗黄褐色土ローム塊多含やや締 7 地山【重複】東端で05号道路と合流。【形態】東西方向に走る3本の側溝が並び（道幅2.0～2.5m）、東端のものは05号道路西側溝と合流。【遺物】古代以前の遺物のみ出土。【備考】調査前現道と平行。2回の路面変更。近世か。

**26号溝【埋土】**断面Q 1 黒褐色土ローム小塊多含 2 黒色土 3 黒褐色土ローム塊含【重複】31号溝と重複。【形態】断面箱形（上幅1.2m底幅0.6m）で東西方向に直線状に走る。【遺物】中世推定遺物は鉄鏃？(2099)のみで、大部分が古墳時代土器。【備考】他の遺構と走向が異なり、古墳時代の遺構と考えられる。

**31号溝【埋土】**不明。【重複】26号溝・02号道路と重なる。【形態】緩くカーブしながら東西方向に走る。【遺物】古代の須恵器出土。【備考】現地境とも完全に一致せず、古代の何らかの境界と推定。

**01号建物【埋土】**不明。【重複】竪穴463号住と重なる。【形態】台形状（長辺6.6m短辺6.0m）平面形で周囲に溝（上幅0.5～1.0m）が巡り、溝中に不均一にピットがある。【遺物】なし。【備考】性格・時代を特定しがたいが、形態から何らかの平地建物跡とするのが妥当。

**02号墓坑【埋土】**1 黒褐色土 2 暗褐色土ローム塊含 3 黒褐色土ローム粒含 4 同前ローム粒少【重複】竪穴501号住と重なる。【形態】楕円形皿状（1.1×0.8×0.2m）で、埋土上面に12個の自然礫を並べる。【遺物】礫下で屈葬状態の人骨片(3008)を検出。【備考】一次埋葬であり、掘り込みは本来さらに深かっただろう。遺物はないが、中世の土坑墓に似ている。（P.35に続く）



(P.33より)

**06号墓坑【埋土】**不明。【重複】04号道路より新しい。【形態】掘り込み形態不明。【遺物】馬上下顎骨(3001,02)を検出。【備考】残存状況は悪いが、掘り込みを持った一次埋葬だろう。近世か。

**01号土坑【埋土】**不明。【重複】05号道路西側溝底で検出。【形態】平面円形(0.45×0.4m)で上面周囲に自然礫が並ぶ。【遺物】なし。【備考】墓坑として調査時に判断されたが、証拠はない。近世か。

### 27・28号溝、11号道路、01号不明遺構【図P.34 PL.26,27】

本地区西端で検出した遺構群。

**27号溝【埋土】**1 暗黄黒褐色土締強軽石少 2 黄褐色土締良ローム塊少 3 同前締弱ローム主体【重複】竪穴433・524号住と重複。【形態】鍵の手状に直線状屈曲走向(東西走向部 長20m)で、掘り込みは極めて浅い。【遺物】なし。【備考】調査前現地境と重なる。近代の地境だろう。

**28号溝【埋土】**12,13 耕作土 14 黒褐色土A軽石少炭化粒少 15 黒褐色土ローム塊少 16 暗褐色土ローム塊多【重複】不明。【形態】断面浅い皿状で南北方向に直線状に走る。【遺物】なし。【備考】調査前現地境と重なる。近代の地境だろう。

**11号道路【埋土】**不明。【重複】南側で01号道路と合流。【形態】両側溝をもって南北方向に走る(道幅1.0~1.5m)。【遺物】なし。【備考】調査前現道と重なる。近代の道路だろう。

**01号不明遺構【埋土】**4 黒褐色土締弱ローム粒少 5 暗褐色土ローム塊主体 6 褐色ローム土 7 灰白色浅間A軽石 8 耕作土 9 黒褐色土A軽石少炭化粒少 10 灰白色浅間A軽石 11 黒褐色土ローム粒多【形態】台形状平面形(南北5m東西10m以上)の浅い掘り込み(深さ0.2m)だが、内部には鍵の手状に掘り残し部分(幅1.0m)がある。【遺物】なし。【備考】調査前現地境とは一致しない。調査時には近世建物を想定した方形区画溝として捉えたが、本遺構は明確な根拠がない。

### 19・20号掘立、02・03号土坑、01号風倒木【図P.36 PL.27】

本地区北側部分で検出した遺構群。

**19号掘立【埋土】**不明。【重複】なし。【形態】2×2間(3.0×3.9m)の南北棟。南東端は範囲外で不明。柱痕に比べ柱穴掘り方は普通(径0.4~0.6m)。【遺物】なし。【備考】時期不明。

**20号掘立【埋土】**不明。【重複】なし。【形態】1×2間(1.9×3.7m)の南北棟。柱穴掘り方は19号掘立に比べやや小さい(径0.4m)。【遺物】なし。【備考】19号とは接近(約2.5m)しており、同一の時期だろう。

**02号土坑【埋土】**11 黄褐色土締弱二次堆積ローム 14 暗褐色土軽石少 15 同前軽石多 16 褐色土茶褐色土塊含有有機物痕 17 暗褐色土締強軽石多 18 茶褐色土有機物混【重複】なし。【形態】楕円形状挿り鉢形(1.8×1.2×0.6m)。【遺物】なし。【備考】性格不明。19号掘立との間に礫が数個組まれた小ピットがある。

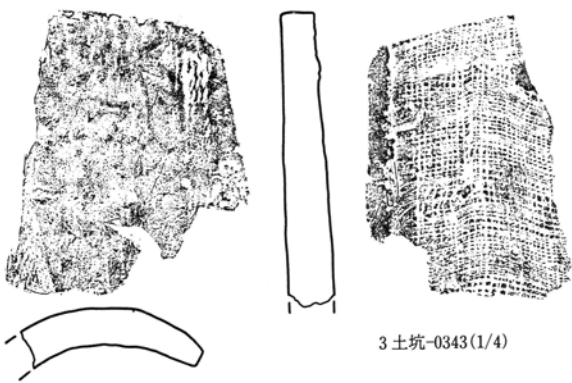
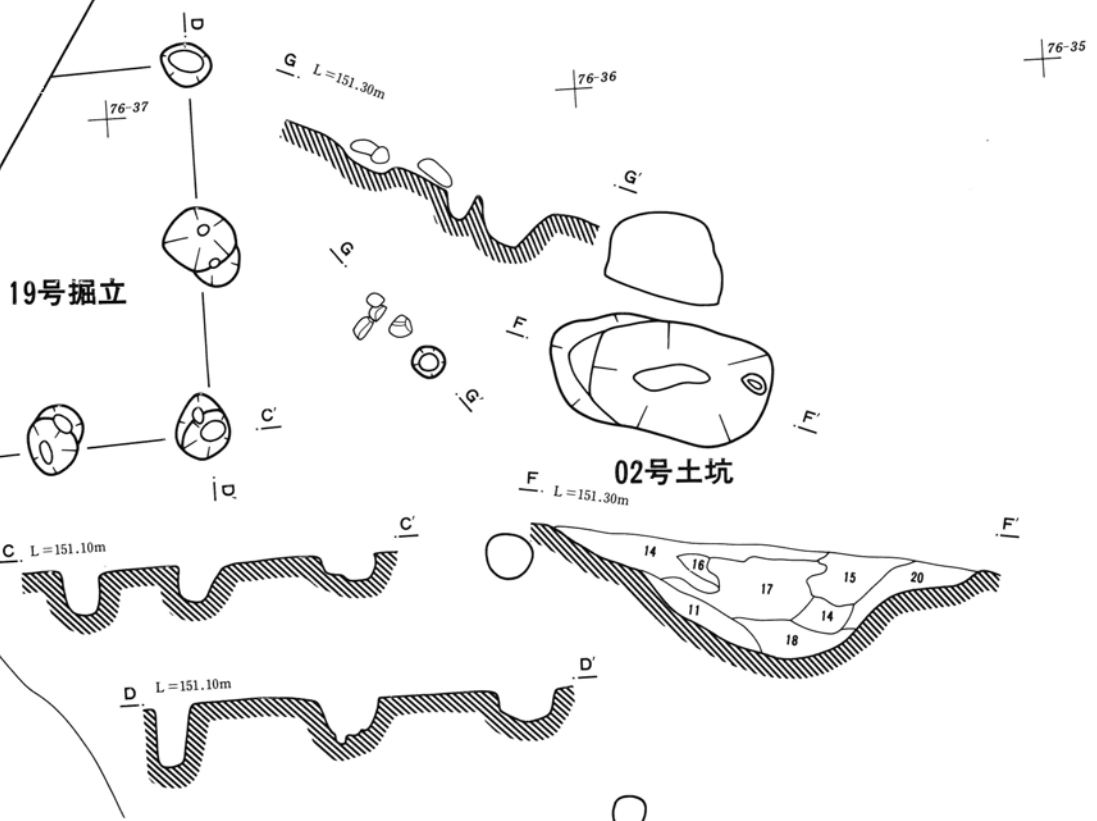
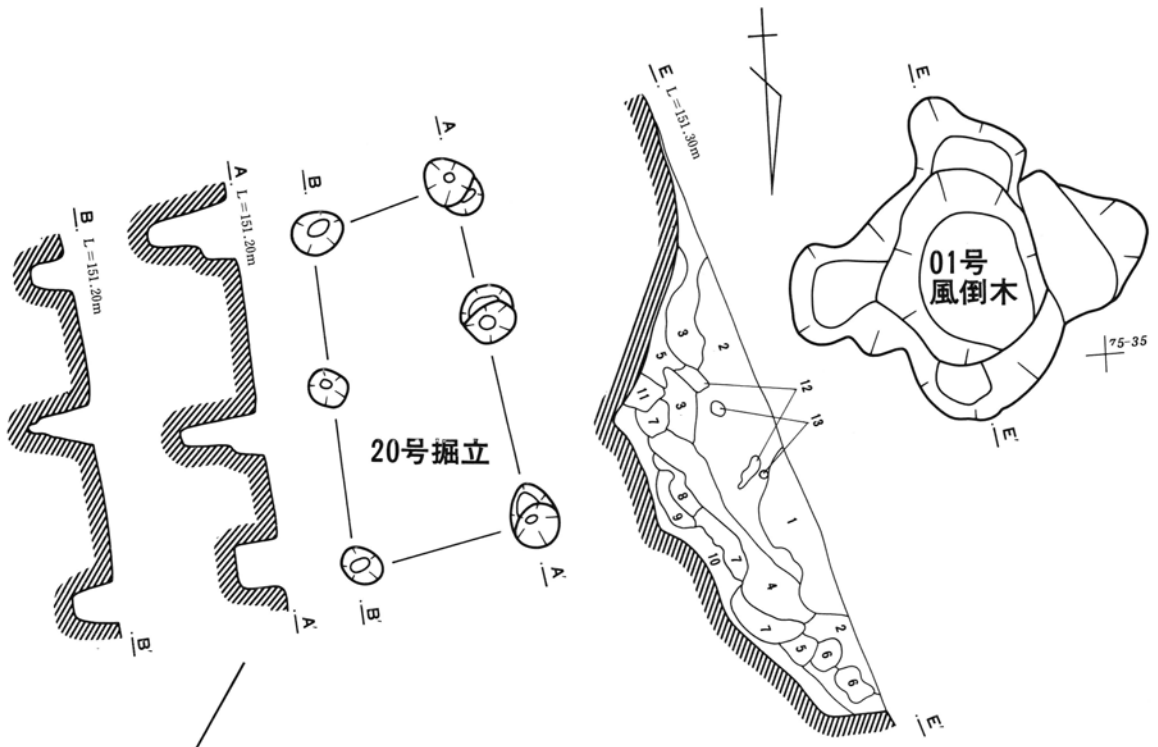
**03号土坑【埋土】**14 暗褐色土軽石少 19 黄褐色土ローム主体【重複】なし。【形態】楕円形で浅い皿状(1.2×1.0×0.2m)。【遺物】丸瓦片(0343)出土。【備考】性格不明だが、遺物より古代とする。

**01号風倒木【埋土】**1 暗褐色土軽石ローム粒少 2 暗茶褐色土軽石少 3 暗褐色土軽石多 4 同前締弱軽石少 5 暗黄褐色土ローム主体 6 褐色土YP 軽石多 7 同3土 8 同2土 9 同1土 10 同5土 11 黄褐色土締弱二次堆積ローム 12 茶褐色土締弱 13 暗褐色土締強【重複】なし。【遺物】なし。【備考】時代不明。

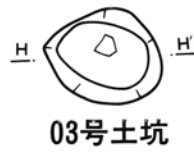
### 16~18号掘立、09~11号井戸【図P.37~39 PL.28】

本地区北西側部分で検出した遺構群。

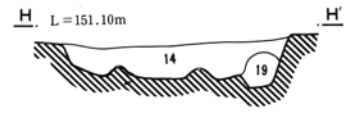
**16・17号掘立【埋土】**1 暗褐色土ローム塊含やや締【重複】両者の関係不明。【形態】16号：1×2間(3.2×3.3m)の東西



3土坑-0343(1/4)

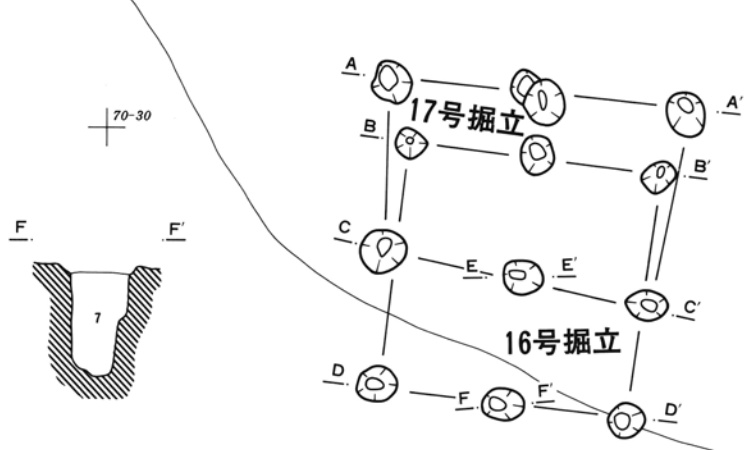


03号土坑

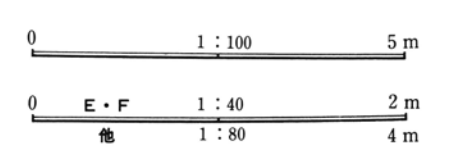
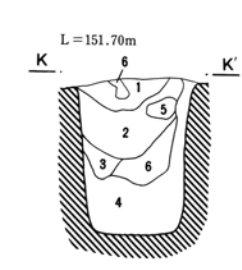
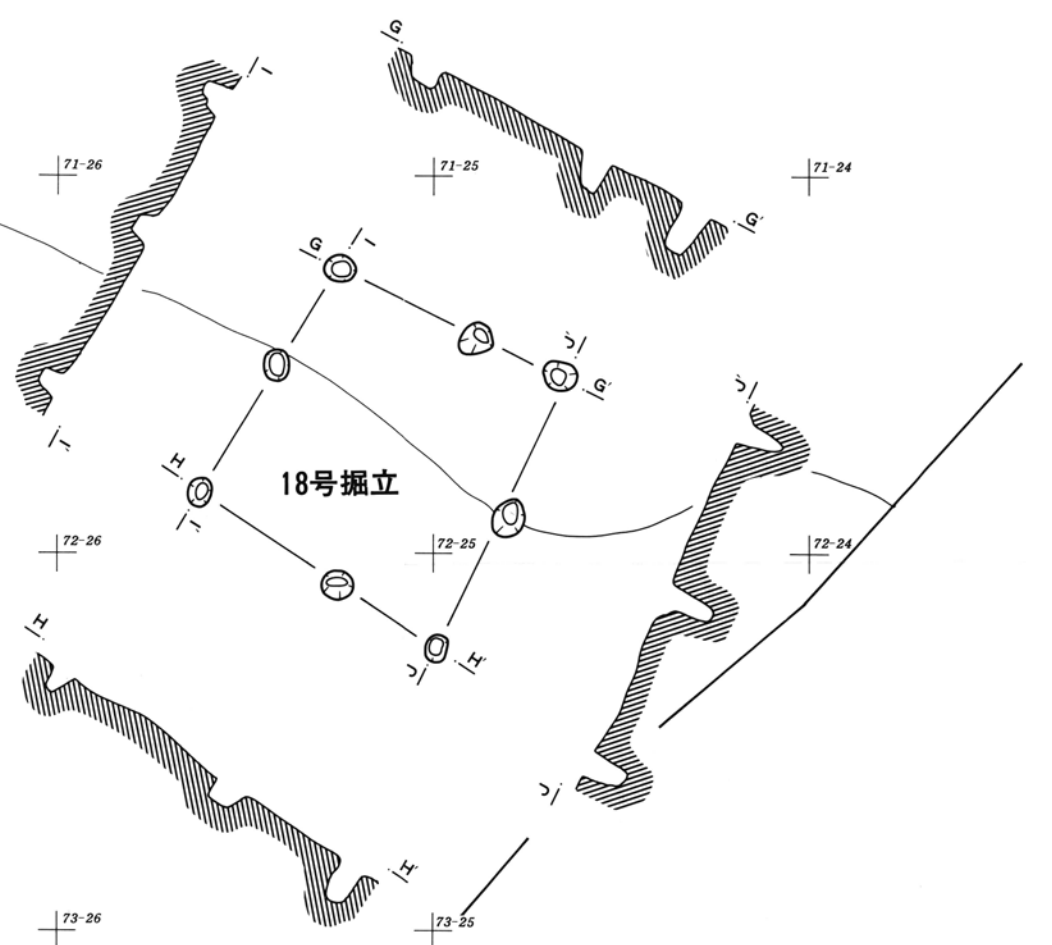
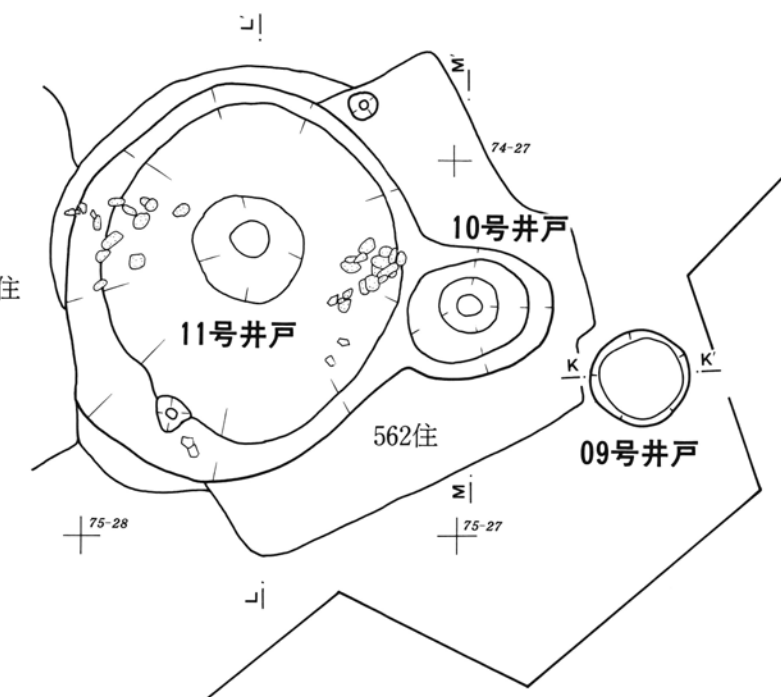
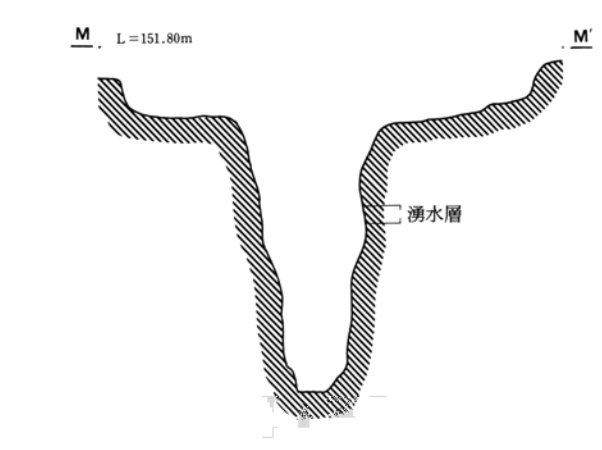
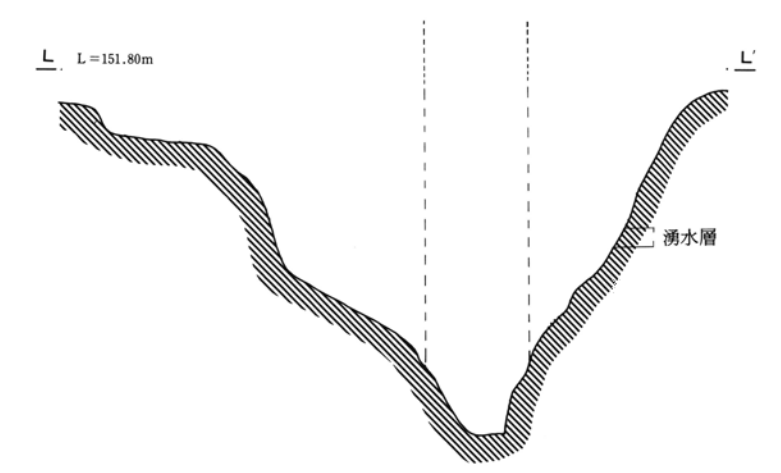
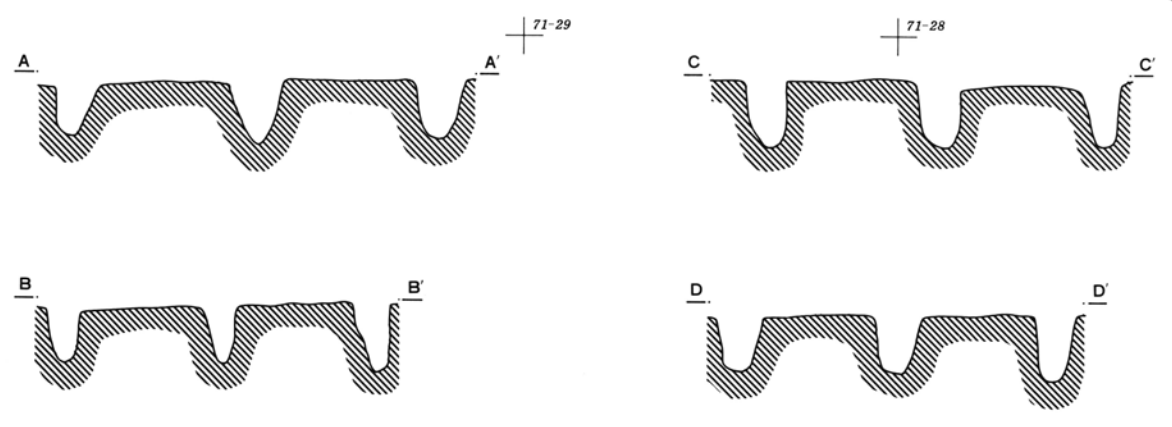


0 平面图・E~H 1 : 80 4 m  
1 : 40 2 m

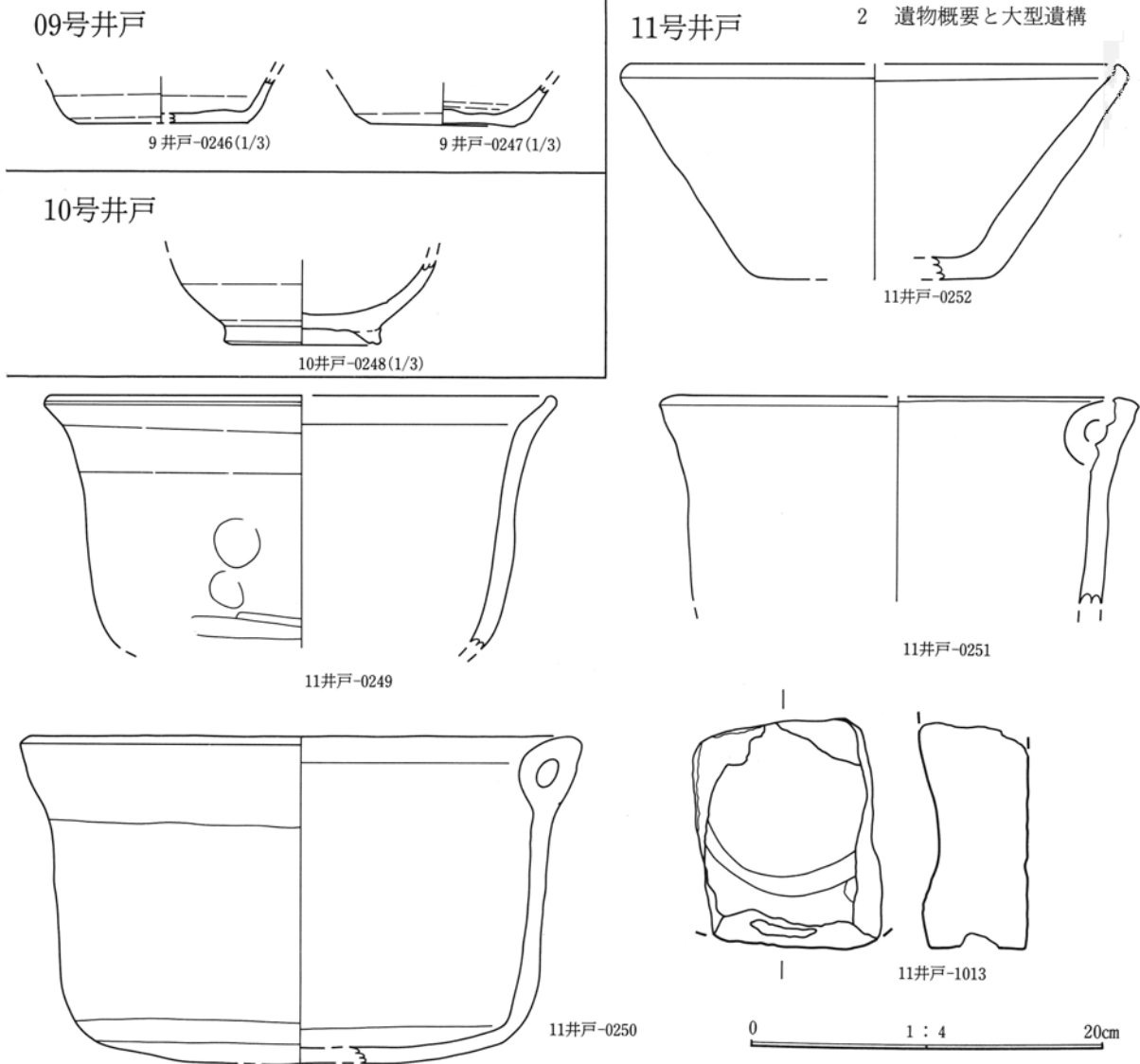




A~J L=152.10m







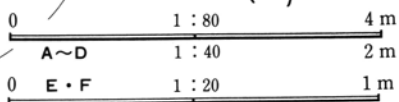
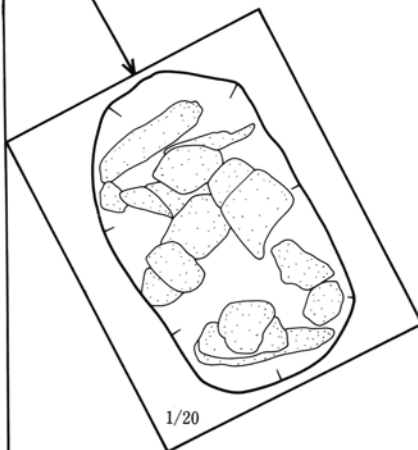
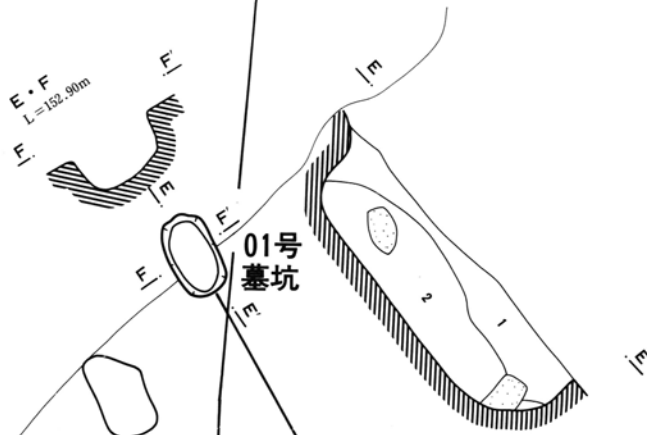
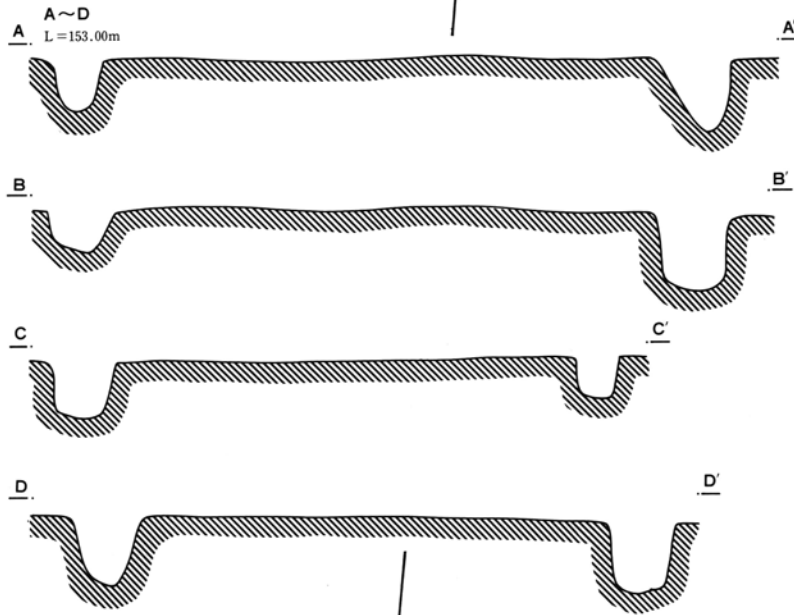
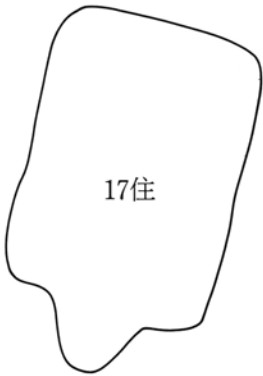
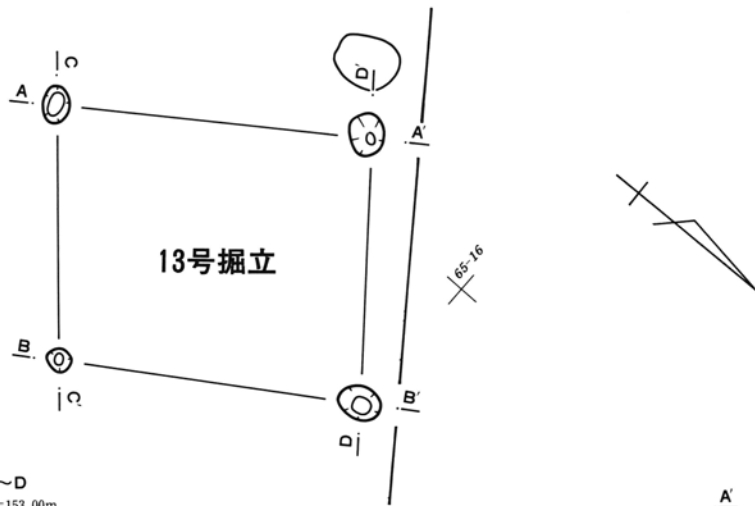
棟。17号：1×2間（2.6×3.9m）の東西棟。共に柱痕に比べ柱穴掘り方はやや小さい（径0.3～0.5m）。【遺物】なし。【備考】中世の建物と推定。

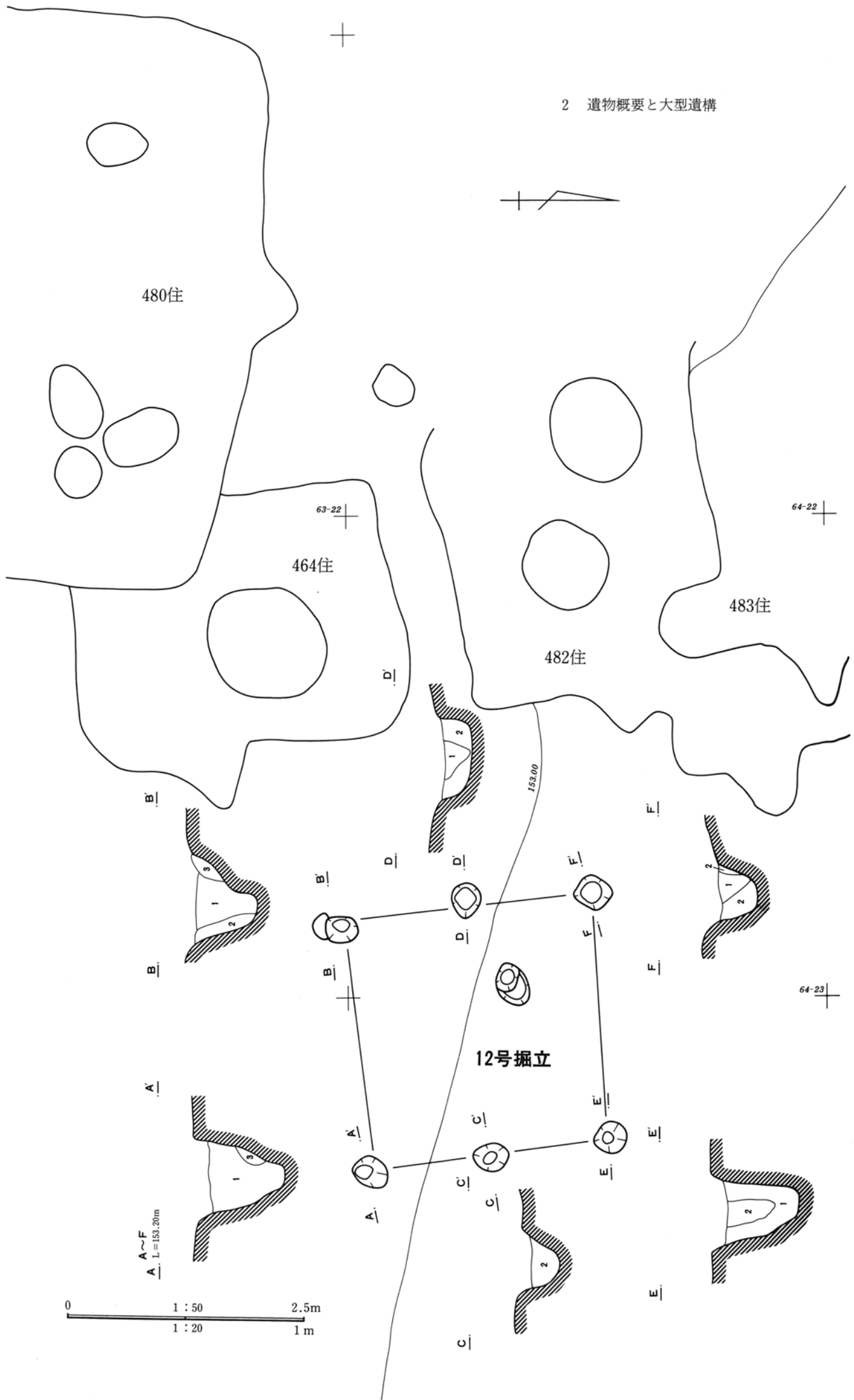
18号掘立【埋土】不明。【重複】なし。【形態】2×2間（3.7×4.0m）の南北棟。柱穴掘り方は小さい（径約0.3m）。【遺物】なし。【備考】柱穴の状態や柱間は他の掘立と異なる。中世か。

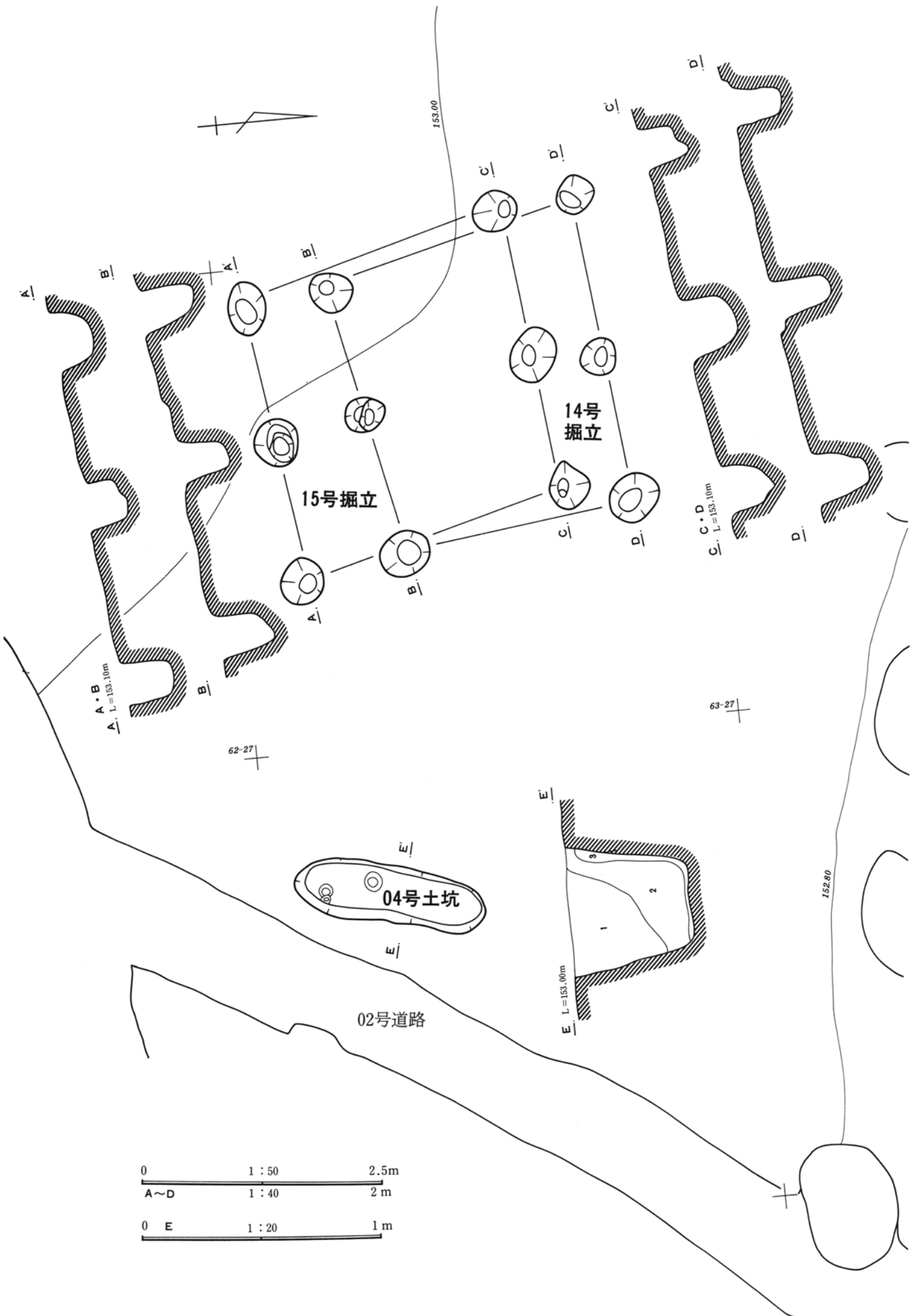
09号井戸【埋土】1 暗褐色土粘土ローム塊砂岩混在締強 2 同前暗褐色土主粘土多含 3 同1土 4 暗褐色土粘土ローム塊砂岩混在 5 砂岩 6 粘土【重複】10号井戸との関係不明。【形態】円筒形（径1.3深さ1.6m）。顕著な崩壊痕なし。【遺物】古代須恵器出土。【備考】井戸としては短期間の使用か。

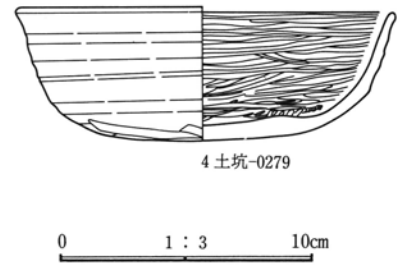
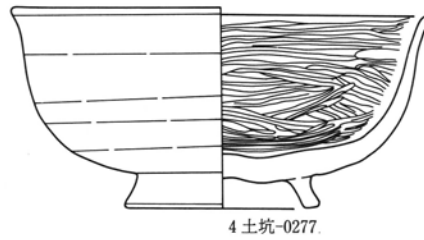
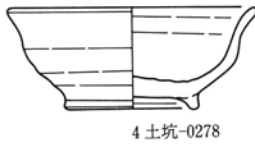
10号井戸【埋土】1 黒色砂質土（～2.1m） 2 黒褐色土ローム粒含（～3.0m） 3 黒灰色粘土（～3.5m）【重複】11号井戸より新しい。【形態】地山井筒円筒形（径1.6m）。湧水層は赤褐色粘性土（-1.5～1.7m）。井戸枠があった可能性あり。【遺物】1層中より須恵器碗（0248）を含む古代土器片5片出土。【備考】11号井戸とは时期的に近く、遺物にかかわらず中世と考えられる。

11号井戸【埋土】中央と周囲が異なる。中央：1 褐色土 2 灰色粘土 3 ローム塊 4 黒褐色土 5 砂質火山灰土（10号井戸掘削土で埋設） 周囲：黒褐色火山灰土版築状で固い【重複】10号井戸より古い。【形態】地山井筒朝顔形（掘り方上径3.7m中央径1.2m深さ3.7m）。井戸枠があった可能性あり。掘り方外側に1対のピットがある。【遺物】下層（-3.3～3.5m）より土師質埴輪（0249～51）・瓦質土器コネ鉢（0252）・牛伏砂岩砥石（1013）など出土。【備考】中世の井戸。屋根または釣瓶支柱を持つ。









### 13号掘立、01号墓坑【図P.40 PL.29】

本地区西側部分で検出した遺構群。

**13号掘立【埋土】**不明。【重複】なし。【形態】1×1間（2.8×3.4m）で正方位とは45度程度ずれた軸方向。柱穴掘り方は小さい（径約0.2～0.4m）。【遺物】なし。【備考】軸方向が異常であり、柱穴形状も不均一であり、掘立建物ではない可能性も残る。古代か。

**01号墓坑【埋土】**1 暗黄褐色土ローム塊多やや締 2 暗褐色土ローム塊混締無【重複】なし。【形態】楕円形皿状（1.8×0.8×0.3m）で、下層に自然石14個が並べられる。【遺物】なし。【備考】形状や石の使い方は02号墓坑に似る。中世か。

### 12号掘立【図P.41 PL.29】

本地区中央部分で検出した遺構群。

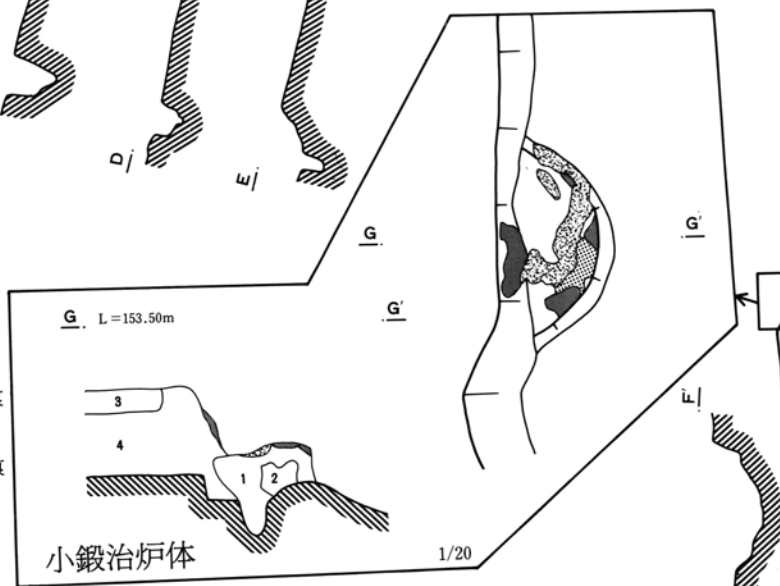
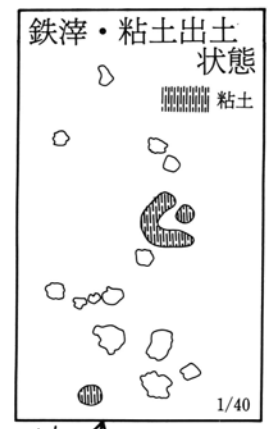
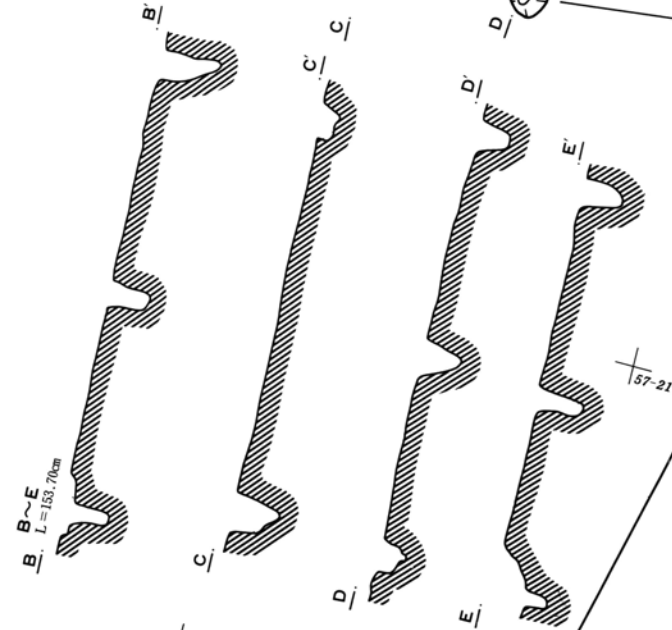
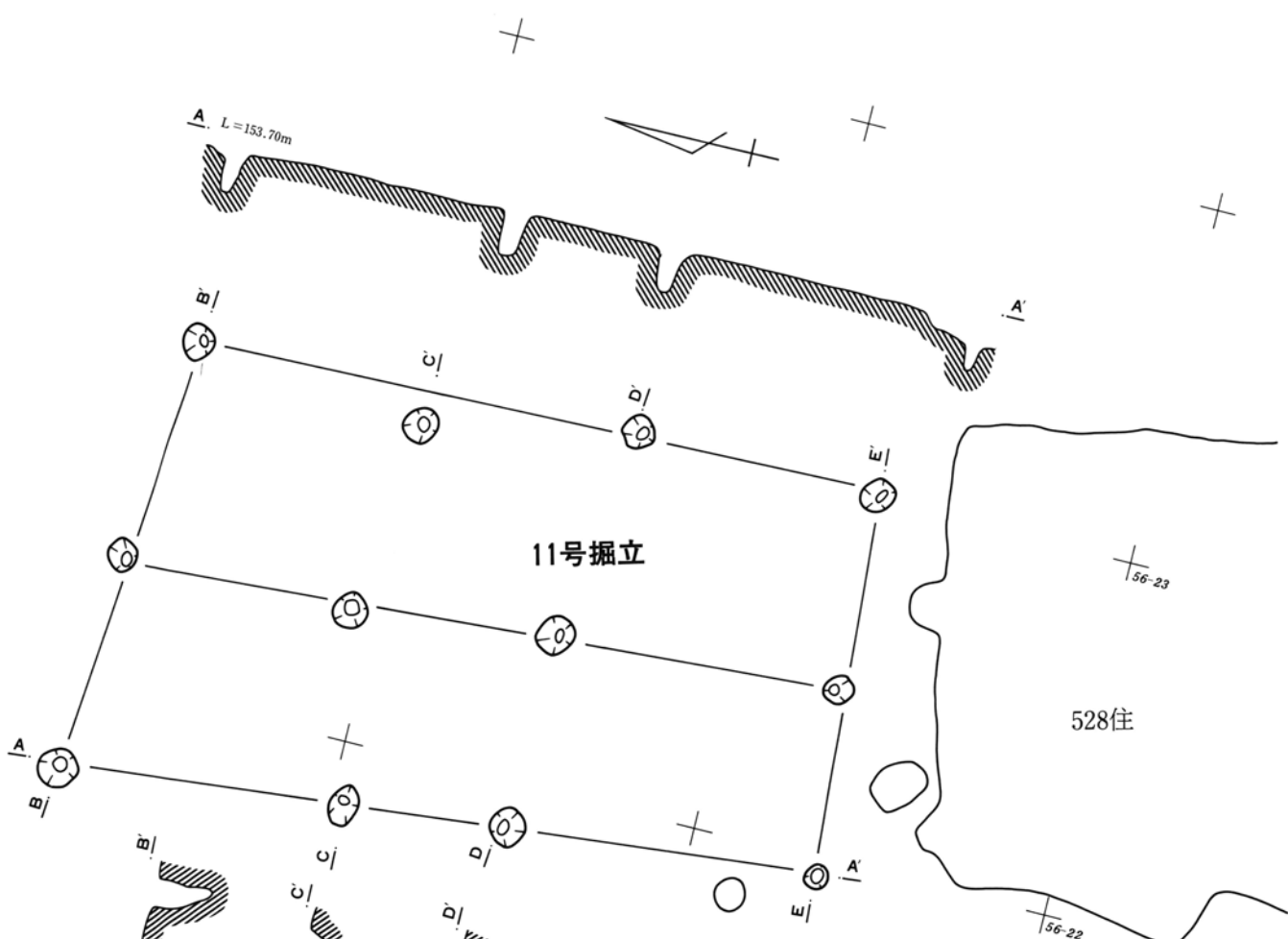
**12号掘立【埋土】**1 暗褐色土ローム粒少締弱 2 暗黄褐色土ローム粒多含締有 3 地山【重複】なし。【形態】1×2間（2.5×2.6m）の南北棟。柱穴掘り方は小さい（径約0.3～0.4m）。【遺物】なし。【備考】中世か。内部に形態の異なる柱穴（深さ0.5m）があるが、この掘立のものではないだろう。




### 14・15号掘立、04号土坑【図P.42 PL.29,30】

本地区中央部分で検出した遺構群。

**14・15号掘立【埋土】**不明。【重複】両者の関係不明。【形態】14号：1×2間（2.6×3.1m）の東西棟。平面やや不整形。柱穴掘り方は小さい（径約0.2～0.4m）。15号：1×2間（2.8×2.9m）の東西棟。柱穴掘り方は普通（径約0.4m）。【遺物】なし。【備考】中世か。

**04号土坑【埋土】**1 暗褐色土ローム塊含上面軽石締有 2 暗黄褐色土ローム粒多含締有 3 地山【重複】なし。【形態】楕円形平面で底平坦（2.0×0.6×0.5m）。【遺物】南側で須恵器小型碗(0278)・黒色土器碗・坏(0277,79)出土。【備考】調査時には墓坑と考えたが、大きさ以外に明確な根拠はないため土坑とする。古代。



-  酸化焼成痕
-  還元焼成痕
-  炭化材

0 1 : 100 5 m  
 A~E 1 : 100 5 m  
 0 F·G 1 : 20 1 m



## 11号掘立、03号小鍛冶【図P.44 PL.30,31】

本地区中央部分で検出した遺構群。

**11号掘立【埋土】**不明。【重複】直接はなし。【形態】2×4間(6.2×10.6m)の総柱南北棟。平面やや不整形。柱穴掘り方は普通(径約0.3~0.5m)。【遺物】なし。【備考】柱穴の位置はかなり不揃いであり、調査時に想定したこのような柱間については、やや疑問もある。中世か。

**03号小鍛冶【埋土】** 1黒褐色土ローム焼土粒少含 2暗褐色土ローム塊多含 3黒褐色土ローム粒含 4地山【重複】古代竪穴515号住より新。【形態】515号住北壁に半円形の炉台(0.4×0.2m高さ0.15m)を築き、その南側の住居内には2基の楕円形掘り込み(1.1×0.8×0.2m)を設け、周辺には鉄滓が広く散布。【遺物】西側掘り込み外側で咸平元宝(2041)出土。【備考】調査時には515号住の廃絶後に「空間転用」された遺構とされている(『矢田遺跡Ⅲ』1992)。しかし、竪穴形態に通常のものとは大きな相違は見られない。そのため10世紀前半とされる竪穴本体との関係については注意を要する。ただし、上記北宋銭(999年初鑄)より、少なくともこの小鍛冶が11世紀以降の所産であることは間違いない。

## 41・46~50・52・53・59号溝、05~07・127号土坑【図P.46~48 PL.33~35】

本地区東側部分で検出した遺構群。

**41号溝【埋土】**不明。【重複】西側で近代の03号道路とほぼ直交する。【形態】ほぼ直線状に東西方向に走り(長30m)、断面皿状で浅い(上幅約2m深さ0.2m)。底にはやや深い(0.4~5m)ピットが並ぶ。【遺物】なし。【備考】調査前現地境とは少し離れて平行する。形状より近世の木柵跡と考えられる。

**46号溝【埋土】** 5黒色土ローム粒少含 6黒褐色土ローム塊多含 7褐色土ローム塊主【重複】竪穴505号住と重複。【形態】鍵の手状に直線状屈曲走向(南北走向部 長22m)で、断面皿状(上幅1.8m深さ0.5m)。【遺物】古代須恵器甕(0178)・丸瓦(0179)出土。【備考】調査前現地境と重なる。やや深いが近代の地境だろう。

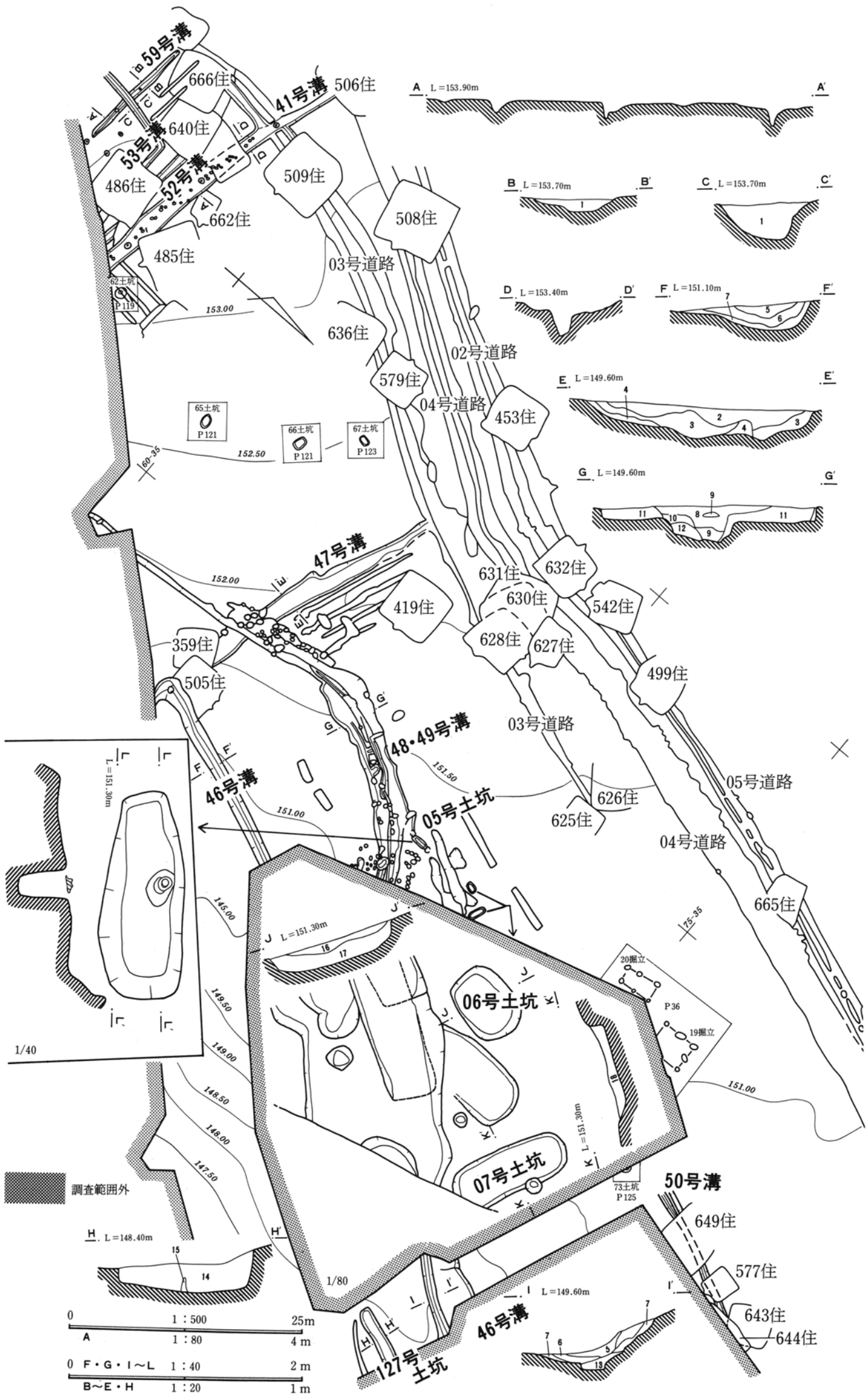
**47号溝【埋土】** 2黒褐色土白色軽石含 3黒褐色土ローム粒含 4褐色土ローム主体【重複】03号道路、48・49号溝、竪穴359号住と重なる。【形態】東西方向に直線状に走り(長28m)、断面皿状(上幅最大1.7m深さ0.2m)。【遺物】古代須恵器甕(0180,81)出土。【備考】調査前現地境と重なる。近代の地境だろう。

**48・49号溝【埋土】** 8 灰褐色砂質土 9灰褐色砂土器包含 10灰褐色砂質土ローム粒少含 11黒褐色土 12褐色土ローム主 13黄褐色土粘土塊多含【重複】47号溝と重なる。【形態】南から北に直線状(約30m)走った後に、弧状に北東方向に緩く曲がる。島状調査範囲外の先で延長部分を検出。断面V字形に近い(上幅1.2m深さ0.6m)が湾曲部分には溝本体の周囲に浅い段(上幅3m)が見られる。【遺物】古代須恵器碗・坏・盤・瓶・羽釜・甕多数と瓦片そして蛇紋岩紡錘車未製品(1007)・鉄滓(2124)出土。【備考】調査前現地境と一致せず。水流痕が明瞭である。南側の01号溝及び北側の57号溝と同一か。古代。

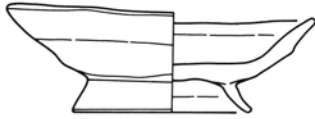
**50号溝【埋土】**不明。【重複】竪穴577・644・649号住と重なる。【形態】南北方向に走る(検出長15m上幅0.6m下幅0.3m深さ0.2m)。【遺物】なし。【備考】調査前現地境と平行。近代の地境だろう。

**52号溝【埋土】**不明。【重複】竪穴486・640号住と重複。【形態】東西方向に直線状に走る(長12m上幅0.7m底幅0.2m深さ0.1m)。【遺物】なし。【備考】調査前現地境とは少し離れて平行する。近世か。

**53号溝【埋土】** 1暗褐色土白黄色軽石少【重複】竪穴486号住・59号溝と重なる。【形態】断面碗状で鍵の手に直角に曲がる(延長20m上幅0.6m深さ0.3m)。【遺物】鉄鋸片(2110)出土。【備考】調査前現地境とは少し離れて平行する。近世の地境か。(P.48に続く)

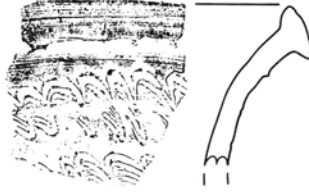


05号土坑

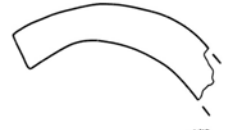


5土坑-0504

46号沟

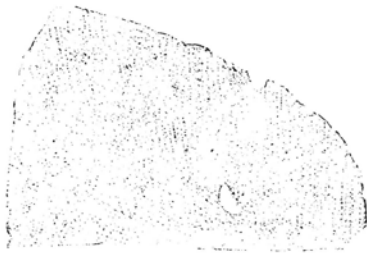


46沟-0178(1/4)



46沟-0179(1/4)

47号沟

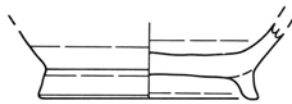


47沟-0180(1/4)

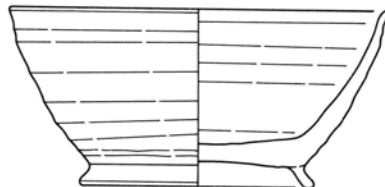


47沟-0181(1/4)

48·49号沟



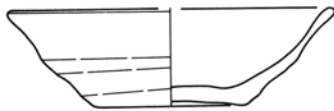
48沟-0185



48·49沟-0194



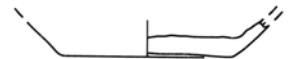
48沟-0182



48沟-0183



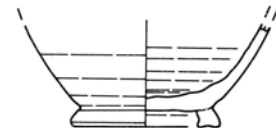
48沟-0184



48沟-0190



48·49沟-0193



48沟-0186(1/4)



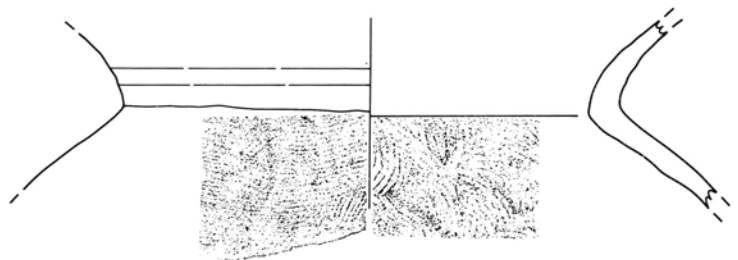
48·49沟-0197(1/4)



48沟-0187(1/4)



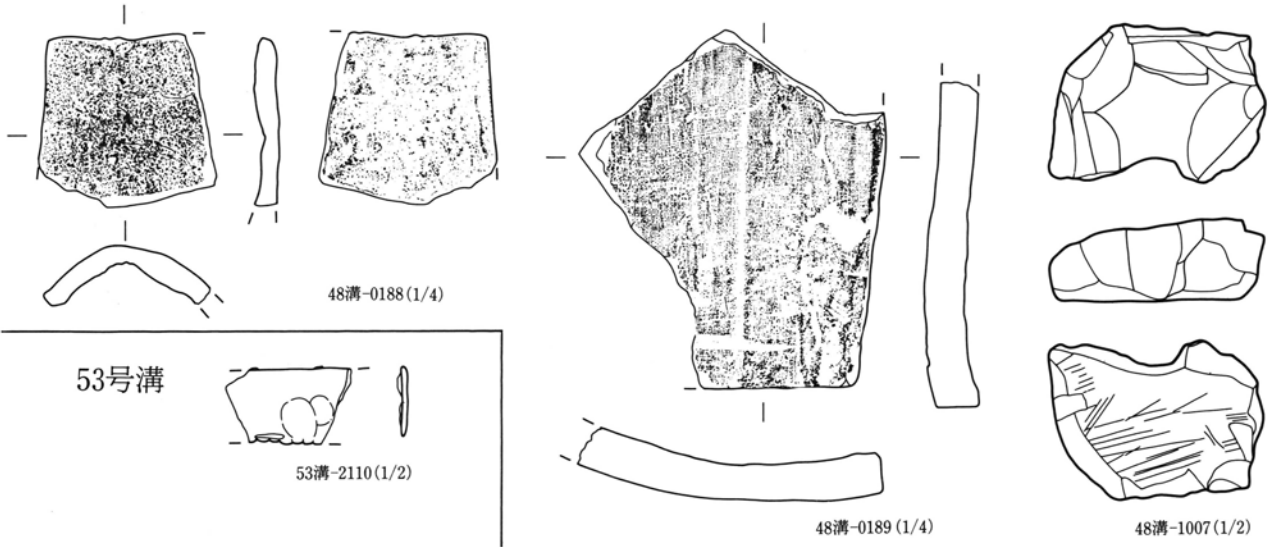
48·49沟-0196(1/4)



48·49沟-0195(1/6)

0 1 : 3 10cm

48号溝



(P.45より)

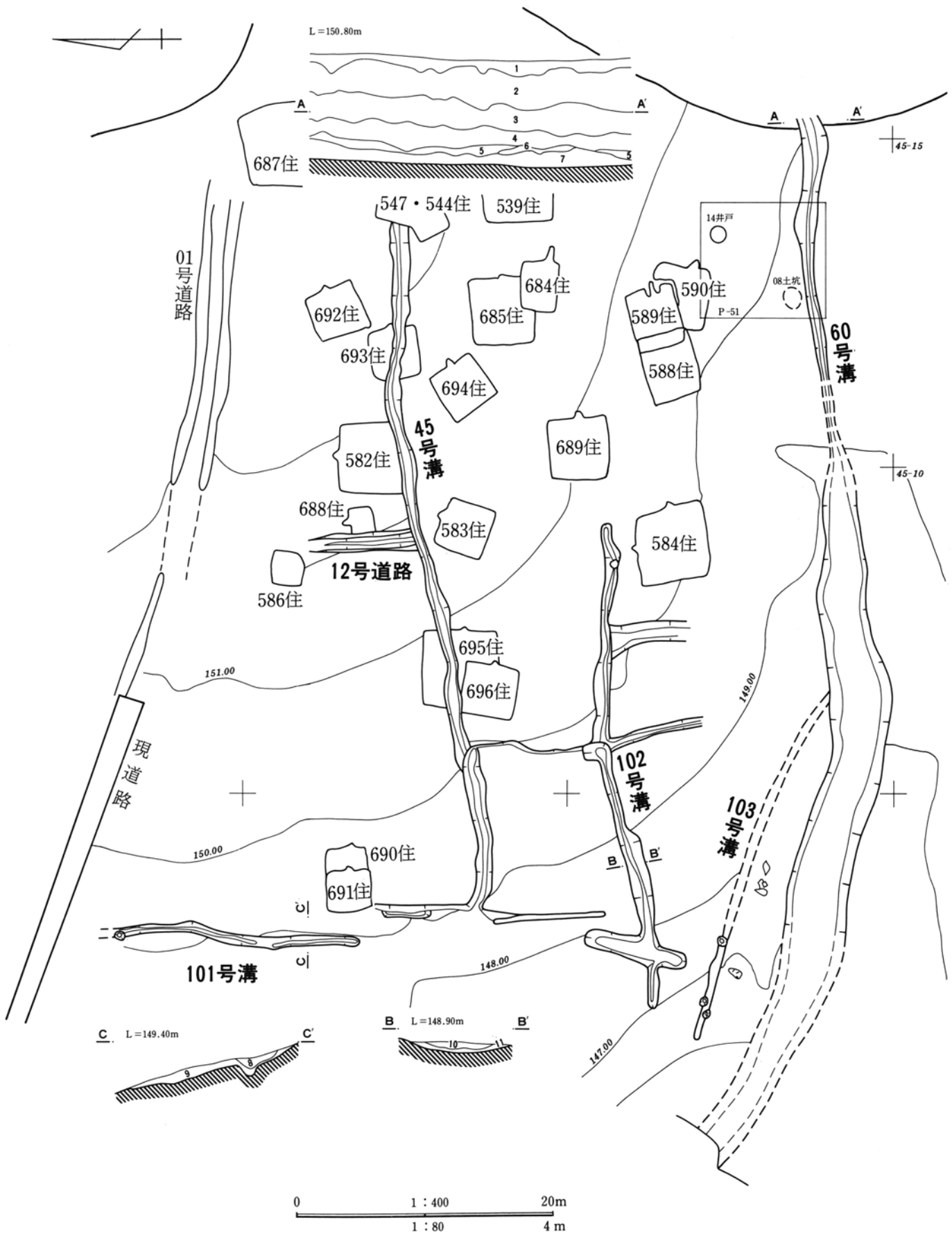
**59号溝【埋土】**1 暗褐色土白黄色軽石少【重複】53号溝と重複。【形態】断面皿状で東西方向に直線状に走る（長13m上幅0.7m底幅0.4m深さ0.1m）。【遺物】なし。【備考】調査前現地境と重なる。近代の地境だろう。

**127号土坑【埋土】**1 4 暗黄褐色土ローム塊多混在 1 5 暗灰白色粘土【重複】なし。【形態】短冊形（1.2×6.2以上×0.3m）。【遺物】なし。【備考】調査前現地境と一致せず。典型的な近世の土坑。

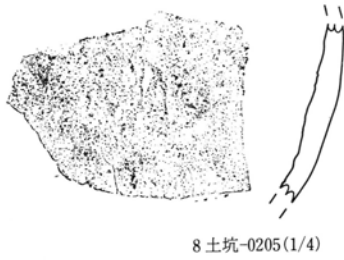
**05号土坑【埋土】**不明。【重複】なし。【形態】楕円形平面で底ほぼ平坦（1.7×0.7×0.3m）。中央にピット（径0.2m深さ0.4m）がある。【遺物】ピット埋土直上で須恵器小型碗（0504）出土。【備考】調査時には墓坑と考えたが、大きさ以外に明確な根拠はないため土坑とする。古代。

**06号土坑【埋土】**1 6 暗褐色土白黄色軽石ローム塊少含 1 7 茶褐色土地山【重複】東側に近世の未命名短冊形土坑群が近接。【形態】楕円形平面で浅い（1.2×0.9×0.3m）。【遺物】なし。【備考】性格不明。古代か。

**07号土坑【埋土】**1 8 暗褐色土ローム塊少含【重複】なし。【形態】楕円形平面で底ほぼ平坦（2.0×0.8×0.1m）。【遺物】なし。【備考】調査時には墓坑と考えたが、大きさ以外に明確な根拠はないため土坑とする。古代か。



## 08号土坑

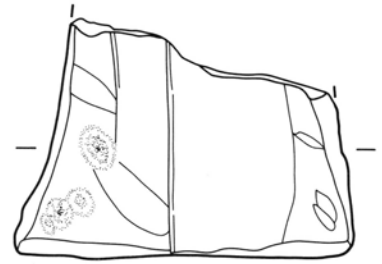


8 土坑-0205 (1/4)

## 60号溝



60溝-1009 (1/1)



60溝-1008 (1/3)

## 12号道路、45・60・101～103号溝、14号井戸、08号土坑【図P.49～51 PL.36,37】

本地区南西端部分で検出した遺構群。

**12号道路【埋土】**不明。【重複】南側で45号溝と重なる。竪穴688号住を壊す。【形態】ほぼ直線状に南北方向に走り（長8m）、断面皿状で浅い（上幅約1.5m深さ0.1m）。掘り返されている。【遺物】なし。【備考】調査前現道と一致。近代の道路側溝だろう。路面不明。

**45号溝【埋土】**不明。【重複】中央で12号道路と重なる。竪穴544,582,693,695,696号住と重なる。【形態】ほぼ直線状に東西方向に走り（長54m）、西端で北に向かう。断面緩いV字形で浅い（上幅最大1.4m深さ0.3m）。【遺物】なし。【備考】調査前現地境と一致。近代の地境だろう。

**60号溝【埋土】**1耕作土 2暗褐色土白色軽石多含炭化粒混 3黒褐色土含有物同2 4暗褐色土鉄分混 5同前鉄分多土器片含 6暗褐色砂鉄分含 7黒褐色土固締【重複】東側で08号土坑が上にある。103号溝との関係不明。【形態】蛇行し幅を変えながら（上幅0.5～4.5m深さ0.1～0.5m）直線状に東西方向に走る（長80m）。【遺物】牛伏砂岩砥石(1008)・滑石白玉(1009)出土。【備考】調査前現地境とは重ならないが、矢田と多胡を分ける低地に一致。08号土坑との関係で、古代と推定。

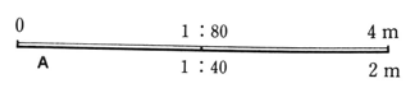
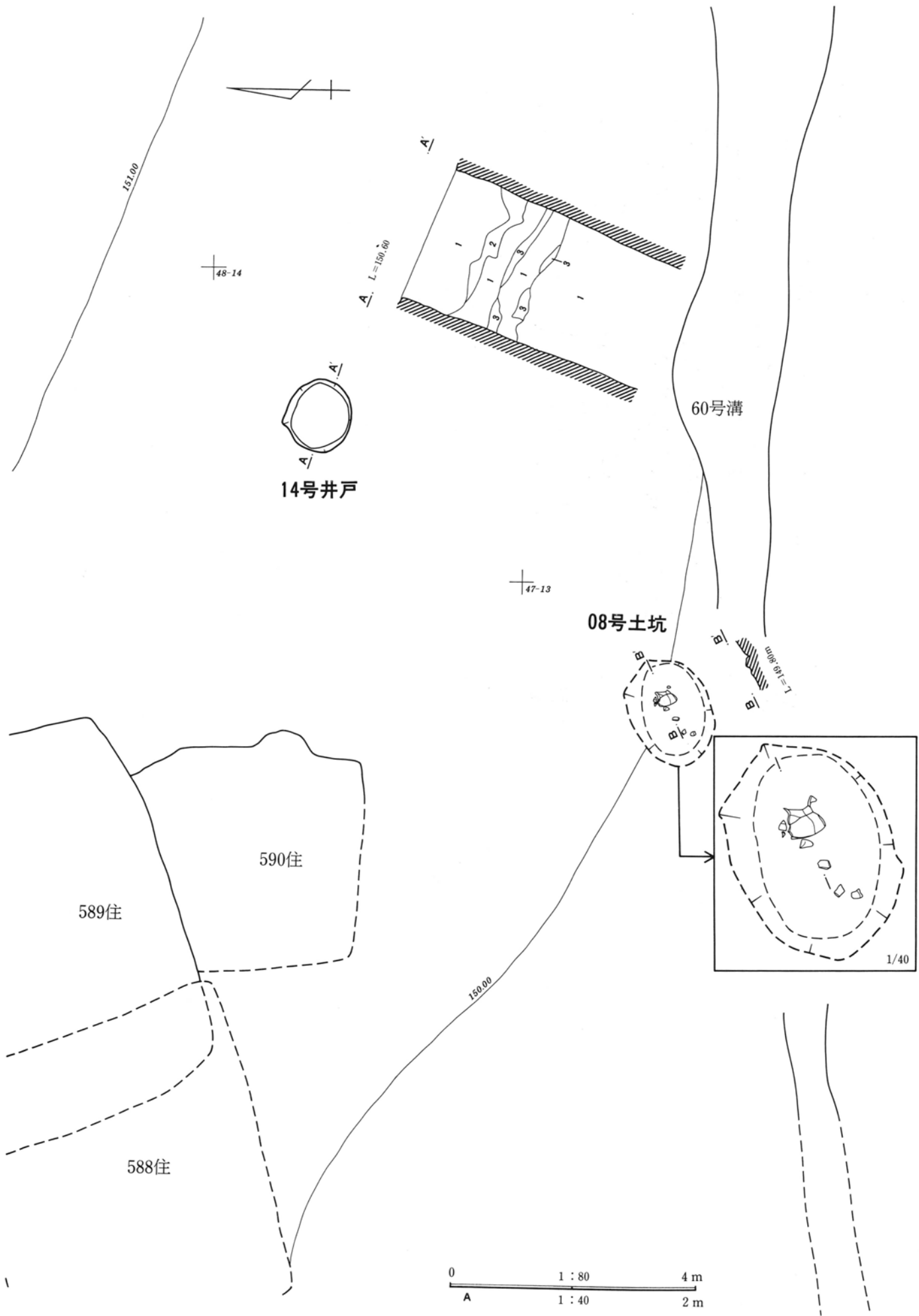
**101号溝【埋土】**8暗褐色土ローム塊多含絡無 9同前ローム粒少含絡無【重複】北側01号道路と直交して接する可能性。【形態】やや蛇行しながら南北方向に走り（長20m）、断面V字形に近いが西側は地形に沿って下がる（上幅約0.5m最大深さ0.2m）。北側には小ピットがある。【遺物】なし。【備考】調査前現地境とは少し離れて平行する。近世の地境だろう。

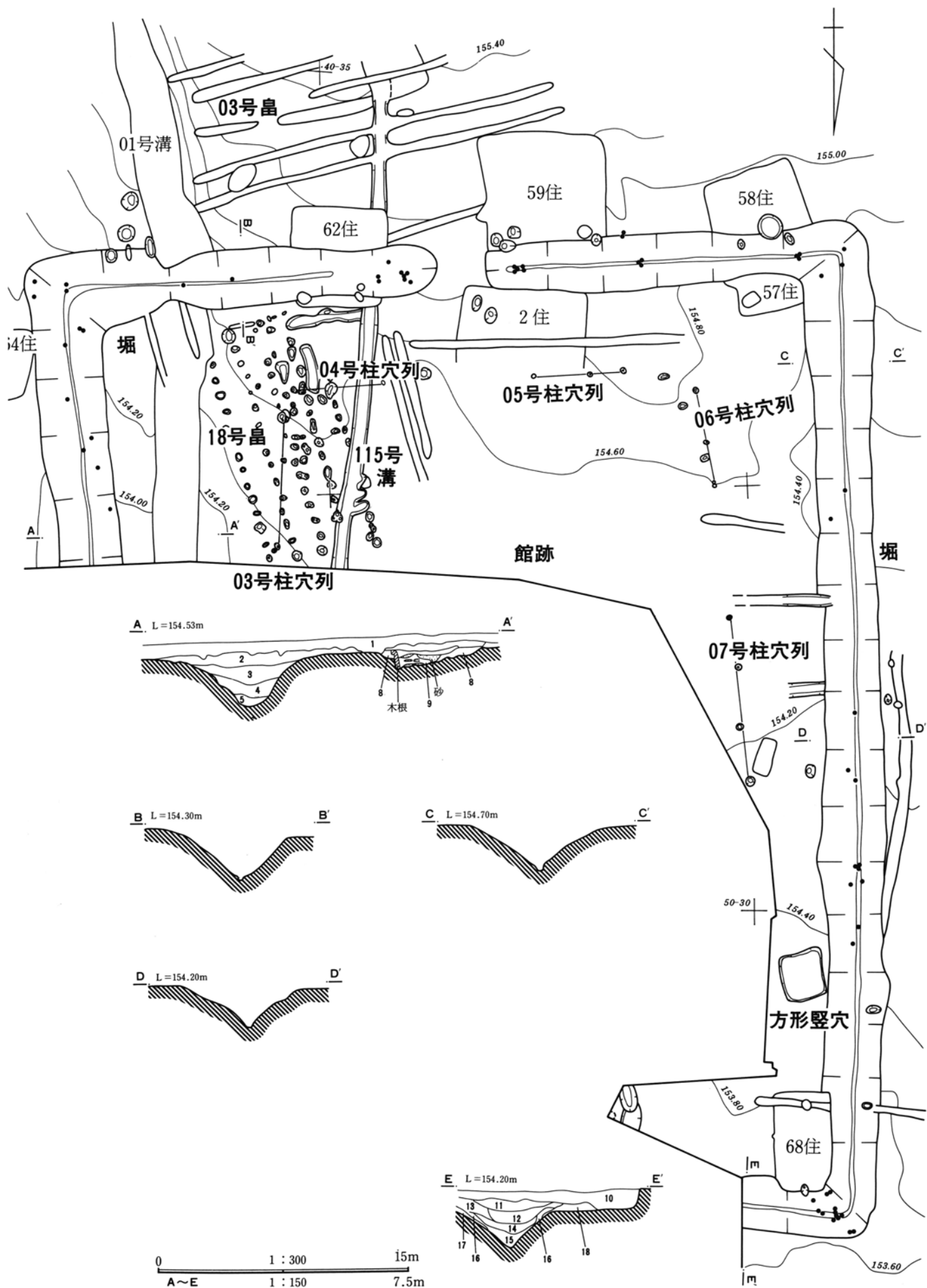
**102号溝【埋土】**10暗褐色土ローム粒混在絡無 11暗褐色土ローム主体絡無【重複】南北走向の未命名溝3本が合流。【形態】45号溝とほぼ平行して（間隔10～14m）少し蛇行しながら東西方向に走り（長37m）、断面皿状で浅い（上幅1.6m深さ0.2m）。【遺物】なし。【備考】調査前現地境とは少し離れて平行する。直交する溝も含めて近世以降の地境だろう。

**103号溝【埋土】**不明。【重複】東側で60号溝と重なる可能性がある。【形態】ほぼ直線状に東西方向に走り（確認長7m推定長25m）、断面緩いV字形（上幅0.7m深さ0.2m）。【遺物】なし。【備考】調査前現地境とは重ならず。時期不明。

**14号井戸【埋土】**1灰白色土粘土ローム塊暗褐色土混在 2暗褐色土粘土ローム塊含 3茶褐色土ローム主体【重複】なし。【形態】円筒形（径1.1m深さ2.4m以上）。【遺物】なし。【備考】時期不明。

**08号土坑【埋土】**不明。【重複】下に60号溝。【形態】推定楕円形平面で浅い（推定1.8×1.2m）。【遺物】古代須恵器甕(0205)出土。【備考】性格不明。古代。





• 遺物



## 館跡、18号畠、115号溝【図P.52,54~56 PL.37~39】

本地区南東側部分で検出した遺構群。

## 館跡

【埋土】1耕作土 2黒褐色土 3茶褐色土ローム塊混 4同前ローム塊シルト塊含 5赤色シルト土茶褐色土混硬 6黒褐色土軽石含 7茶褐色土ローム粒混 8同前ローム塊混 9砂シルト土混在  
10耕作土 11暗褐色土白色軽石ローム粒少 12同前白色軽石ローム粒微 13同前ローム塊混 14同前1,2,13中間的 15暗黄褐色土ローム暗褐色土混 16同前ローム塊少 17同前ローム主暗褐色  
土混 18地山

【重複】南東側で01・115号溝・18号畠が重なる。

【外部構造】堀：断面V字形（最大上幅3.8m底幅0.2m深さ1.5m）で長方形区画（東西50m南北59m）を形成する。南辺中央に開口部（戸口 幅3.0m）がある。

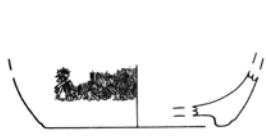
【内部施設】5カ所の柱穴列が方形（東西25m南北25m以上）に配置される。03号柱穴列（長7.3m深さ0.4~0.5m）・04号柱穴列（長5.4m深さ0.15~0.25m）・05号柱穴列（長5.3m深さ0.15~0.25m）・06号柱穴列（長5.7m深さ0.2m）・07号柱穴列（長9.7m深さ0.1~0.3m）。西辺の堀北側に沿って竪穴（67号住2.7×3.1×0.2m）があり、かつて古墳時代の遺構と報告されたが（『矢田遺跡V』1994）、本遺構に伴う方形竪穴の可能性が高い。

【遺物】近世・近代の陶磁器類(0036~38,40~42)が見られるが、重複遺構のものだろう。中世のものは、竜泉窯青磁鉢片(0659)があり、また瓦質土器コネ鉢(0017,29)・同播り鉢(0032)、土師質土器埴(0027,28,30,31)、粗粒輝石安山岩茶臼(1001,02)・同臼(1003)、洪武通宝(2048)、鞆金具状鉄製品(2106,07)が出土した。臼類は、堀開口部東側の底で見られた。他に古代・古墳時代の土器片なども多い。

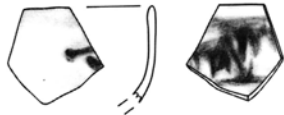
【備考】形態としては単純な方形単郭で、南側中央の戸口には顕著な特定の施設痕は見られない。堀埋土状況と柱穴列の位置より、堀の内側には土塁（推定下幅2mほど）があったと考えられる。柱穴列は木柵痕であり、東辺のみ堀との間が広い（10m）。木柵の北外側には方形竪穴が恐らく複数存在し、中心的な建物は、調査範囲外である木柵内部北側と推定できる。全体に防衛的要素は弱い。青磁鉢・土師質埴・洪武通宝より13~15世紀の時期と考えられる。

18号畠【埋土】不明。【重複】03・04号柱穴列、115号溝と重なる。【形態】南北に長い長方形区画（7.5×15m）で5列の作物痕が並ぶ。3.5m西側にさらに2条のサク跡がある。【遺物】不明。【備考】調査前地境区画と一致。近代の畠跡だろう。

115号溝【埋土】耕作土に近いローム塊含有土【重複】堀・04号柱穴列、03・18号畠と重なる。【形態】ほぼ直線状に南北方向に走り（長30m）、断面皿状で浅い（上幅1.0m下幅0.7m深さ0.2m）。【遺物】不明。【備考】調査前地境とは一致せず。近世の地境か。



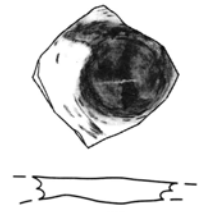
館跡-0036



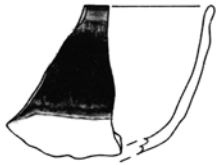
館跡-0037



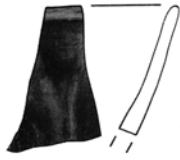
館跡-0040



館跡-0041



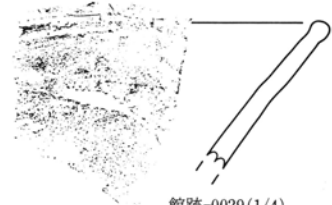
館跡-0042



館跡-0038



館跡-0017 (1/4)



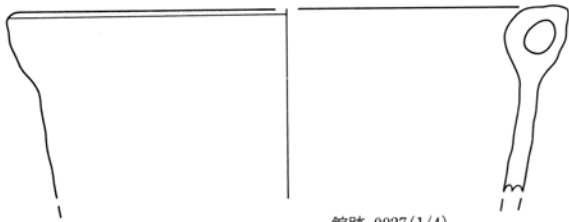
館跡-0029 (1/4)



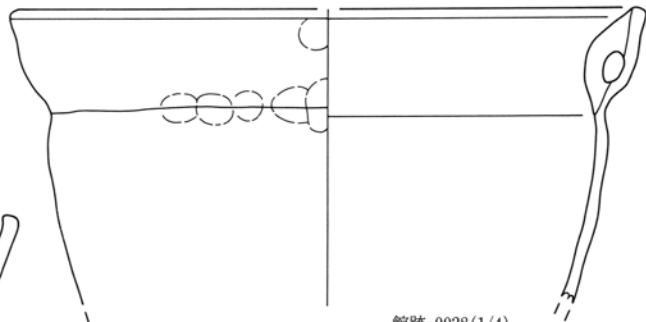
館跡-0659



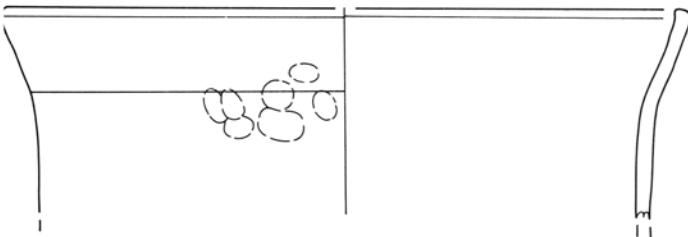
館跡-0032 (1/4)



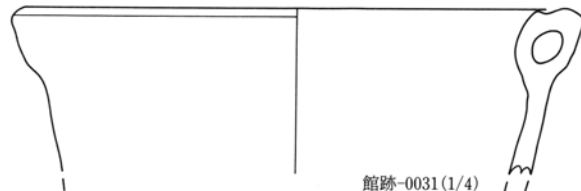
館跡-0027 (1/4)



館跡-0028 (1/4)



館跡-0030 (1/4)



館跡-0031 (1/4)



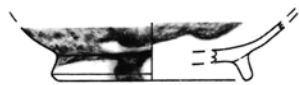
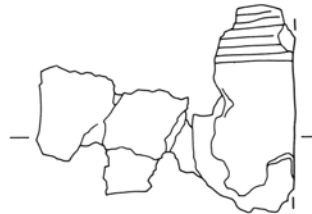
館跡-2048 (1/1)



館跡-1001 (1/6)



館跡-1002 (1/6)



館跡-0039



館跡-2106 (1/2)



館跡-2107 (1/2)



館跡-1003 (1/6)



館跡-0005

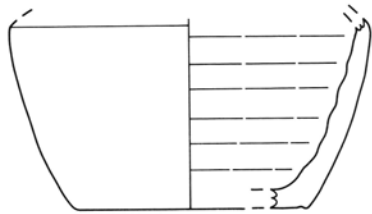


館跡-0006

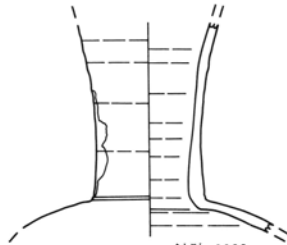


館跡-0007

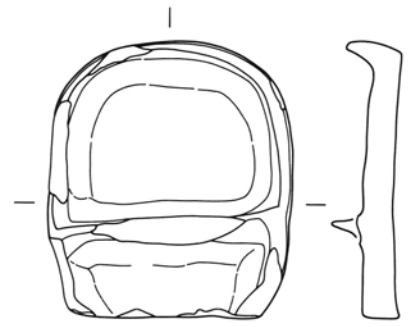
0 1 : 3 10cm



館跡-0008



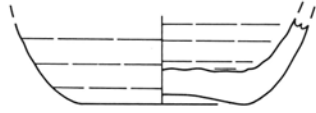
館跡-0009



館跡-0025 (1/3)



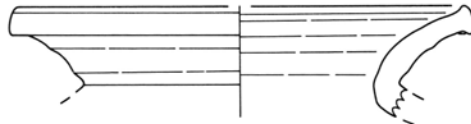
館跡-0001



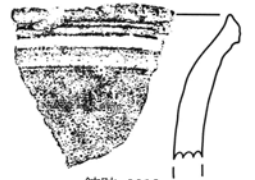
館跡-0010



館跡-0011



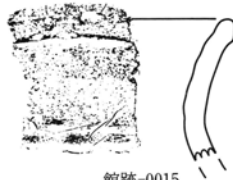
館跡-0012



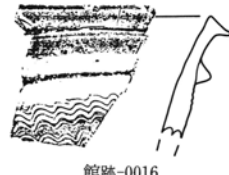
館跡-0013



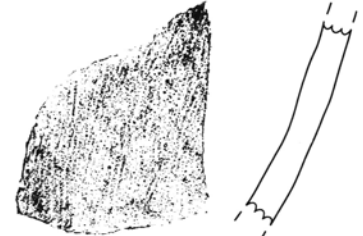
館跡-0014



館跡-0015



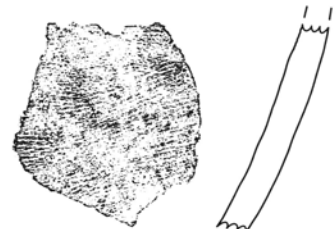
館跡-0016



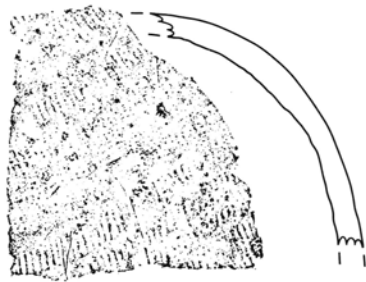
館跡-0019



館跡-0021



館跡-0020



館跡-0023



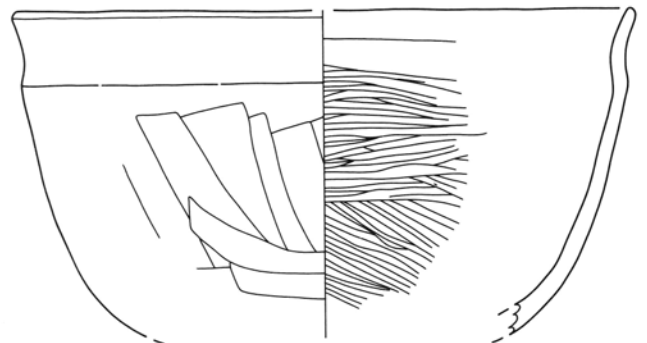
館跡-0022



館跡-0018

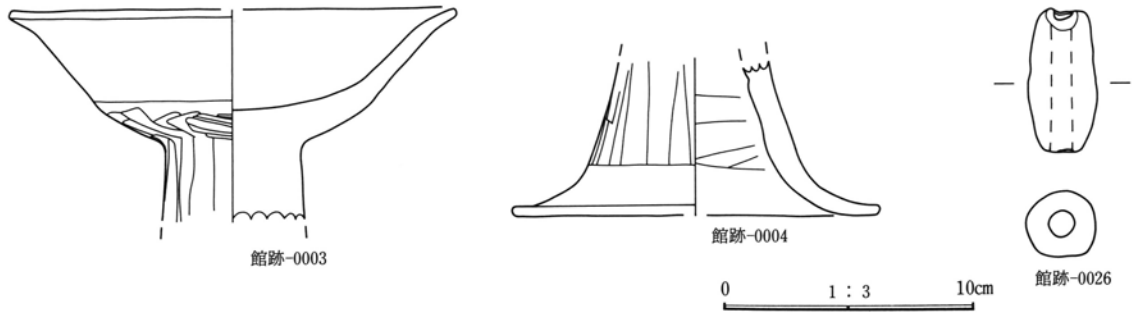


館跡-0024



館跡-0002 (1/3)

0 1 : 4 20cm



08・09号道路、01～03号畠、01・02・100号溝【図P.57～59 PL.38】

本地区南東端で検出した遺構群。

**08号道路【埋土】**不明。【重複】西側で09号道路と合流か。09～13号土坑及び路面中央の走向の似た未命名溝と重なる。【形態】ほぼ直線状に東西方向に走り（長17m）、両側に側溝を持つ（路面幅2.6m側溝幅0.5～1.0m）。【遺物】不明。【備考】調査前地境とは一致しない。近世の道路跡か。

**09号道路【埋土】**不明。【重複】08号道路・100号溝・01号畠と合流。南端で13・16・17号土坑が重なる。【形態】ややカーブしながら南北方向に走り（約長55m）、両側に路面より幅広い側溝を持つ（側溝の検出は部分的。路面幅0.8m側溝幅1.2m）。【遺物】不明。【備考】調査前現道（字天王原・谷頭の境）と一致。近代の道路跡だろう。

**01号畠【埋土】**不明。【重複】09号道路・100号溝と合流。【形態】南北に長い変形長方形区画（5.2×10.8m）に東西方向で9列のサク痕が並ぶ。【遺物】不明。【備考】調査前地境区画と一致。近代の畠跡だろう。

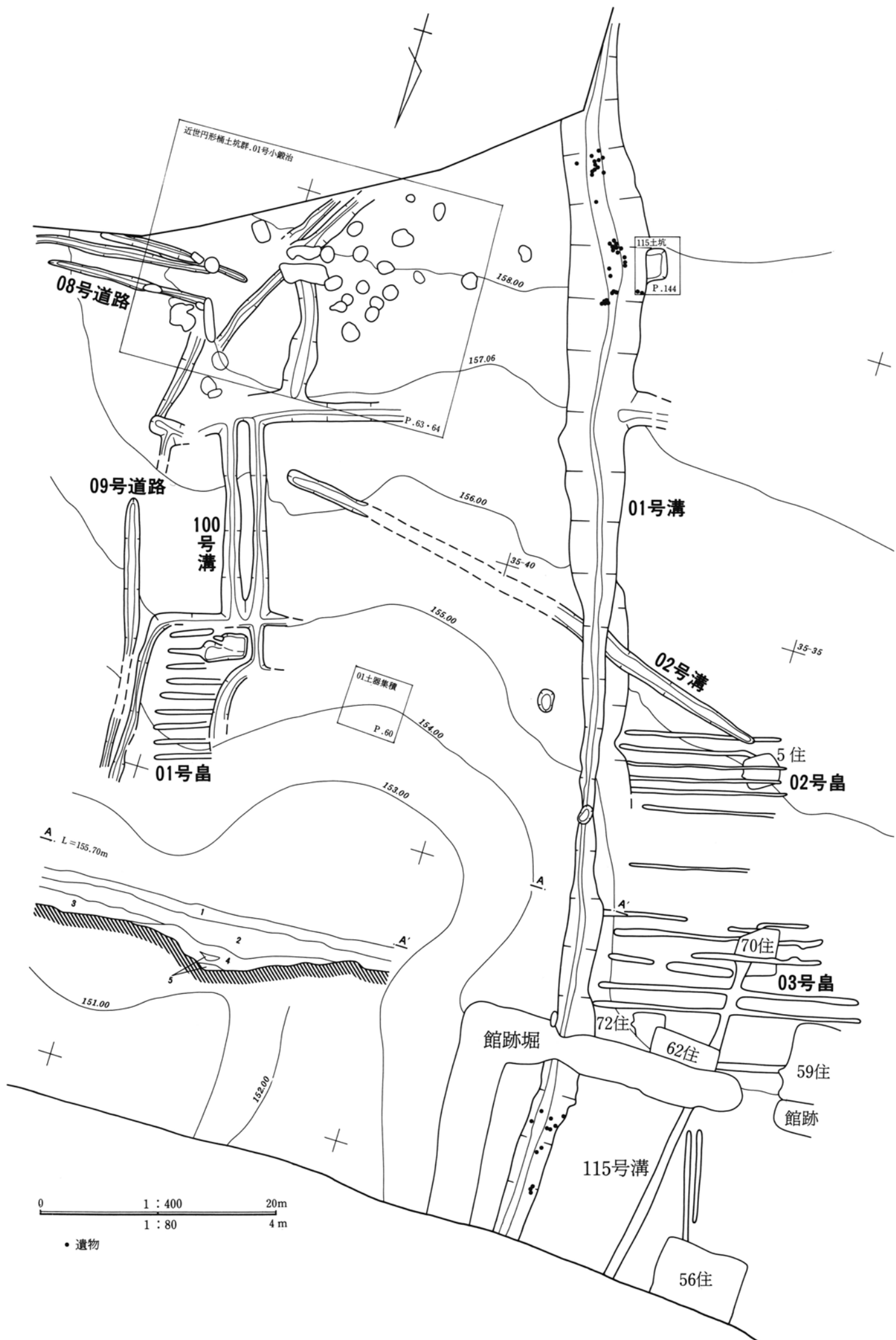
**02号畠【埋土】**不明。【重複】01・02号溝・竪穴05号住と重なる。【形態】南北にやや長い正方形区画（18×16m）で東西方向に8列の作物痕を検出（本来11列か）。【遺物】不明。【備考】調査前地境区画と一致。近代の畠跡だろう。

**03号畠【埋土】**不明。【重複】館跡堀、01・115号溝、竪穴59・62・70・72号住と重なる。【形態】東西に長い長方形区画（23×12m）で5列のサク痕を検出。一部少し走向のずれたサク痕が重なる。【遺物】不明。【備考】調査前地境区画と一致。近代の畠跡だろう。

**01号溝【埋土】**水流痕あり 1灰黒色土白色軽石多含 2同前白色軽石少 3同前ローム粒少 4黒褐色土ローム粒多白色軽石土器多 5灰色砂黒褐色土土器多含（P.53ー6～9層）【重複】館跡堀、02・100号溝、02・03号畠、110・115号土坑と重なる。【形態】ほぼ直線状に南北方向に走り（長100m）、平面は一定せず断面皿状（上幅0.5～6.0m下幅0.2～0.6m最大深さ0.7m）。【遺物】南北両端で猿投灰釉碗(0056)及び古代須恵器碗・坏・皿・瓶・硯・羽釜・甕、土師器坏、丸・平瓦片がまとまって出土。平瓦片(0067)には刻書がある。【備考】調査前地境とは不一致。古代の中心的な水流溝の一つだろう。字稻荷久保に向かう低地の方向とはずれて西側に流れている。北側の48・49号溝及び57号溝と同一か。

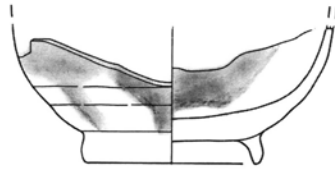
**02号溝【埋土】**不明。【重複】01号溝、02号畠と重なる。【形態】やや弧状で東西方向近くに走る（長58m上幅1.5m下幅0.8m）。断面形不明。【遺物】竜泉窯青磁鉢片(0665)出土。【備考】調査前地境とは一致せず。中世か。

**100号溝【埋土】**不明。【重複】09号道路、01号畠と重なる。【形態】南北方向に4条（10～16m）、東西方向に2条（12～20m）走り、09号道路側溝や01号畠外郭を兼ねる。断面形不明。【遺物】不明。【備考】調査前地境と離れて平行。09号道路・01号畠と同一時期の近代地境だろう。

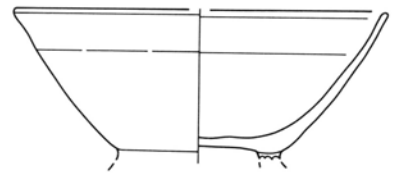




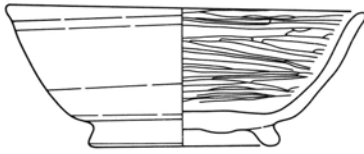
1 溝-0651



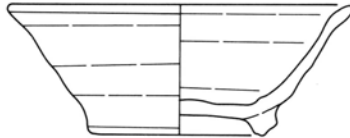
1 溝-0056



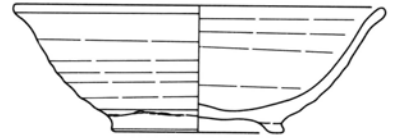
1 溝-0046



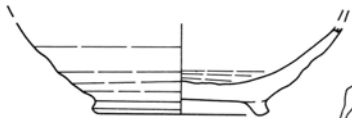
1 溝-0047



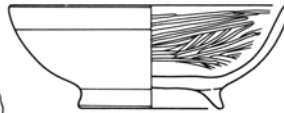
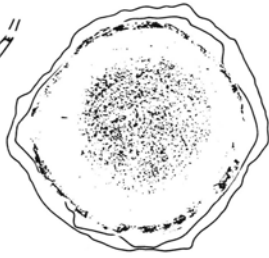
1 溝-0048



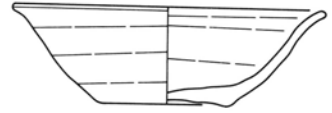
1 溝-0050



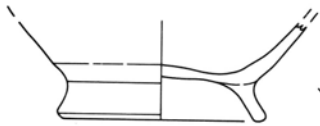
1 溝-0052



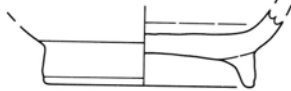
1 溝-0049



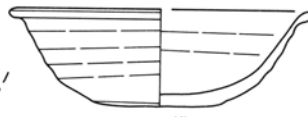
1 溝-0044



1 溝-0055



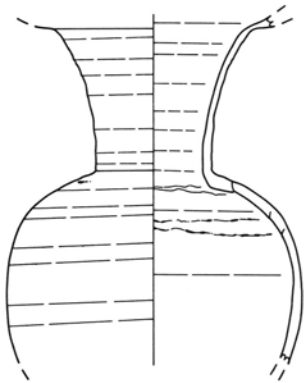
1 溝-0053



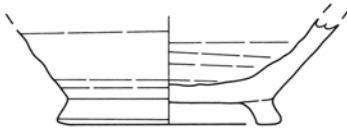
1 溝-0045



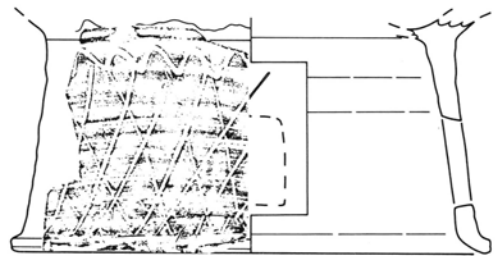
1 溝-0054



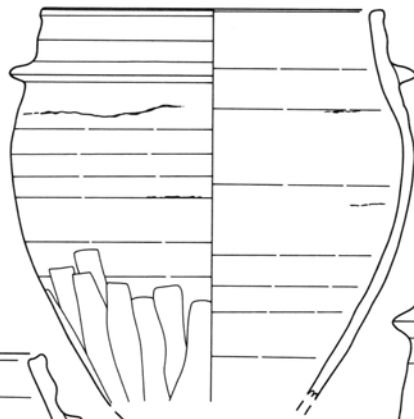
1 溝-0057 (1/4)



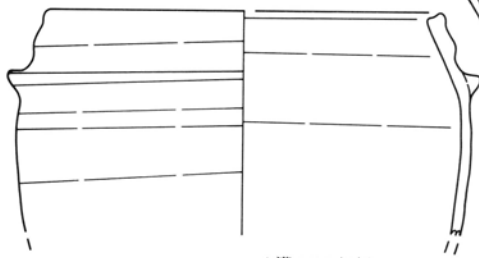
1 溝-0051



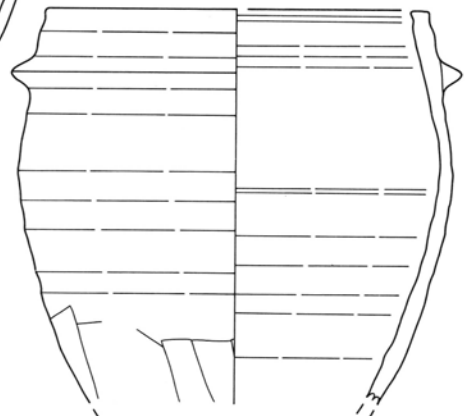
1 溝-0058 (1/4)



1 溝-0263 (1/4)



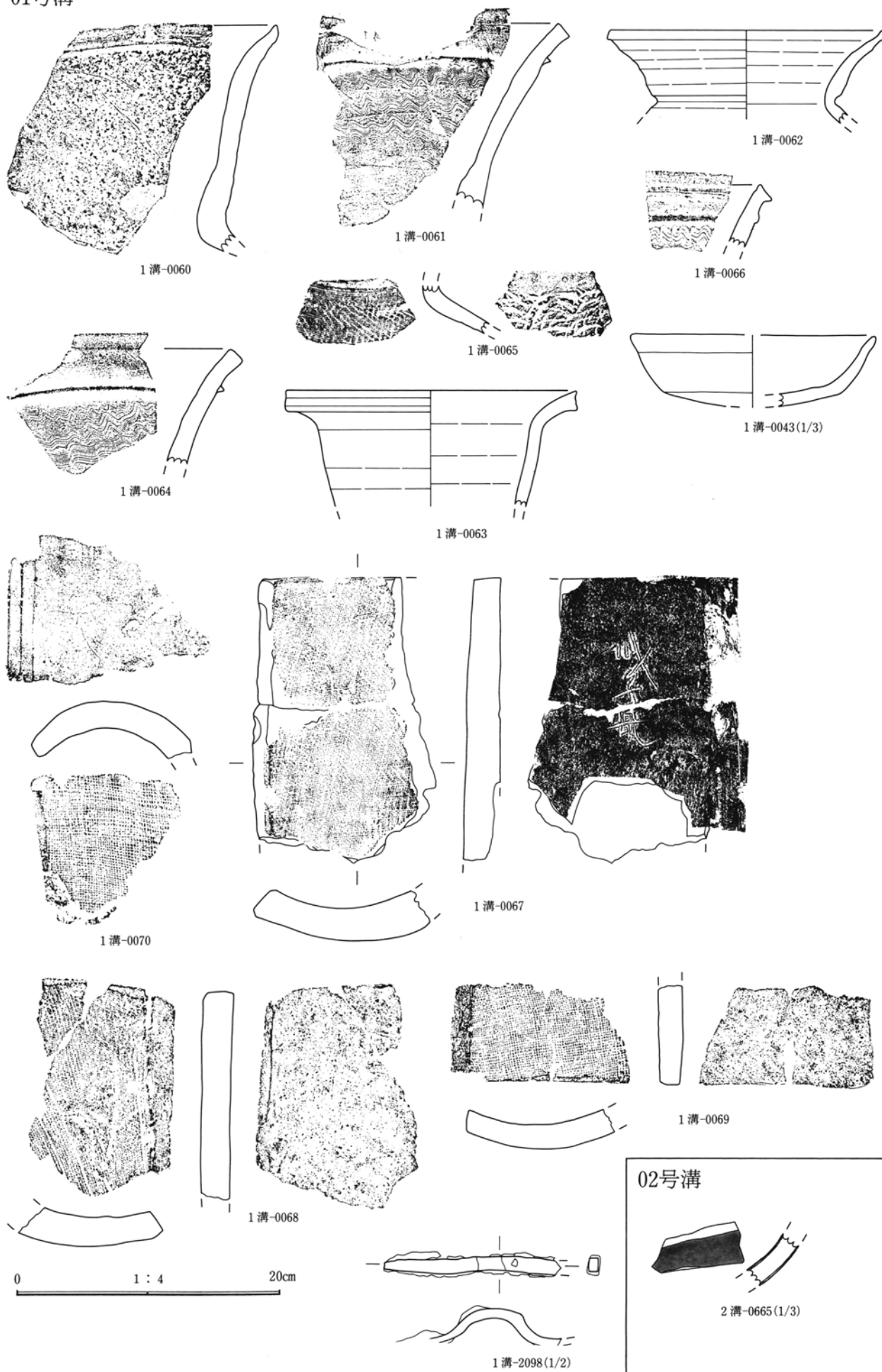
1 溝-0059 (1/4)



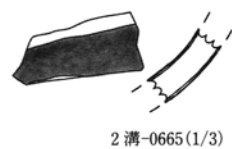
1 溝-0071 (1/4)

0 1 : 3 10cm

01号沟



02号沟



第II章 検出遺構と遺物

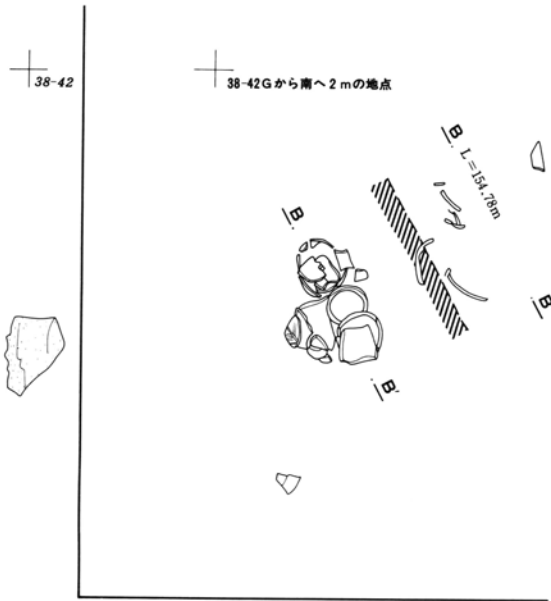
01号土器集積【図P.60 PL.41】

本地区南東端で検出した遺構群。

【埋土】不明。【重複】なし。【形態】字稻荷久保への低地源流部右岸に楕円形状（主軸北西南東方向約4.2×5.0m）に土器片が集中分布。

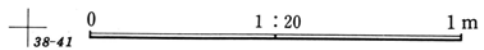
【遺物】古代須恵器と土師器片計275片の分布が見られたが、遺憾ながら大部分が所在不明となり、土師器小型甕(0375)のみを報告。

【備考】取り上げ時に種類が判明したもの（計172片）は土師器片が多い(101片)。全体として、破片が広く散布する北西側部分と比較的飛散が少ない南西側部分に分かれる。前者は大型容器が5,6個体以上、後者は小型容器が4個体程度まとまっている。調査時に掘り込みは確認していないが、土器を露地に放置していただけとは考えにくい。何らかの付帯的施設の存在は、十分に推定できる。



01号土器集積

1土集-0375(1/4)





## 01号小鍛冶【図P.63,64 PL.42】

本地区南東端で検出した遺構群。

【埋土】<sup>1</sup>黒褐色土ローム塊含韃片混 <sup>2</sup>同前ローム粒多含 <sup>3</sup>褐色土ローム粒主黒色土少混【重複】17号土坑と重なる。【形態】全体は主軸を東北東・西南西に向ける楕円形土坑状（1.3×0.6×0.2m）で、内部は大小二つの掘り込みに分かれる。【遺物】大型掘り込み内で韃片（0636～39）・鉄滓及び須恵器碗（0635）・坏（0634）が出土。小型掘り込みではそれらは見られず、代わりに大小2個の自然石（大長0.4m）があった。【備考】残存形態は中世の03号小鍛冶とは異なった状態である。遺物より本小鍛冶が古代のものであることは間違いないが、周辺に同時代の遺構は東側に30m離れた01号溝しかない。

## 09～34号土坑【図P.63,64 PL.42】

本地区南東端で検出した遺構群。

09号土坑【埋土】不明。【重複】08号道路と重なる。【形態】短冊形平面（推定2.8×1.0×0.3m）。【遺物】なし。【備考】近世。

10号土坑【埋土】不明。【重複】08号道路と重なる。【形態】箱形平面（1.0×0.8×0.4m）。【遺物】なし。【備考】性格不明。近世か。

11号土坑【埋土】不明。【重複】08号道路と重なる。【形態】桶形に似た楕円形平面（1.2×1.0×0.2m）。【遺物】なし。【備考】近世か。

12号土坑【埋土】不明。【重複】なし。【形態】不定形平面（2.4×2.2×0.6m）、底3カ所。【遺物】なし。【備考】性格不明。近世か。

13号土坑【埋土】<sup>3</sup>褐色土ローム主焼土炭化粒少含 <sup>4</sup>地山【重複】08・09号道路と重なる。南端でピットを切る。【形態】短冊形平面（3.6×0.6×0.4m）。【遺物】なし。【備考】近世。

14号土坑【埋土】<sup>2</sup>黄褐色土シルト焼土混在ローム塊含 【重複】なし。【形態】桶形平面（1.2×1.1×0.1m）。【遺物】なし。【備考】性格不明。近世か。

15号土坑【埋土】不明。【重複】なし。【形態】箱形平面（1.6×1.2×0.3m）。【遺物】なし。【備考】性格不明。近世か。

16号土坑【埋土】不明。【重複】09号道路と重なる。【形態】桶形平面（1.4×1.2×0.2m）。【遺物】なし。【備考】近世か。

17号土坑【埋土】不明。【重複】01号小鍛冶と重なる。【形態】桶形平面（1.2×1.2×0.1m）。【遺物】なし。【備考】近世か。

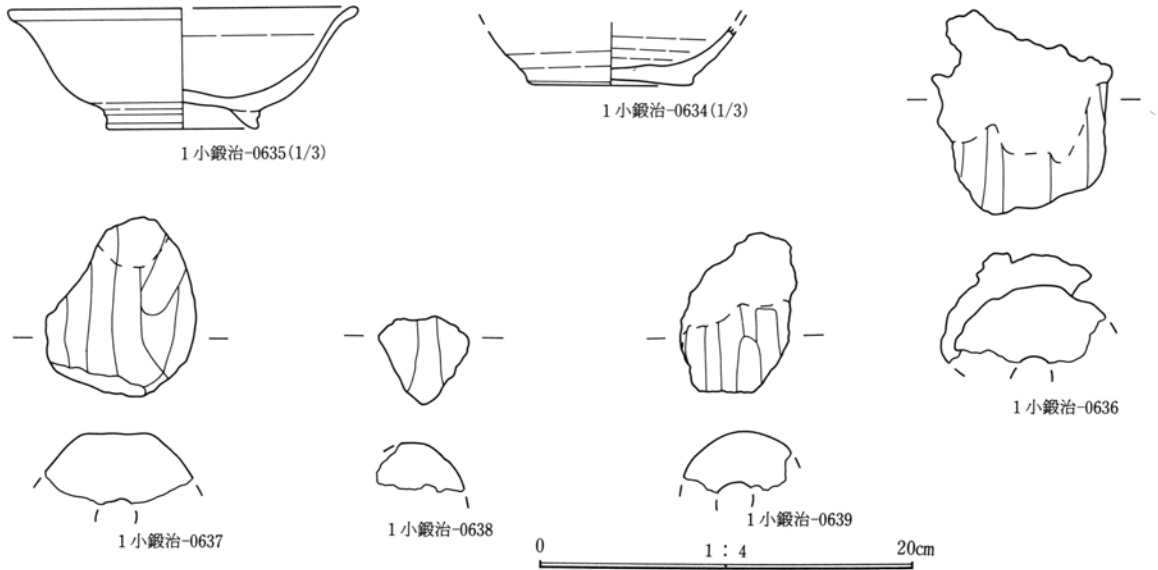
18号土坑【埋土】<sup>1</sup>黒褐色土ローム塊含【重複】09号道路に近接。【形態】桶形平面（1.2×1.2×0.2m）。【遺物】なし。【備考】近世か。

19号土坑【埋土】<sup>1</sup>黒褐色土ローム塊含【重複】09号道路に近接。【形態】楕円形平面（1.2×1.2×0.1m）。【遺物】なし。【備考】近世か。

20号土坑【埋土】<sup>1</sup>黒褐色土ローム塊含【重複】未命名土坑と重なる。【形態】箱形平面（1.2×1.0×0.4m）。【遺物】なし。【備考】近世か。

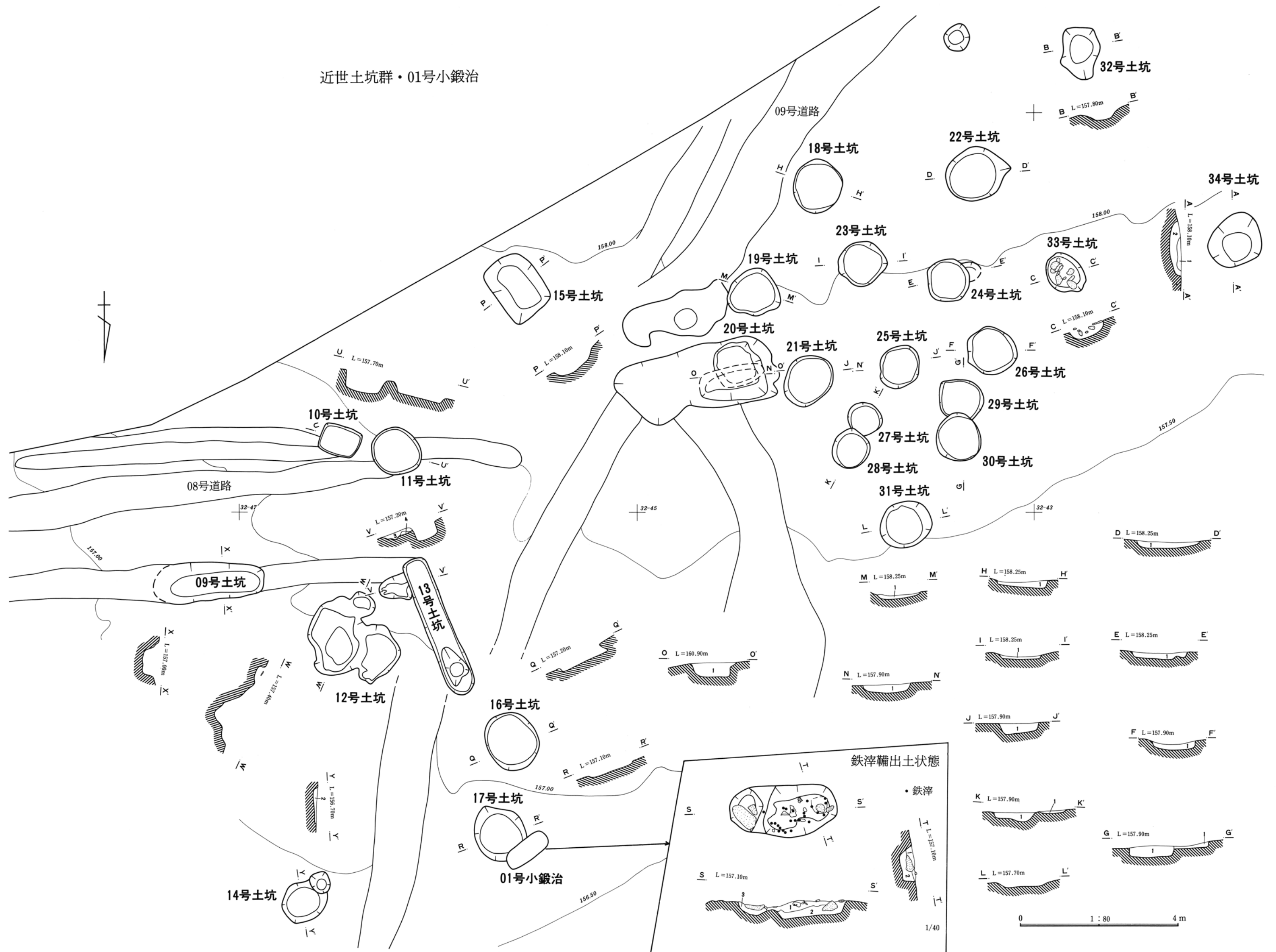
21号土坑【埋土】<sup>1</sup>黒褐色土ローム塊含【重複】なし。【形態】楕円形平面（1.2×1.0×0.2m）。【遺物】なし。【備考】近世か。

第II章 検出遺構と遺物



- 22号土坑【埋土】1黒褐色土ローム塊含【重複】なし。【形態】楕円形平面(1.4×1.2×0.2m)。【遺物】なし。【備考】近世か。
- 23号土坑【埋土】1黒褐色土ローム塊含【重複】なし。【形態】楕円形平面(1.2×1.0×0.1m)。【遺物】なし。【備考】近世か。
- 24号土坑【埋土】1黒褐色土ローム塊含【重複】未命名小土坑と重なる。【形態】桶形平面(1.0×1.0×0.2m)。【遺物】なし。【備考】近世か。
- 25号土坑【埋土】1黒褐色土ローム塊含【重複】なし。【形態】桶形平面(1.0×1.0×0.3m)。【遺物】なし。【備考】近世か。
- 26号土坑【埋土】1黒褐色土ローム塊含【重複】なし。【形態】楕円形平面(1.2×1.2×0.2m)。【遺物】なし。【備考】近世か。
- 27号土坑【埋土】1黒褐色土ローム塊含【重複】28号土坑と重なる。【形態】桶形平面(0.8×0.8×0.1m)。【遺物】なし。【備考】近世か。
- 28号土坑【埋土】1黒褐色土ローム塊含【重複】27号土坑と重なる。【形態】桶形平面(0.8×0.8×0.2m)。【遺物】なし。【備考】近世か。
- 29号土坑【埋土】1黒褐色土ローム塊含【重複】30号土坑より古い。【形態】楕円形平面(1.2×1.0×0.1m)。【遺物】なし。【備考】近世か。
- 30号土坑【埋土】1黒褐色土ローム塊含29号より暗色【重複】29号より新しい。【形態】楕円形平面(1.2×1.0×0.3m)。【遺物】なし。【備考】近世か。
- 31号土坑【埋土】不明。【重複】なし。【形態】桶形平面(1.2×1.2×0.2m)。【遺物】なし。【備考】近世か。
- 32号土坑【埋土】不明。【重複】なし。【形態】不定形平面(1.2×0.8×0.2m)。【遺物】なし。【備考】近世か。
- 33号土坑【埋土】不明。【重複】なし。【形態】楕円形平面(1.2×0.8×0.2m)。【遺物】自然礫多く含有。【備考】近世か。
- 34号土坑【埋土】5黒褐色土白色軽石ローム粒少含 6同前ローム粒多含【重複】なし。【形態】不定形平面(1.4×1.0×0.3m)。【遺物】なし。【備考】近世か。

近世土坑群・01号小鍛冶





## イ 東側地区

この地区は、大字矢田の字稲荷久保・谷頭・杉之久保・車地藏・天久沢、そして大字多比良の字観音山よりなる。稲荷久保部分は、インターチェンジへの進入路と本線の2カ所の調査になったが、その他の各字部分はいずれも東西方向に走る本線部分のみである。ここは大小4カ所の低地が南から北に向かっている。

上述のように、他の地区と同様に検出遺構は多彩な様相を示し、出土遺物から初期的に判断した時代区分は、弥生～近代と幅広い。単純な数では近世の土坑が最大である。また時期不明のものも種類・数量も変わらず多い。

ここで報告する東側地区出土全遺物の種類・時代は、次の通りである。

	土器類		石製品類		金属製品		その他
近代							
近世	国産陶磁	3	砥石	1	鉄製品	1	
	国産陶器	3			銭貨	1	
中世	舶載陶磁	1			鉄製品	2	
	瓦質土器	3			銭貨	27	
	土師質土器	1					
	瓦	1					
古代	須恵器	28	紡錘車	2			
	土師器	7	砥石	2			
	瓦	6					
古墳	土師器	3					
縄文	晩期土器	1					
不明			砥石	4	鉄製品	2	馬歯 1
					鉄滓	1	

以上のように、報告遺物の中で最も多いのは一括出土した中世の銭貨で、ついで古代須恵器となる。それらの内訳は次の通りである。

中世銭貨	唐銭 2	北宋銭 23	南宋銭 1	明銭 1
須恵器	食器	碗	5	
		坏	5	
		蓋	4	
	貯蔵具	瓶	1	
		長頸瓶	2	
		大甕	2	
		甕	8	
	調理具	羽釜	1	

中世銭貨は、後述するように稲荷久保地区での一括出土だが、遺構に伴っていない。本地区は古代の竪穴住居が他地区に比べ少なく、それにつれるように古代須恵器の出土は多くない。ただし、大甕が2点見られる。また本遺跡唯一の縄文晩期土器の出土がある。

07号道路、55～58号溝【図P.66,67 PL 43,44】

字稻荷久保北側で検出した遺構群。

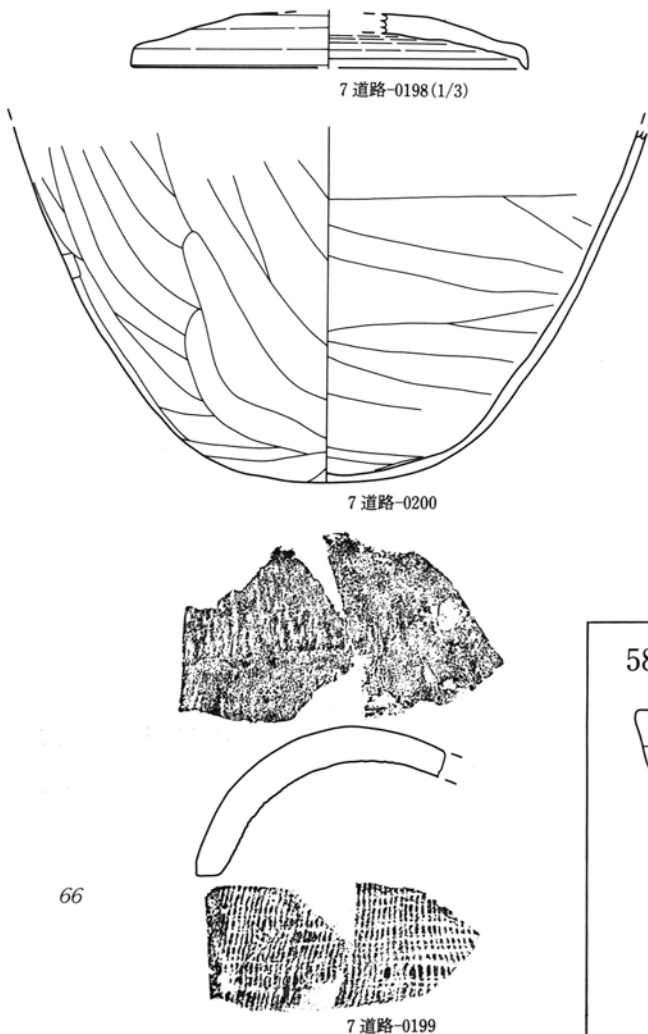
**07号道路【埋土】**1 暗褐色土ローム塊白色軽石含 2 暗黄褐色土ローム塊多含 3 地山【重複】路面中を2条の未命名溝が、東側溝と竪穴610号住りが重なる。【形態】直線状に両側溝をもって南北方向に走る（長23m路面幅2.3m側溝幅0.8～1.2m）。【遺物】古代須恵器坏蓋(0198)・土師器甕(0200)・丸瓦(0199)が重複竪穴周辺で出土。【備考】調査前地境とは直接は一致しないが、北側のほぼ同一位置の字椿谷戸と兼宮道の境界の道路の延長線に当たる。そのため、近世の道路跡だろう。

**55号溝【埋土】**不明。【重複】56号溝より古い。【形態】やや蛇行しながら等高線に直交して走り（長11m）、断面皿状で浅い（上幅0.8m下幅0.2m深さ0.1m）。【遺物】なし。【備考】調査前地境とは一致せず。時期不明。

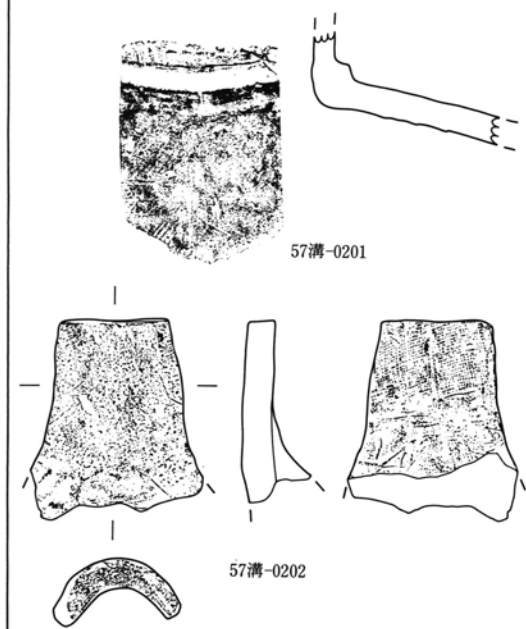
**56号溝【埋土】**4 黒褐色土上面耕作土下面ローム塊含 5 地山【重複】55号溝より新しい。128号土坑が北側で近接。【形態】ほぼ直線状に東西方向に近く走り（長10m）、平面は一定せず断面皿状（上幅0.5m下幅0.2m最大深さ0.3m）。【遺物】なし。【備考】調査前地境と離れて平行。近世の地境か。

**57号溝【埋土】**不明。【重複】58号溝と重なる可能性。【形態】蛇行して南西から東方向に走るが（長約20m）、平面はかなり不安定（上幅0.8～1.3m下幅0.4～1.0m最大深さ0.3m）。【遺物】古代土師器甕(0201)、特殊瓦片(0202)が出土。【備考】調査前地境とは一致せず。北西側地区の01号及び48・49号溝と同一か。（P.69へ続く）

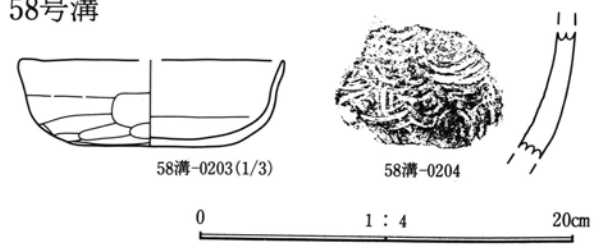
07号道路



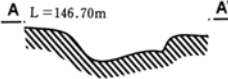
57号溝



58号溝



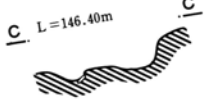
78土坑  
P.129



58号溝

12号井戸

12号井戸  
128土坑

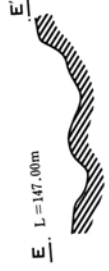
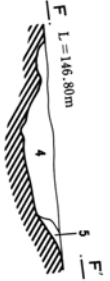


57号溝

55号溝

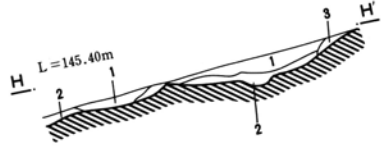
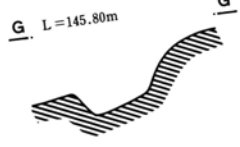
56号溝

128号土坑



P.68

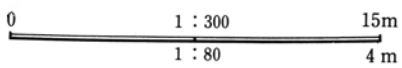
85-55



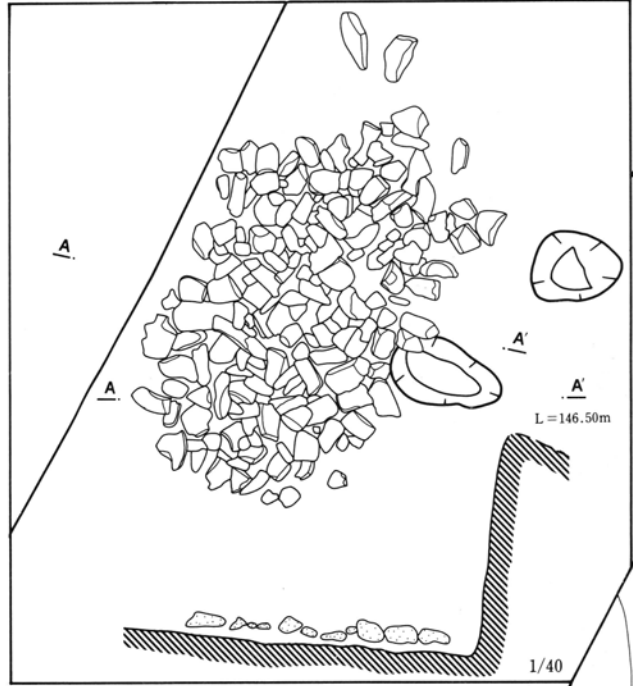
610住

07号道路

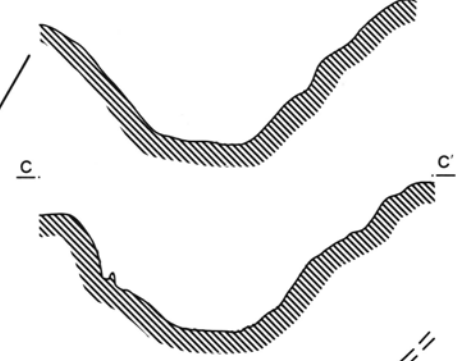
90-55



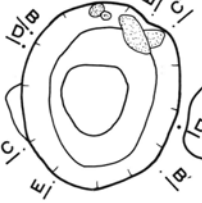
• 遺物



B · C  
L=146.60m

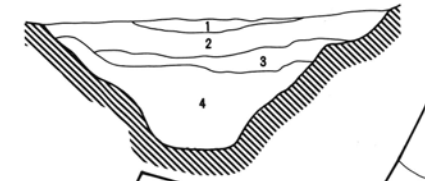
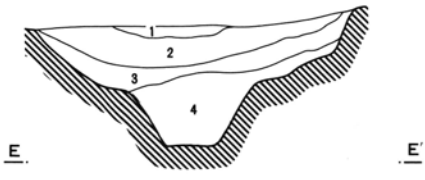


12号井戸



58号溝

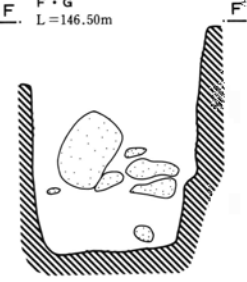
D · E  
L=146.60m



57号溝

146.80 146.40 146.20 145.80 145.60

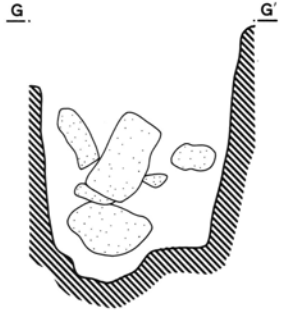
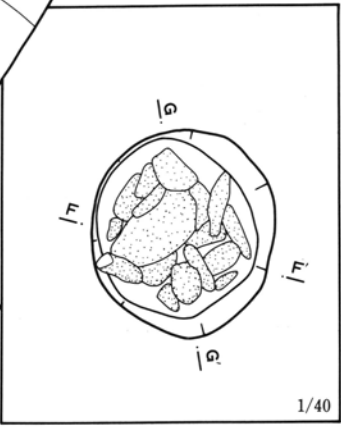
F · G  
L=146.50m



55号溝

56号溝

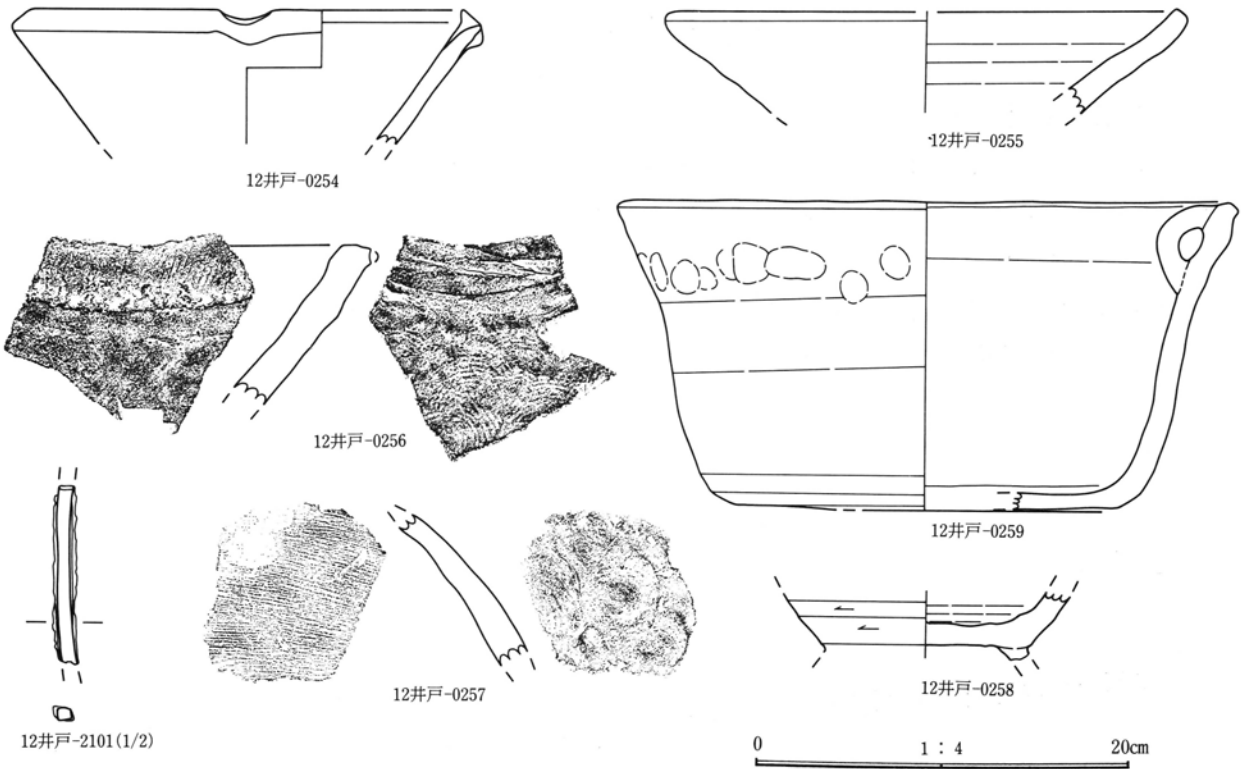
128号土坑



0 1 : 160 8 m  
B · C · D · E 1 : 80 4 m

0 A · F · G 1 : 40 2 m





(P.66より) 58号溝【埋土】不明。【重複】北東側で12号井戸と近接、南西側で未命名落ち込みと重複。57号溝と重なる可能性。【形態】ほぼ直線状に南西から北東方向に走った後、北西方向に屈曲(延長6m)。平面は一定せず断面皿状(最大上幅1.0m同下幅0.6m最大深さ0.35m)。未命名落ち込みからもやや深い(0.2m)。【遺物】未命名落ち込みより古墳時代須恵器甕(0204)・土師器坏(0203)出土。【備考】調査前地境とは一致せず。未命名落ち込みとの関係は不明であり、時期性格も判然としない。

### 12号井戸、128号土坑、01号集石【図P.68,69 PL 44,45】

字稻荷久保北側で検出した遺構群。

**12号井戸【埋土】**1 暗褐色土ローム塊混在 2 黒褐色土黄色細粒含 3 黒褐色土ローム塊多含下面白色粘土 4 暗茶褐色土ローム主体【重複】58号溝と近接。【形態】朝顔形(径3.6m深さ1.6m)。【遺物】瓦質土器コネ鉢(0254~56)・土師質埴(0259)・鉄鏃?(2101)及び古代須恵器甕類出土。【備考】湧水層の位置不明であり出水跡が顕著でない。中世。

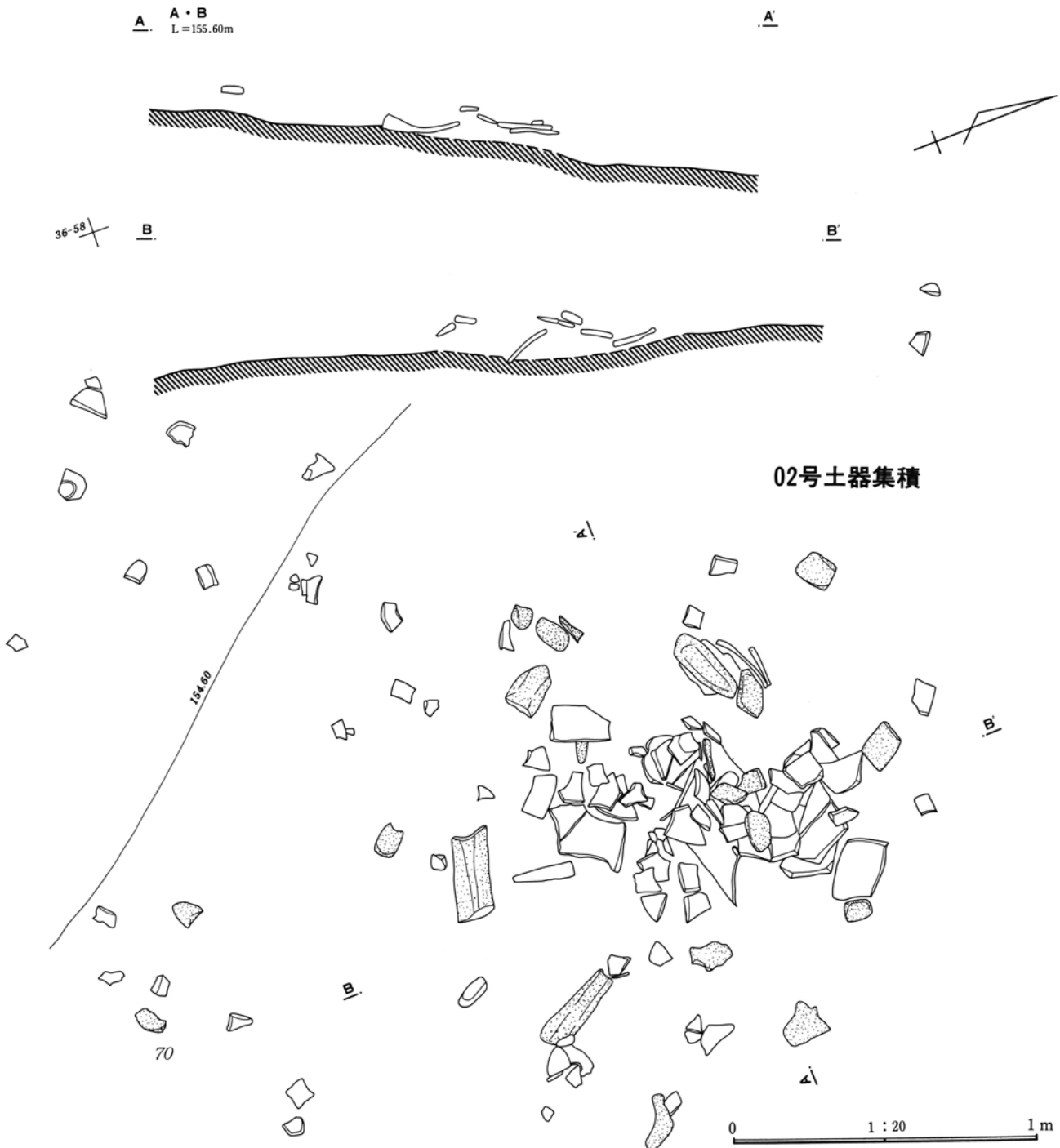
**128号土坑【埋土】**不明。【重複】56号溝近接。【形態】円筒形(径1.1m深さ1.4m)で底に小ピット(0.6×0.4×0.15m)がある。【遺物】大小17個の自然石(長0.2~0.5m)が全体に入っていた。【備考】時期不明。調査時に井戸として考えられたが、浅く12号井戸以上に積極的な証拠がない。

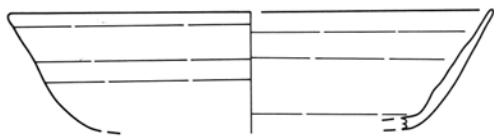
**01号集石【埋土】**不明。【重複】なし。【形態】長方形(2.8×1.6m)に自然石189個(長0.1~0.2m)を敷き詰める。上面はほぼ平坦。西側に2個のピット(径0.5~0.6m深さ0.3m)があり、北側のものは一部石の下になる。【遺物】なし。【備考】時期性格不明。

02号土器集積【図P.70,71 PL.45】

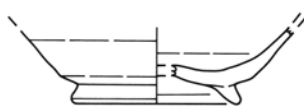
字谷頭中央で字稻荷久保に向かう低地右岸で検出した遺構。

【埋土】不明。【重複】なし。【形態】字稻荷久保に向かう低地源流部右岸に楕円形状（主軸北東南西方向約3.5×2.5m）範囲で土器片が集中分布。【遺物】古代須恵器と土師器片計73片の破片の分布が見られた。須恵器碗(0351,52)・坏(0350)・坏蓋(0353)・瓶(0356)・甕(0354,55)そして大甕(0357)があり、また古墳時代土師器甕(0349)も出土した。【備考】取り上げ時に種類が判明したもの（計65片）は須恵器片が多く（51片）、その6割以上は大甕(0357)の破片（32片）。分布もこの大甕が単純に割れた状態が中心のため、低地近くの屋外であるこの場所で、何らかの事情で割れた大甕がそのまま放置されたものとするのが自然だろう。





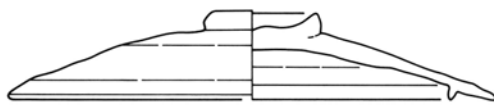
2 土集-0351 (1/3)



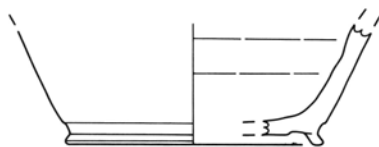
2 土集-0352 (1/3)



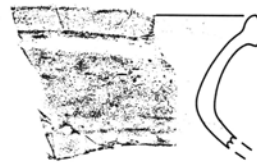
2 土集-0350 (1/3)



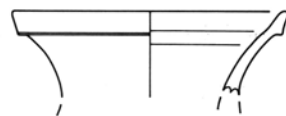
2 土集-0353 (1/3)



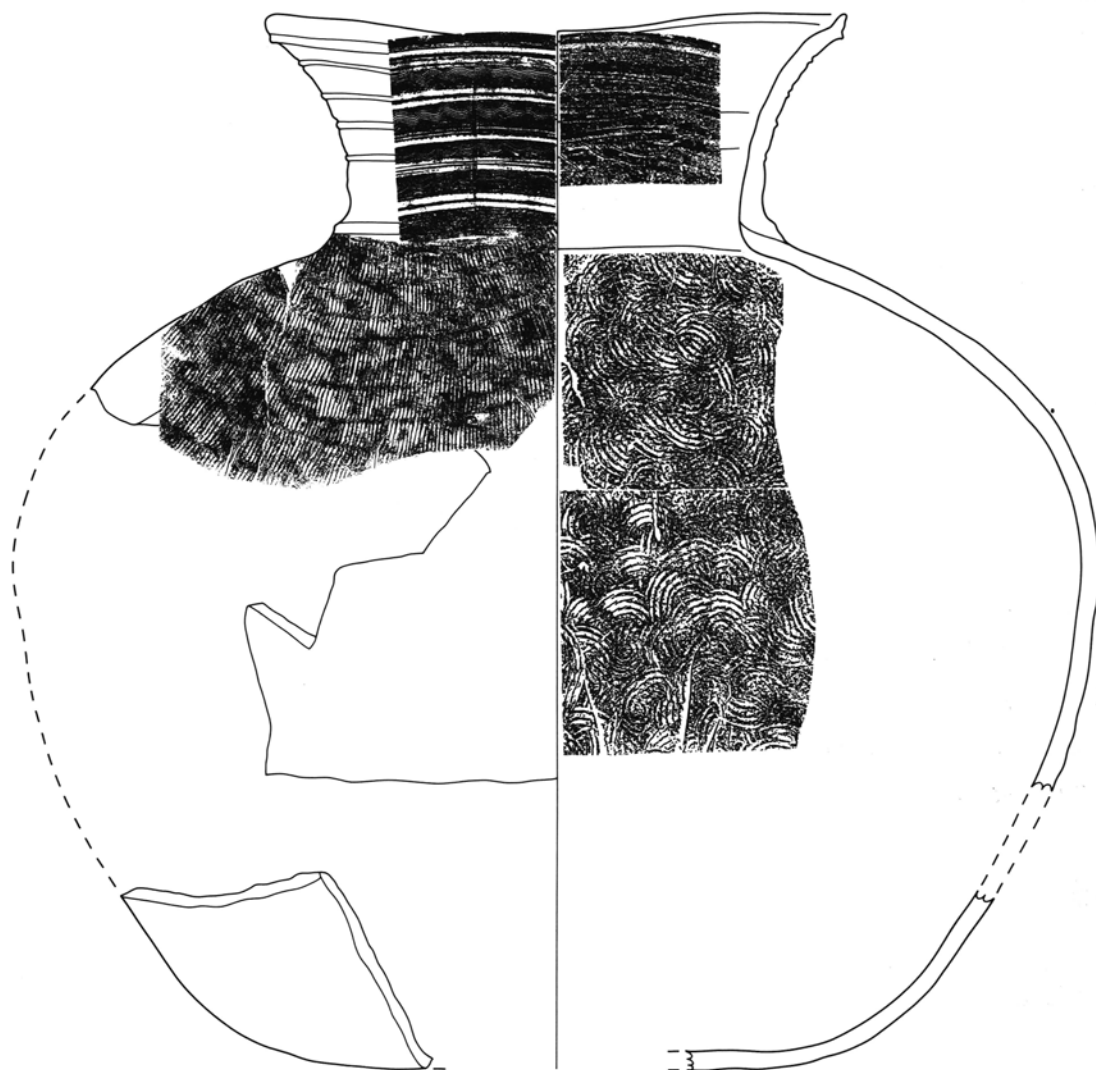
2 土集-0356



2 土集-0354

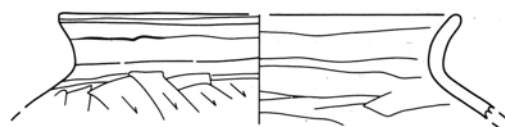


2 土集-0355



2 土集-0357 (1/6)

0 1 : 4 20cm



2 土集-0349

04～09号畠、40・61・104～110号溝、01号採掘坑、35号土坑【図P.72,73 PL.46】

本地区中央の字稲荷久保・谷頭・杉之久保の境界で検出した遺構群。

04号畠【埋土】不明。【重複】竪穴21号住と重なる。【形態】正方形に近い区画（9×9m）に北北西・南南東方向で7列のサク痕が並ぶ。【遺物】不明。【備考】調査前地境区画と一致。近代の畠跡だろう。

05号畠【埋土】不明。【重複】09号畠、竪穴15～18・22・31号住と重なる。【形態】東西に長い長方形区画（32×16m）で南北方向に22列の作物痕を検出。東西に分かれていた可能性があり、東側は重複している。【遺物】不明。【備考】調査前地境区画と一致。近代の畠跡だろう。

06号畠【埋土】不明。【重複】北側は07号畠と重なる。【形態】東西に長い台形状区画（23×14m）で南北方向に16列のサク痕を検出。【遺物】不明。【備考】調査前地境区画と一致。近代の畠跡だろう。

07号畠【埋土】不明。【重複】06号畠及び竪穴24号住と重なる。【形態】東西に長い長方形区画（30×8m）で東西方向に8列のサク痕を検出。【遺物】不明。【備考】調査前地境区画と一致。近代の畠跡だろう。

08号畠【埋土】不明。【重複】09号畠と、また竪穴14・24・26号住と重なる。【形態】五角形状区画（25×15m）で南北方向に11列のサク痕を検出。【遺物】不明。【備考】調査前地境区画と一致。近代の畠跡だろう。

09号畠【埋土】不明。【重複】05・08号畠、竪穴14号住と重なる。【形態】東西に長い長方形区画（18×2m）で東西方向に2列のサク痕を検出。【遺物】不明。【備考】調査前地境区画と一致。近代の畠跡だろう。

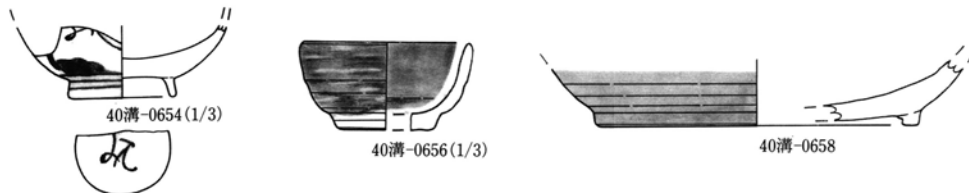
40号溝【埋土】<sup>1</sup> 浅間A軽石 <sup>2</sup> 同前粒子粗 <sup>3</sup> 同前鉄分含 <sup>4</sup> 灰褐色粘土鉄分含 <sup>5</sup> 地山灰白色粘土【重複】01号採掘坑、61・105号溝と合流か。【形態】等高線に平行してやや蛇行しながら南北方向に走り（長約35m）、断面箱形（上幅0.9m下幅0.3m最大深さ0.3m）。【遺物】肥前染付雪輪梅文碗(0654)・瀬戸美濃飴釉小杯(0656)・同？透明釉鉢(0658)が出土。【備考】調査前現道と一部一致。近世中期の地境だろう。

61号溝【埋土】<sup>7</sup> 暗褐色土ローム塊含綿無【重複】40号溝と合流か。【形態】弧状に等高線に直交して走る（長10m溝上幅0.7m下幅0.3m深さ0.3m）。北側に重複掘り込みがあるが断面では不明。【遺物】なし。【備考】調査前地境とは一致せず。40号溝と同時期か。

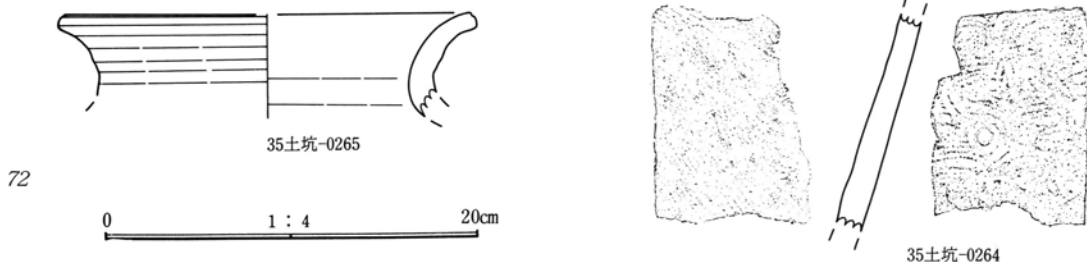
104号溝【埋土】不明。【重複】なし。【形態】南北方向に走る（長13m上幅1.0m下幅0.3m深さ0.1m）。断面形不明。【遺物】不明。【備考】調査前地境と一致せず。時期不明。

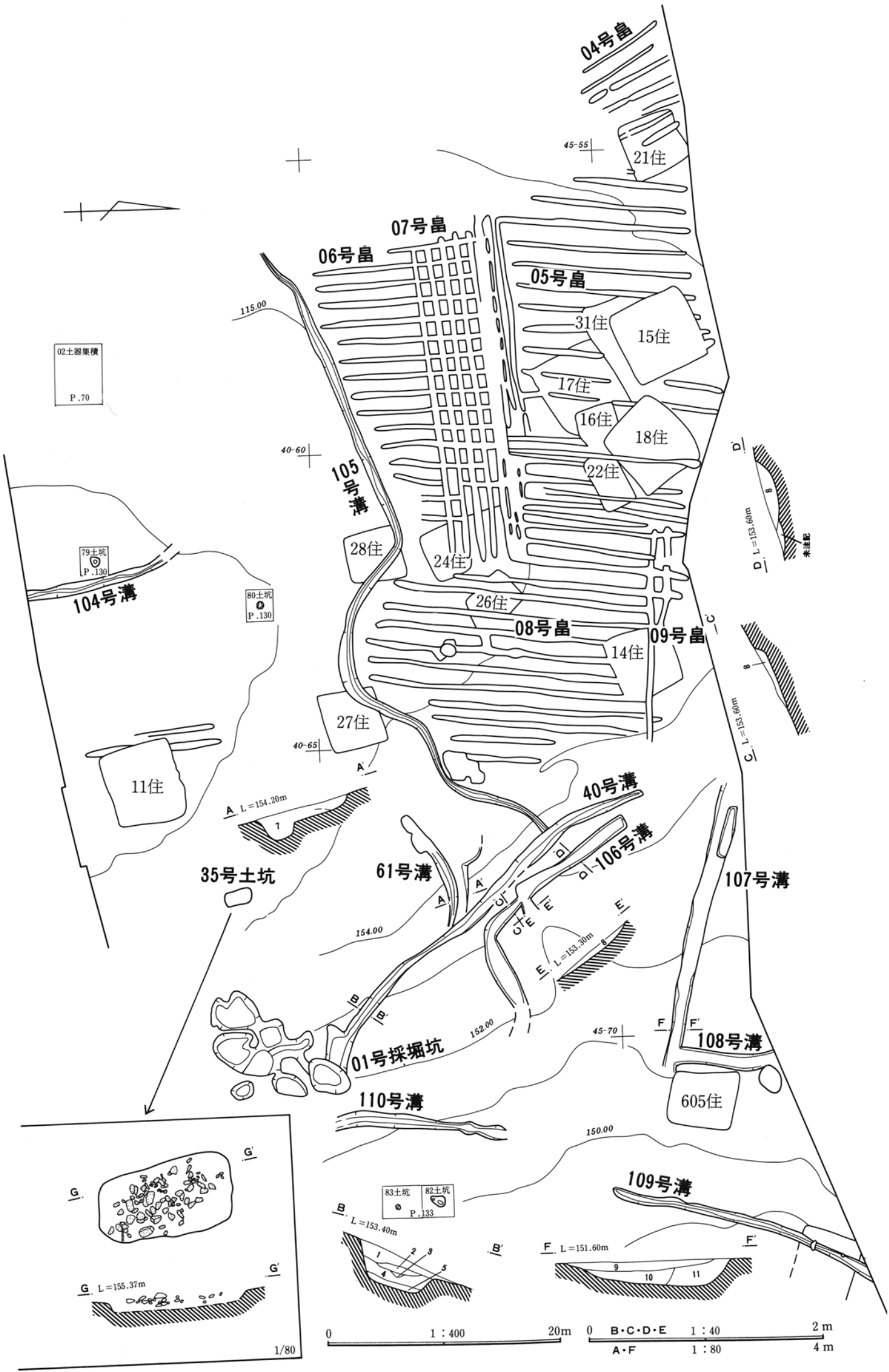
105号溝【埋土】不明。【重複】40号溝に合流。06・08号畠に近接。竪穴27・28号住と重複。【形態】東西方向に大きく蛇行して走る（長約60m上幅1.0m下幅0.5m深さ0.2m）。断面形不明。【遺物】不明。【備考】字稲荷久保・谷頭の境界に一致。近代地境である。（P.75に続く）

40号溝



35号土坑



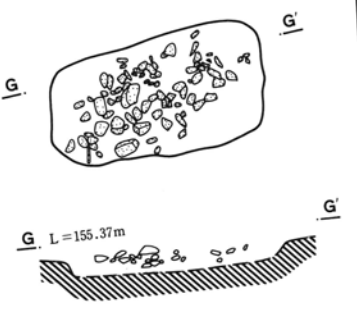


02土器集積  
P.70

79土坑  
P.130

80土坑  
P.130

83土坑 82土坑  
P.133



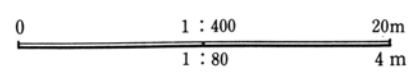
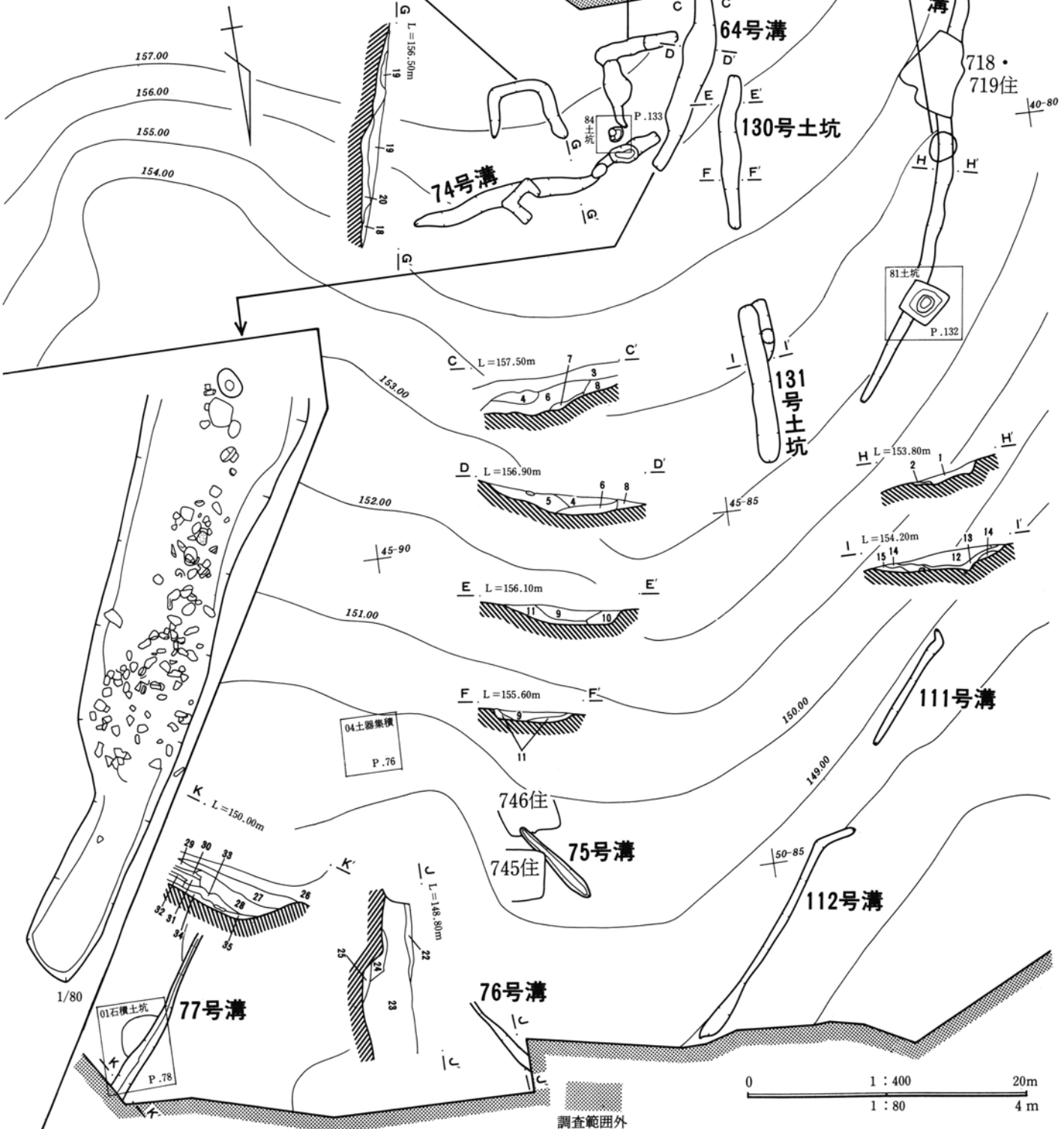
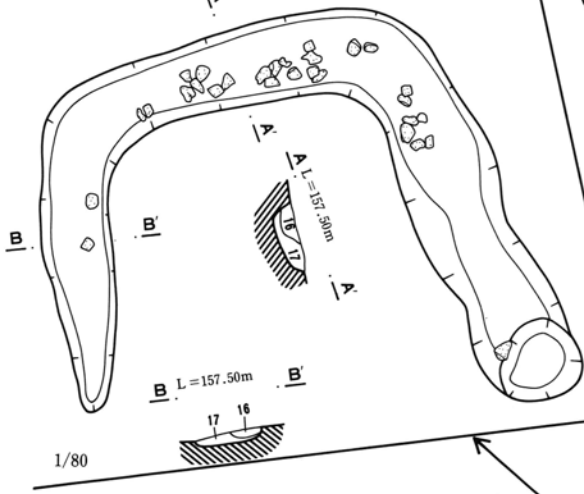
0 1 : 400 20m

0 B·C·D·E 1 : 40 2m  
A·F 1 : 80 4m

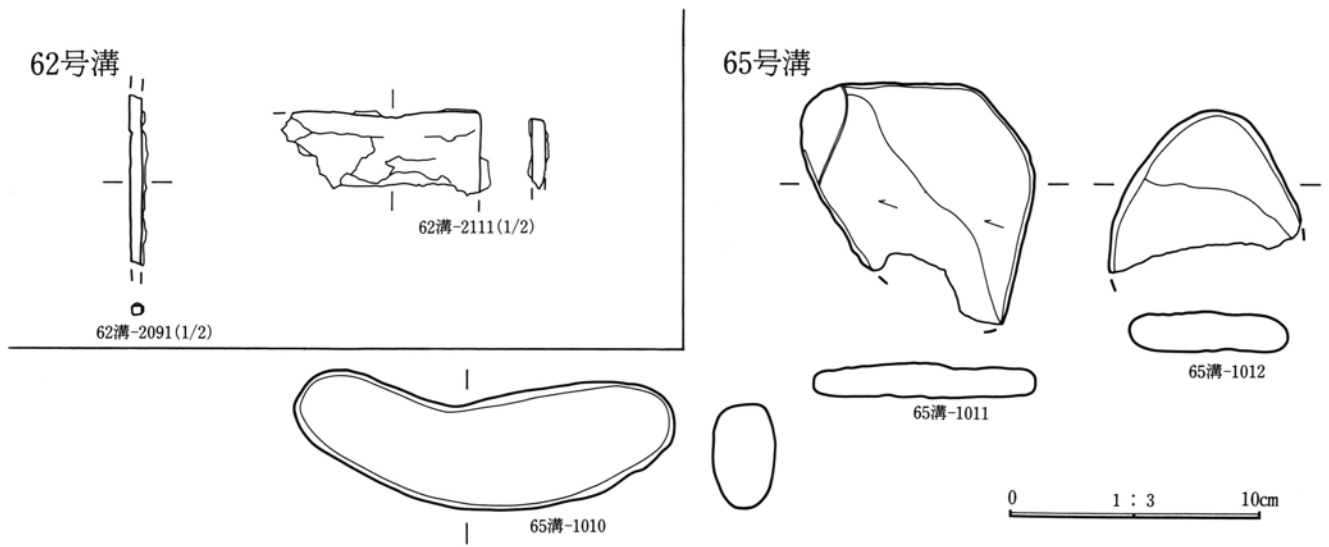
02号建物

129号土坑

馬齒出土状態



調査範囲外



(P.72より)106号溝【埋土】8 暗黄褐色土軽石多含締無【重複】40号溝と一部平行。【形態】南北方向から東西方向に曲がるが一部他の掘り込みも重複している様子(長約21m上幅1.8m下幅1.4m深さ0.15m)。断面形不明。【遺物】不明。【備考】字谷頭・杉之久保の境界及び調査前現道と一致。近代の地境だろう。

107号溝【埋土】9 暗褐色土軽石ローム塊含 10 暗黄褐色土ローム塊多含 11 同前ローム粒多含締弱【重複】東側で108号溝と合流。西側では未命名短冊形土坑が重複。【形態】東西方向に直線状に延び断面皿形(長26m上幅1.4m下幅0.9m深さ0.2m)。【遺物】不明。【備考】調査前地境と一致。近代地境である。

108号溝【埋土】不明。【重複】107号溝と合流。【形態】南北方向に直線状に延びる(長8m)。断面形は107号溝とほぼ同様。【遺物】不明。【備考】調査前地境と一致。近代地境である。

109号溝【埋土】不明。【重複】竪穴606号住と重なる。【形態】南北方向に直線状に走る(長23m上幅0.8m下幅0.4m深さ0.2m)。断面形不明。【遺物】不明。【備考】調査前地境と一致。近代地境である。

110号溝【埋土】不明。【重複】なし。【形態】南北方向に直線状に走る(長15m上幅1.0m下幅0.4m深さ0.3m)。断面形不明。【遺物】不明。【備考】字谷頭・杉之久保の境界と一致。近代地境である。

01号探掘坑【埋土】不明。【重複】40・110号溝と重複か。【形態】大小9個の不定形掘り込み(最大深さ0.6m)が楕円形範囲(約15×9m)に集中。【遺物】不明。【備考】時期不明。調査時に粘土探掘跡とのみ記録されるが、時期と詳細性格不明。

35号土坑【埋土】上層に砂岩片岩自然礫(長0.1~0.3m)を大量に含む 【重複】なし。【形態】長方形に近い(2.3×1.3×0.3m)。【遺物】古代須恵器甕片(0264,65)が上層で見られた。【備考】古代以後の廃棄坑か。

## 02号建物、62・64・65・74~77・111・112号溝、129~31号土坑【図P.74,75 PL.47~50】

本地区東側の字谷頭・車地蔵の境界で検出した遺構群。

02号建物【埋土】16 暗褐色土軽石含締弱 17 褐色土軽石少【重複】なし。【形態】谷側に開くコの字状溝(内部約3.5×3.7m溝上幅0.8m深さ0.3m)。【遺物】山側溝に礫多い。【備考】内部に地形建物があった可能性が高い。近世か。

62号溝【埋土】1 暗黄褐色土ローム塊混在締弱 2 茶黄褐色土地山【重複】81号土坑より新。718・719号住と重複。【形態】南北方向にやや湾曲して延びる(長34m上幅1.0m下幅0.7m深さ0.2m)。【遺物】鉄鏃?(2091)・不明鉄片(2111)・馬歯(3006)出土。【備考】調査前地境と一致。近代地境である。

64号溝【埋土】3 耕作土 4 暗黄褐色土白色軽石含締弱 5 同前やや暗色 6 同前ローム粒黄色軽石少 7 茶褐色土ローム主 8 明黄褐色土ローム主白黄色軽石少【重複】なし。【形態】南北方向に湾曲して延び(長13m上幅1.8m下幅0.9m深さ0.5m)、上幅不均一。【遺物】鉄滓(2114)出土。礫多数含。【備考】調査前地境と一致せず。時期不明。

65号溝【埋土】不明。【重複】129号土坑と重複。【形態】南北方向に延びる(長5m上幅1.9m下幅1.5m深さ0.3m)が形状不安定。【遺物】砂岩系砥石?(1010~12)出土。【備考】調査前地境と一致せず。時期不明。

第II章 検出遺構と遺物

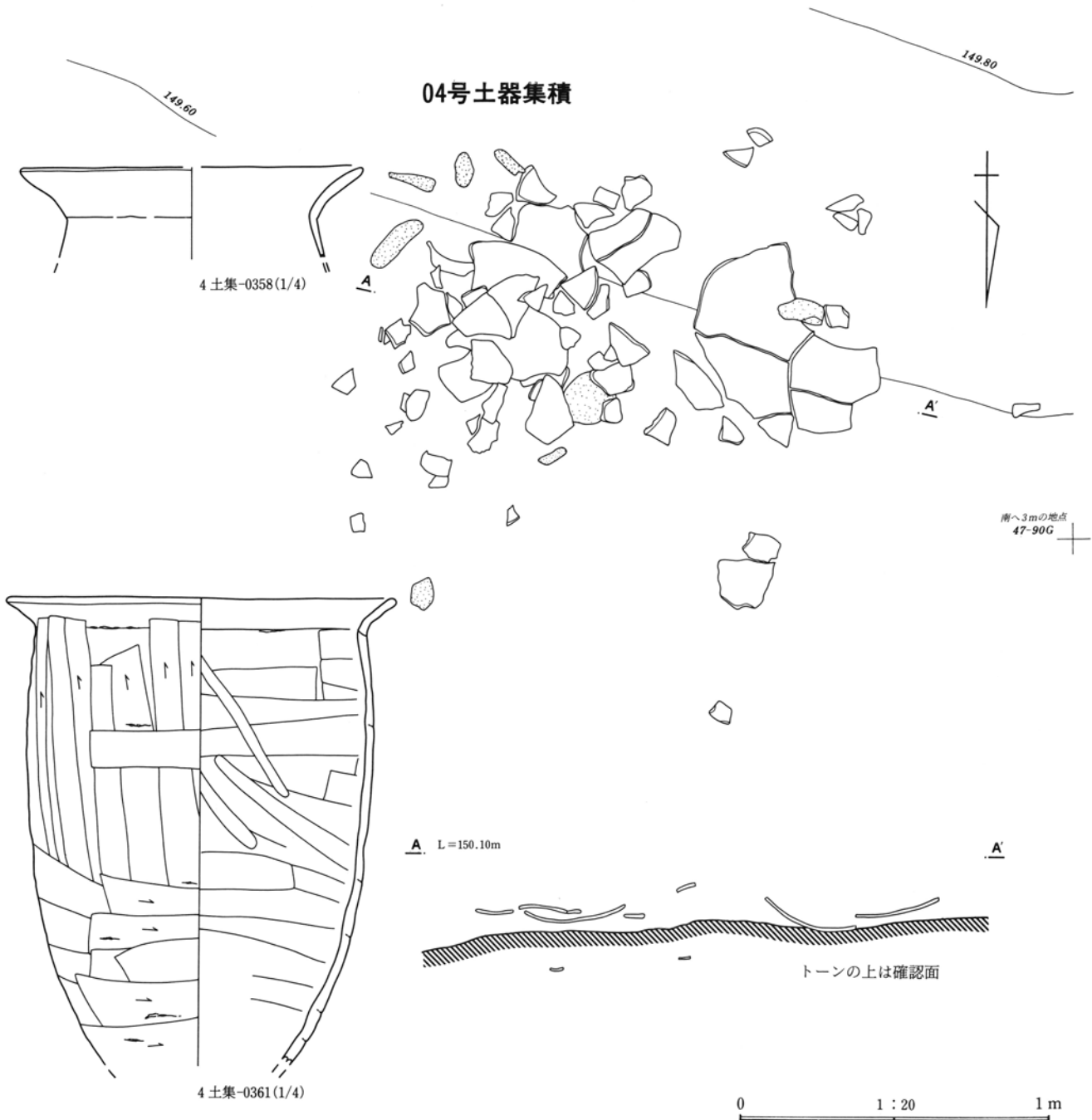
**74号溝【埋土】**18 明黄褐色土ローム主白色軽石多 19 暗褐色土白黄色軽石少 20 暗黄褐色土ローム主白黄色軽石多 21 明黄褐色土白黄色軽石多【重複】風倒木状掘り込み重複。【形態】東西方向に不均一に延びる（長18m上幅1.4m下幅0.5m深さ0.2m）。【遺物】なし。【備考】調査前地境と一致せず。近世か。

**75号溝【埋土】**不明。【重複】745・746号住と重複。【形態】南東北西方向に直線状に延びる（長6.5m上幅1.1m下幅0.5m深さ0.15m）。【遺物】なし。【備考】調査前地境と平行。近世地境か。

**76号溝【埋土】**22 耕作土 23 灰褐色土浅間A軽石主 24 暗褐色土A軽石多含 25 同前A軽石少【重複】なし。【形態】南東北西方向に直線状に延びる（長5.5m上幅0.6m下幅0.2m深さ0.4m）。【遺物】なし。【備考】調査前地境と一致。近世地境。

**77号溝【埋土】**26 耕作土 27 褐色土白色軽石多 28 黄褐色土ローム主白色軽石多 29 同前粘土固い 30 黄褐色土ローム主 31 黒褐色土白色軽石主 32 黄褐色土ローム主締弱 33 暗褐色土軽石多量 34 暗灰白色土鉄分軽石多 35 暗黄灰白色土鉄分多【重複】01号石積土坑と近接。【形態】北東南西方向に直線状に延びる（長12m上幅1.3m下幅0.3m深さ0.6m）。【遺物】なし。【備考】調査前地境と一致。近世地境。

04号土器集積





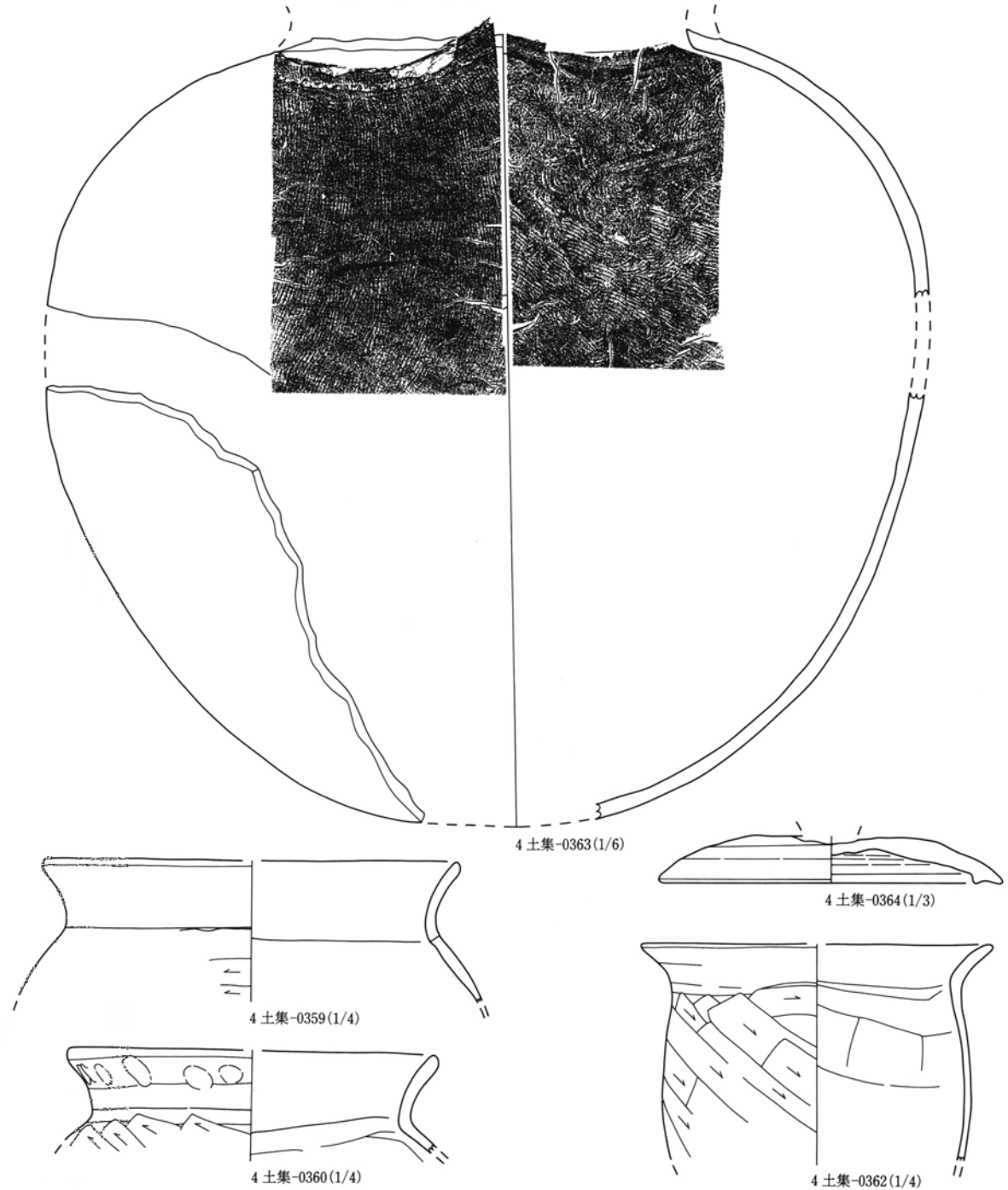
111号溝【埋土】不明。【重複】なし。【形態】等高線に平行して北東南西方向に直線状に延びる（長9m上幅0.6m下幅0.1m深さ0.5m）。【遺物】なし。【備考】調査前地境に近い。近世か。

112号溝【埋土】不明。【重複】なし。【形態】等高線に平行して直線状に延び（長16m上幅0.5m下幅0.1m深さ0.4m）、南西端は西に3m曲がる。【遺物】なし。【備考】調査前地境と一致。近代地境か。

129号土坑【埋土】不明。【重複】65号溝と合流。【形態】東西方向に短冊形2基が重なる（6.2×1.0×0.2m）。断面形は107号溝とほぼ同様。【遺物】なし。【備考】調査前地境と一致せず。近世か。

130号土坑【埋土】9 暗褐色土粗軽石多含 10 褐色土ローム塊含 11 暗黄褐色土ローム主【重複】なし。【形態】南北方向に短冊形2基以上重なる（10.8×1.2×0.3m）。【遺物】なし。【備考】調査前地境と一致せず。近世か。

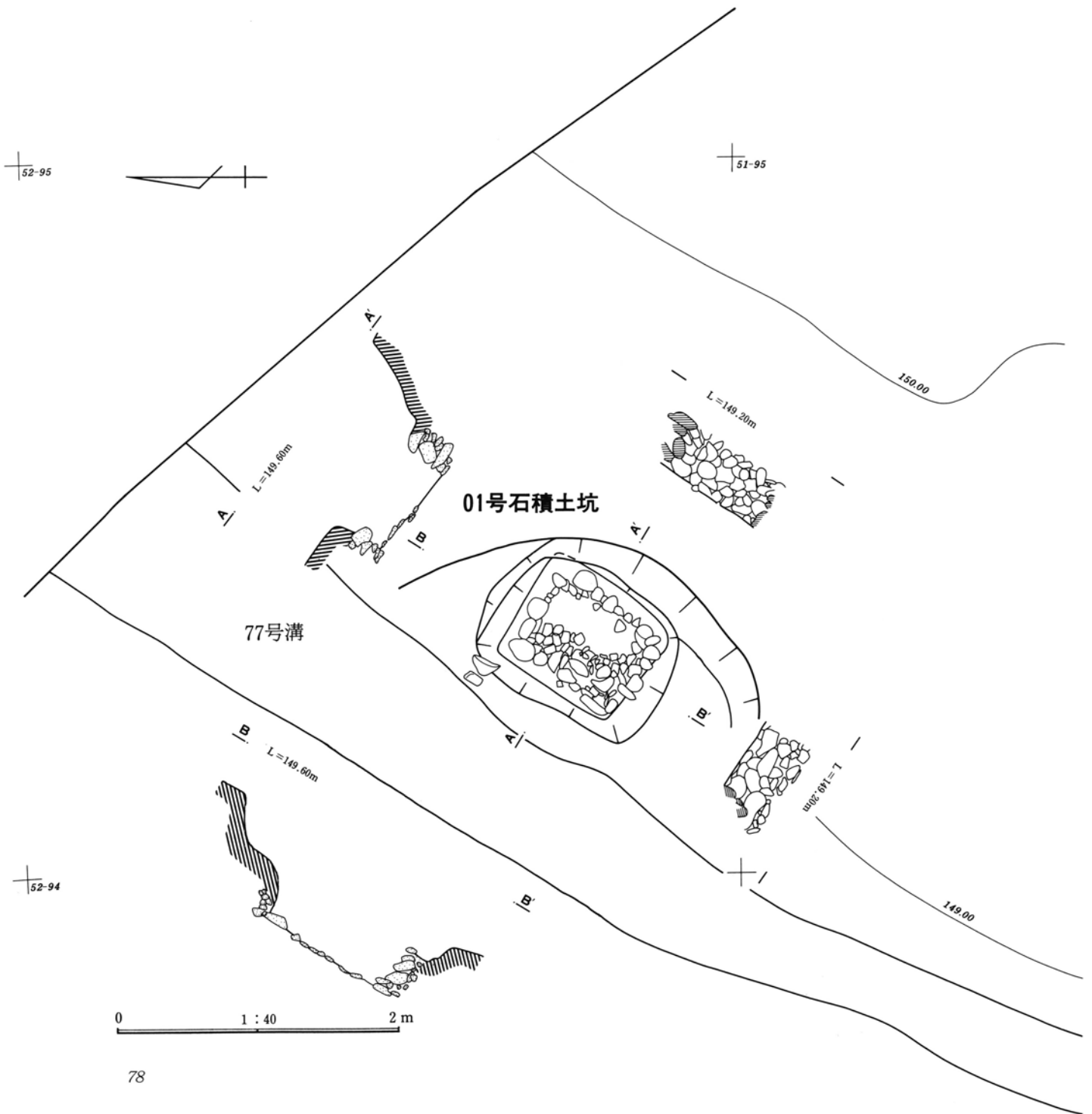
131号土坑【埋土】12 暗褐色土ローム塊多絡弱 13 暗黄褐色土ローム塊少 14 同前絡有 15 明黄褐色土地山【重複】なし。【形態】南北方向に短冊形2基以上重なる（11.7×1.4×0.2m）。【遺物】不明。【備考】調査前地境と一致せず。近世か。



04号土器集積【図P.76,77 PL.50】

字杉之久保の低地左岸で検出した遺構。

【埋土】不明。【重複】なし。【形態】字杉之久保の低地源流部左岸に長形状（主軸東西方向約2.0×1.5m）範囲で土器片が集中分布。【遺物】古代須恵器と土師器片計31片の破片の見られた。須恵器坏蓋(0364)・大甕(0363)があり、また土師器甕(0358～62)も出土した。【備考】取り上げ時の記録では、土師器は2片のみのため、ここで土師器甕は01号土器集積の遺物が混入した可能性もある。02号土器集積と同様に、大甕が単純に割れた状態が中心である。同じく、低地近くの屋外であるこの場所で何らかの事情で割れた大甕がそのまま放置されたものだろう。



## 01号石積土坑【図P.78 PL.51】

本地区東側の字車地蔵の低地右岸で検出した遺構。

【埋土】不明。【重複】77号溝と近接。【形態】山側を半円形（2.7×1.5m最大深さ0.6m）に削って平場を造成し、そこに平面長方形（底幅1.0×8.5m深さ0.4m）の土坑を掘削。この土坑内部の底面に自然石を敷き、また四方側面にも積み上げる。山側半分近くは敷石が残っていない。【遺物】なし。【備考】調査前地境と主軸ほぼ一致。何らかの貯蔵用施設と考えられるが、詳細不明。近世か。

## 69～72号溝【図P.80 PL.52】

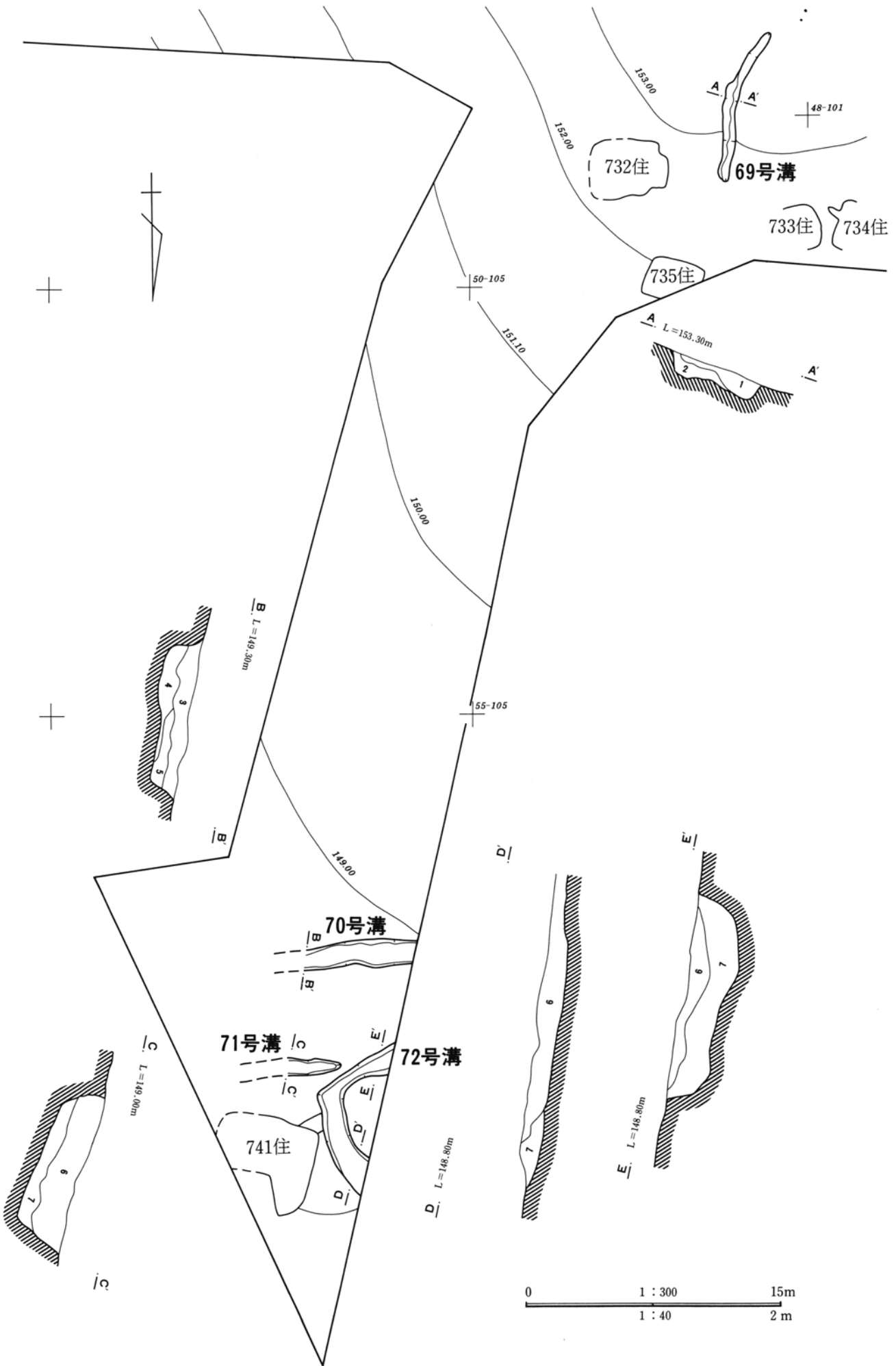
本地区東端の字車地蔵・天久沢の境界で検出した遺構群。

69号溝【埋土】<sup>1</sup> 暗黄褐色土ローム塊少締弱 <sup>2</sup> 明黄褐色土ローム主締有【重複】なし。【形態】南北方向にやや湾曲して延びる（長9m上幅0.6m下幅0.4m深さ0.1m）。【遺物】なし。【備考】調査前地境と平行。近世地境だろう。

70号溝【埋土】<sup>3</sup> 明褐色土軽石少 <sup>4</sup> 同前ローム多 <sup>5</sup> 同前ローム塊多【重複】なし。【形態】東西方向に直線状に延びる（長5.5m上幅1.7m下幅1.3m深さ0.2m）。【遺物】なし。【備考】調査前地境と一致。近代地境。

71号溝【埋土】<sup>6</sup> 明褐色土軽石少 <sup>7</sup> 同前ローム塊少【重複】なし。【形態】東西方向に直線状に延びる（長3m上幅1.0m下幅0.8m深さ0.4m）。【遺物】なし。【備考】調査前地境と平行。近世地境だろう。

72号溝【埋土】<sup>6</sup> 明褐色土軽石少 <sup>7</sup> 同前ローム塊少【重複】なし。【形態】方位に無関係に鍵の手に延びる（全長9m上幅1.5m下幅1.1m深さ0.4m）。溝幅は不均一で、内側は楕円形状。【遺物】なし。【備考】埋土は71号溝と同一だが、方向は合わない。02号建物のような可能性もあるが、詳細不明。近世か。



## ウ 南西側地区

この地区は、多胡川右岸にある大字多胡の最北端部にあたり、字小蓋林の8割程度の面積をしめる。インターチェンジのランプウェイ用地にあたり、南側の丘陵の裾際までのまとまった緩斜面である。北側の矢田大字矢田との境には、多胡川へ流れる緩い沢がある。

前述のように、ここでも検出遺構は多彩な様相を示し、出土遺物から初期的に判断した時代区分は、古墳～近代と幅広い。単純な数では、北西側地区と同様に、古代の土坑が最大である。また時期不明の土坑の数量もかなり多い。ここで報告する南西側地区出土全遺物の種類・時代は、次の通りである。

	土器類		石製品類		金属製品		その他	
近代	国産磁器	1			銭貨	1		
	土師質土器	1						
近世	国産磁器	4			鉄製品	6	牛歯	1
	国産陶器	4			銅製品	2	馬歯	1
					銭貨	1		
中世	舶載陶磁	4			鉄製品	2		
	国産陶器	2			銅製品	1		
	土師質土器	8			銭貨	6		
古代	国産陶器	5	紡錘車	4	鉄製品	1		
	須恵器	184	玉類	1				
	土師器	39						
	土錘	18						
	瓦	2						
古墳	須恵器	2			銅製品	1		
	土師器	30						
不明					鉄製品	6		
					鉄滓	8		

以上のように、報告遺物の中で最も多いのは古代の須恵器だが、その内訳は次の通りである。

食器	碗	15
	小型碗	1
	坏	86
	蓋	20 (転用硯1)
	皿	3
	盤	3
調度具	転用硯	1
貯蔵具	長頸瓶	1
	瓶	2
	大甕	2
	甕	37
	短頸甕	1
	小型甕	3
調理具	羽釜	9

北西側地区以上に、これらの非竪穴住居出土の古代須恵器は古代竪穴住居から出土するものに構成が似ており、種類も最も多い。

10・11号畠、21・23～25・113・114号溝、132～134号土坑、11号墓坑【図P.83,84 PL.53,54】

本地区西側で検出した遺構群。

10号畠【埋土】不明。【重複】なし。【形態】長方形区画（20×4m）に南北方向で隙間を含み3列のサク痕が並ぶ。【遺物】不明。【備考】調査前地境区画と一致。近代の畠跡だろう。

11号畠【埋土】不明。【重複】21号溝と重なる。【形態】長方形区画（14×21m）に南北方向で隙間を含み8列のサク痕が並ぶ。【遺物】不明。【備考】調査前地境区画と一致。近代の畠跡だろう。

21号溝【埋土】<sup>1</sup>7 暗褐色粘質土ローム粒多 <sup>1</sup>8 暗褐色砂質土白色細粒多 【重複】23号溝・11号畠と重複し、24号溝と合流。321号住と重なる。【形態】かなり蛇行しながら東西方向に延びる（長45m上幅0.5m下幅0.4m深さ0.2m）。【遺物】なし。【備考】調査前地境と一致。近代の地境だろう。

23号溝【埋土】<sup>1</sup>1 黒褐色土ローム軽石焼土粒多 <sup>2</sup> 同前ローム粒多【重複】21号溝、竪穴253・321・365・371・391・392号住と重複。【形態】途中未確認部分を含んで南北方向に長大に延びる（長175m上幅0.6m下幅0.4m深さ0.1m）。北側40mほどは少し東側に走向を変える。未確認部分の両側では、人為的に敷かれたような自然礫が多数見られた。【遺物】なし。【備考】調査前地境と一致せず。等高線の走向とは関係なく延びているため、区画的要素が強い。大字矢田側には延びていないため、近世と推定。

24号溝【埋土】<sup>3</sup> 黒褐色土浅間A軽石多含 <sup>4</sup> 同前軽石少ローム粒多 <sup>5</sup> 同前軽石少 <sup>6</sup> 暗褐色土ローム粒主白色軽石微【重複】21号溝と合流。123号土坑・竪穴357号住と重複。【形態】中間でクランク状に曲がりながら東西方向に延びる（長約50m上幅1.8m下幅0.4m深さ0.5m）。断面V字状。【遺物】古代土師器甕(0106)出土。【備考】調査前現道と一致。近世地境。

25号溝【埋土】不明。【重複】08号井戸、竪穴353号住と重複。【形態】南北方向にやや湾曲して延びる（長10m上幅1.8m下幅0.8m深さ0.2m）。断面皿状。【遺物】なし。【備考】調査前地境と一致せず。時期不明。

113号溝【埋土】<sup>7</sup> 黒褐色土白色軽石少 <sup>8</sup> 同前ローム塊含焼土少 <sup>9</sup> 暗褐色土ローム塊多【重複】竪穴354・425号住と重複。【形態】西側の低地に向いてコの字状に浅く延びる（長9m上幅0.9m下幅0.4m深さ0.1m）。南側には重複する竪穴の柱穴が混在。【遺物】なし。【備考】調査前地境と一致せず。建物の雨落ち溝の可能性もあるが、不明瞭。時期不明。

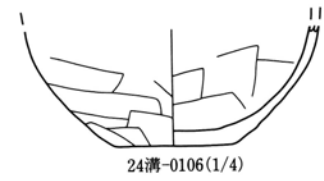
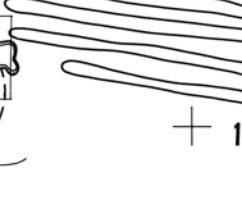
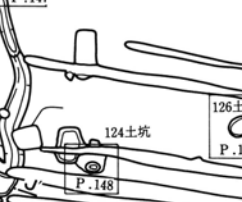
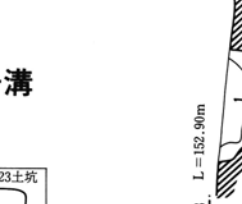
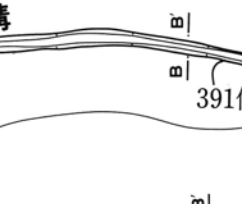
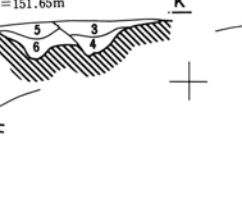
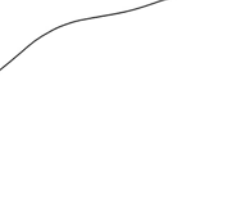
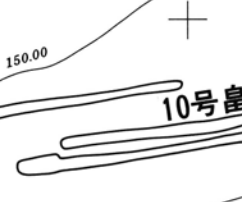
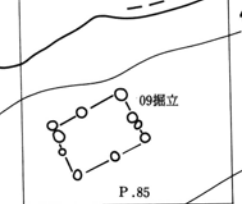
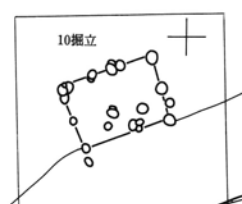
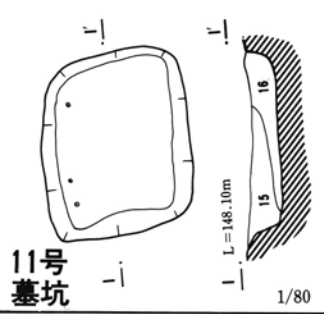
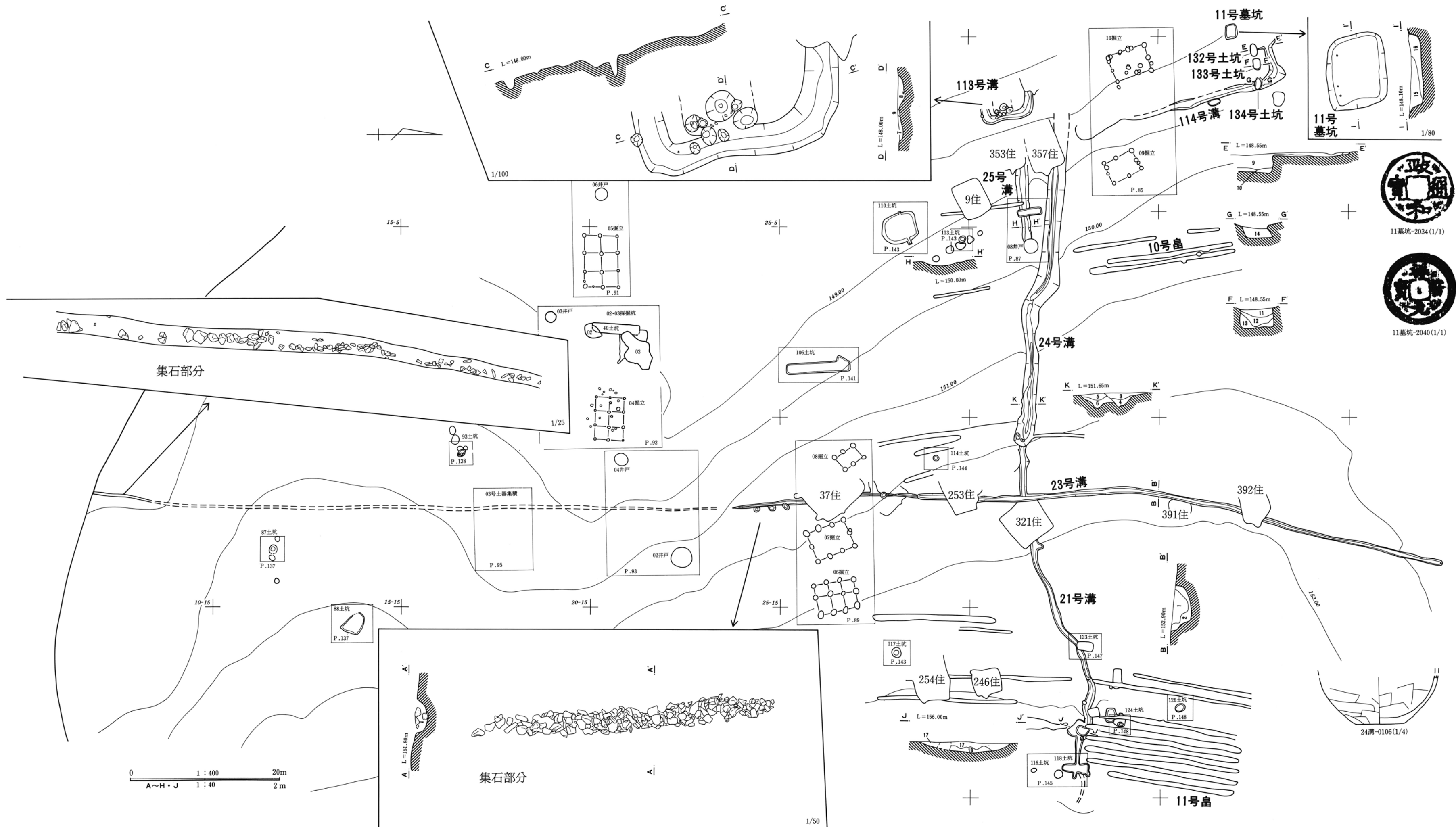
114号溝【埋土】不明。【重複】134号土坑と重複。【形態】等高線に平行して南北方向に延び、北端で西に曲がる（南北28m 東西4m以上 上幅1.3m下幅0.6m深さ0.3m）。南側は不明瞭だが北側と同様に西に向かっていく。【遺物】なし。【備考】調査前地境とほぼ一致。西側の10号掘立と長軸があっており、この掘立の屋敷地の区画溝の可能性はある。

132号土坑【埋土】<sup>9</sup> 褐色土ローム塊混在 <sup>10</sup> 地山【重複】なし。【形態】楕円形でオーバーハング状断面（1.5×0.9×0.4m）。【遺物】不明。【備考】近代か。

133号土坑【埋土】<sup>11</sup> 暗褐色土ローム軽石多 <sup>12</sup> 同前軽石多 <sup>13</sup> 同前黒褐色土塊含【重複】なし。【形態】楕円形でオーバーハング状断面（1.4×0.9×0.5m）。【遺物】不明。【備考】近代か。

134号土坑【埋土】<sup>14</sup> 暗褐色土ローム褐色軽石多【重複】114号溝と重複。【形態】楕円形でオーバーハング状断面（1.5×0.9×0.5m）。【遺物】不明。【備考】近代か。

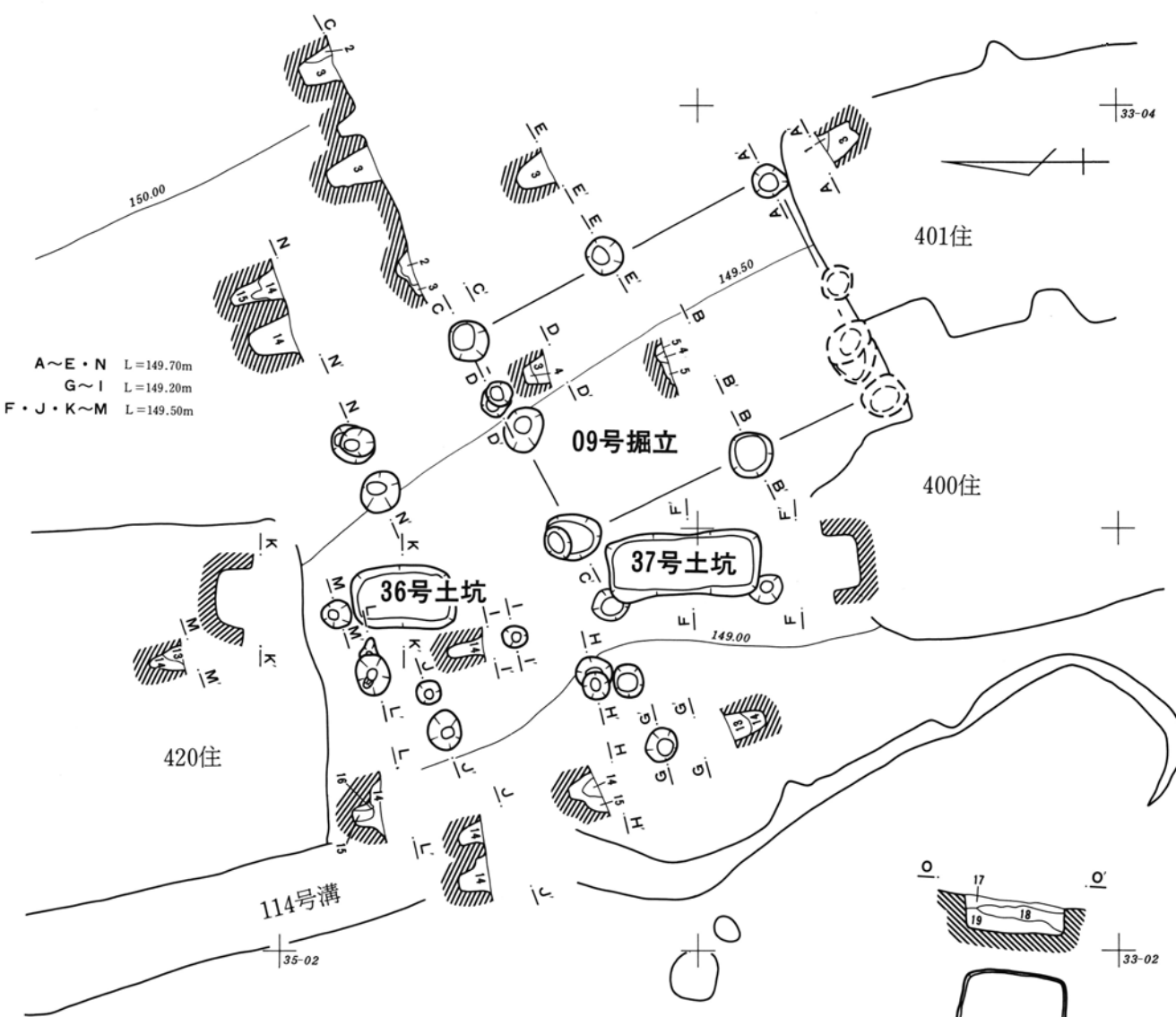
11号墓坑【埋土】<sup>15</sup> 暗黄褐色土ローム主褐色土塊混絡有 <sup>16</sup> 暗褐色土ローム塊含絡有【重複】なし。【形態】長軸東西方向の箱形で底平坦（1.9×1.6×0.4m）。【遺物】北宋銭2枚出土(2034,40)。【備考】人骨類は残っていなかったが、形状及び銅銭より中世の墓坑と考えられる。



1/50



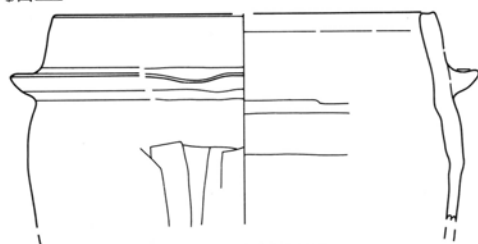




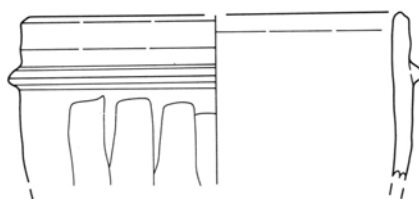
A~E·N L=149.70m  
 G~I L=149.20m  
 F·J·K~M L=149.50m

P·Q·S·T L=148.10m  
 R·O·V·W·X L=148.30m

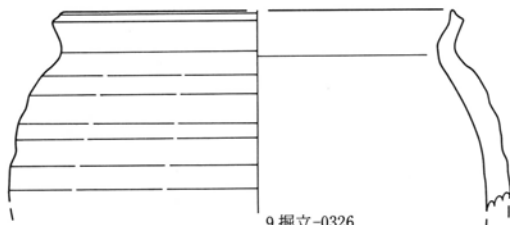
## 09号掘立



9 掘立-0325

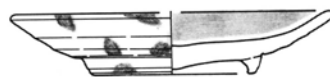


9 掘立-0327



9 掘立-0326

## 38号土坑



38土坑-0663(1/3)

0 1 : 4 20cm

## 09・10号掘立、08号柱穴列、36～38号土坑【図P.85,86 PL.54】

本地区北西側部分で検出した遺構群。

**09号掘立【埋土】**1 黄褐色土ローム塊 2 暗黄褐色土ローム塊多締弱 3 暗褐色土ローム塊多締有 4 暗黄褐色土ローム塊多締弱 5 地山【重複】竪穴400・401号住と重複。【形態】2×2間(2.7×4.0m)の南北棟。柱痕に比べ柱穴掘り方は普通(径0.4～0.5m)。【遺物】古代須恵器羽釜(0325,27)・短頸壺(0326)出土。【備考】古代の建物。

**10号掘立【埋土】**6 暗褐色土ローム塊少締弱 7 暗黄褐色土ローム塊多締有 8 暗褐色土ローム塊多締弱 9 黒褐色土ローム塊多締弱【重複】08号柱穴列と重複。【形態】2×3間(3.6×5.0m)の南北棟(東辺1個未検出)。柱穴掘り方は普通(径0.5～0.6m)。【遺物】なし。【備考】114号溝と平行近接(約6m)しており、同一時期の可能性はある。

**08号柱穴列【埋土】**10 暗黄褐色土ローム塊多締弱 11 黄褐色土軟質ローム締無 12 地山【重複】10号掘立と重複。【形態】南北方向に柱穴3個(3.2m)並ぶ。柱穴掘り方は普通(径0.5m)。【遺物】なし。【備考】10号との関係で、別の組み合わせの可能性も否定できない。

**ピット群【埋土】**13 暗褐色土ローム粒多締有 14 暗黄褐色土ローム塊多締有 15 暗褐色土ローム塊多締弱有 16 地山【重複】36・37号土坑・09号掘立と重複。【形態】09号掘立の北西側に散在。柱穴掘り方はやや似ている(径0.3～0.5m)。【遺物】なし。【備考】09号掘立と関係する別の建物があった可能性が高い。

**36号土坑【埋土】**不明。【重複】ピット群と重複。【形態】長方形で底はやや不均一(1.2×0.7×0.4m)。【遺物】なし。【備考】時期性格不明。

**37号土坑【埋土】**不明。【重複】ピット群と重複。【形態】短冊形で底平坦(1.8×0.7×0.4m)。【遺物】なし。【備考】近世。

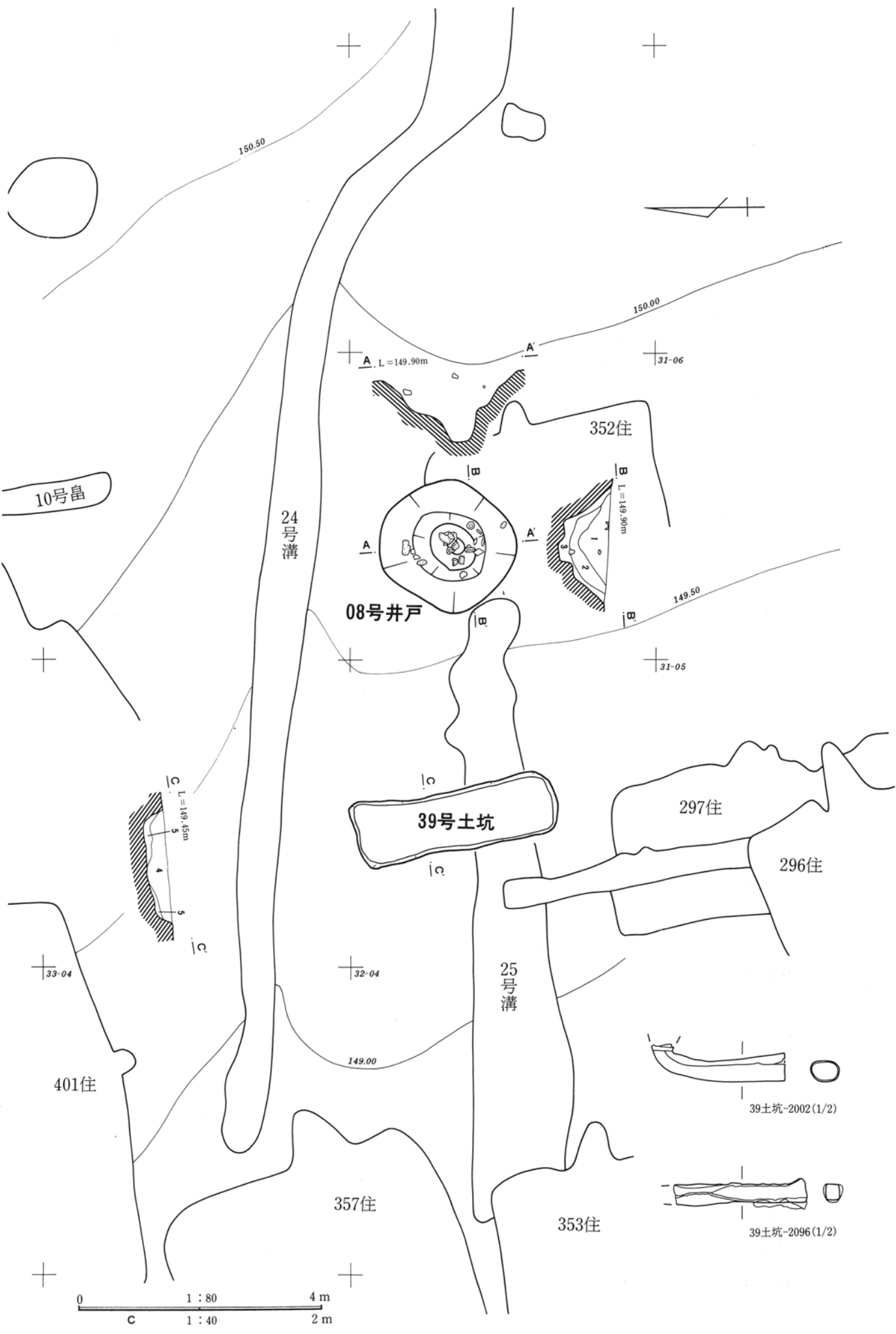
**38号土坑【埋土】**17 暗褐色土ローム粒白色軽石黒褐色土多 18 黒褐色土ローム塊白色軽石少 19 暗褐色土ローム塊黒褐色土少【重複】なし。【形態】短冊形で底平坦(6.0×1.3×0.5m)。【遺物】瀬戸美濃灰釉皿(0663)出土。【備考】近世。

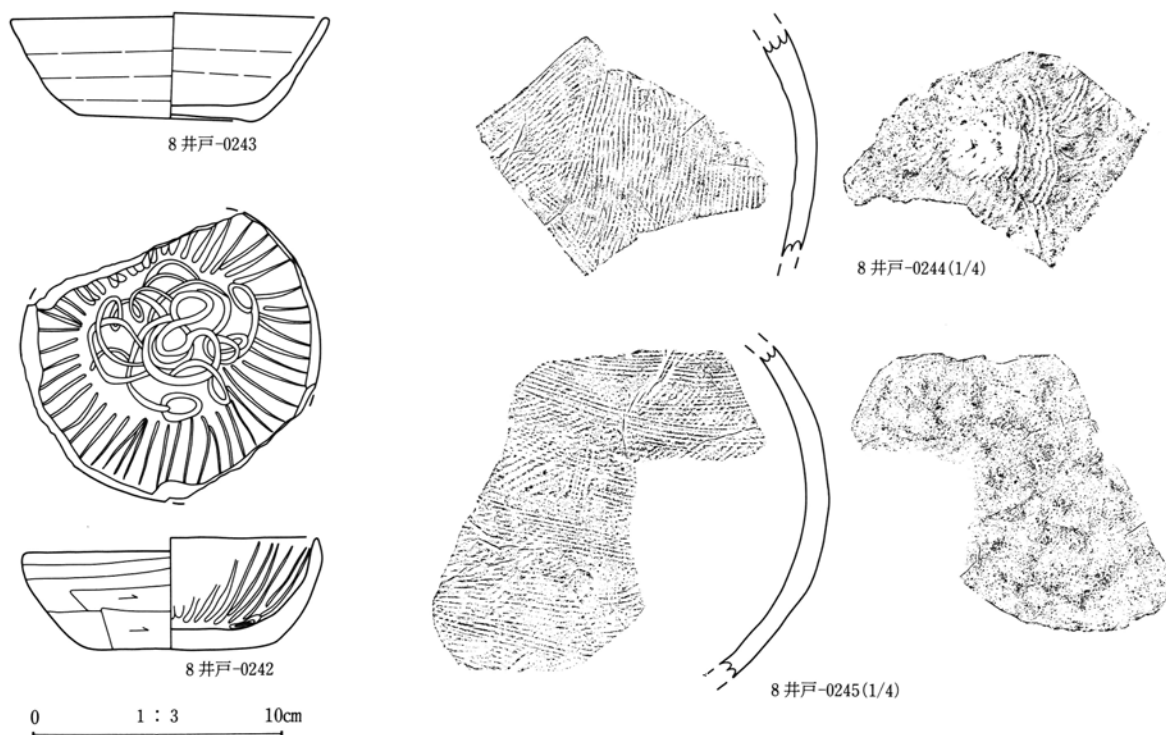
## 08号井戸、39号土坑【図P.87,88 PL.55】

本地区北西側部分で検出した遺構群。

**08号井戸【埋土】**1 黒褐色土ローム粒少 2 同前ローム塊多 3 灰褐色土ローム塊多黒褐色土少【重複】25号溝と重複し、24号溝と近接。【形態】朝顔形(径2.5m深さ1.2m)。【遺物】1層中より古代須恵器坏(0243)・甕(0244,45)・土師器坏(0242)出土。【備考】湧水層の位置不明であり出水跡が顕著でない。古代か。

**39号土坑【埋土】**4 黒褐色土浅間A軽石多 5 暗褐色土ローム塊多【重複】25号溝と重複。【形態】短冊形で底平坦(3.3×1.0×0.2m)。【遺物】キセル雁首(2002)・火打金状鉄製品(2096)出土。【備考】近世後期。

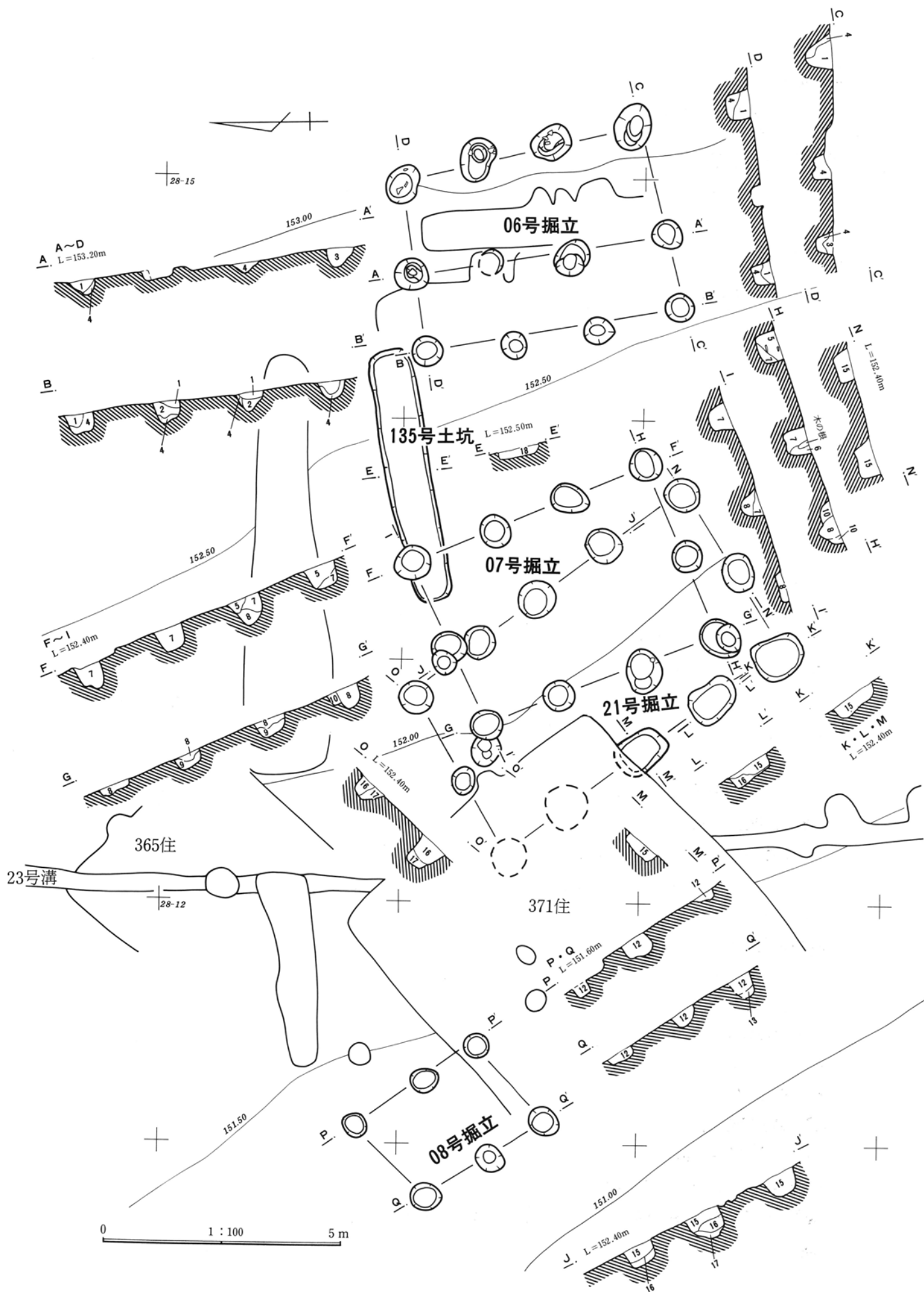




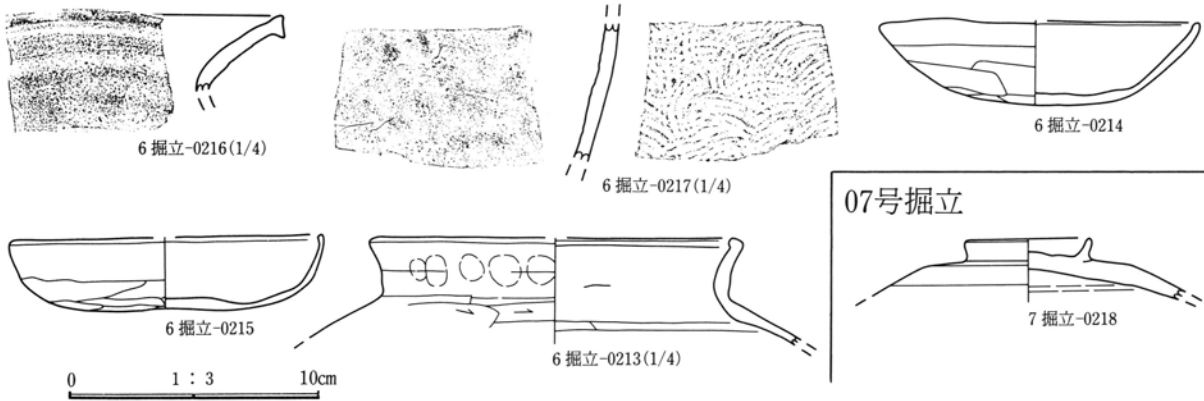
06～08・21号掘立、135号土坑【図P.89,90 PL.55】

本地区中央部分で検出した遺構群。

- 06号掘立【埋土】**1 暗褐色土焼土粒やや多ローム粒少 2 同前焼土ローム粒多 3 同前ローム粒少 4 同前ローム粒多【重複】竪穴368号住・135号土坑と重複。  
**【形態】**2×3間総柱（5.3×3.9m）の南北棟。柱痕に比べ柱穴掘り方は大きい（径0.6～0.9m）。**【遺物】**古代須恵器甕(0216,17)、土師器坏(0214,15)・甕(0213)出土。**【備考】**古代の倉庫状建物。
- 07号掘立【埋土】**5 暗褐色土ローム焼土粒含 6 同前ローム粒少締弱 7 同前ローム塊多 8 同前ローム塊少 9 同前ローム塊多 10 暗茶褐色土ローム粒含 11 地山【重複】135号土坑・21号掘立と重複。371号住と近接。**【形態】**2×4間（4.0×5.2m）の南北棟。柱穴掘り方は大きい（径0.6～0.9m）。**【遺物】**古代須恵器坏蓋(0218)出土。**【備考】**古代の建物。
- 08号掘立【埋土】**12 暗褐色土ローム粒含 13 同前ローム粒多 14 地山【重複】371号住と重複。**【形態】**1×2間（2.1×3.0m）の北西・南東棟。柱穴掘り方は普通（径0.4～0.6m）。**【遺物】**なし。**【備考】**東側の掘立建物と同様に古代の可能性が高いが、規模は小さく走向もやや異なる。
- 21号掘立【埋土】**15 暗褐色土ローム粒多 16 同前暗色ローム塊多 17 同前ローム粒多【重複】07号掘立・371号住と重複。**【形態】**2×4間（3.8×6.8m）の南北棟（北西辺2個未検出）。柱穴掘り方は大きい（径0.7～1.0m）。**【遺物】**なし。**【備考】**調査時には認識していない大型の古代建物。
- 135号土坑【埋土】**18 暗褐色土ローム粒軽石少【重複】06・07号掘立と重複。**【形態】**短冊形で底平坦（5.3×1.0×0.2m）。**【遺物】**なし。**【備考】**近世。



## 06号掘立



## 05号掘立、06号井戸【図P.91 PL.56】

本地区南西部分で検出した遺構群。

**05号掘立【埋土】**不明。【重複】なし。【形態】2×3間総柱（4.4×6.8m）の東西棟。柱痕に比べ柱穴掘り方はやや小さい（径0.3～0.5m）。【遺物】なし。【備考】倉庫状建物。位置的に06号井戸と関係があるだろう。同様の形態の04号掘立は東9mの位置で並ぶ。中世か。

**06号井戸【埋土】**1 灰黒色灰白色軽石多 2 同前軽石無 3 灰白色粘土塊 4 黒褐色粘質土黒色土ローム塊混在 5 同前黒色土多 6 灰白色粘土ローム粒少【重複】なし。【形態】円筒形（径1.5m深さ1.9m）。湧水痕あり（-1.2m）。【遺物】なし。【備考】位置的に05号掘立と関係があるだろう。中世か。

## 04号掘立、03号井戸、02・03号採掘坑、40号土坑【図P.92 PL.56,57】

本地区南西部分で検出した遺構群。

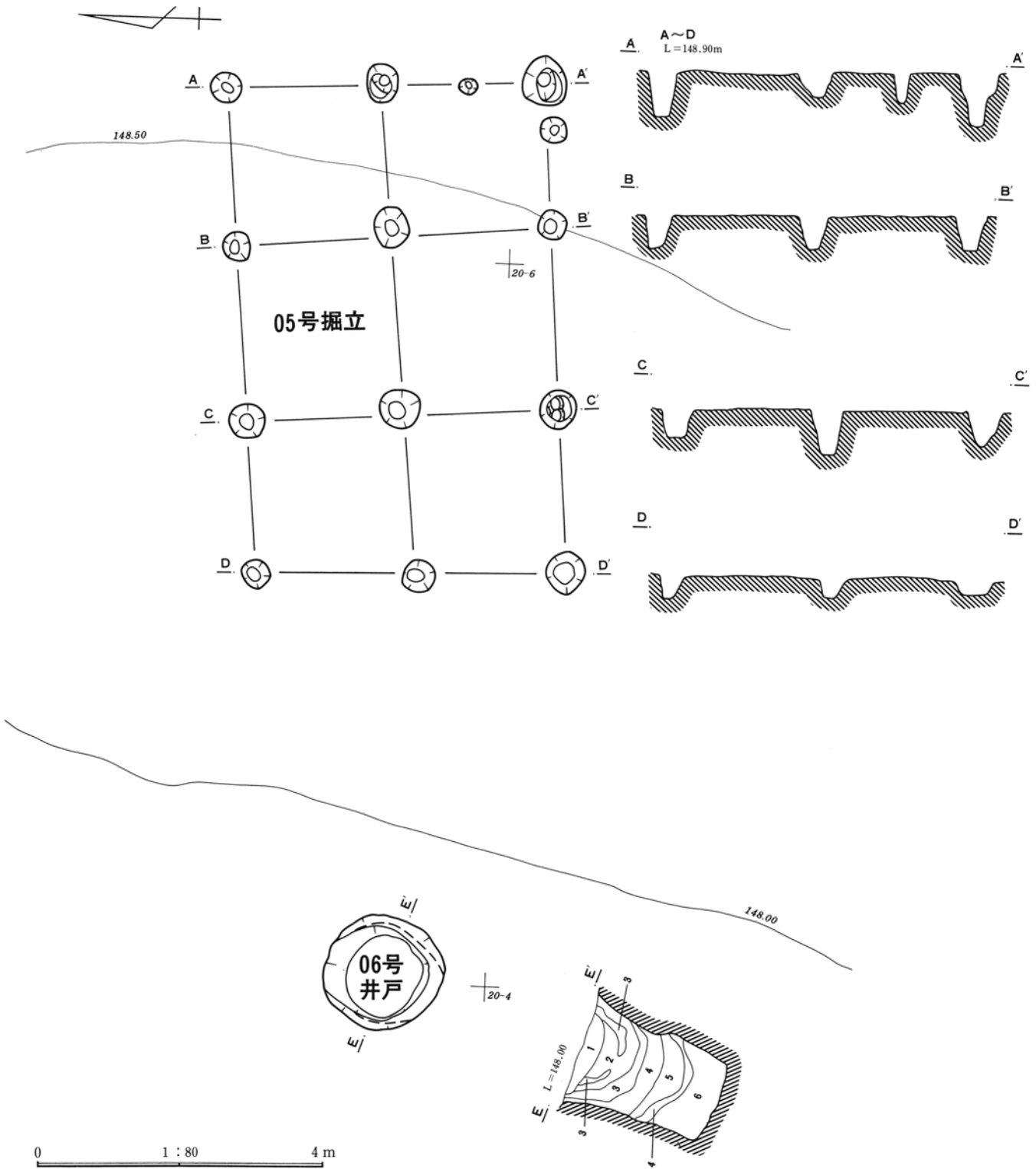
**04号掘立【埋土】**不明。【重複】周辺にはピットが多く、他にも掘立があった可能性がある。【形態】2×3間総柱（3.7×5.6m）の東西棟。柱痕に比べ柱穴掘り方は小さい（径0.2～0.3m）。【遺物】なし。【備考】同様の形態の05号掘立は西9mを隔てて並ぶ。03・04号井戸とも関係あるだろう。中世か。

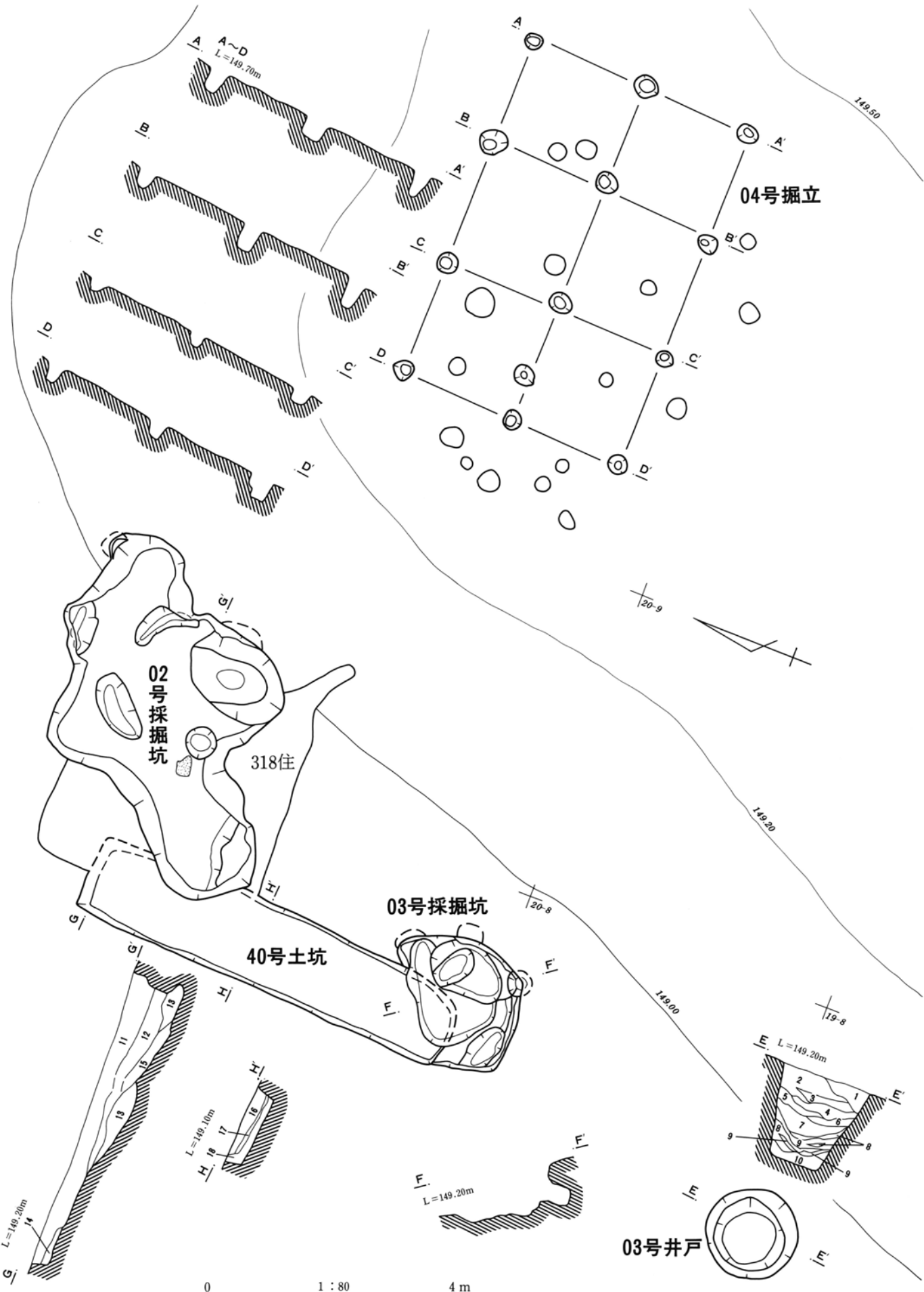
**03号井戸【埋土】**1 黒暗褐色砂質土灰白色軽石ローム粒焼土炭化粒少 2 暗褐色砂質土灰白色軽石ローム粒黄白色粘土含 3 同前含有物少 4 黒褐色粘質土黄灰色粘土塊混在 5 同前粘土多 7 粘土塊 8 暗茶褐色粘質土粘土少 9 同前粘土多 10 黄褐色粘土暗褐色粘質土混【重複】なし。【形態】円筒形（径1.4m深さ1.5m）。【遺物】なし。【備考】湧水層の位置不明であり出水跡が顕著でない。人為的に埋没。中世か。

**02号採掘坑【埋土】**11 黒色土白色軽石多 12 茶褐色土ローム塊多 13 同前ローム塊少 14 地山 15 茶褐色土ローム塊最多【重複】竪穴318号住・40号土坑と重複。【形態】平面不定形（5.9×3.6×0.9m）で3カ所にオーバーハングの掘削部がある。【遺物】なし。【備考】粘土層の採掘は行っていない、ローム土を取った状態。古代以後だが、近い04号掘立と同時期か。

**03号採掘坑【埋土】**不明。【重複】40号土坑と重複。【形態】平面不定形（2.5×1.7×0.8m）で3カ所にオーバーハングの掘削部がある。【遺物】なし。【備考】02号採掘坑と同様。

**40号土坑【埋土】**16 黒褐色土ローム塊白色軽石多 17 同前白色軽石黒色土含 18 同前白色軽石多【重複】02・03号採掘坑、竪穴318号住と重複。【形態】短冊形で底平坦（5.9×1.3×0.4m）。【遺物】なし。【備考】近世後期。





L=149.20m

L=149.10m

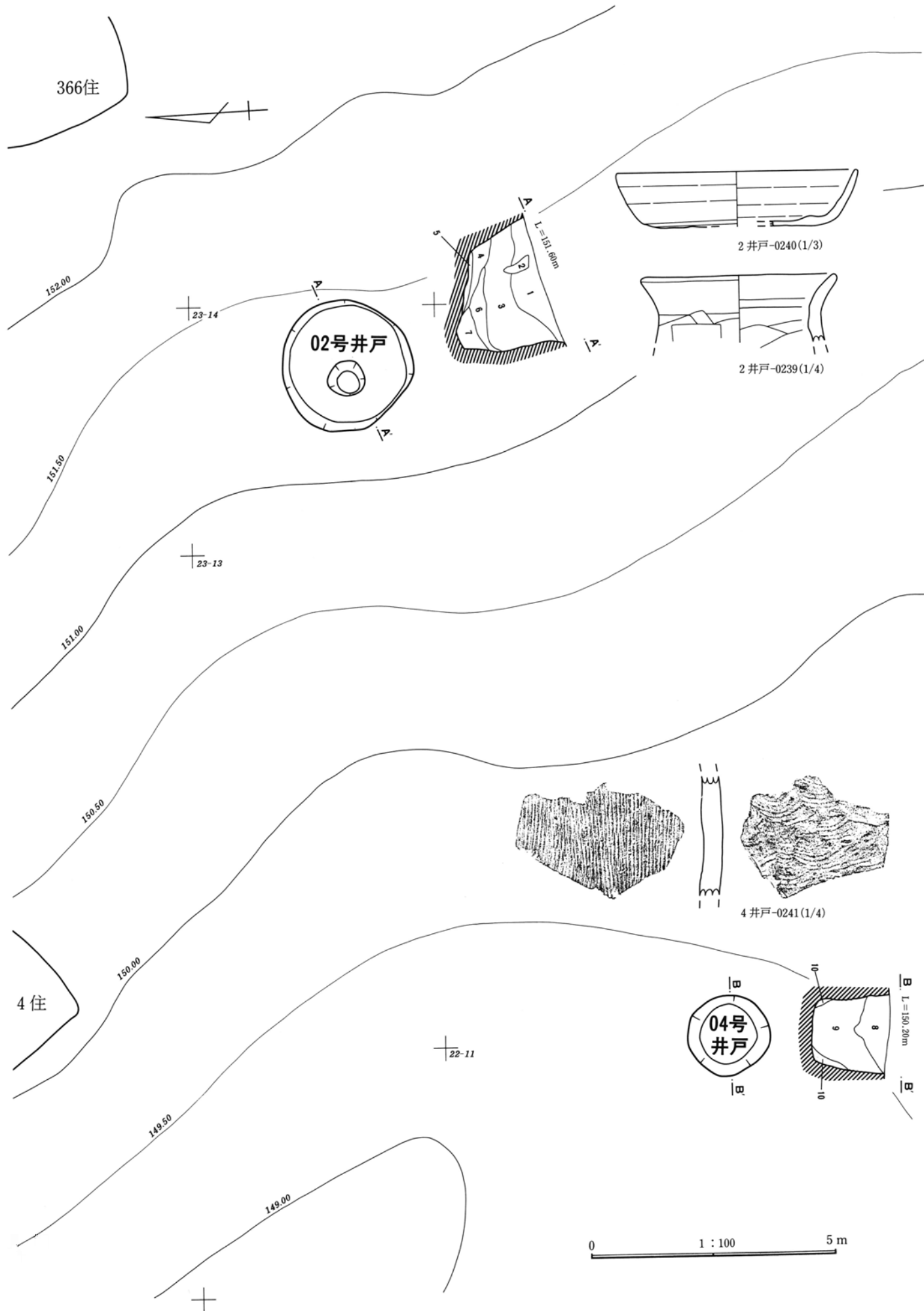
L=149.20m

E L=149.20m

0 1 : 80 4 m



366住



2井戸-0240(1/3)

2井戸-0239(1/4)

4井戸-0241(1/4)

04号井戸  
B L=150.20m  
B

02号井戸

04号井戸

4住

## 02・04号井戸【図P.93 PL.57】

本地区南西側で検出した遺構群。

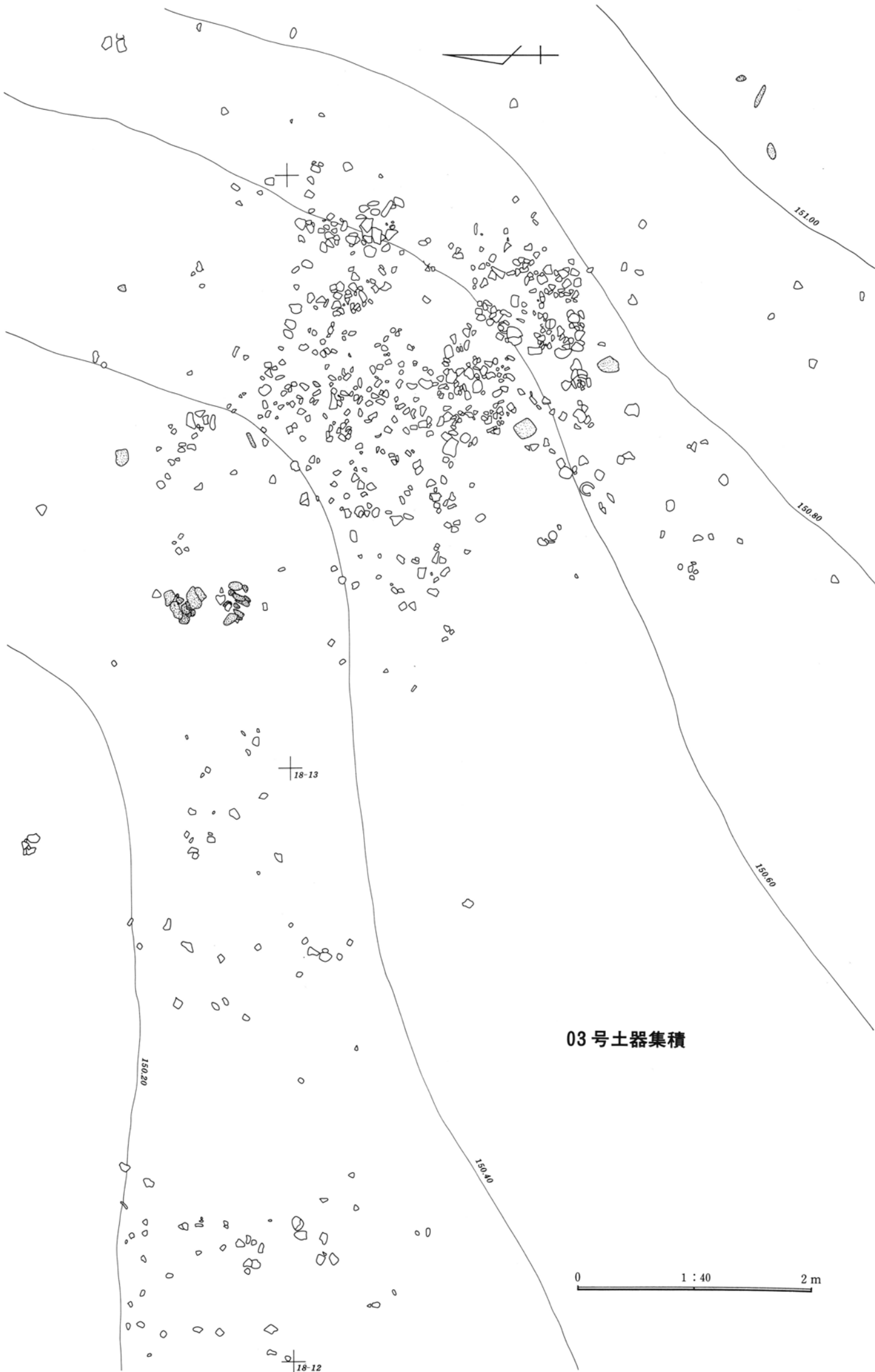
**02号井戸【埋土】**1 黒色土灰白色軽石少 2 褐色土ローム塊主 3 黒色土ローム塊少 4 褐色土ローム粒主 5 灰白色粘土 6 黒色土ローム塊多 7 黒褐色土ローム塊灰白色粘土黒褐色土混在【重複】なし。【形態】朝顔形（上径3.0m底径0.5m深さ2.1m）。【遺物】古代須恵器坏(0240)・土師器甕(0239)出土。【備考】底径の大きさが本来の形状だろう。湧水層の位置不明であり出水跡が顕著でない。古代。

**04号井戸【埋土】**8 灰褐色土黒色土灰褐色粘土混在 9 黒色土灰褐色粘土微 10 茶褐色土ローム主黒色土混在【重複】なし。【形態】円筒形（径1.5m深さ1.8m）。【遺物】古代須恵器甕片(0241)出土。【備考】湧水層の位置不明であり出水跡が顕著でない。時期不明だが、距離的には西に6m離れた04号掘立が最も近い。04・03・06号井戸で囲まれた部分（東西40m南北15m）の範囲に04・05号掘立と02・03号採掘坑が位置し、配置状況から同一時期と考えられる。だが、この範囲の遺物は僅少で、本井戸の小片以外は、遺構外遺物として04号掘立南東(20-10G)で中世土師器小皿(0536)そして本井戸東側(21-12G)で袋状鉄斧(2080)を確認した程度である。全体としては中世の可能性を想定したい。

## 03号土器集積【図P.95～99 PL.58～61】

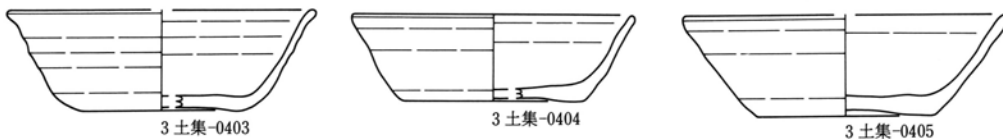
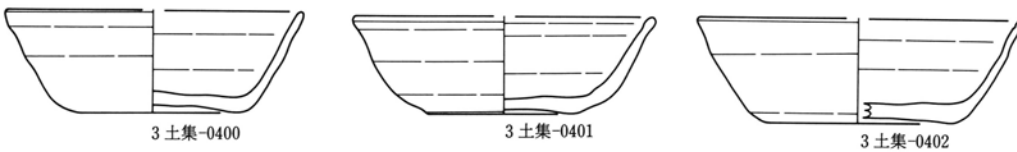
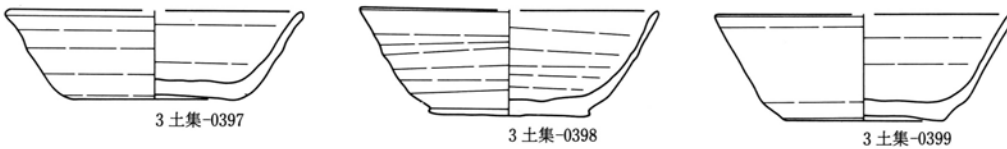
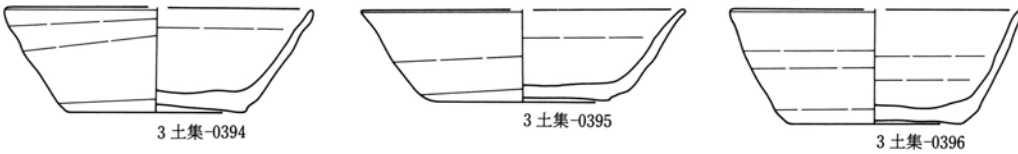
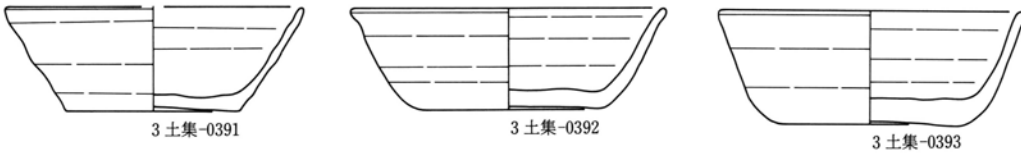
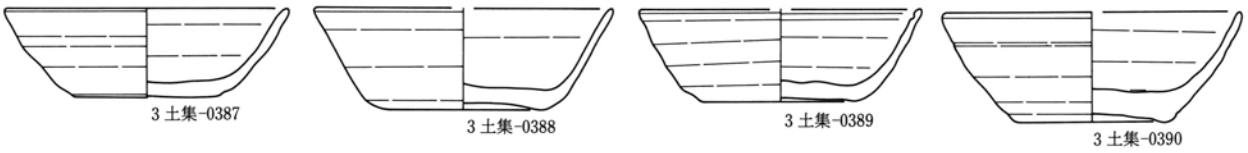
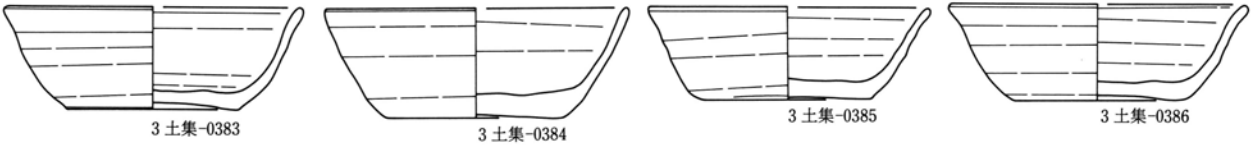
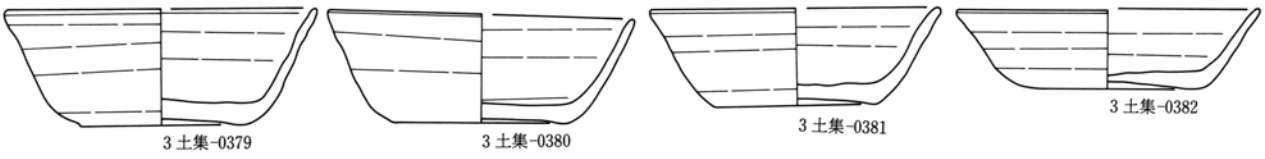
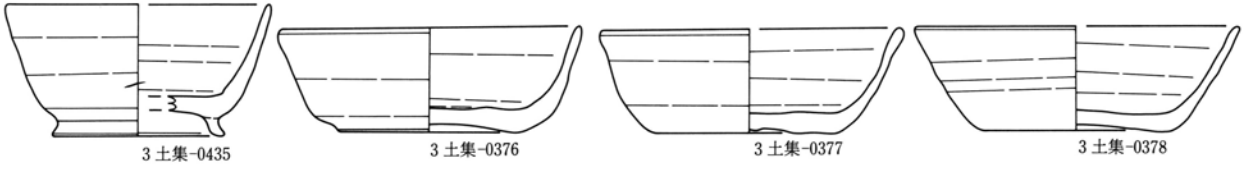
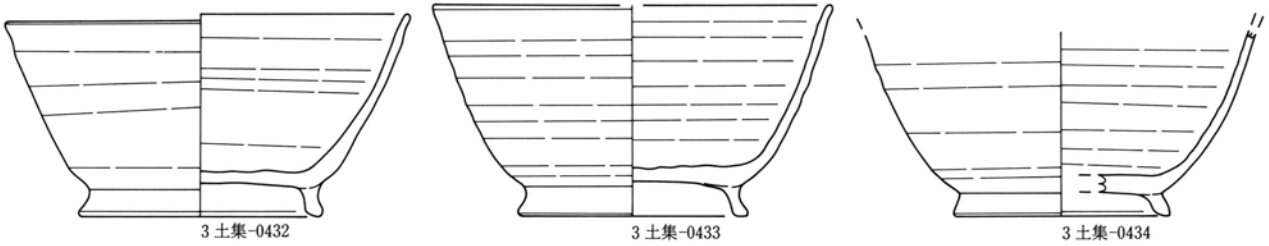
本地区南西側で検出した遺構。

【埋土】不明。【重複】なし。【形態】北西に向かう緩い傾斜地に長方形（主軸東西方向約10.2×6.0m）範囲で土器片が集中分布。北西端には2カ所の自然石が組まれた部分がある。【遺物】古代須恵器と土師器片計723片の破片の分布が見られた。須恵器碗類(0432～35)・坏(0376～0431,0462,67,68)・坏蓋(0436～49)・盤類(0450～52)・瓶(0454)・大甕(0470,71)・甕(0456～61)・小型甕(0453,55)、土師器坏(0367～73,0469)、土錘(0463～66)などが出土した。その他に遺構外遺物として後述した須恵器坏(0552,54)そして土錘(0292,0582～84,86～90,92,93,95)もこの集積の遺物と考えられる。【備考】全体としては、須恵器坏と坏蓋が圧倒的に多く、また土錘も数がまとまっている。石組の存在そして直線状に見える中心部分の土器片の散布状況から、この場所に意図的に配置した可能性は高い。ここに何らかの構造物があったかは不明だが、単なる廃棄場所のようなものではないと思われる。この周辺は、竪穴の空白地帯で、最も近い東の319号住まで10mの距離がある。

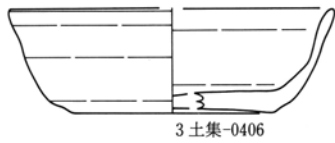


03号土器集積

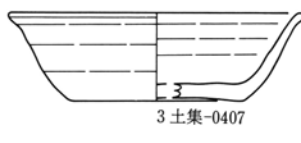
0 1:40 2m



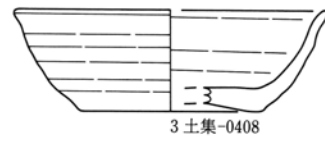
0      1 : 3      10cm



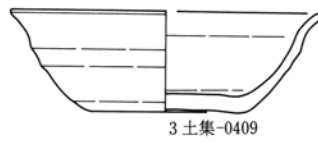
3土集-0406



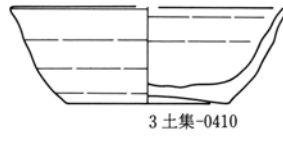
3土集-0407



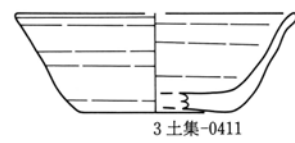
3土集-0408



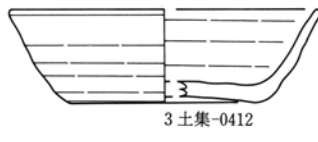
3土集-0409



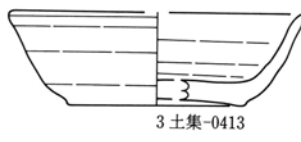
3土集-0410



3土集-0411



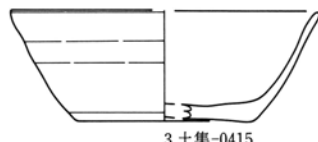
3土集-0412



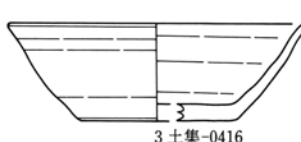
3土集-0413



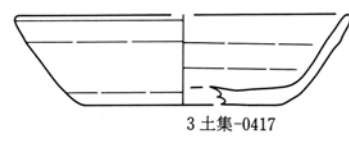
3土集-0414



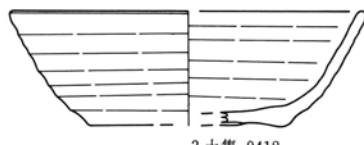
3土集-0415



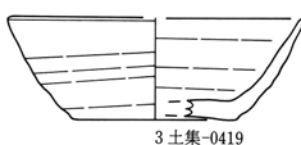
3土集-0416



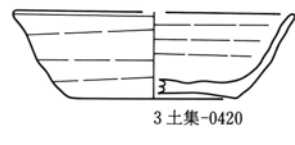
3土集-0417



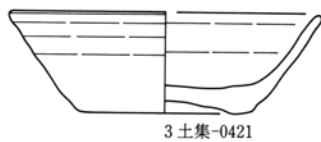
3土集-0418



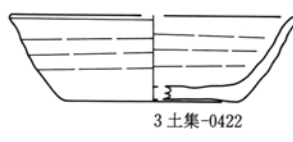
3土集-0419



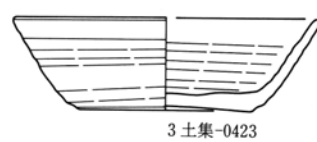
3土集-0420



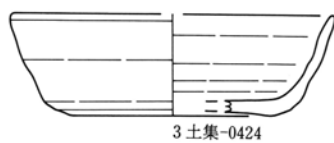
3土集-0421



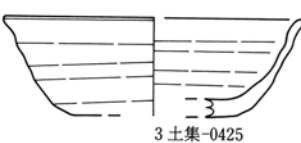
3土集-0422



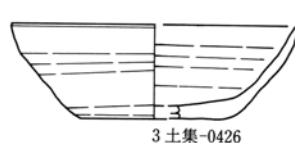
3土集-0423



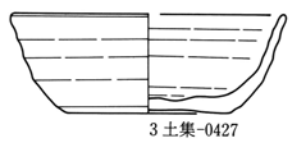
3土集-0424



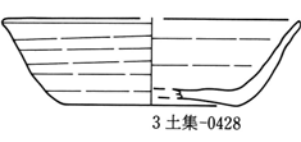
3土集-0425



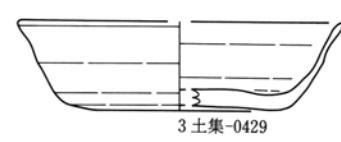
3土集-0426



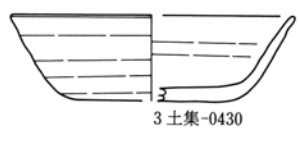
3土集-0427



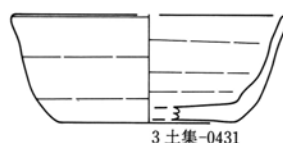
3土集-0428



3土集-0429



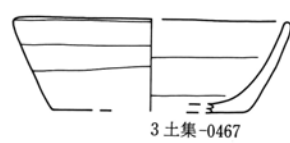
3土集-0430



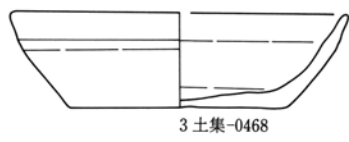
3土集-0431



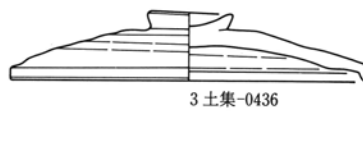
3土集-0462



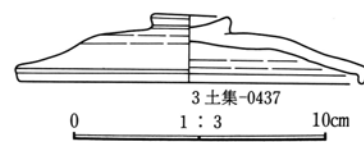
3土集-0467



3土集-0468



3土集-0436

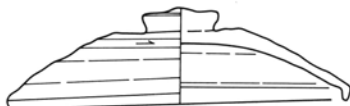


3土集-0437

0 1 : 3 10cm



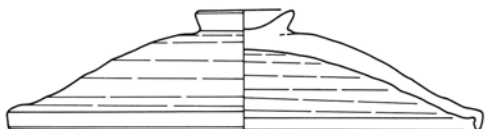
3 土集-0438



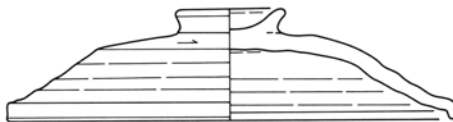
3 土集-0439



3 土集-0440



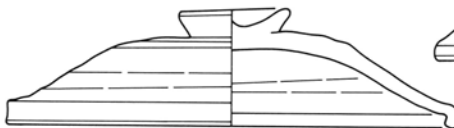
3 土集-0441



3 土集-0442



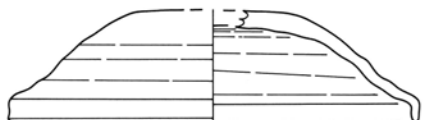
3 土集-0443



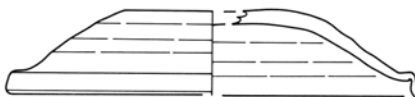
3 土集-0444



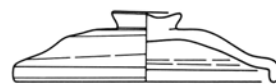
3 土集-0445



3 土集-0446



3 土集-0447



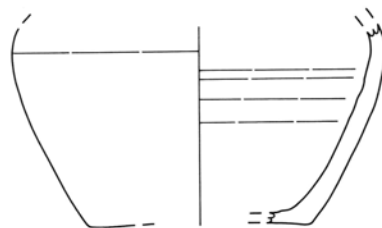
3 土集-0448



3 土集-0449



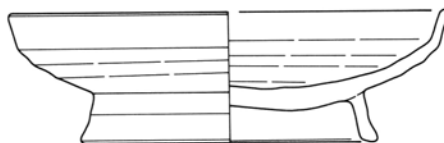
3 土集-0450



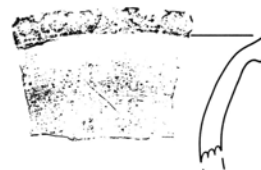
3 土集-0454



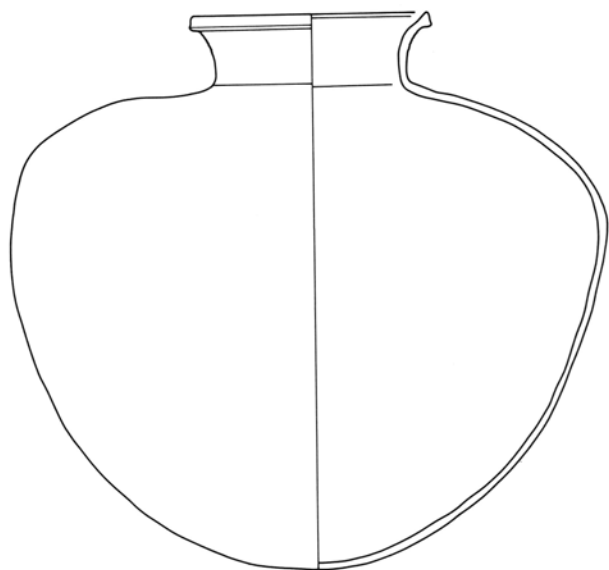
3 土集-0451



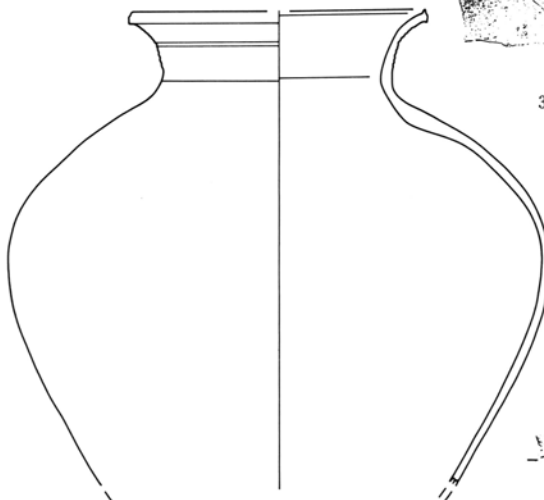
3 土集-0452



3 土集-0456(1/4)



3 土集-0470(1/6)

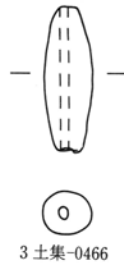
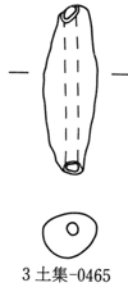
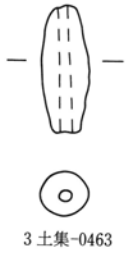
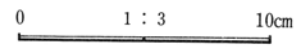
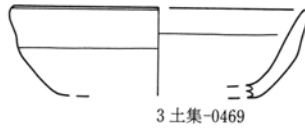
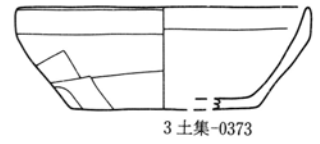
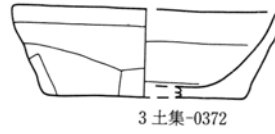
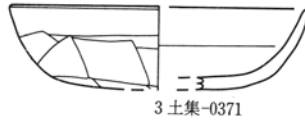
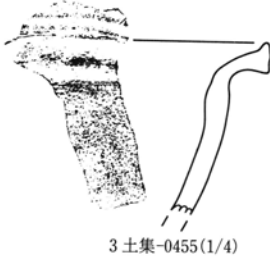
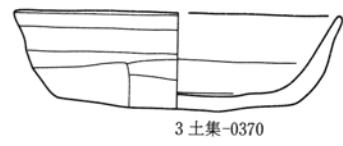
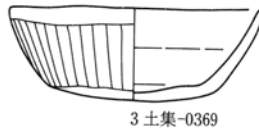
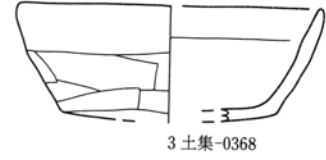
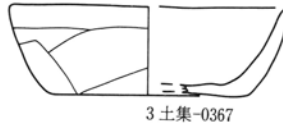
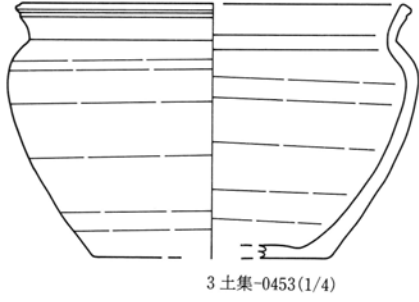
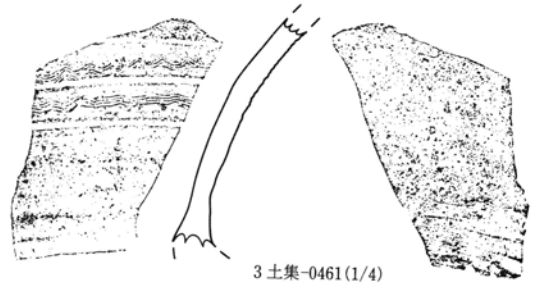
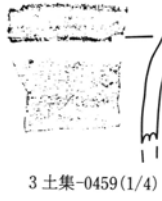


3 土集-0471(1/6)

0 1 : 3 10cm



3 土集-0457(1/4)



07～09・12・17～20号溝、41～46号土坑【図 P.101,102 PL.61～63】

本地区中央南側で検出した遺構群。

**07号溝【埋土】**1 黒褐色土ローム粒微 2 同前ローム灰白色粘土塊多 3 暗褐色土ローム粒軽石少【重複】未命名土坑（1,2層）に切られる。【形態】直線状に南北方向に延びる（長10.5m上幅1.0m下幅0.8m深さ0.2m）。【遺物】中世土師器埴（0092）出土。また自然礫が多い。【備考】調査前地境とは一致しない。中世の地境か。

**08号溝【埋土】**4 暗褐色土浅間A軽石多 5 同前ローム小塊含【重複】09号溝、01号掘立と近接。【形態】直線状に南北方向に延びる（長20m上幅0.5m下幅0.2m深さ0.2m）。【遺物】なし。【備考】調査前地境とは一致しない。近世地境。

**09号溝【埋土】**不明。【重複】08号溝近接。【形態】直線状東西方向に延び、途中北北東方向分岐（長19.6m上幅0.3m下幅0.1m深さ0.1m）。【遺物】なし。【備考】調査前現道延長に類似。近世地境か。

**12号溝【埋土】**6 黒褐色土ローム塊多灰白色粒含炭化粒微【重複】22・23号掘立より旧か。【形態】北東・南西方向に直線状（長30m上幅1.0m下幅0.8m深さ0.1～3m）。ピット（径0.5m深さ0.2m）不等間隔で並ぶ。【遺物】古代須恵器転用硯（0096）・甕？（0097）、土師器坏（0093）・盤？（0094）出土。【備考】調査前地境と不一致。古代。

**17号溝【埋土】**7 黒褐色土ローム粒少 8 同前ローム塊小石含 9 黄褐色砂質土ローム粒 10 褐色土ローム主黒褐色土少【重複】未命名土坑2基（近世か）と重複。【形態】やや湾曲して西から東に走った（長23m）後、南に曲がって（長6m）さらに南西方向（長2m）に向かう（上幅2.0m下幅0.8m深さ0.2m）。【遺物】なし。【備考】調査前地境とは一致しない。時期不明の自然流路。

**18号溝【埋土】**11 耕作土 12 暗褐色土浅間A軽石多固い 13 明茶褐色土A軽石ローム粒含 14 同前砂質土 15 同前細砂互層 16 暗茶褐色土A軽石ローム粒含【重複】未命名土坑（近世？）・竪穴145・282・208号住と重複。【形態】東西方向に直線状に延びる（長14m上幅1.8m下幅1.4m深さ0.1m）。【遺物】なし。【備考】調査前地境と一致。近世～近代の地境。水流痕あり。

**19号溝【埋土】**17 盛土 18 黒褐色土浅間A軽石多固ローム粒少 19 同前黒褐色粘質土互層 20 同前軽石ローム粒多 21 同前比暗色 22 同前軽石量多固 23 同前比軽石少 24 暗茶褐色土ローム粒混 25 黒褐色土ローム粒軽石少 26 暗茶褐色土ローム粒混【重複】04・13号溝重複。【形態】東西方向に直線状（長24m上幅2.2m下幅2.0m深さ0.3m）。【遺物】近代東北磁器皿（0102）、近世肥前染付碗（0103）、古代須恵器坏（0099）・甕（0100,01）・鉄滓（2117）出土。【備考】調査前現道と一致。近世近代地境。有水流痕。

**20号溝【埋土】**27 暗褐色土ローム塊多【重複】04号溝、45号土坑、竪穴209・379号住と重複。【形態】東北東・西南西方向に直線状に延びる（長25m上幅1.7m下幅1.0m深さ0.2m）。段差（0.1m）が2カ所あり、西側ではピット（径約0.7m深さ約0.2m）が重なる。【遺物】西側のピット付近で古代須恵器蓋（0104）・甕（0105）、鉄滓（2121）出土。【備考】調査前地境とは一致しないが、古代遺構とは断定しがたく、時期不明。

**41号土坑【埋土】**28 暗褐色砂質土白色細粒多【重複】なし。【形態】円形（1.3×1.2×0.2m）。【遺物】なし。【備考】性格時期不明。

**42号土坑【埋土】**29 黒褐色土焼土炭化粒多ローム塊混 30 暗褐色土焼土炭化粒少【重複】溝状掘り込みと重なるが詳細不明。【形態】楕円形（0.9×0.7×0.4m）。【遺物】確実なもの不明。【備考】調査時には溝とした。時期性格不明。

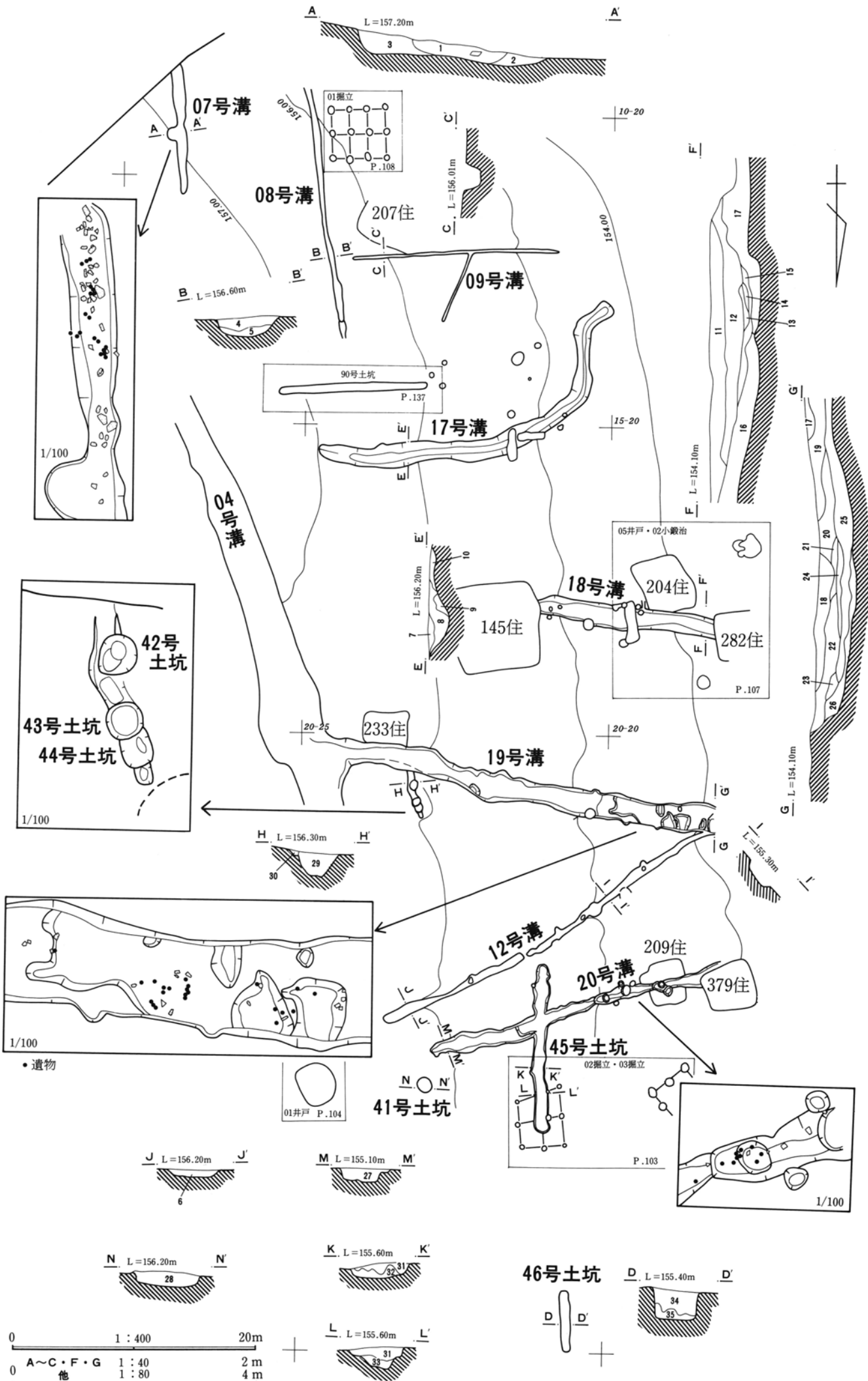
**43号土坑【埋土】**42号土坑と同様【重複】44号土坑・溝状掘り込みと重なるが詳細不明。【形態】隅丸方形（0.8×0.7×0.3m）。【遺物】確実なもの不明。【備考】調査時には溝とした。時期性格不明。

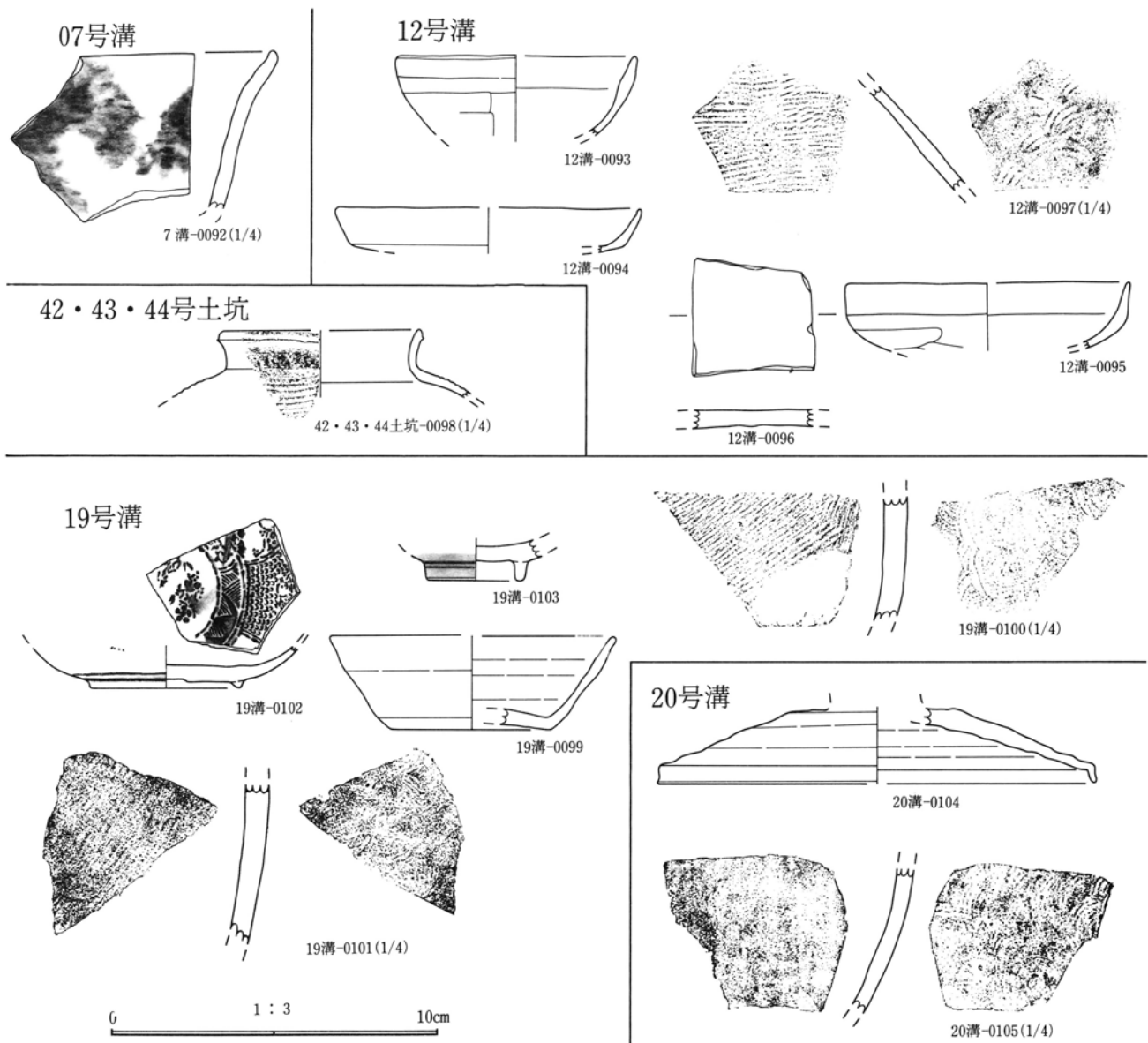
**44号土坑【埋土】**不明。【重複】43号土坑・溝状掘り込みと重なるが詳細不明。【形態】楕円形（約0.8×0.7×0.2m）。【遺物】確実なもの不明。【備考】調査時には溝とした。時期性格不明。

**45号土坑【埋土】**31 暗褐色土ローム塊混 32 黄褐色土 33.02号掘立柱【重複】02号掘立より新。20号溝と重複。【形態】南北方向に短冊形が3基程度重なる（13.7×1.1×0.2m）。【遺物】なし。【備考】調査前地境と一致。近代。

**46号土坑【埋土】**34 暗褐色土白色細粒多 35 同前砂質土ローム塊多【重複】なし。【形態】南北方向の短冊形（4.8×0.8×0.5m）。【遺物】なし。【備考】調査前地境の延長方向。近代。







### 02・03号掘立【図P.103 PL.63】

本地区南西部分で検出した遺構群。

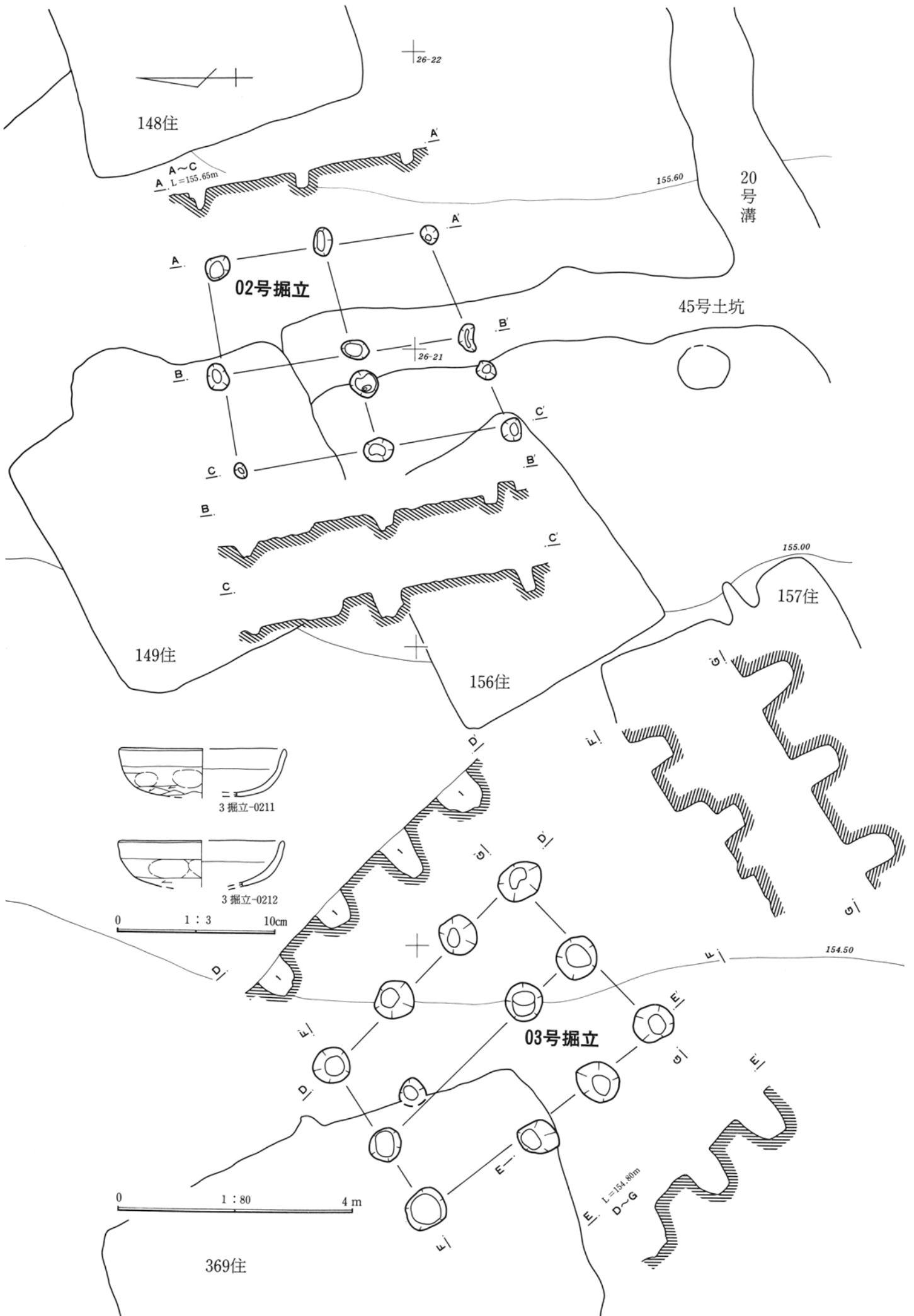
**02号掘立【埋土】**暗褐色土ローム塊混【重複】45号土坑、149・156号住と重複。【形態】歪んだ2×3間総柱(3.5×4.7m)の南北棟。柱痕に比べ柱穴掘り方はやや小さい(径0.3~0.5m)。【遺物】なし。【備考】この状態での建物かは断定できない。中世か。

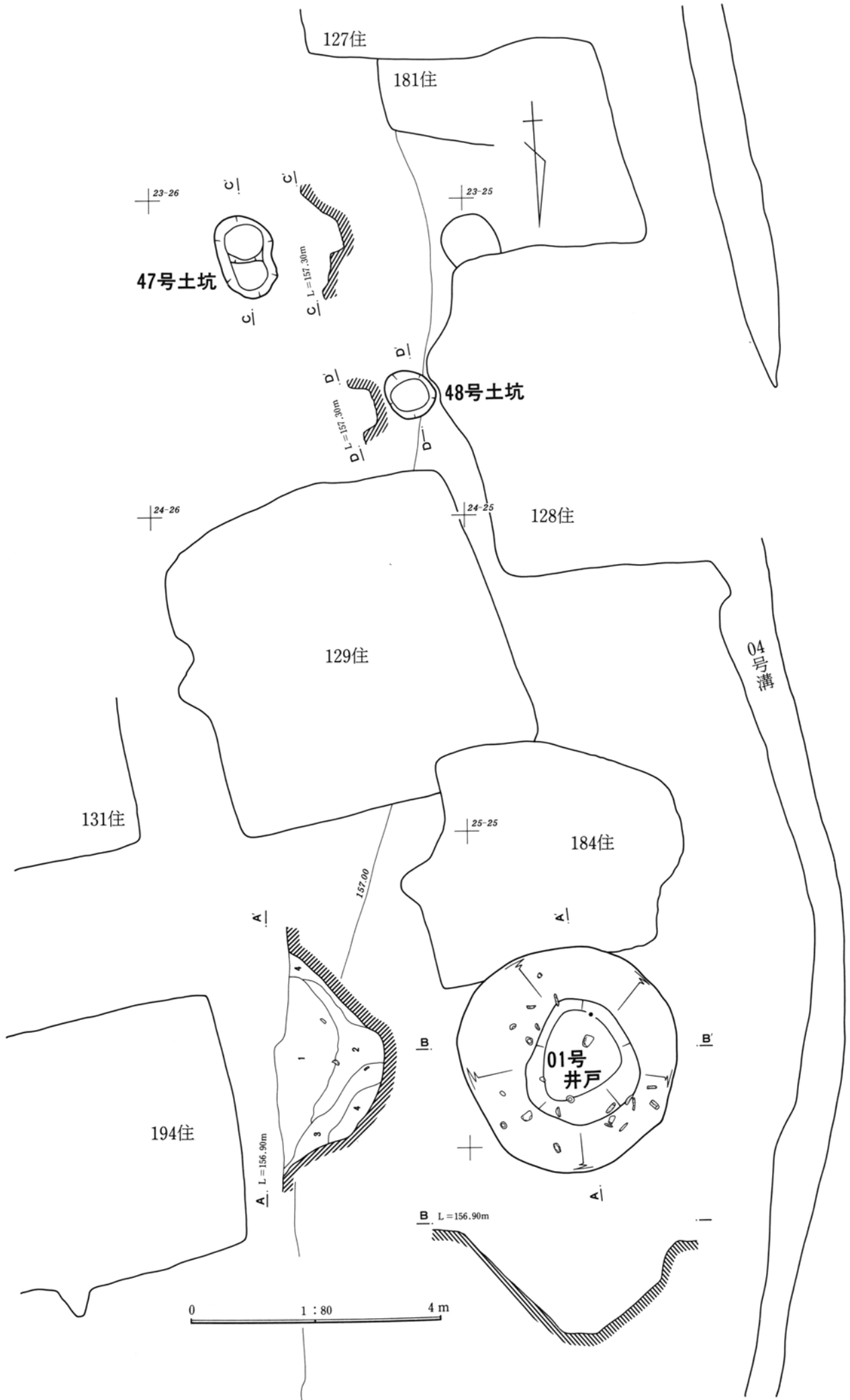
**03号掘立【埋土】**1 暗褐色土ローム粒多炭化粒少【重複】369号住と重複。【形態】やや歪んだ2×3間総柱(3.4×5.0m)の東西棟(北西側内部柱穴不明)。柱痕に比べ柱穴掘り方は大きい(径0.6~0.8m)。【遺物】古代土師器坏(0211,12)出土。【備考】古代の倉庫状建物か。

### 01号井戸、47・48号土坑【図P.104,105 PL.64】

本地区東部分で検出した遺構群。

**01号井戸【埋土】**1 暗褐色砂質土淡黄白色軽石多焼 2 同前軽石少 3 暗茶褐色粘質土ローム粒多軽石少 4 同前ローム粒最多灰白色粘土混【重複】竪穴184号住と重複。【形態】朝顔形(上径3.6m底径0.6m深さ1.7m)。【遺物】古代須恵器碗(0227~29)・坏(0219~26)・坏蓋(0230,31)・甕(0232~37)、刻書平瓦片(0238)出土。【備考】底径の大きさが本来の形状だろう。湧水層の位置不明で、あまり出水跡が顕著でない。古代。(P.106に続く)





127住

181住

23-26

47号土坑

c|

c|

c|

L = 157.30m

23-25

48号土坑

d|

d|

L = 157.30m

24-26

24-25

128住

129住

131住

04号溝

25-25

184住

A'

157.00

01号井戸

B

B'

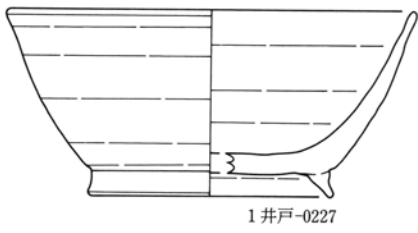
194住

A L = 156.90m

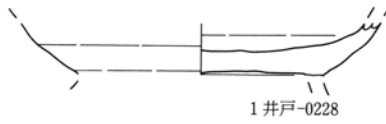
B L = 156.90m

0 1 : 80 4 m

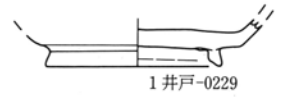
2 遺物概要と大型遺構



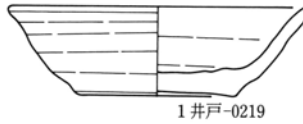
1 井戸-0227



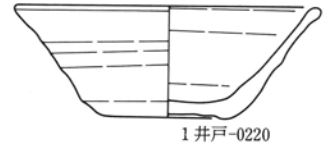
1 井戸-0228



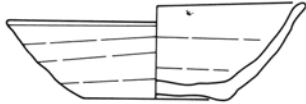
1 井戸-0229



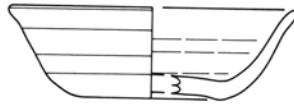
1 井戸-0219



1 井戸-0220



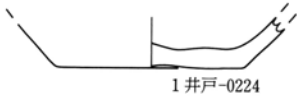
1 井戸-0221



1 井戸-0222



1 井戸-0223



1 井戸-0224



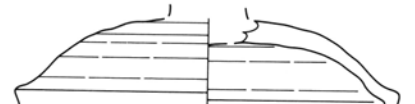
1 井戸-0225



1 井戸-0226



1 井戸-0230

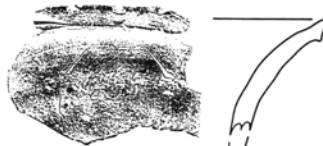


1 井戸-0231

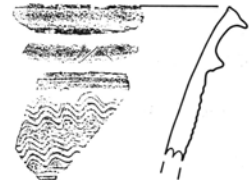
0 1 : 3 10cm



1 井戸-0232



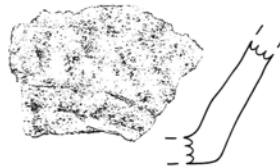
1 井戸-0233



1 井戸-0234



1 井戸-0235



1 井戸-0237



1 井戸-0238



1 井戸-0236

0 1 : 4 20cm

## 第II章 検出遺構と遺物

(P.102より) 47号土坑【埋土】不明。【重複】なし。【形態】主軸南北方向の8字形で南側が深い(1.3×0.9×0.5m)。【遺物】なし。【備考】性格時期不明。

48号土坑【埋土】不明。【重複】竪穴128号住重複。【形態】円形で底平坦(0.8×0.8×0.3m)。【遺物】なし。【備考】性格時期不明。

### 05号井戸、02号小鍛冶、49～53号土坑【図 P.107 PL.64,65】

本地区南部分で検出した遺構群。

05号井戸【埋土】1 灰白色粘土 2 黒褐色土ローム粒含 3 同前粘土塊ローム塊含 4 同前ローム粘土粒少 5 同前粘土塊混在【重複】竪穴283号住近接。【形態】円筒形(上径1.2m底径1.0m深さ1.6m)。【遺物】なし。【備考】5層中に大小53個の自然礫があり、人為的に埋められている。湧水層の位置不明で、あまり出水跡が顕著でない。時期不明。

02号小鍛冶【埋土】6 黒青色炭化層灰焼土の順で堆積【重複】竪穴280号住内で検出。281・284号住近接。【形態】不定形(2.0×1.8×0.4m)で上下2段に分かれる。上段に炉跡が残る。【遺物】なし。【備考】不定形であるにも関わらず、280号住の平面形と大きく食い違いが無い。280号住との関係は同時期の可能性もありうるが、調査者は竪穴廃棄後の「空間転用」としている(1990『矢田遺跡』P.231参照)。古代か。

49号土坑【埋土】7 赤色土焼土塊多黒褐色土混 8 黒褐色土焼土塊少 9 同前ローム粒多【重複】竪穴283号住内で検出。【形態】楕円形状(0.7×0.5×0.2m)。【遺物】なし。【備考】焼土はむしろ西外側に散布しており、283号住の内部施設と考えた方が自然である。古代か。

50号土坑【埋土】10 暗茶褐色土焼土炭化粒多 11 同前ローム粒多【重複】なし。【形態】楕円形(0.7×0.6×0.3m)。【遺物】なし。【備考】性格時期不明。

51号土坑【埋土】12 暗褐色土ローム塊含【重複】なし。【形態】ピット状(上径0.4m底径0.3m深さ0.3m)。【遺物】なし。【備考】性格時期不明。

52号土坑【埋土】不明。【重複】18号溝、53号土坑と重複。【形態】主軸南北方向の短冊形(3.4×0.9×0.3m)。【遺物】なし。【備考】近世。

53号土坑【埋土】不明。【重複】52号土坑と重複。【形態】楕円形平面で浅い(約0.8×0.8×0.1m)。【遺物】なし。【備考】性格時期不明。

### 01号掘立、01号柱穴列、54・55号土坑【図 P.108 PL.65】

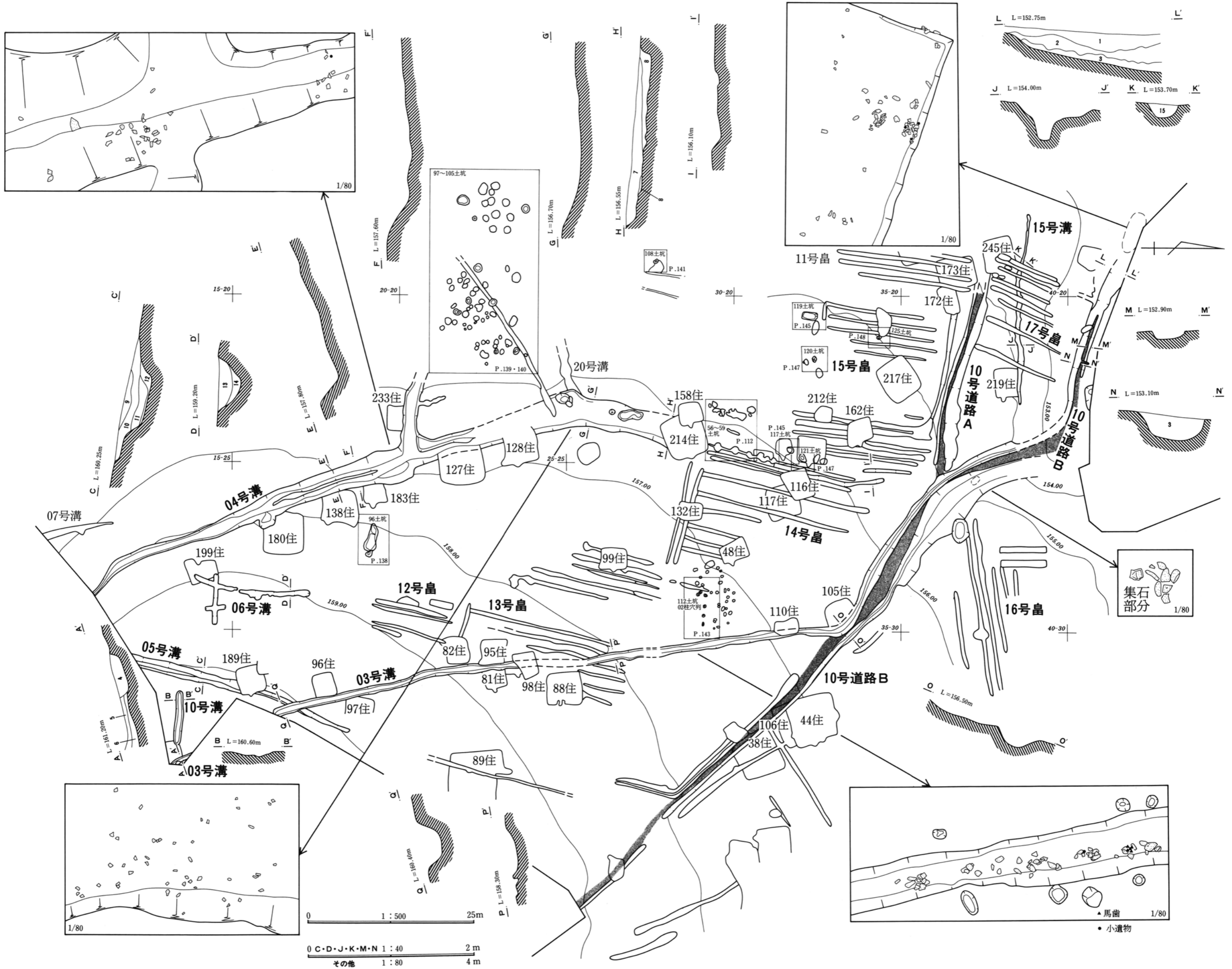
本地区南端で検出した遺構群。

01号掘立【埋土】1 暗灰褐色土焼土炭化粒含 2 地山【重複】竪穴222号住と重複。08号溝近接。【形態】2×3間総柱(4.0×4.3m 南西側の1個は浅いためか検出できず)の東西棟。柱痕に比べ柱穴掘り方は普通(径0.4～0.5m)。【遺物】なし。【備考】中世か。

01号柱穴列【埋土】3 暗茶褐色土灰白色粘土塊多焼土粒少 4 同前粘土塊最多 5 同前粘土塊多焼土炭化粒含【重複】未命名土坑重複。【形態】東西方向の4個の列(長5.8m)。柱穴掘り方は大きい(径0.7～0.9m)。【遺物】古代須恵器碗(0287)出土。【備考】形状からは建物の柱穴と考えるのが自然だが、調査時には他の柱穴は検出していない。古代。

54号土坑【埋土】6 暗褐色土炭化焼土粒含 7 同前焼土粒少【重複】55号土坑より旧。【形態】東西方向主軸の8字形(1.3×0.5×0.2m)。【遺物】なし。【備考】2個の楕円形土坑重複の可能性もある。時期不明。

55号土坑【埋土】8 暗褐色土ローム粒含 9 同前ローム粒多【重複】54号土坑より新。【形態】楕円形平面でやや深い(0.9×0.7×0.4m)。【遺物】なし。【備考】性格時期不明。

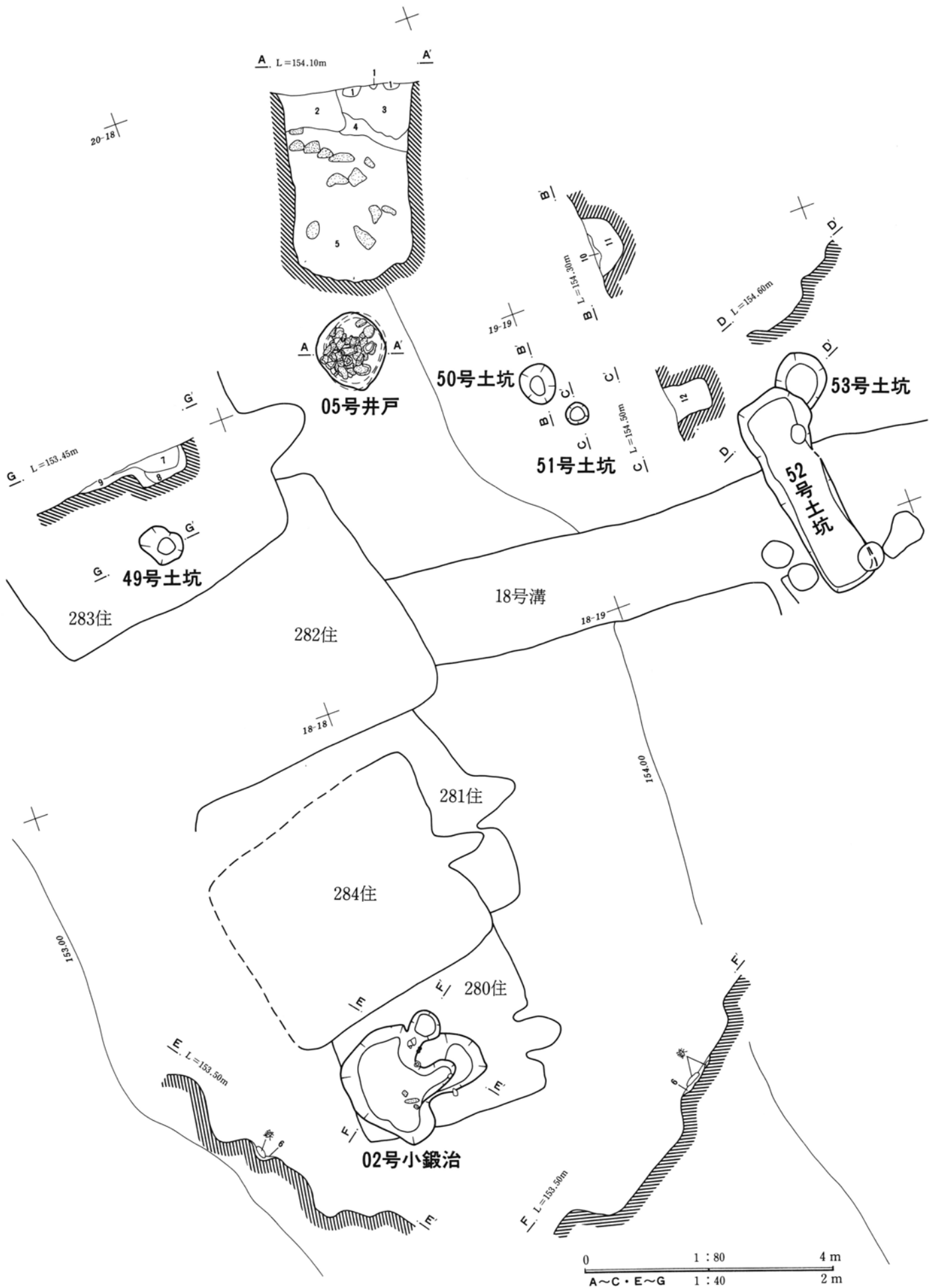


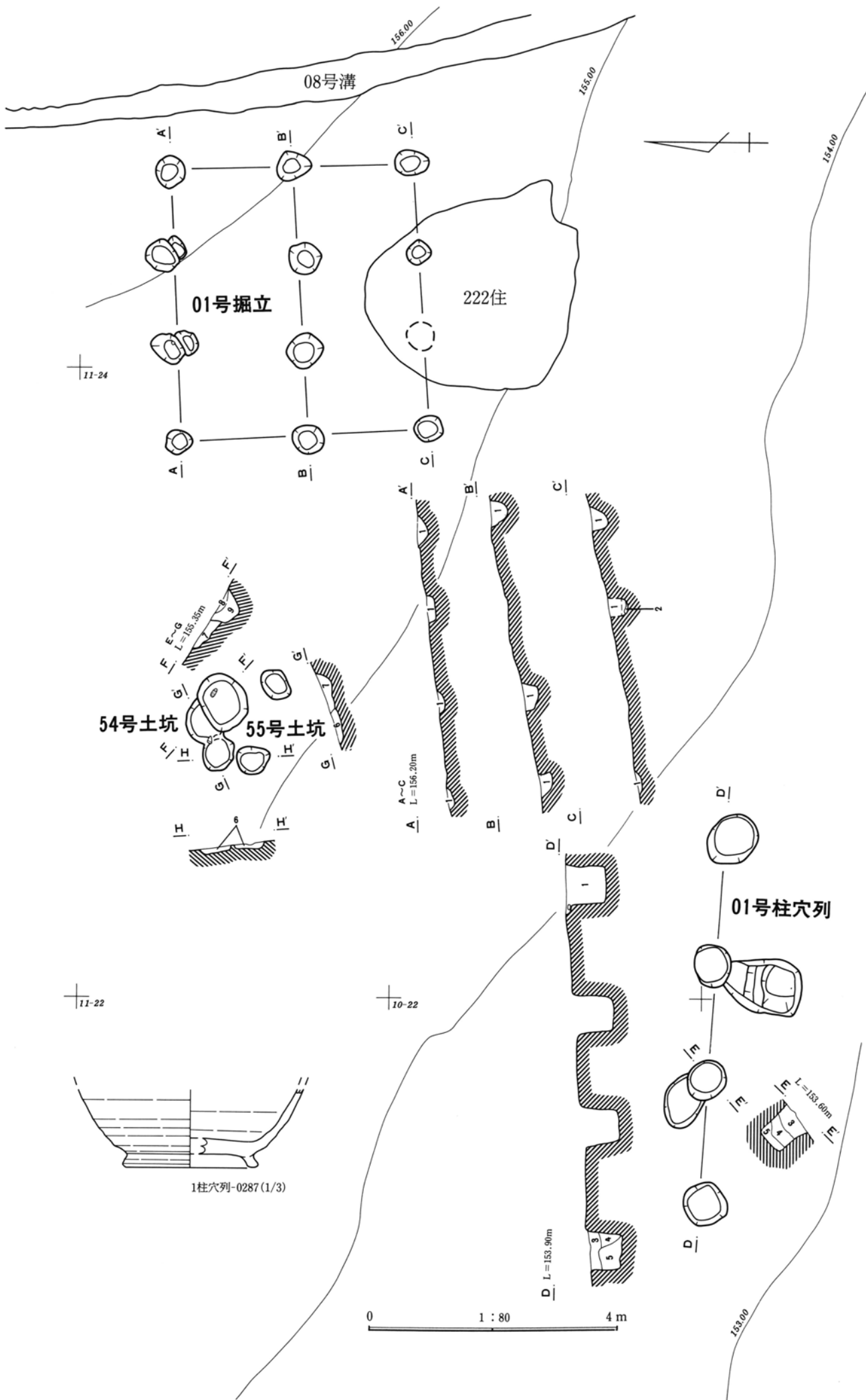
0 C・D・J・K・M・N 1:40 2m  
 その他 1:80 4m

▲馬歯 1/80  
 ●小遺物









## 12～17号畠、10号道路、03～06・10・15号溝【図 P.109～114 PL.66～68】

本地区南東側で検出した遺構群。

**12号畠【埋土】**不明。【重複】なし。【形態】長方形区画（5×13m）に南北方向で隙間を含み4列のサク痕が並ぶ。【遺物】なし。【備考】調査前地境区画と一致。近代の畠跡。

**13号畠【埋土】**不明。【重複】03号溝と重なる。【形態】長方形区画（37×28m）に南北方向で隙間を含み12列のサク痕が並ぶ。【遺物】なし。【備考】調査前地境区画と一致。近代の畠跡。

**14号畠【埋土】**不明。【重複】西側で56～59号土坑などと重なる。【形態】長方形区画（27×16m）に南北方向で隙間を含み10列のサク痕が並ぶ。【遺物】なし。【備考】調査前地境区画と一致。近代の畠跡。

**15号畠【埋土】**不明。【重複】10号道路Aと接する。【形態】長方形区画（23×22m）に南北方向で中央に隙間を含み10列のサク痕が並ぶ。【遺物】なし。【備考】調査前地境区画と一致。近代の畠跡。

**16号畠【埋土】**不明。【重複】03号溝と接する。【形態】長方形区画（27×10m）に東西方向で隙間を含み6列のサク痕が並ぶ。【遺物】なし。【備考】調査前地境区画とは一致しない。近世の畠跡か。

**17号畠【埋土】**不明。【重複】15号溝と重なる。【形態】長方形区画（15×13m）に南北方向で隙間を含み8列のサク痕が並ぶ。【遺物】なし。【備考】調査前地境区画と一致。近代の畠跡。

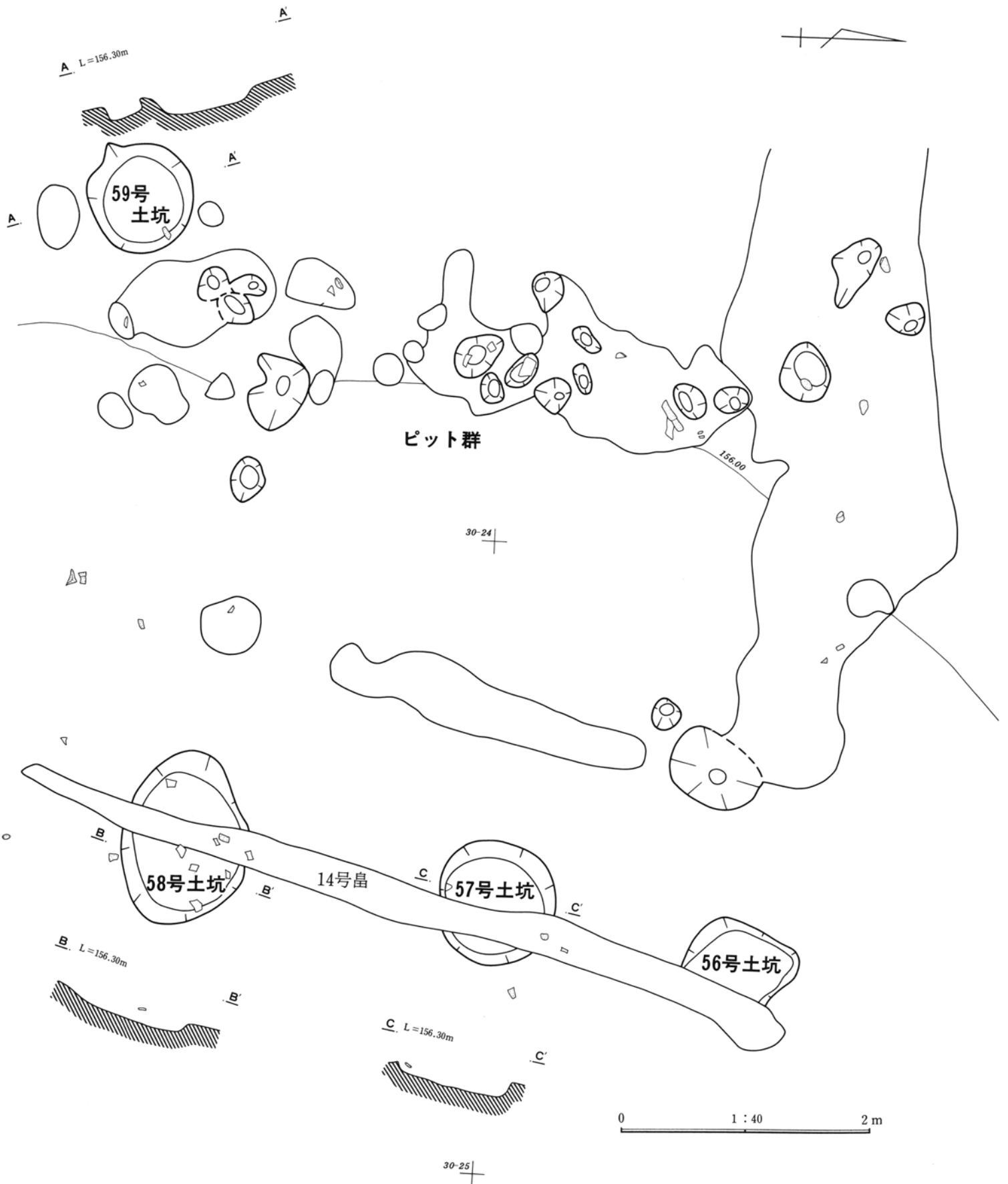
**10号道路【埋土】**<sup>1</sup> 暗褐色砂質土耕作土多 <sup>2</sup> 茶褐色粘質土黒褐色土塊多 <sup>3</sup> 黒褐色土上白色細粒多軟下茶褐色土塊少硬【重複】03号溝と合流。【形態】南東から北西へ34-30G付近まで直線状に走り（長65m路面幅最大2m）、そこから西北西方向へ曲がる（道筋A長50m）。また36-25G付近から北北東方向へ曲がって20mほど進み、さらに西北西方向へ向かう道筋（道筋B）もある。側溝は基本的に北東側のもの（最大幅6m）が続くため、後者の道筋が古い。南西側側溝は、北側では03号溝の延長部分が果たす。【遺物】道筋B側溝で鉄滓(2118)出土。【備考】道筋Bは大字多胡・矢田の境界に、またAは調査前現道に一致。Bが古い道筋と考えられる。03号溝遺物よりBは近世中期。

**03号溝【埋土】**<sup>4</sup> 黒褐色土ローム粒灰白色軽石少 <sup>5</sup> 暗褐色土ローム粒多 <sup>6</sup> 同前ローム塊混（5、6は整穴埋土）【重複】05号溝より旧。13号畠と重複し、10号道路と合流。【形態】直線状に南南東・北北西へ延びる（長105m上幅1.3m下幅0.7m深さ0.4m）。北で10号道路側溝となる。【遺物】13号畠重複部北側で瀬戸美濃腰鍔(0653)・肥前刷毛目碗(0655)・馬歯(3007)・鉄製締金具(2086)・同刀子(2087)・鉄滓(2119)、古代須恵器類出土。【備考】近世中期以前の地境か。

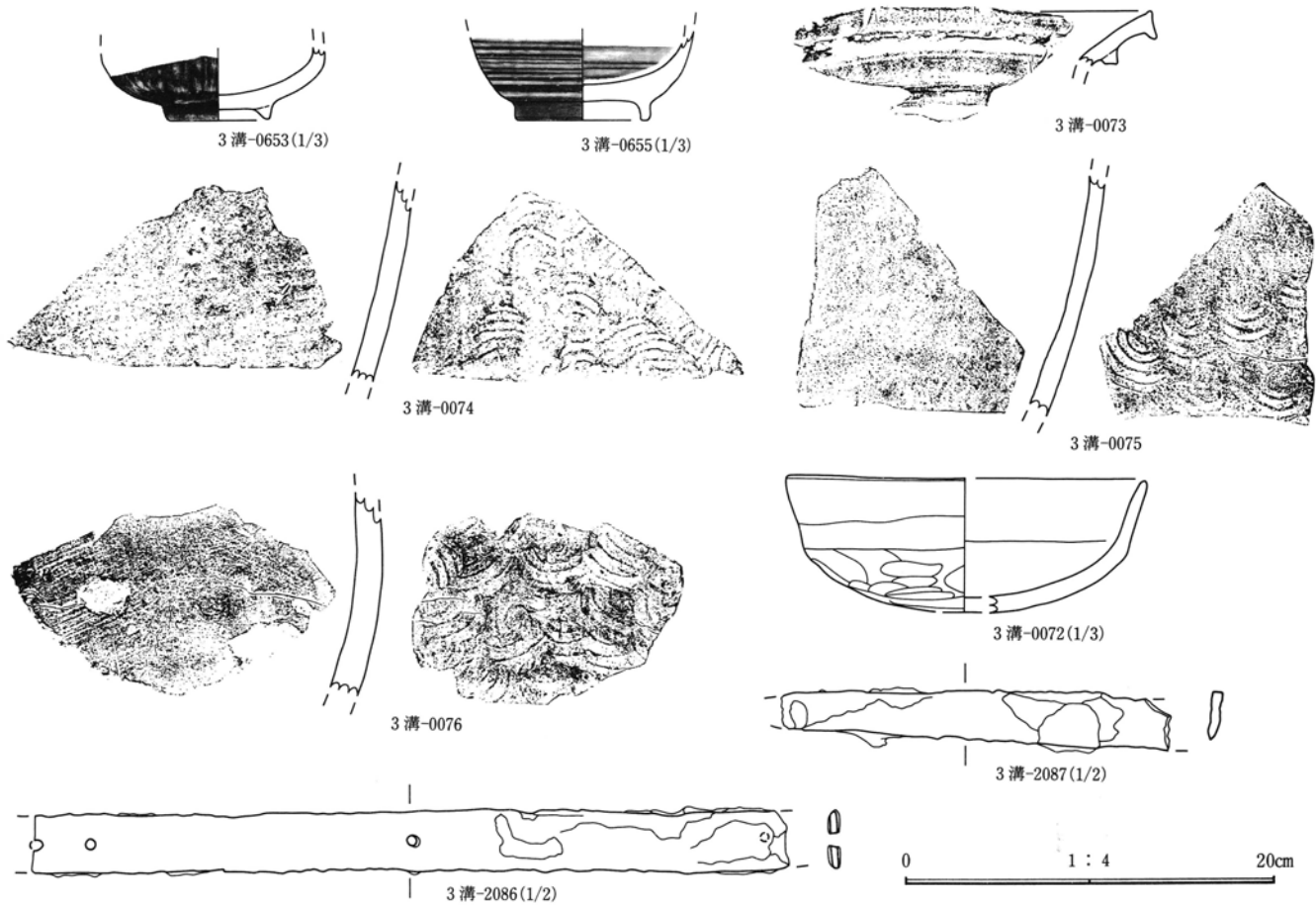
**04号溝【埋土】**<sup>7</sup> 耕作土 <sup>8</sup> 暗褐色粘質土ローム塊多【重複】14号畠・12号溝と重複。19・20号溝と合流か。【形態】やや湾曲しながら南南東から北北西方向へ延びる（長100m上幅2.3m下幅1.7m深さ0.6m）が、西側の立ち上がりは削平されている部分が多い。【遺物】中世土師器小皿(0077)、古代須恵器碗(0078)・瓶(0079)・甕(0080～85)出土。【備考】北側は調査前地境と一致しているため、近世地境と考えられる。

**05号溝【埋土】**<sup>9</sup> 黒褐色砂質土浅間A軽石多 <sup>10</sup> 同前軽石少弱 <sup>11</sup> 暗褐色土ローム粒軽石少 <sup>12</sup> 明褐色土ローム粒多【重複】03号溝より新。【形態】南南西・北北東方向へ延びる（長35m上幅2.2m下幅0.7m深さ0.4m）。【遺物】新寛永通宝鉄銭(2088)、古代須恵器甕(0086)・軒丸瓦(0087)出土。【備考】調査前道路と一致するが、近世中期の開削と考えられる。

**06号溝【埋土】**<sup>13</sup> 暗褐色砂質土浅間A軽石焼土粒含 <sup>14</sup> 暗褐色粘質土ローム塊混【重複】未命名短冊形土坑が南側で直交方向に重複。【形態】やや湾曲しながら南北方向に延びる（長18m上幅0.8m下幅0.5m深さ0.3m）。【遺物】古代須恵器坏(0091)・土師器坏(0088～90)出土。【備考】調査前地境と平行。近世の地境か。



2 遺物概要と大型遺構



10号溝【埋土】不明。【重複】竪穴202号住と重複。【形態】東西方向に延びる（長7m上幅1.3m下幅0.6m深さ0.2m）。【遺物】なし。【備考】調査前道路と一致。近代の地境。

15号溝【埋土】1.5 暗褐色砂質土上白色細粒多下ローム塊多【重複】17号畠と重複。【形態】東西方向に延びる（長29m上幅0.8m下幅0.3m深さ0.2m）。東側では不等間隔でピット（径0.3m深さ0.2m）が底にある。【遺物】鉄滓(2112)出土。【備考】調査前地境と一致せず。近世の地境か。

56～59号土坑【図P.112 PL.66】

本地区中央東側で検出した遺構群。

56号土坑【埋土】不明。【重複】14号畠より旧か。【形態】楕円形平面（0.9×0.8×0.1m）。【遺物】なし。【備考】時期性格不明。

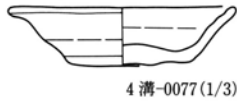
57号土坑【埋土】不明。【重複】14号畠より旧か。【形態】円形平面で底平坦（1.0×0.9×0.1m）。【遺物】なし。【備考】近世の桶埋設土坑か。

58号土坑【埋土】不明。【重複】14号畠より旧か。【形態】東西に長い楕円形（1.4×1.0×0.1m）。【遺物】報告遺物なし。【備考】時期性格不明。

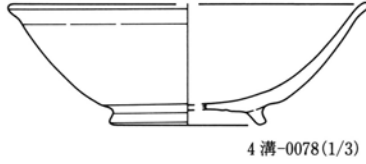
59号土坑【埋土】不明。【重複】未命名ピット群近接。【形態】円形平面で底平坦（0.9×0.9×0.2m）。【遺物】なし。【備考】近世の桶埋設土坑か。

第II章 検出遺構と遺物

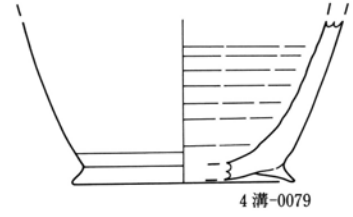
04号溝



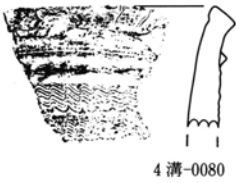
4溝-0077(1/3)



4溝-0078(1/3)



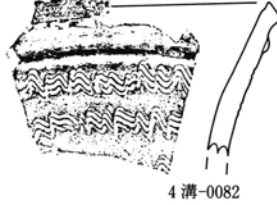
4溝-0079



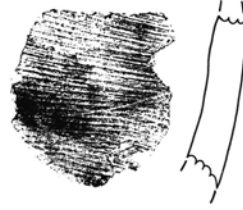
4溝-0080



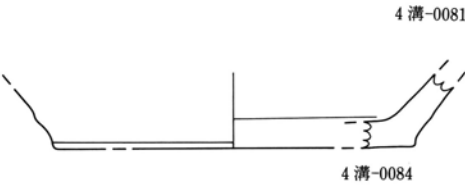
4溝-0081



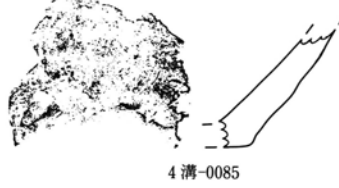
4溝-0082



4溝-0083

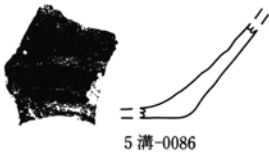


4溝-0084



4溝-0085

05号溝



5溝-0086

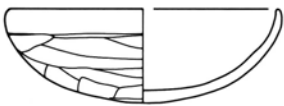


5溝-0087

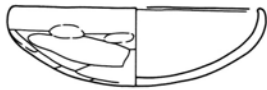


5溝-2088(1/1)

06号溝



6溝-0088(1/3)



6溝-0089(1/3)

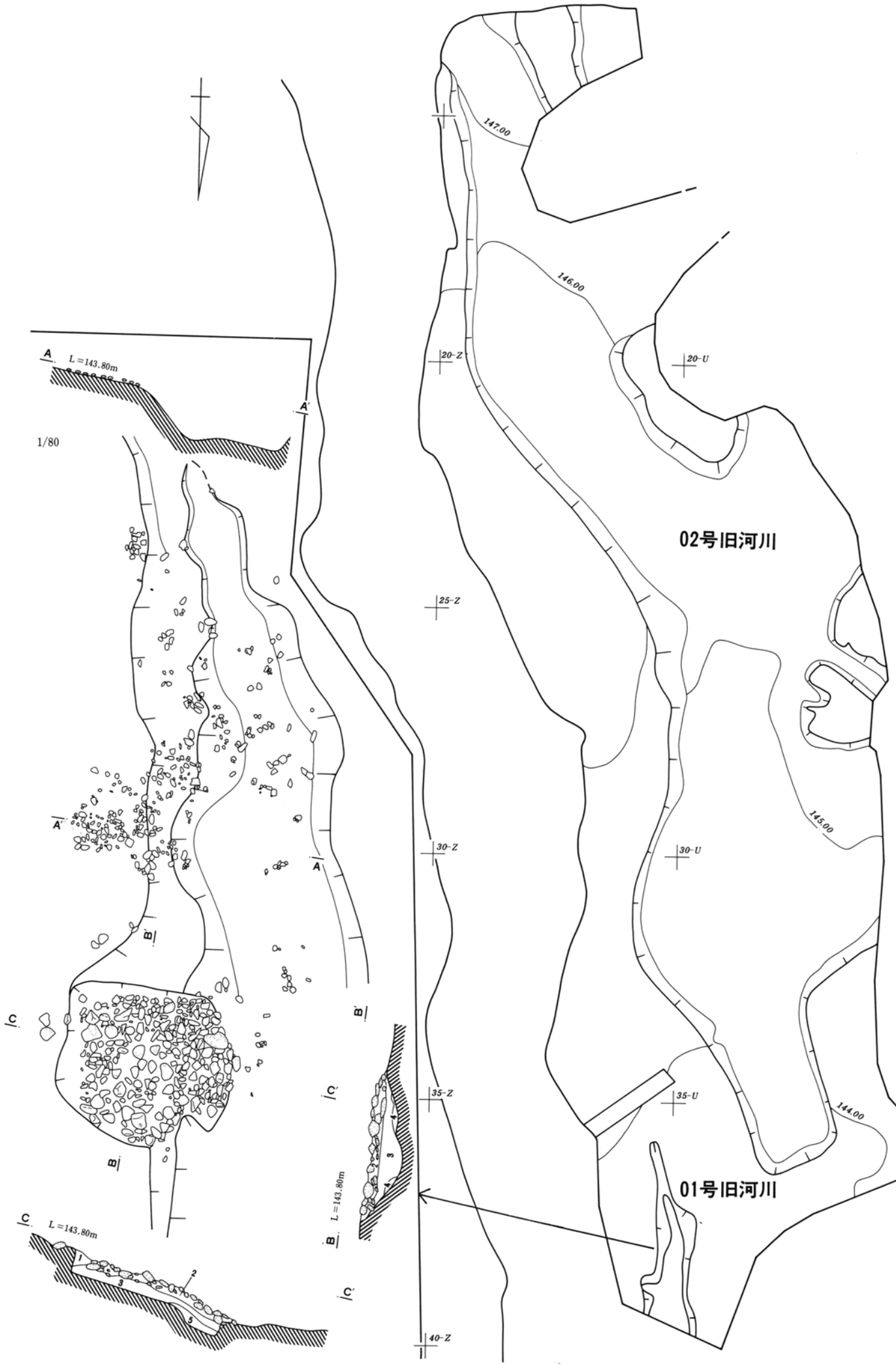


6溝-0090(1/3)

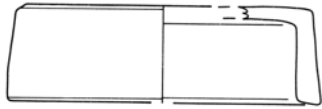


6溝-0091(1/3)

0 1 : 4 20cm



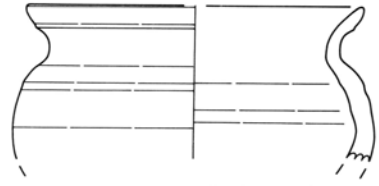
第II章 検出遺構と遺物



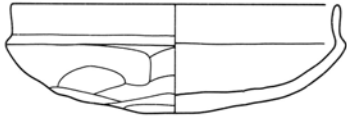
1 旧河-0492



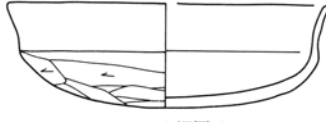
1 旧河-0657



1 旧河-0493 (1/4)



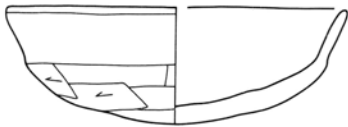
1 旧河-0473



1 旧河-0474



1 旧河-0475



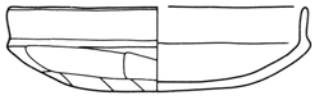
1 旧河-0476



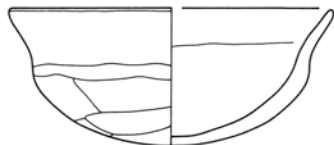
1 旧河-0477



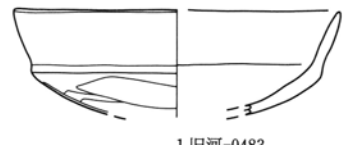
1 旧河-0479



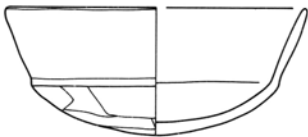
1 旧河-0480



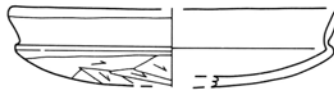
1 旧河-0481



1 旧河-0483



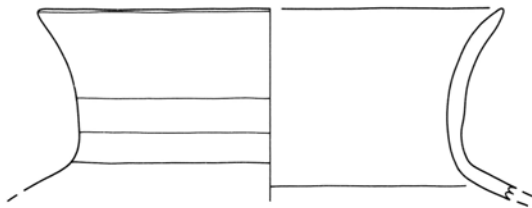
1 旧河-0484



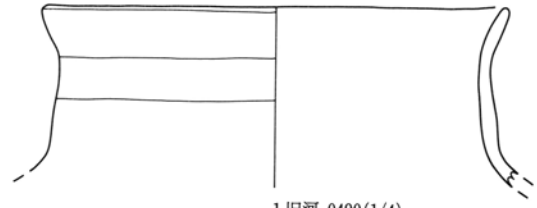
1 旧河-0486



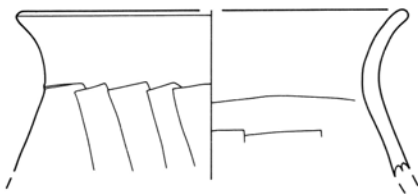
1 旧河-0487 (1/4)



1 旧河-0489 (1/4)



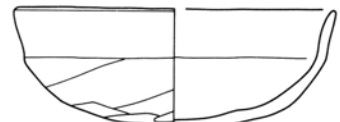
1 旧河-0490 (1/4)



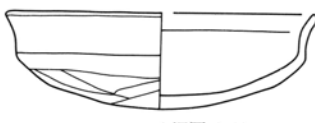
1 旧河-0491 (1/4)



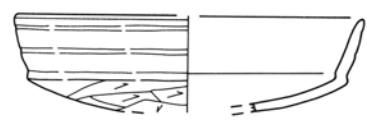
1 旧河-0488 (1/4)



2 旧河-0478



2 旧河-0482



2 旧河-0485

0 1 : 3 10cm



## 01・02号旧河川【図 P.115,116 PL.69,70】

本地区西端で検出した遺構群。

**01号旧河川【埋土】**1 黄褐色土粘土塊礫多 2 灰色粘土礫土器多 3 同前黒色土少 4 灰白色砂褐色粘土多 5 灰色粘土地山【重複】不明。【形態】台地際をほぼ南北に流れる（検出長19.2m上幅約4m）。右岸（東岸）に正方形に近い状態（2.5×2.5m）で自然礫を使った石敷がある。またその上流側でも右岸を中心に礫の分布が広がる。【遺物】近代・近世・古代の数片を除くと、大量の古墳時代土器片が石敷中に見られた。土師器坏(0473~77,79~81,83,84,86)・甕(0487~91)が出土。【備考】古墳時代後期の流路で、この部分は従属的な流れと思われる。そこに築かれた人為的遺構である石敷の性格は、残念ながら特定する資料に乏しい。

**02号旧河川【埋土】**不明。【重複】不明。【形態】やや蛇行しながら南北に流れる（検出長120m上幅22m以上）。【遺物】古墳時代土師器坏(0478,82,85)出土。【備考】古墳時代後期の流路で、これが本流だろう。

### 3 小型遺構と遺構外遺物

#### ア 北西側地区

60号土坑 (図P.119 PL.71)

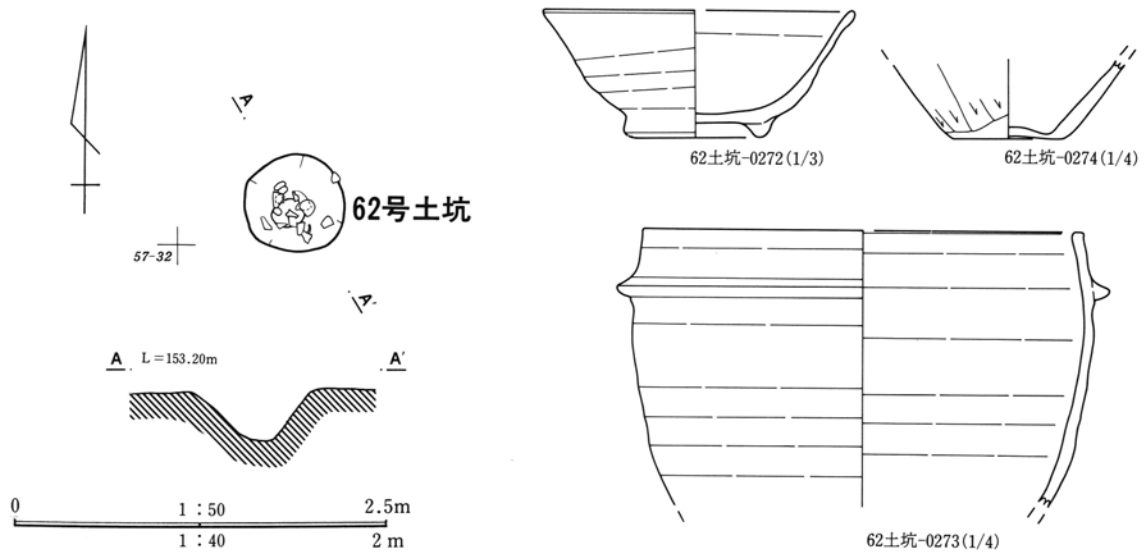
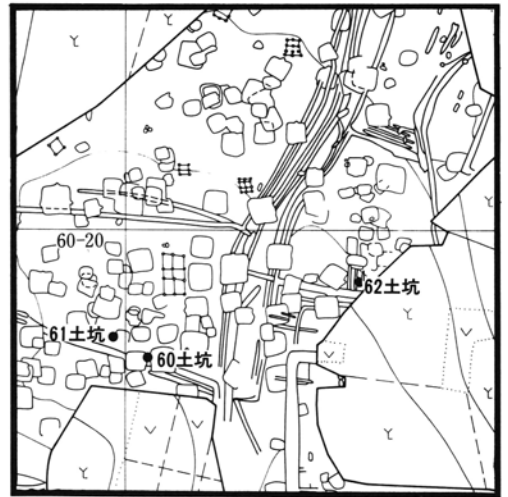
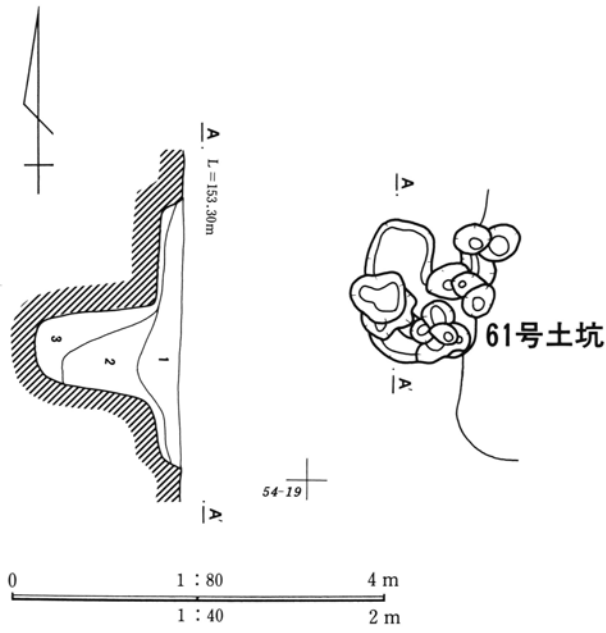
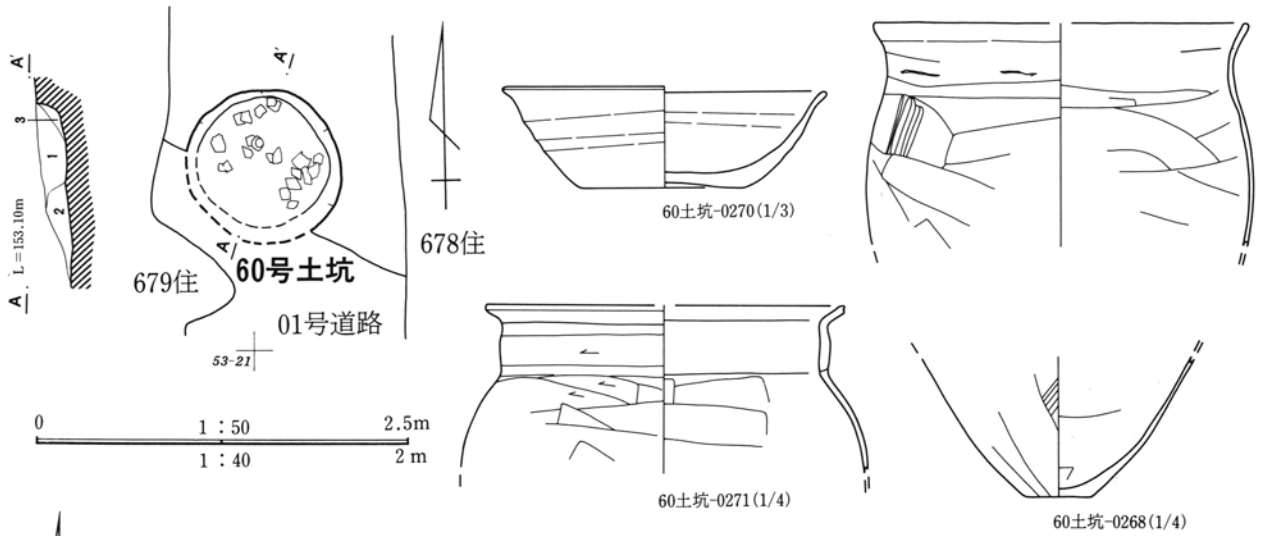
【位置】54-22G【埋土】1 暗褐色土ローム小塊焼土粒少 2 同前ローム塊混在 3 暗褐色土ローム主【重複】南西側を01号道路に壊される。東側で竖穴678号住、西側で679号住近接。【形態】円形平面で底平坦(1.0×0.8×0.15m)。【遺物】古代須恵器坏(0270)・土師器甕(0268,71)出土。【備考】性格不明だが、両竖穴とは同時存在ではない。古代。

61号土坑 (図P.119 PL.71)

【位置】55-20G【埋土】1 黒褐色土白色軽石ローム微粒多 2 同前ローム塊多 3 暗褐色土ローム塊多【重複】未命名小ピット重複。【形態】長方形平面中に柱穴状掘り込み(上長1.4m柱穴径0.5m深さ0.8m)。【遺物】鉄滓(2115)出土。【備考】時期性格不明。東側に少し離れて11号掘立がある。

62号土坑 (図P.119 PL.71)

【位置】58-33G【埋土】不明。【重複】なし。【形態】円形平面で掘り鉢形(上径0.6m底径0.2m深さ0.3m)。【遺物】古代須恵器碗(0272)・羽釜(0273)・土師器甕(0274)出土。【備考】性格不明。古代。



## 第II章 検出遺構と遺物

### 63号土坑 (図P.121 PL.72)

【位置】60-23G【埋土】<sup>1</sup>黒褐色土ローム塊混【重複】64号土坑より新。南側で小ピット重複。【形態】楕円形平面(1.9×0.7×0.3m)。【遺物】64号土坑と区分できない状態で銅製有孔円盤(2005)出土。【備考】近世の短冊形土坑か。

### 64号土坑 (図P.121 PL.72)

【位置】61-34G【埋土】<sup>2</sup>黒褐色土ローム塊多【重複】63号土坑より旧。【形態】長方形平面で北側に段がある(2.0×0.8×0.2m)。【遺物】同上。【備考】近世の短冊形土坑か。

### 65号土坑 (図P.121 PL.72)

【位置】61-34G【埋土】<sup>1</sup>暗褐色土ローム焼土粒少<sup>2</sup>茶褐色土ローム主【重複】西側で竪穴65号住床下土坑を壊す。【形態】楕円形(1.2×0.8×0.3m)。【遺物】牛歯(3004)出土。【備考】性格不明。近世か。

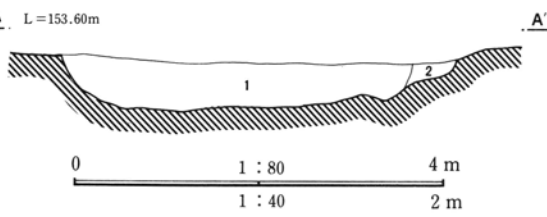
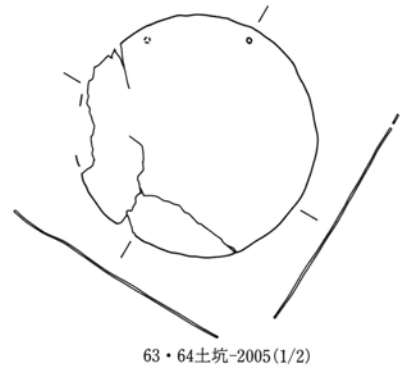
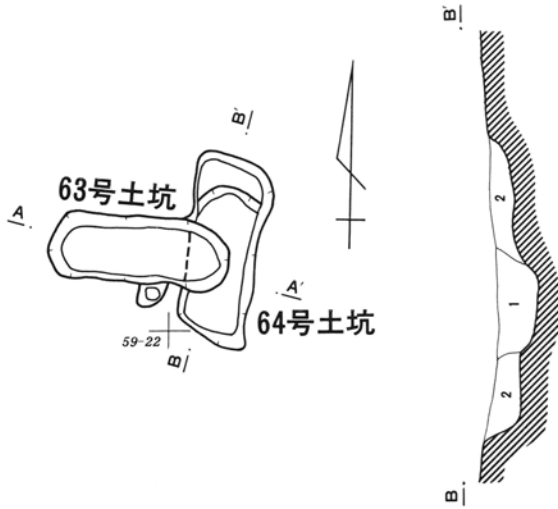
### 66号土坑 (図P.121 写真なし)

【位置】63-33G【埋土】<sup>1</sup>暗褐色土白色軽石多ローム粒少<sup>2</sup>同前炭化物多<sup>3</sup>茶褐色土白色軽石ローム粒混締弱【重複】なし。【形態】箱形(1.3×0.9×0.2m)。【遺物】古代須恵器羽釜(0336)出土。【備考】屋外燃焼施設か。古代。

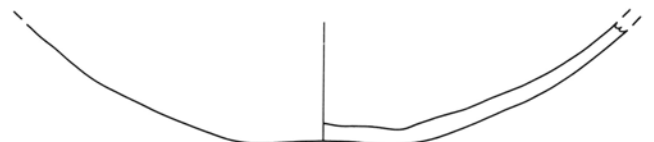
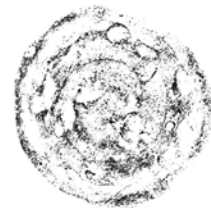
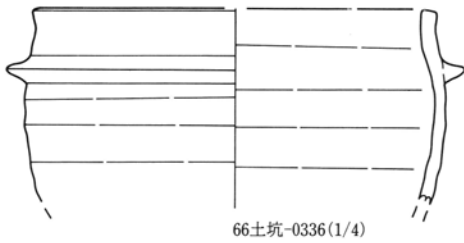
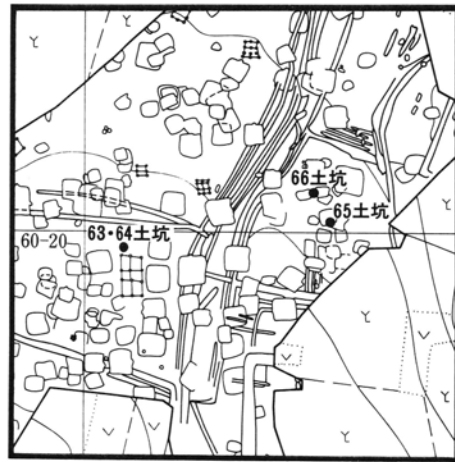
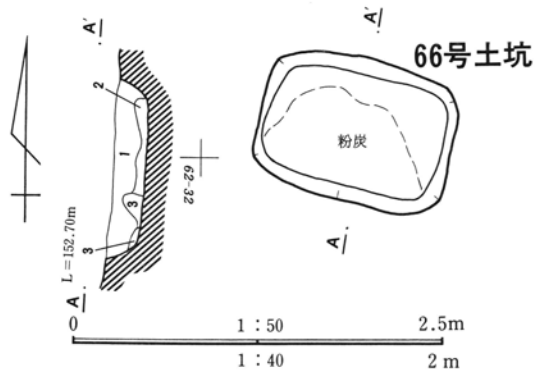
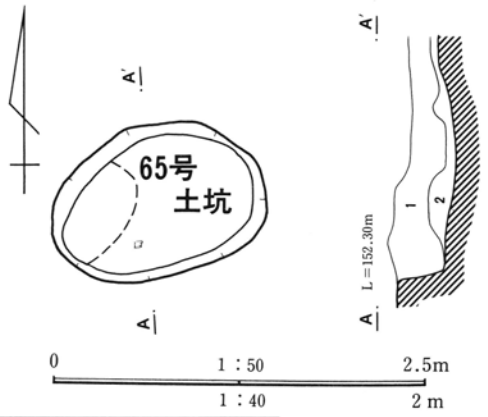
### 表面採集土器 (P.121 PL.75)

【位置】63-35G【状態】古代須恵器甕片(0337)が単独出土。【備考】調査時には遺構とされたが、掘り込みなどは不明。

3 小型遺構と遺構外遺物



61-33



63-35G-0337(1/6)

## 第II章 検出遺構と遺物

### 67号土坑 (図P.123 PL.72)

【位置】64-32G【埋土】不明。【重複】竪穴633号住より新か。【形態】楕円形状平面のもの3基が近接 (A1.0×1.0×0.4m, B1.1×1.2×0.2m, C1.1×0.8×0.4m)。【遺物】ABCを特定できない状態で古代須恵器碗(0281,83)・甕(0282)出土。【備考】古代。

### 68号土坑 (図P.123 PL.73)

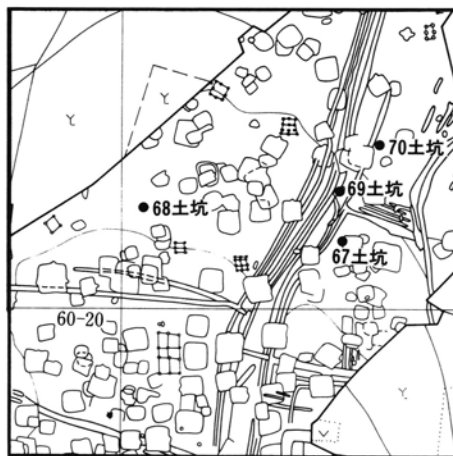
【位置】66-22G【埋土】1 暗褐色土ローム粒少締弱 2 暗黄褐色土ローム塊多【重複】東側の未命名土坑との関係不明。【形態】楕円形平面(1.2×1.0×0.5m)。【遺物】古代須恵器碗(0276,80)・土師器坏(0275)出土。【備考】古代。

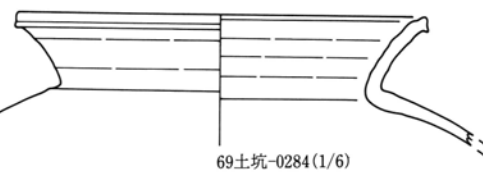
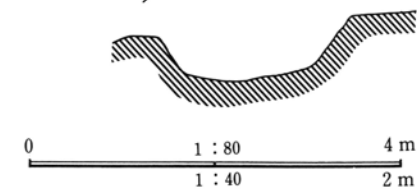
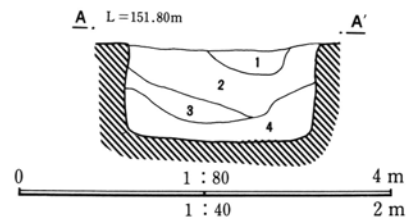
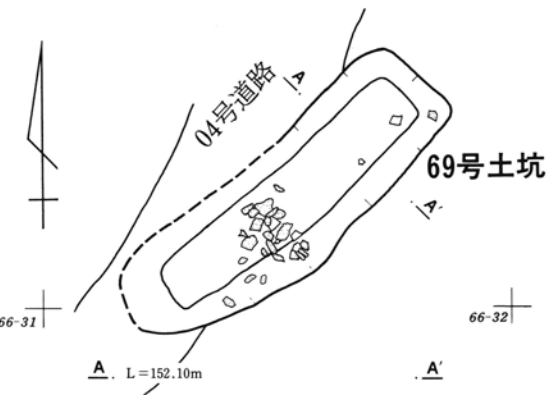
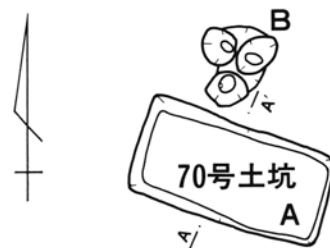
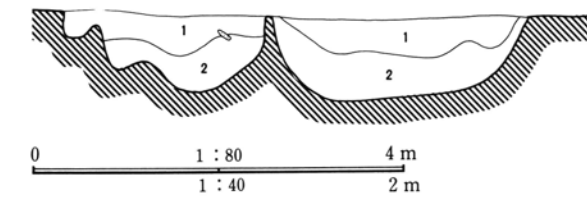
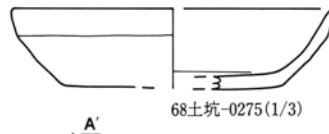
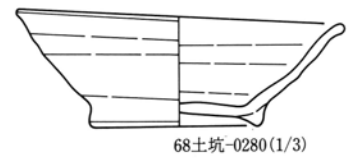
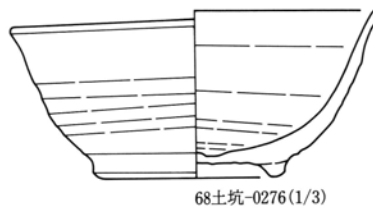
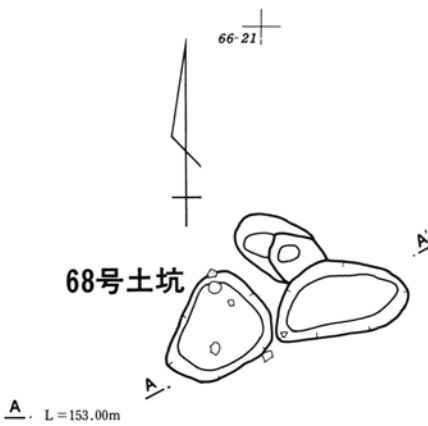
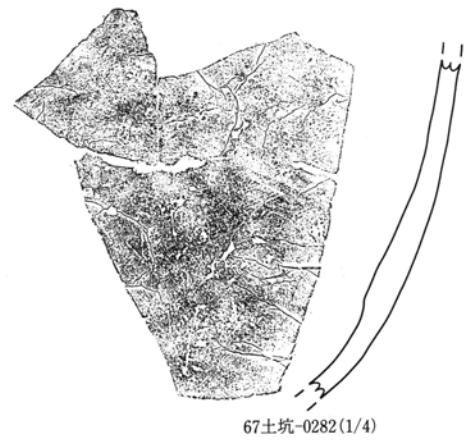
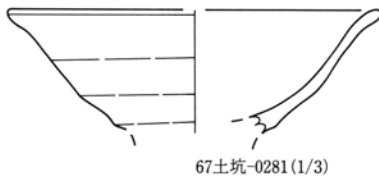
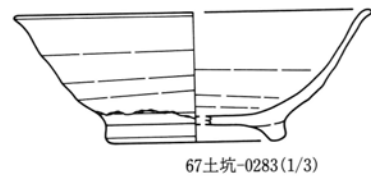
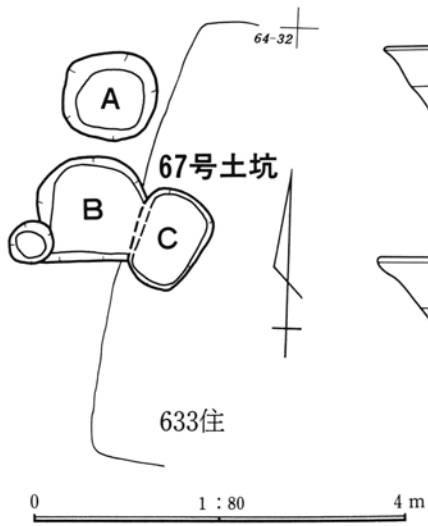
### 69号土坑 (図P.123 PL.73)

【位置】67-32G【埋土】不明。【重複】04号道路東側溝を壊す。【形態】短冊形(4.0×1.2×0.3m)。【遺物】古代須恵器甕片(0284)及び自然礫多く検出。【備考】近世の短冊形土坑。

### 70号土坑 (図P.123 PL.73)

【位置】69-34G【埋土】1 暗褐色土ローム塊軽石多固 2 同前黒褐色土締状含 3 同前砂含 4 暗褐色砂ローム塊多【重複】箱形土坑Aと小ピットBが接近。【形態】箱形土坑(A2.1×1.0×0.5m)と柱穴状ピット(B上径0.4m深さ0.5m)。【遺物】Bより石製紡錘車(1015)出土。【備考】Aは人為的埋没で近代か。Bは古代か。





## 第II章 検出遺構と遺物

### 71号土坑 (図P.125 PL.73)

【位置】73-25G【埋土】1 暗褐色土ローム塊含締弱 2 暗黄褐色土ローム主 3 同前ローム塊含締弱【重複】なし。【形態】2基の柱穴状ピット (A上径0.4m深さ0.3m, B0.7×0.5×0.4m)。【遺物】Aより古墳時代土師器小型甕(0340)出土。【備考】古墳時代。

### 72号土坑 (図P.125 PL.73,74)

【位置】76-32G【埋土】1 黒褐色土白色軽石ローム粒少焼土粒微 2 暗褐色土ローム塊多混【重複】東側で小ピットと重複。【形態】楕円形平面で底平坦 (3.0×1.4×0.4m)。【遺物】古代須恵器坏(0341,42,48)・盤(0347)出土。【備考】古代。

### 73号土坑 (図P.125 PL.74)

【位置】78-40G【埋土】1 耕作土 2 暗褐色土ローム小塊白色軽石少 3 同前ローム小塊含焼土炭化粒少 4 同前粘質 5 暗黄褐色土ローム塊暗褐色土混在締弱 6 茶褐色土ローム主 7 地山【重複】なし。【形態】柱穴状 (径0.3m深さ0.4m)。【遺物】古代土師器坏(0286)出土。【備考】古代。

### 74号土坑 (図P.125 PL.73)

【位置】87-41G【埋土】上 暗褐色土焼土粒ローム塊含締弱 下 ローム塊多【重複】なし。【形態】平面円形 (上径1.0m底径0.6m深さ0.3m)。【遺物】なし。【備考】時期不明。

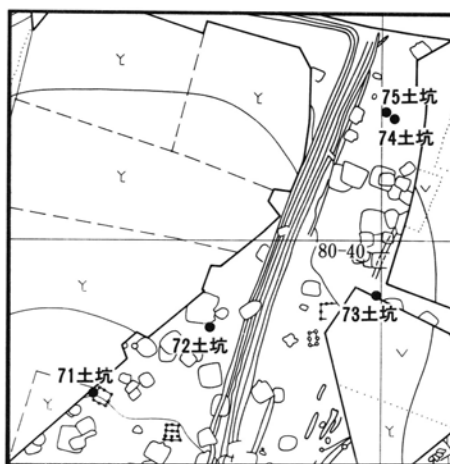
### 75号土坑 (図P.125 PL.73)

【位置】87-41G【埋土】1 暗褐色土ローム粒軽石多有締 2 黒褐色土ローム塊含無締 3 暗褐色土ローム塊多【重複】なし。【形態】柱穴状 (上径0.6m深さ0.5m)。【遺物】古代土師器坏(0344)出土。【備考】古代。

### 表面採集土器 (図P.125 PL.73,74)

【位置】72-29G【状態】古墳時代土師器高坏片(0339)が単独出土。【備考】調査時には遺構とされたが、掘り込みなどは不明。

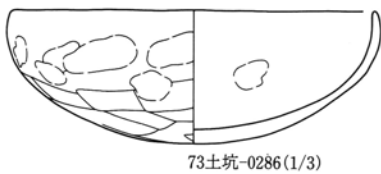
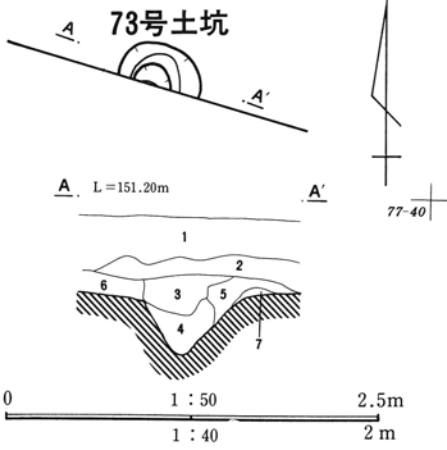
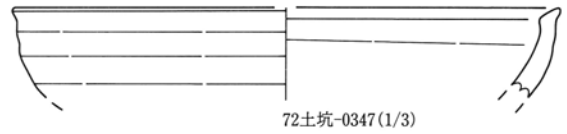
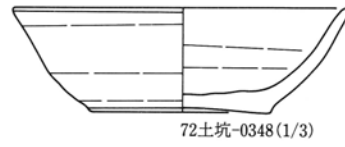
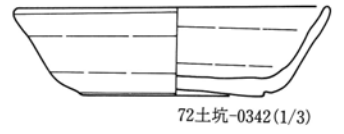
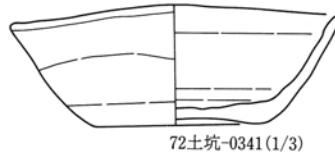
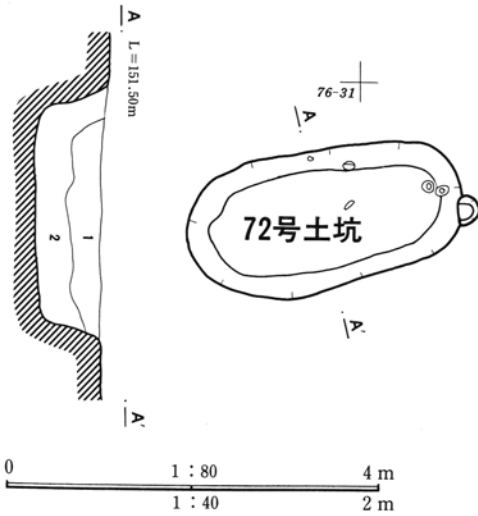
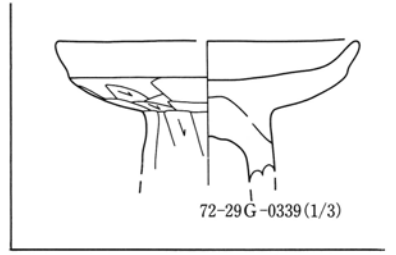
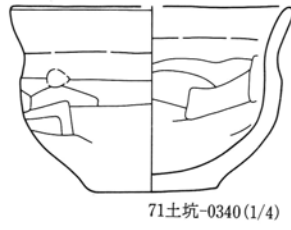
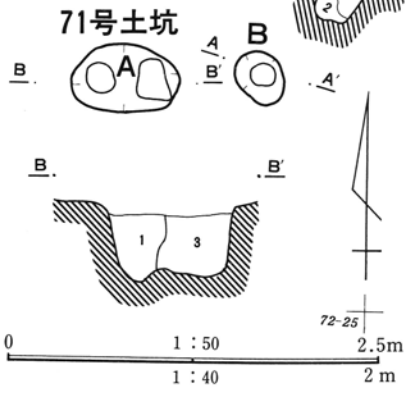
【位置】79-36G【状態】古墳時代土師器甕片(0346)が単独出土。【備考】同上。





3 小型遺構と遺構外遺物

A · B L = 152.10m

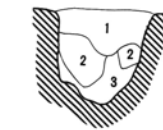


87-40

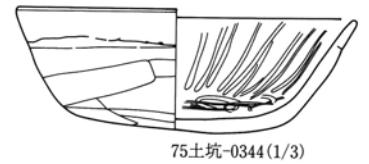
**75号土坑**



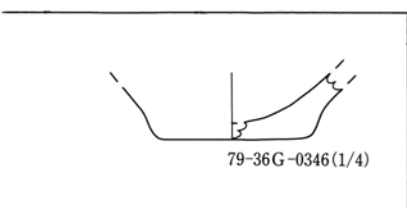
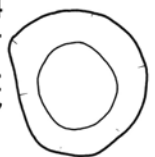
L = 150.70m

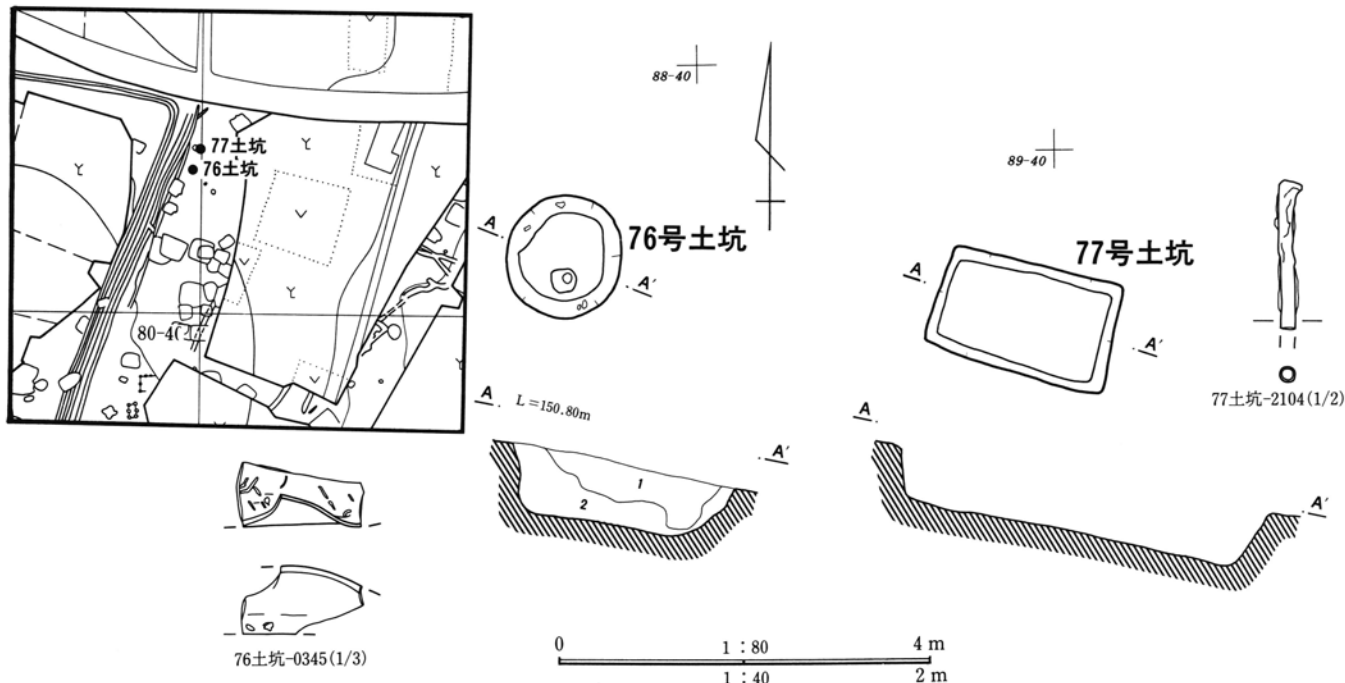


0 1 : 50 2.5m  
1 : 40 2 m



**74号土坑**





76号土坑 (図P.126 PL.74)

【位置】88-40G 【埋土】 1 暗褐色土軽石ローム塊含有締 2 同前ローム塊多締弱 【重複】なし。【形態】楕円形状平面で底平坦 (1.3×1.2×0.2m) で底に小ピット (径0.3m深さ0.4m)。【遺物】猿投灰釉耳皿(0345) 出土。【備考】古代。

77号土坑 (図P.126 PL.75)

【位置】89-40G 【埋土】 黒褐色土ローム塊多混 【重複】なし。【形態】箱形で底平坦 (2.0×1.2×0.3m)。【遺物】鉄製小角釘(2104) 出土。【備考】人為的埋没。近世。

遺構外遺物 (図 P.125,127,128 PL.73~77,94)

A 近世

39-40G 鉄角釘? (2097) 45-31G 瀬戸美濃志野釉小皿(0616) 49-05G 鉄角釘(2103) 53-10G 鉛銃弾(2007)  
53-22G 肥前磁器染付小杯(0648) 75-45G 砥沢石砥石(1029) 93-34G 馬歯(3005)

B 中世

52-25G 元豊通宝(2043) 54-12G 竜泉窯青磁蓮弁文碗(0660) 54-22G 元祐通宝(2039) 54-28G 瀬戸美濃  
灰釉小皿(0615) 56-22G 元豊通宝(2044) 57-12G 元豊通宝(2045,47)・至道元宝(2046) 57-16G 瀬戸美  
濃灰釉皿(0680) 60-26G 瓦質土器コネ鉢(0579) 65-14G 瀬戸美濃灰釉皿(0671) 67-33G 鉄鏃? (2100)  
76-27G 淳祐元宝(2035) 82-39G 永楽通宝(2042)

C 古代

38-40G 須恵器坏(0550) 39-39G 須恵器碗(0562)・坏(0542)・皿(0569) 39-40G 須恵器碗(0564)・坏(0555)  
44-39G 須恵器碗(0176)・羽釜(0177) 46-31G 石製紡錘車(1025) 47-19G 須恵器碗(0610) 60-24G 須恵  
器坏(0545) 60-26G 須恵器甕(0573) 60-31G 土錘(0618) 60-32G 土錘(0617) 63-35G 須恵器甕(0337)  
64-28G 須恵器皿(0503)・土師器坏(0528)

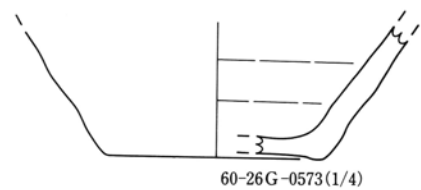
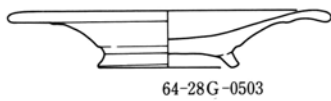
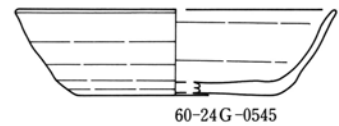
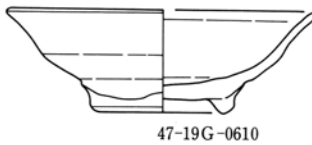
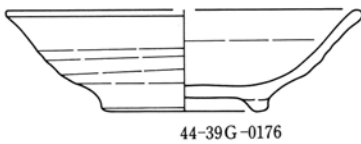
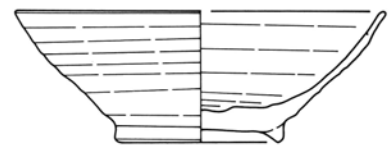
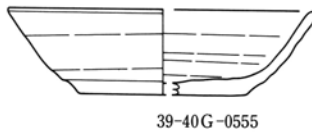
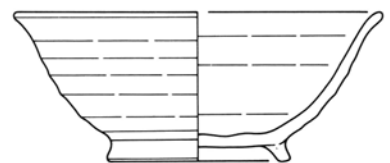
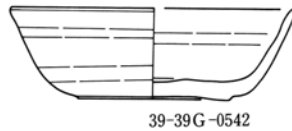
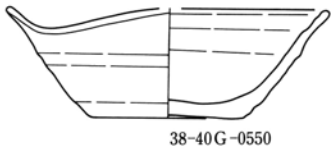
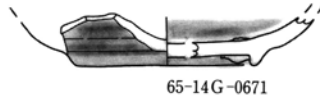
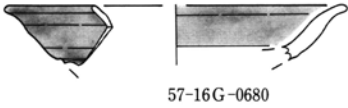
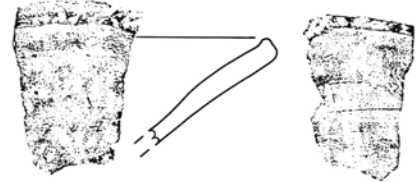
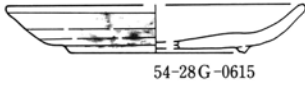
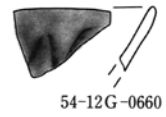
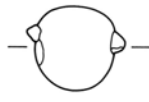
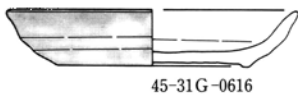
D 古墳時代

62-18G 滑石白玉(1023) 72-29G 土師器高坏(0339) 77-36G 滑石白玉(1027) 79-36G 土師器甕(0346)

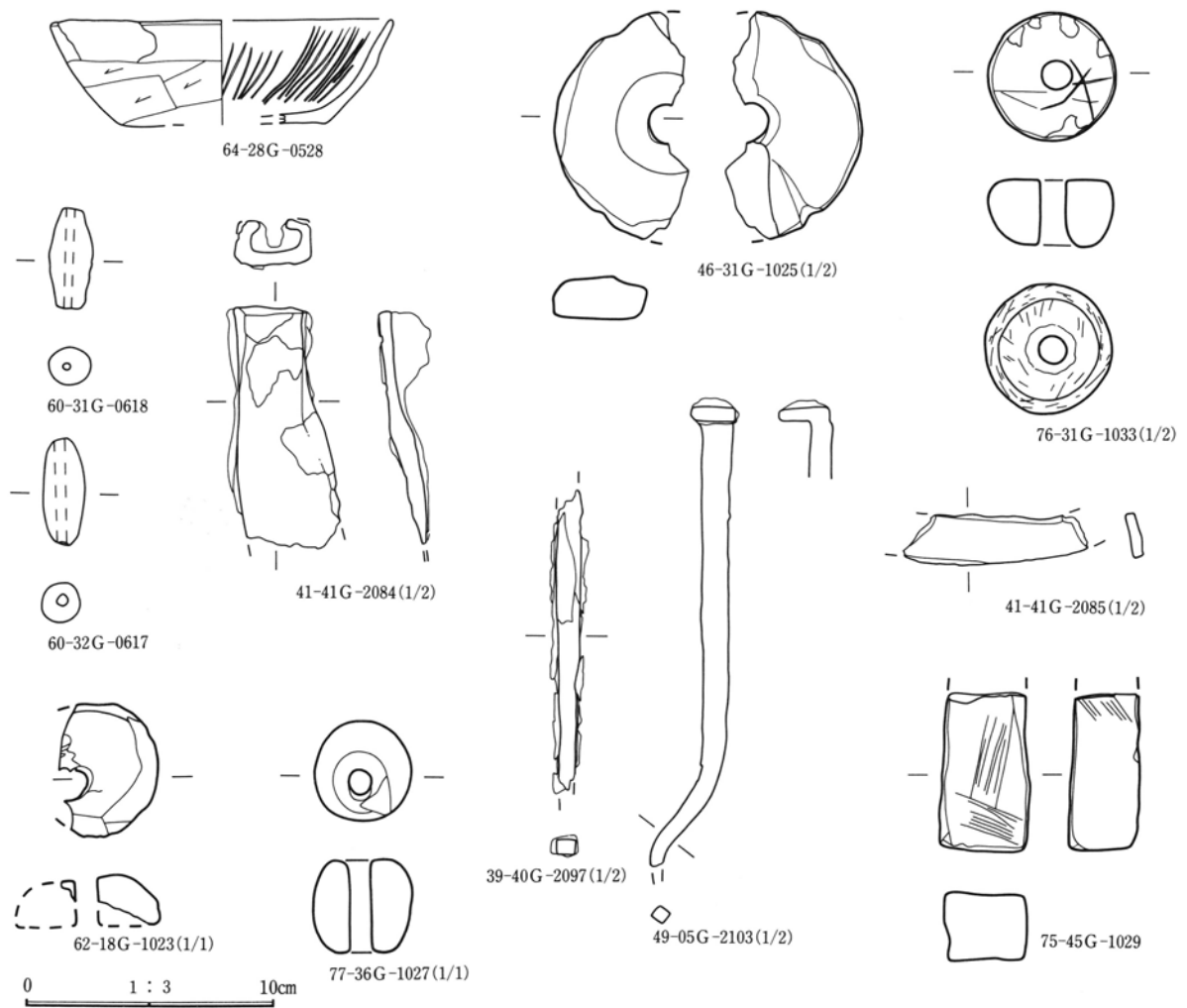
E 時期不明

41-41G 袋状鉄斧(2084)・鉄製刀子? (2085) 65-13G 鉄滓(2123)

3 小型遺構と遺構外遺物



0 1 : 3 10cm



## イ 東側地区

### A 矢田稻荷久保

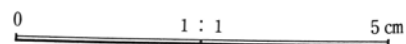
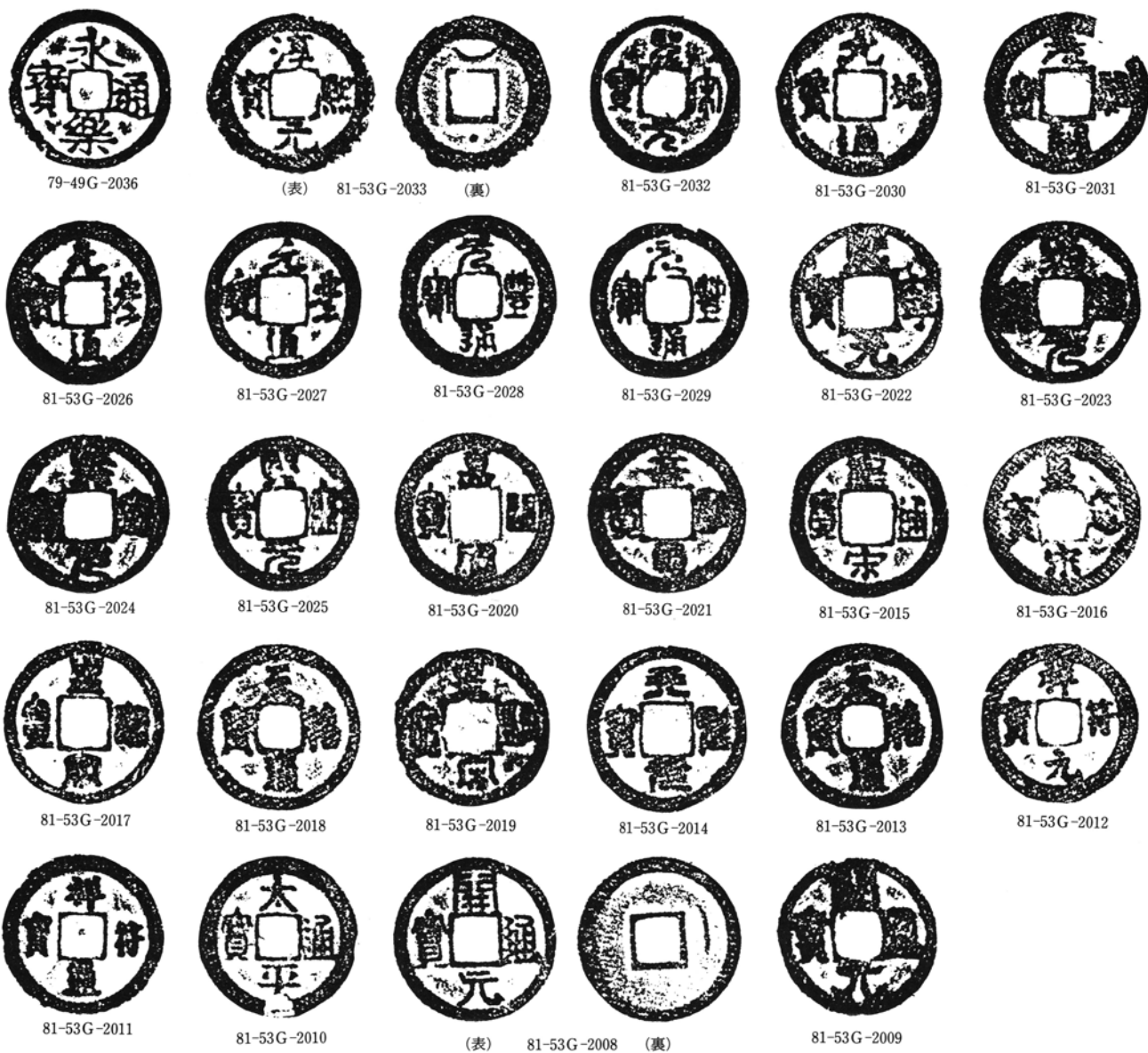
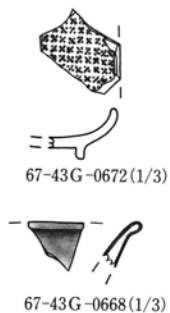
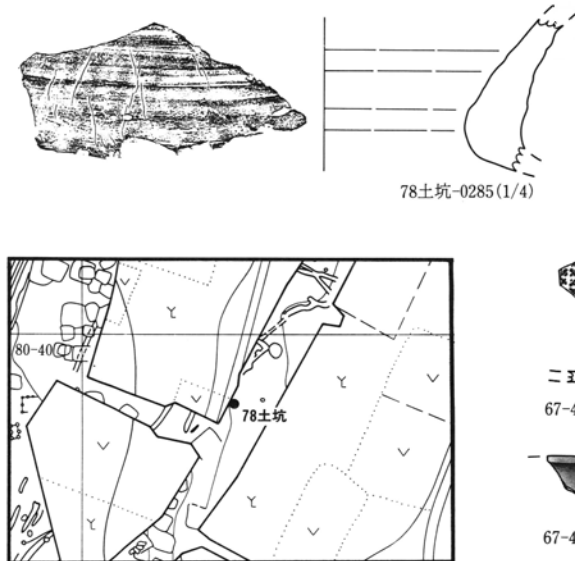
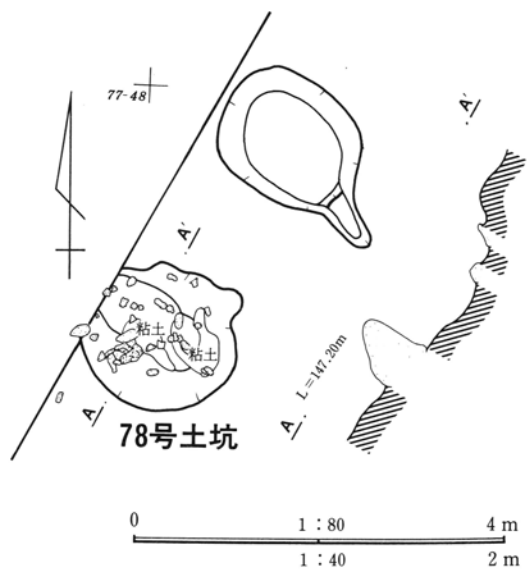
78号土坑 (図P.129, PL.76)

【位置】77-49G【埋土】不明。【重複】なし。【形態】平面楕円形 (1.8×1.6×0.2m)。【遺物】古代須恵器甕 (0285) 出土。他に自然礫多い。【備考】古代。

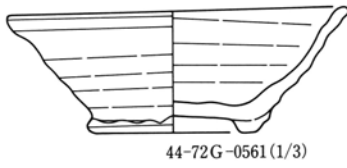
遺構外遺物 (図 P.129, 30 PL.5, 6, 76, 94)

- A 近世 67-43G 肥前磁器染付手塩皿(0672)
- B 中世 67-43G 竜泉窯青磁蓮弁文碗(0668) 79-49G 永楽通宝(2036) 81-53G 淳熙元宝(2033)・聖宋元宝(2032)・元祐通宝(2030,31)・元豊通宝(2026~29)・熙寧元宝(2022~25)・嘉祐通宝(2020,21)・皇宋通宝(2015~19)・天聖元宝(2014)・天禧通宝(2013)・祥符元宝(2012)・祥符通宝(2011)太平通宝(2010)・開元通宝(2008,09)
- C 古代 44-72G 須恵器碗(0561) 46-43G 須恵器坏(0553) 77-49G 軒丸瓦(0622) 88-57G 須恵器坏(0607)
- D 時期不明 88-56G 鉄製刀子?(2078)

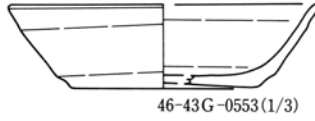
3 小型遺構と遺構外遺物



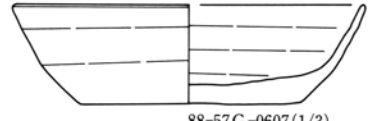
第II章 検出遺構と遺物



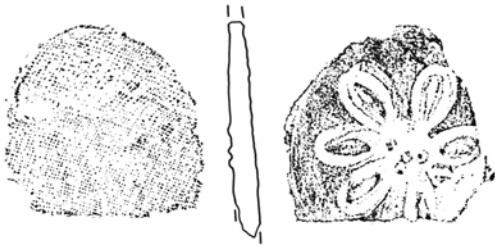
44-72G-0561 (1/3)



46-43G-0553 (1/3)



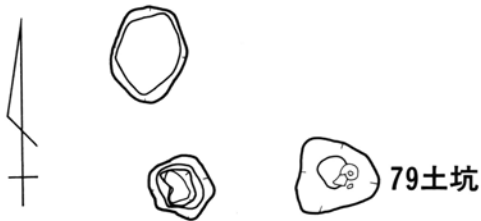
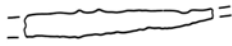
88-57G-0607 (1/3)



77-49G-0622 (1/4)



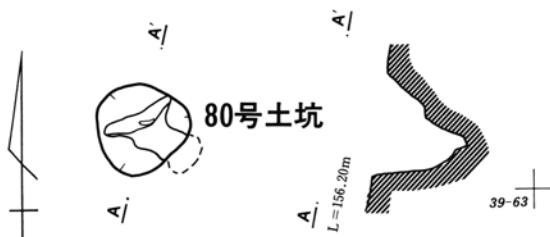
88-56G-2078 (1/2)



79土坑



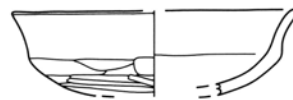
79土坑-0570 (1/3)



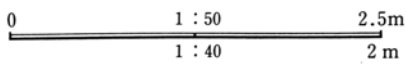
80号土坑

L=156.20m

39-63



80土坑-0332 (1/3)



## B 矢田谷頭

79号土坑 (図P.130 PL.76)

【位置】37-62G【埋土】不明。【重複】なし。【形態】平面不定形(0.9×0.8×0.3m)。【遺物】古代須恵器坏蓋(0570)出土。【備考】古代。

80号土坑 (図P.130 PL.76)

【位置】40-63G【埋土】不明。【重複】なし。【形態】柱穴状(径0.3m深さ0.5m)。【遺物】古墳時代土師器坏(0332)出土。【備考】周辺に同様のピットがいくつか存在。古墳時代。

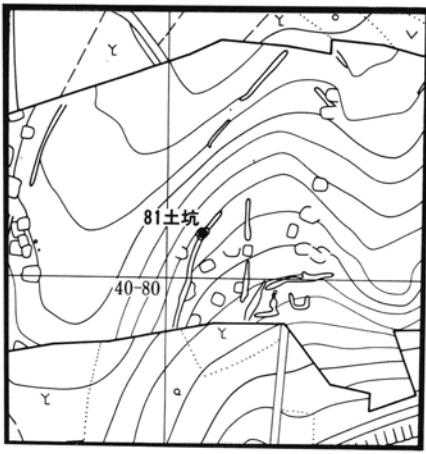
81号土坑 (図P.132 PL.76)

【位置】43-83G【埋土】1 暗褐色土締弱(62号溝埋土) 2 暗黄褐色土ローム主黄橙色軽石少 3 暗褐色土ローム主 【重複】62号溝より旧。【形態】方形碗形(2.7×2.5×1.6m)。【遺物】2層より縄文晩期甕(0267)が自然礫と共に出土。【備考】縄文晩期か。

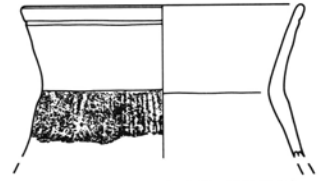
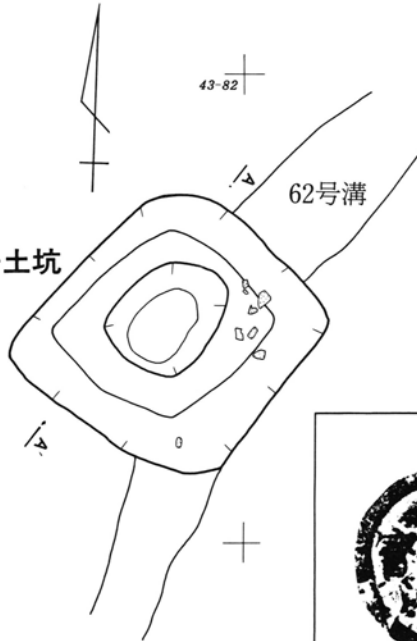
## 遺構外遺物 (図P.132 PL.78,94)

A 近世 40-68G 砥沢石砥石(1030) 46-84G 新寛永通宝(2037)

B 古代 43-83G 線刻平瓦(0599) 43-63G 石製紡錘車(1035) 46-63G 須恵器坏(0546)



81号土坑



81号坑-0267 (1/4)



A. L = 133.30mm

A.

0 1 : 80 4 m  
1 : 40 2 m

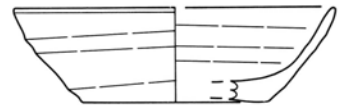


(表)

46-84G-2037 (1/1)



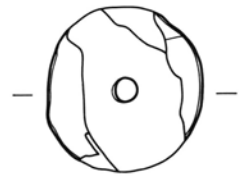
(裏)



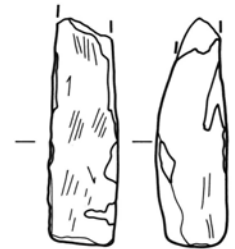
46-63G-0546 (1/3)



43-83G-0599 (1/4)

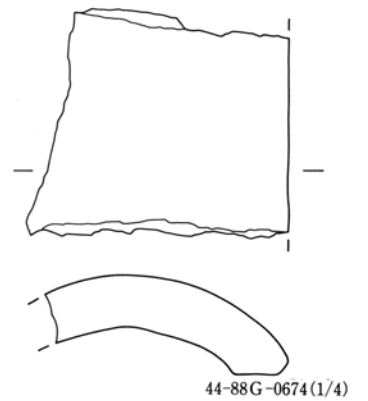
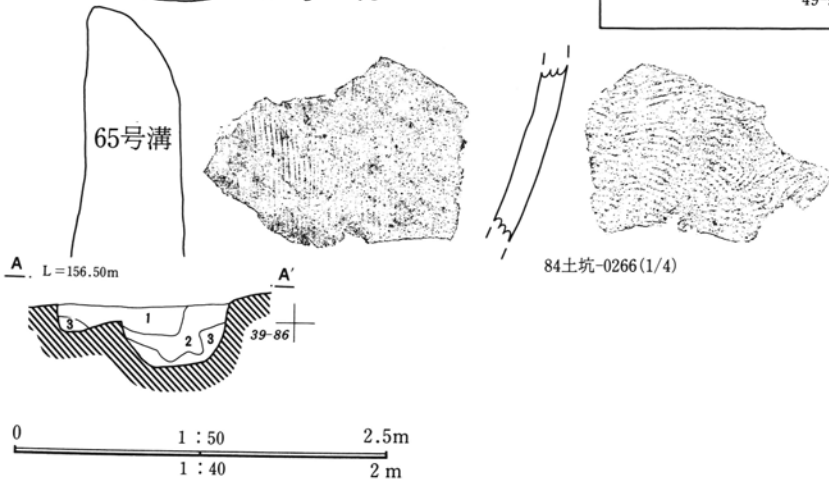
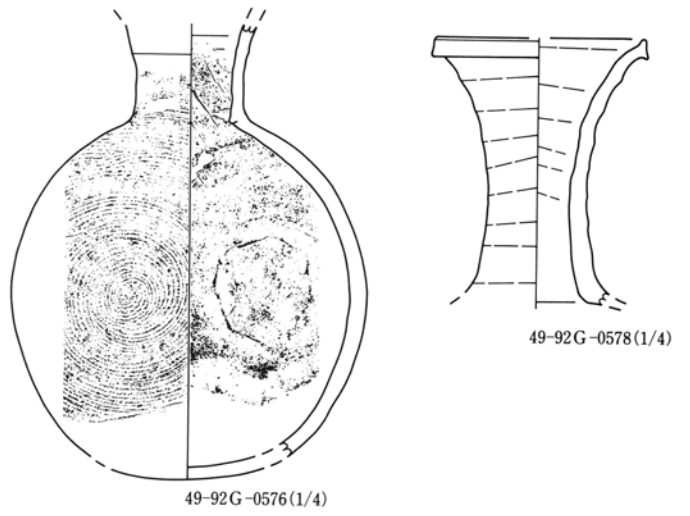
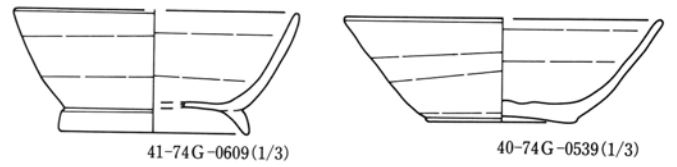
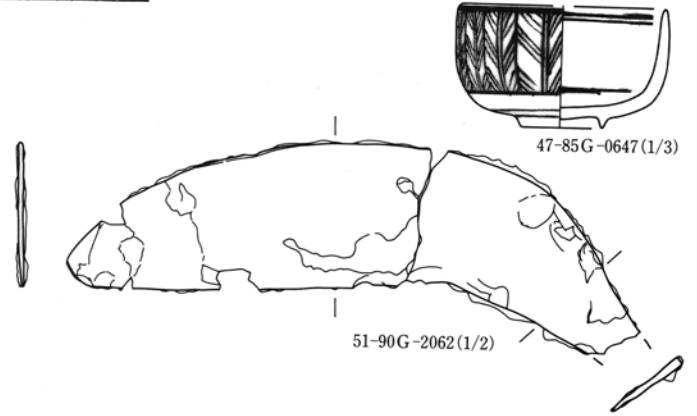
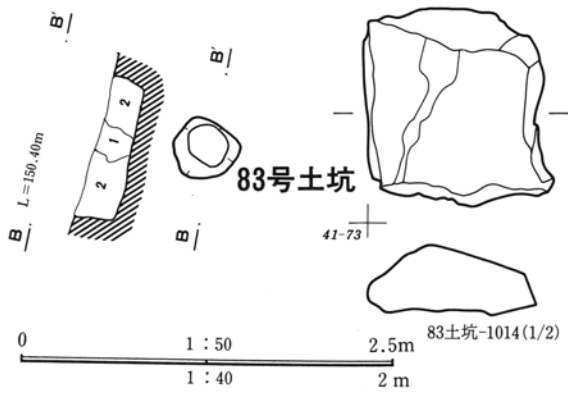
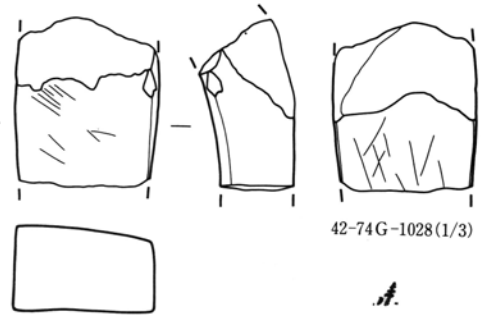
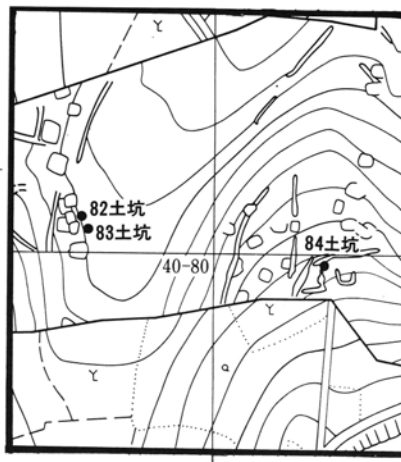
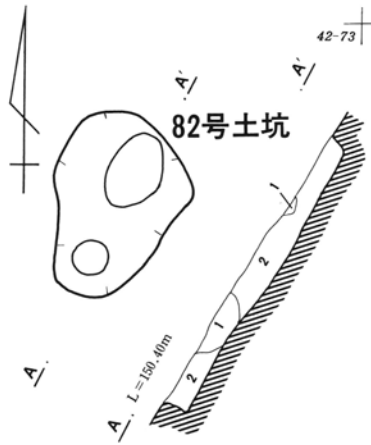


43-63G-1035 (1/2)



40-68G-1030 (1/3)





### C 矢田杉之久保

82号土坑 (図P.133 PL.78)

【位置】42-73G【埋土】1 赤色土焼土 2 黒色土焼土塊少【重複】なし。【形態】楕円形平面で浅い(1.2×0.9×0.1m)。【遺物】なし。【備考】古代か。

83号土坑 (図P.133 PL.78)

【位置】42-73G【埋土】1 赤色土焼土 2 黒色土焼土塊少【重複】なし。【形態】円形平面で浅い(径0.4m深さ0.2m)。【遺物】石製紡錘車未製品(1014)出土。【備考】古代。

遺構外遺物 (図 P.133 PL.6,78)

A 近世 42-74G 砥沢石砥石(1028) 47-85G 肥前磁器染付丸碗(0647) 51-90G 鉄鎌(2062)

B 古代 40-74G 須恵器坏(0539) 41-74G 須恵器碗(0609) 49-92G 須恵器長頸瓶(0576,78)

### D 矢田車地藏

84号土坑 (図P.133 PL.78)

【位置】40-86G【埋土】1 暗黄褐色土浅間YP 軽石黄色細粒多総無 2 暗褐色土ローム塊少総弱 3 茶褐色土ローム主地山に近い【重複】64・75号溝近接。【形態】不定形ピット状(1.2×1.0×0.4m)。【遺物】古代須恵器羽釜(0266)出土。【備考】古代か。

遺構外遺物

A 中世 44-88G 平瓦(0674)

### E 矢田天久沢

85号土坑 (図P.135 PL.79)

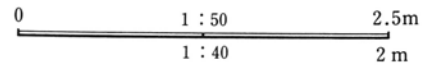
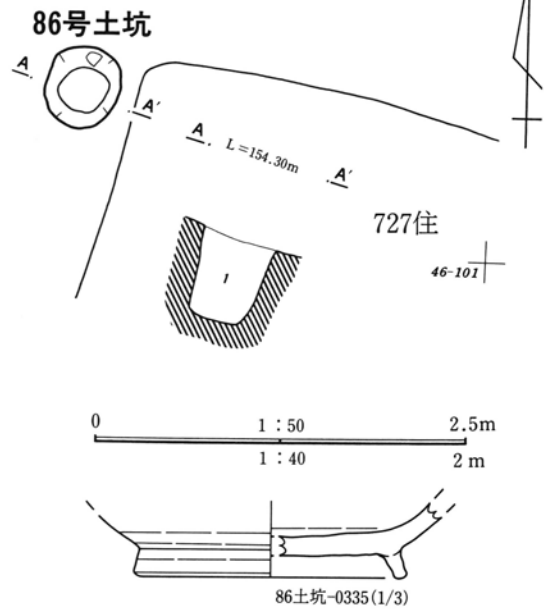
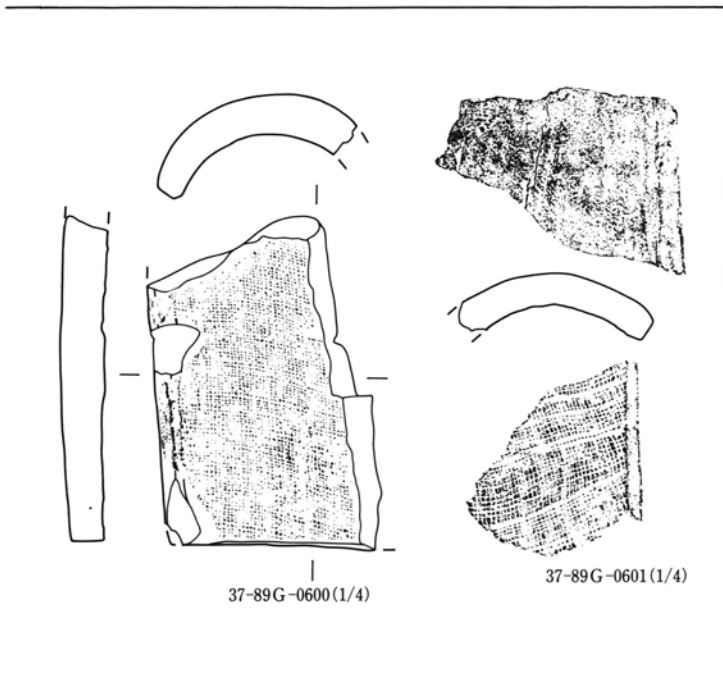
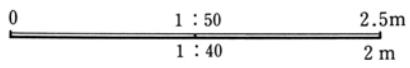
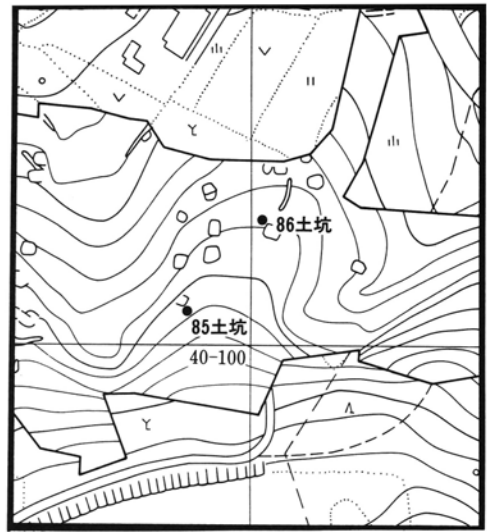
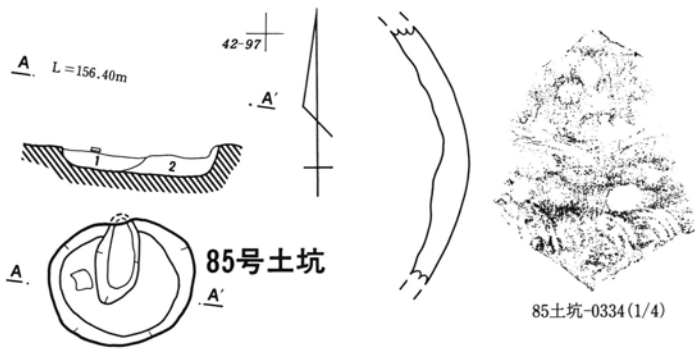
【位置】42-97G【埋土】1 暗褐色土ローム混 2 黒褐色土炭化物多【重複】なし。【形態】浅い皿状掘り込み(1.0×0.8×0.2m)の中央に楕円形ピット(0.6×0.3×0.5m)がある。【遺物】古代須恵器甕(0334)出土。【備考】古代。

86号土坑 (図P.135 PL.79)

【位置】47-101G【埋土】1 明褐色土微軽石少【重複】竪穴727号住近接。【形態】柱穴状(0.6×0.5×0.5m)。【遺物】古代須恵器碗(0335)出土。【備考】周辺に5個以上同様のピットがあり、柱穴列の可能性もある。古代。

遺構外遺物 (図 P.135 PL.79)

A 古代 37-89G 丸瓦(0600,01)



## ウ 南西側地区

### 87号土坑 (図P.137 PL.79)

【位置】12-14G【埋土】1 黒褐色土焼土粒多ローム軽石粒少 2 同前灰黄褐色粘質土含 3 覆土【重複】東側の掘り込みと同一遺構。【形態】8字形平面(長2.0m幅1.0・0.8m深さ0.3・0.4m)。【遺物】古代須恵器坏蓋(0288)出土。【備考】古代。

### 88号土坑 (図P.137 PL.79)

【位置】14-16G【埋土】1 暗褐色土ローム塊混 2 覆土【重複】北西側に未命名土坑近接。【形態】浅い不定形(3.3×2.2×0.1m)。【遺物】古代須恵器碗(0366)・坏(0365)出土。【備考】古代。

### 89号土坑 (図なし PL.80)

【位置】15-08G【埋土】不明。【重複】なし。【形態】平面楕円形。【遺物】鉄滓(2116)出土。【備考】時期不明。

### 90号土坑 (図P.137 PL.80)

【位置】15-26G【埋土】1 黒褐色土ローム塊混【重複】なし。【形態】東西方向に延びる短冊形(12.1×0.7×0.3m)。【遺物】銅製キセル雁首(2003)出土。【備考】調査前地境と一致。近世後期掘削か。

### 91号土坑 (図なし PL.80)

【位置】16-29G【埋土】不明。【重複】なし。【形態】浅い皿状掘り込み。【遺物】古代土師器甕(0290,91)出土。【備考】古代。

### 92号土坑 (図なし PL.80)

【位置】16-29G【埋土】不明。【重複】不明。【形態】平面方形で底平坦、竪穴状。【遺物】古代土師器甕(0289)出土。【備考】古代。

### 93号土坑 (図P.138 PL.81)

【位置】17-12G【埋土】不明。【重複】複数の遺構の重複か。【形態】浅い皿状掘り込みの中にピット(1.6×1.0×0.6m)。【遺物】一銭銅貨(2038)出土。【備考】近代。

### 94号土坑 (図P.138 PL.81)

【位置】17-11G【埋土】不明。【重複】竪穴727号住近接。【形態】平面楕円形で底平坦(1.3×0.9×0.3m)。【遺物】なし。【備考】時期性格不明。

### 95号土坑 (図P.138 PL.81)

【位置】17-11G【埋土】不明。【重複】なし。【形態】浅い楕円形状掘り込み(1.1×0.8×0.1m)。【遺物】なし。【備考】時期性格不明。

### 96号土坑 (図P.138 PL.81)

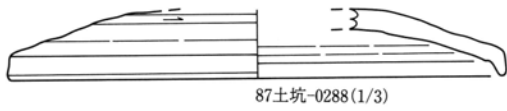
【位置】20-28G【埋土】1 黒褐色土白色軽石多ローム粒少 2 褐色土ローム塊主黒褐色土混 3 同前ローム主【重複】なし。【形態】不定形(4.8×1.6×0.3m)。【遺物】鉄滓(2113)出土。【備考】時期不明。

### 未命名遺構出土遺物

【位置】17-33G【状態】鉄刀子(2067)が小型遺構より出土。【備考】出土遺構の記録がないため、遺構の性格は不明。(図P.138 PL.81)

【位置】25-35G【状態】須恵器坏(0303)が小型遺構より出土。【備考】出土遺構の記録がないため、遺構の性格は不明。(図P.138 PL.83)

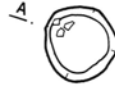
【位置】24-16G【状態】土師器坏(0300)が小型遺構より出土。【備考】出土遺構の記録がないため、遺構の性格は不明。(図P.138 PL.83)



87土坑-0288(1/3)

12-13

12-14

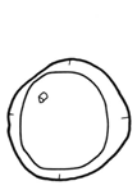


A

87号土坑



A'

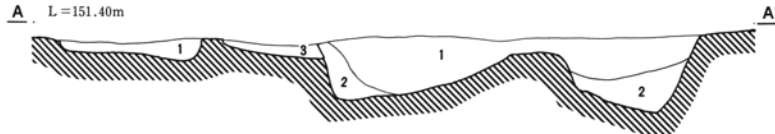


14-15



88号土坑

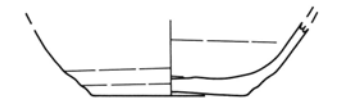
14-16



A L=151.40m

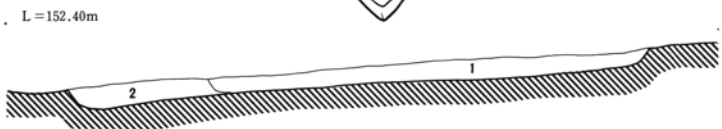
A'

0 1 : 80 4 m  
1 : 40 2 m



88土坑-0365(1/3)

A L=152.40m



A'

0 1 : 80 4 m  
1 : 40 2 m



88土坑-0366(1/3)



14-23

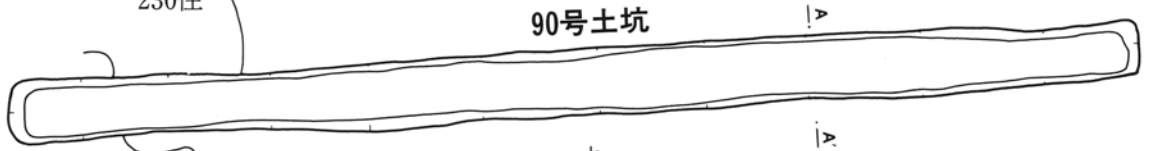
235住



90土坑-2003(1/2)

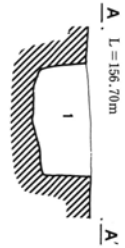
230住

90号土坑



A

A'

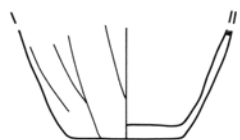
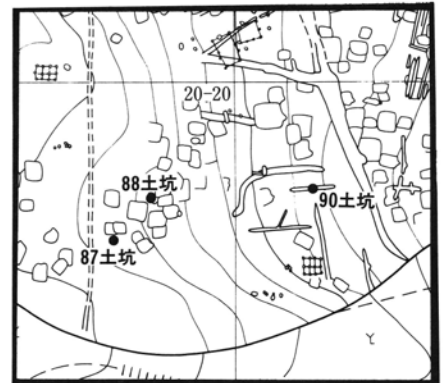


A L=156.70m

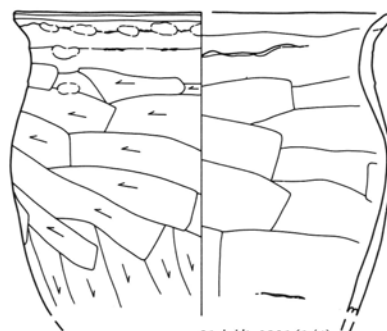
A'

14-24

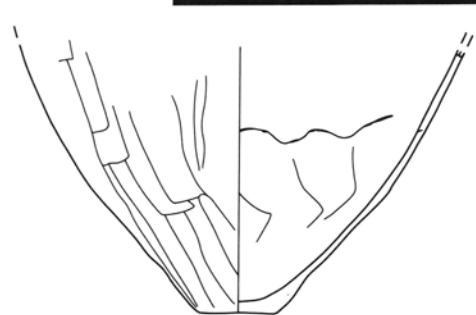
0 1 : 80 4 m  
1 : 40 2 m



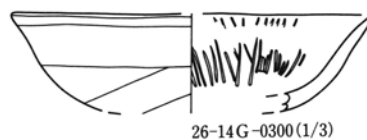
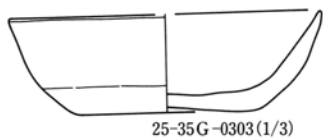
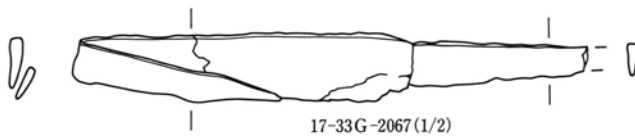
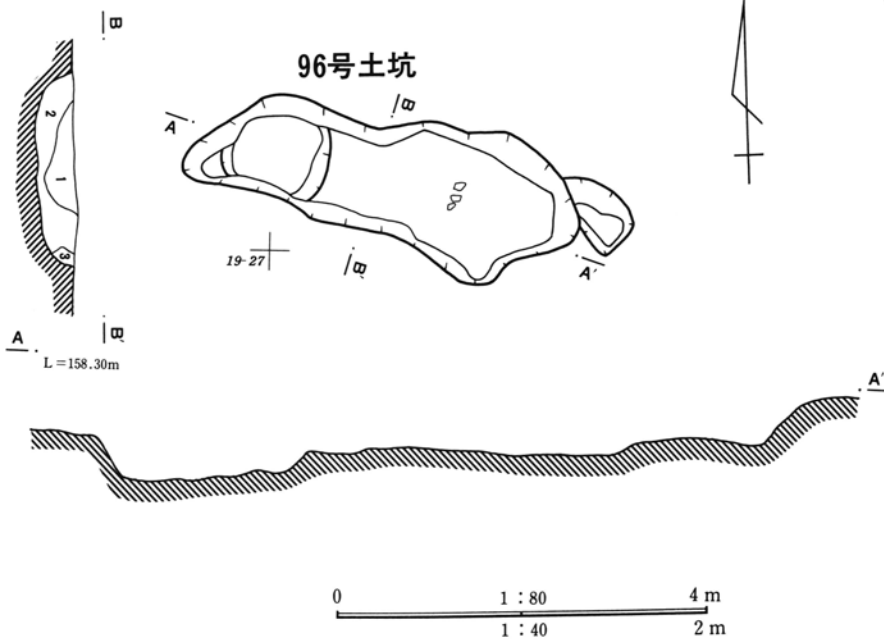
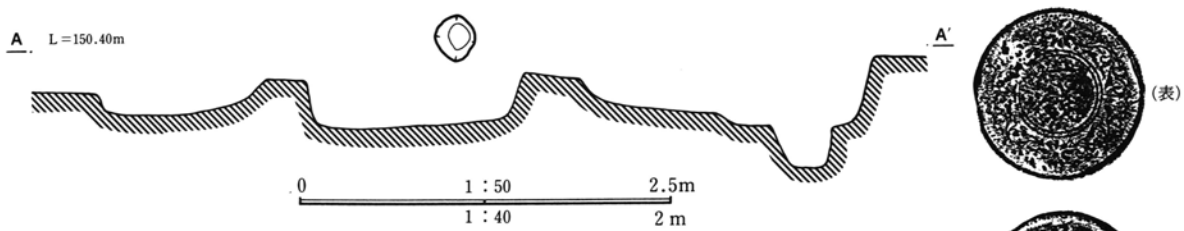
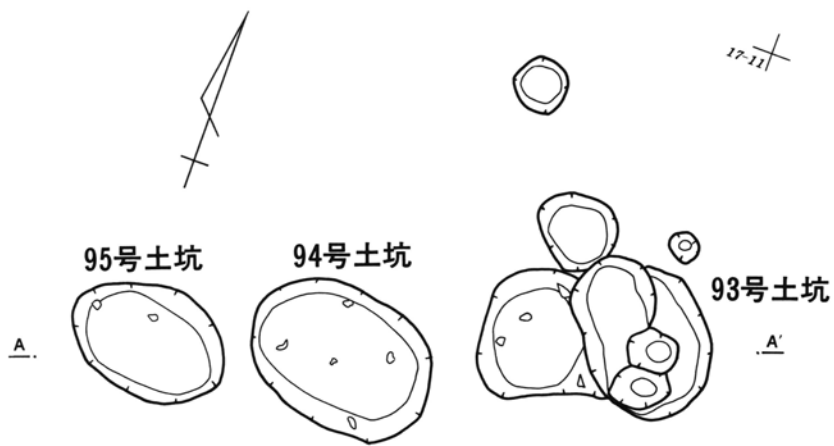
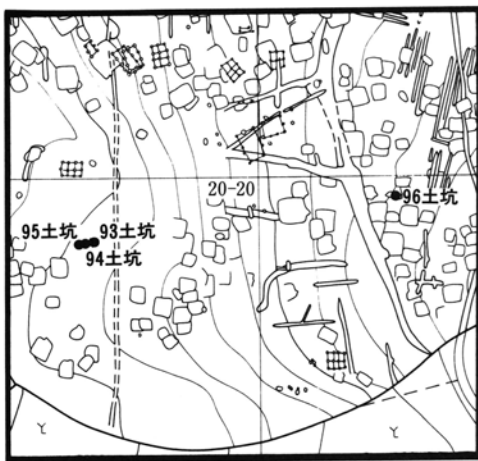
91土坑-0290(1/4)

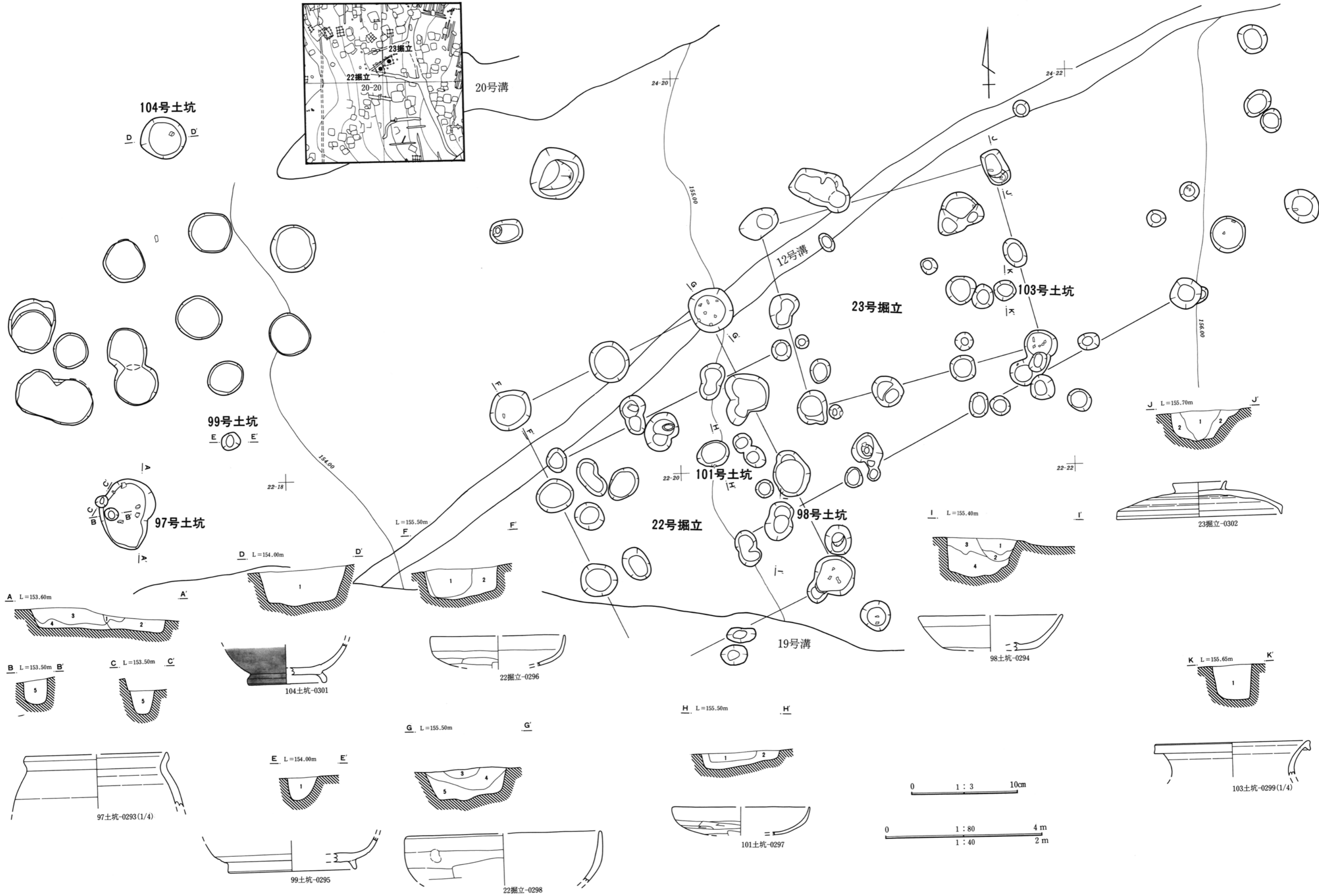
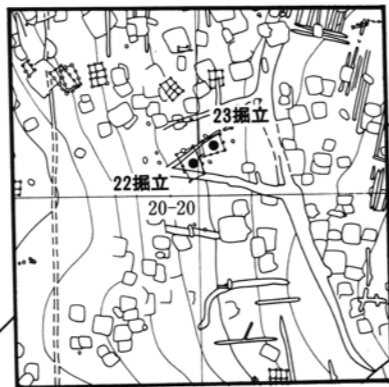


91土坑-0291(1/4)



92土坑-0289(1/4)

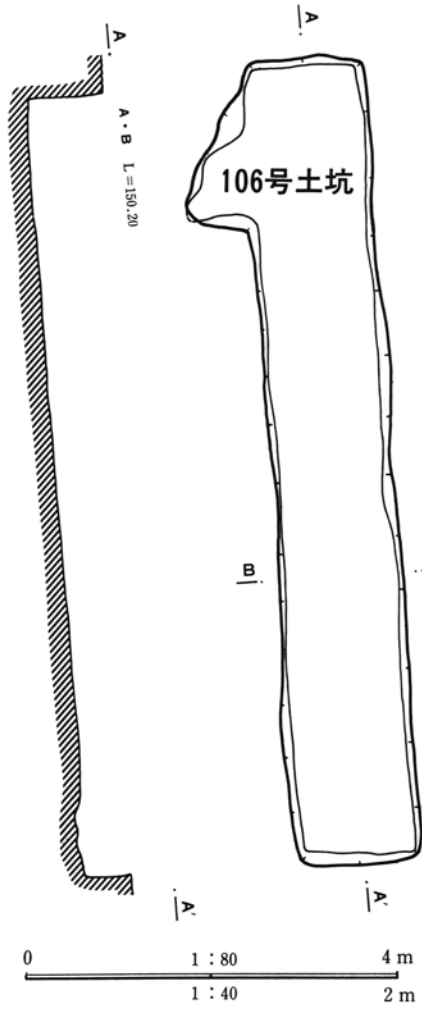




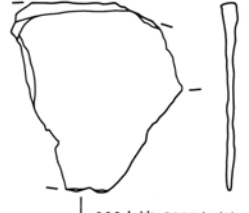




3 小型遺構と遺構外遺物

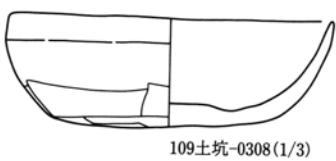
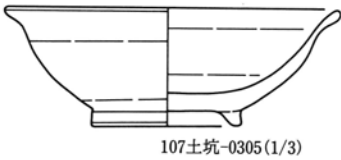
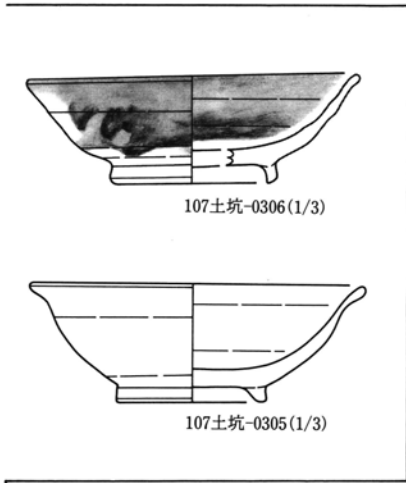
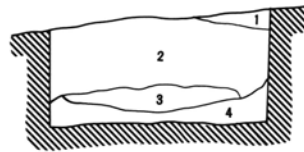


27-9

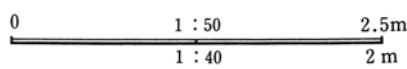
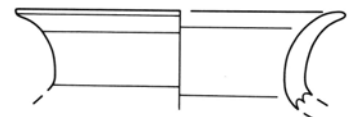
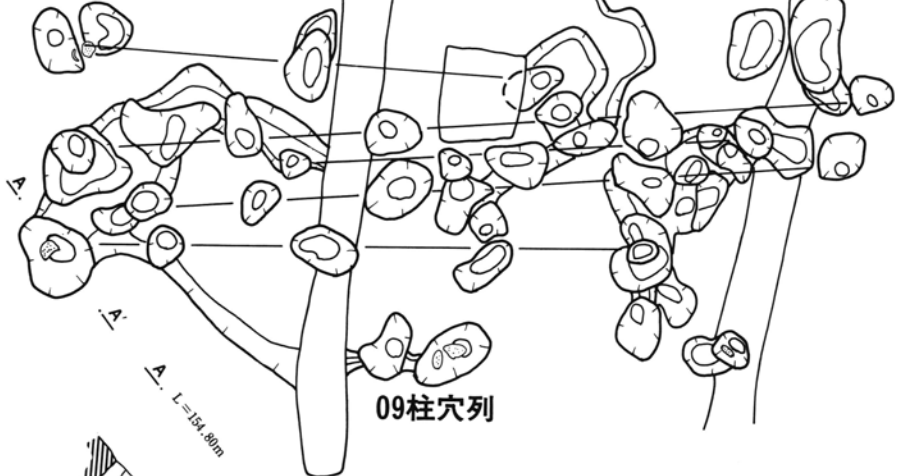


B.

B.



28-19



## 第II章 検出遺構と遺物

### 22号掘立 (図P.139 PL.81)

【埋土】1 黒褐色土炭化粒多焼土ローム粒含 2 暗褐色土ローム粒多焼土炭化粒少 3 黒褐色土焼土炭化粒多ローム粒含 4 同前焼土炭化粒多 5 暗茶褐色土ローム粒多締粘性強 【重複】12号溝より新か。19号溝と重複。内部にも98号土坑としたものを含めて重複掘立があった可能性。【形態】2×3間(5.6×7.5m)の南北棟。柱痕に比べ柱穴掘り方は大きい(径0.8~1.2m)。【遺物】古代土師器坏(0296)・鉢(0298)出土。【備考】同様主軸の03号掘立は北西20mを隔てている。調査時には土坑とした。古代。

### 23号掘立 (図P.139 PL.81)

【埋土】1 暗茶褐色土ローム小塊含 2 同前ローム塊多 【重複】12号溝と重複。【形態】2×3間(5.0×6.0m)東西棟。柱穴掘り方はやや大きい(径0.6~0.7m)。【遺物】古代須恵器坏蓋(0302)出土。【備考】調査時には土坑とする。古代。

### 97号土坑 (図P.139 PL.81)

【位置】22-18G 【埋土】1 覆乱 2 暗褐色土ローム粒混 3 同前ローム焼土炭化粒含 4 同前ローム粒多 5 同前粘質土ローム粒含 【重複】なし。【形態】浅い不定形掘り込み(1.8×1.2×0.3m)に柱穴状ピット(径0.3m深さ0.3m)がある。【遺物】古代土師器土釜(0293)出土。【備考】古代。異なった遺構の重複か。

### 98号土坑 (図P.139 PL.81)

【位置】22-21G 【埋土】1 暗褐色土ローム粒少 2 暗茶褐色粘質土ローム粒多 3 暗褐色土ローム粒含 4 暗茶褐色土ローム粒多焼土炭化粒含 【重複】22号掘立重複。【形態】2個の柱穴状ピット(0.9×0.7×0.5m)。【遺物】古代土師器坏(0294)出土。【備考】柱穴列の一部？

### 99号土坑 (図P.139 PL.81)

【位置】23-18G 【埋土】1 暗褐色土ローム焼土炭化粒含 【重複】なし。【形態】柱穴状(径0.35m深さ0.3m)。【遺物】古代須恵器碗(0295)出土。【備考】古代。

### 101号土坑 (図P.139 PL.81)

【位置】23-21G 【埋土】1 暗褐色土ローム粒多炭化焼土粒含 2 黒褐色土ローム塊混 【重複】22号掘立と重複。【形態】楕円形平面(1.0×0.6×0.2m)。【遺物】古代土師器坏(0297)出土。【備考】掘立の可能性ある柱穴群近接。古代。

### 103号土坑 (図P.139 PL.83)

【位置】23-22G 【埋土】1 暗茶褐色土ローム塊多焼土炭化粒少粘性弱 【重複】23号掘立と重複。【形態】柱穴状(径0.5m深さ0.5m)。【遺物】古代須恵器甕(0299)出土。【備考】古代。

### 104号土坑 (図P.139 PL.83)

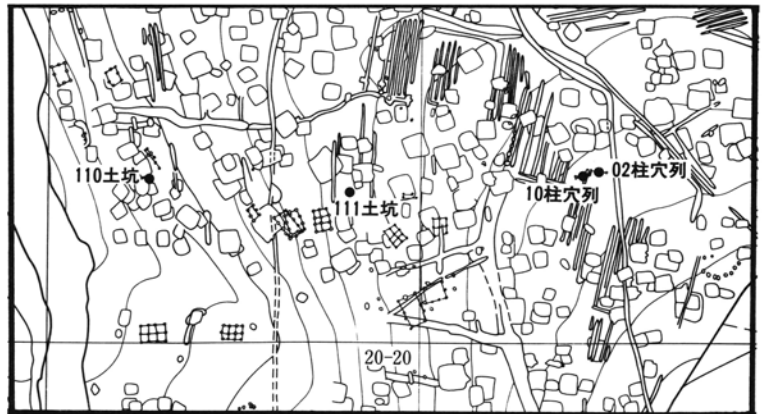
【位置】24-18G 【埋土】1 暗褐色土ローム炭化焼土粒軽石少 【重複】竪穴379号住近接。【形態】円形平面(径1.1m深さ0.5m)。【遺物】猿投灰釉碗(0301)出土。【備考】同様形態の未命名土坑が南側に多く、掘立の可能性もある。古代。

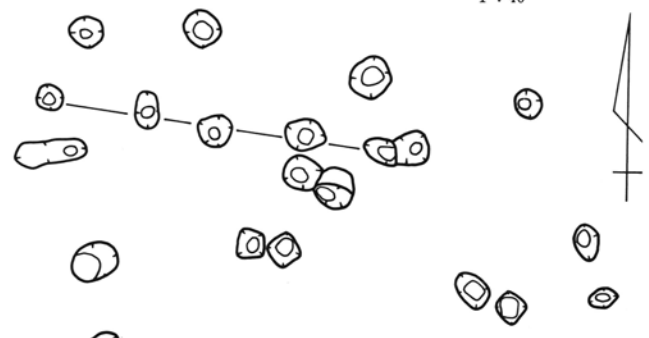
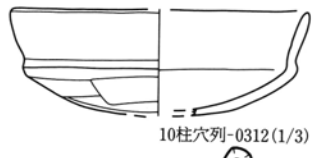
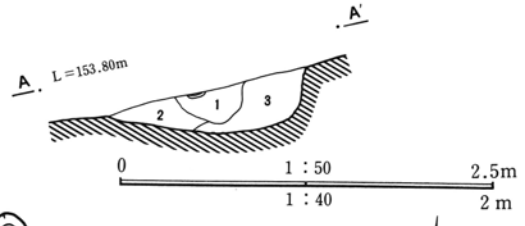
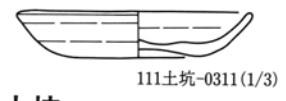
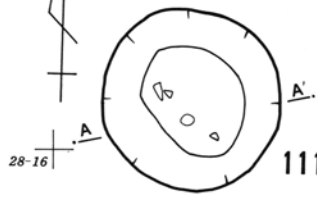
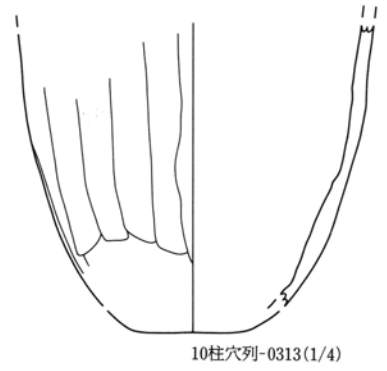
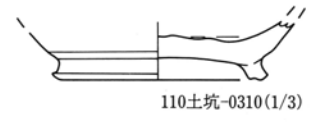
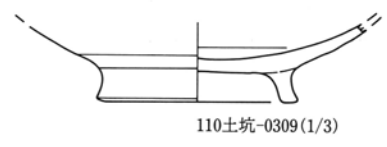
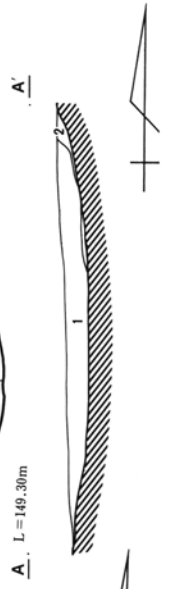
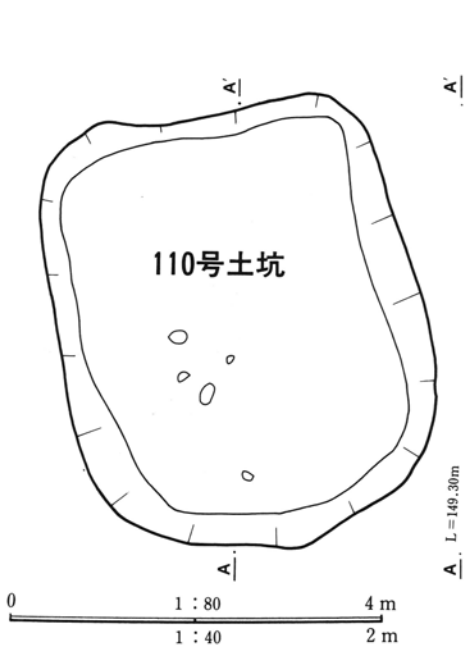
### 106号土坑 (図P.141 PL.83)

【位置】27-09G 【埋土】1 黒褐色土ローム粒多 2 褐色土ローム塊多 3 黒褐色土焼土粒微 4 黒色土ローム粒微 【重複】竪穴342号住と重複。北側の張り出しは未命名重複遺構。【形態】底平坦の短冊形(8.4×1.2×0.6m)。【遺物】鉄小鎌(2081)・包丁?(2082)・バネ(2083)出土。【備考】調査前地境と平行。近代の短冊形土坑。人為埋没。

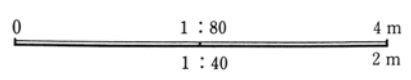
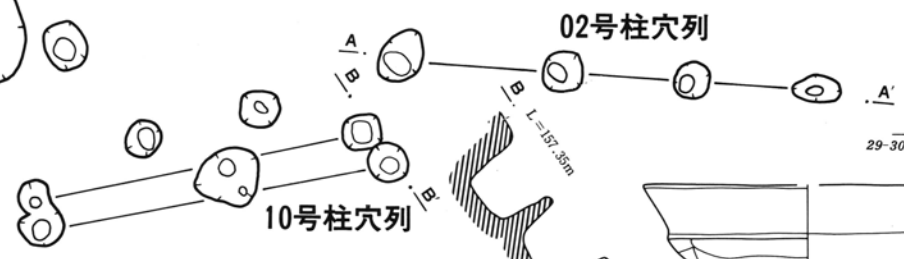
### 107号土坑 (図P.141 PL.84)

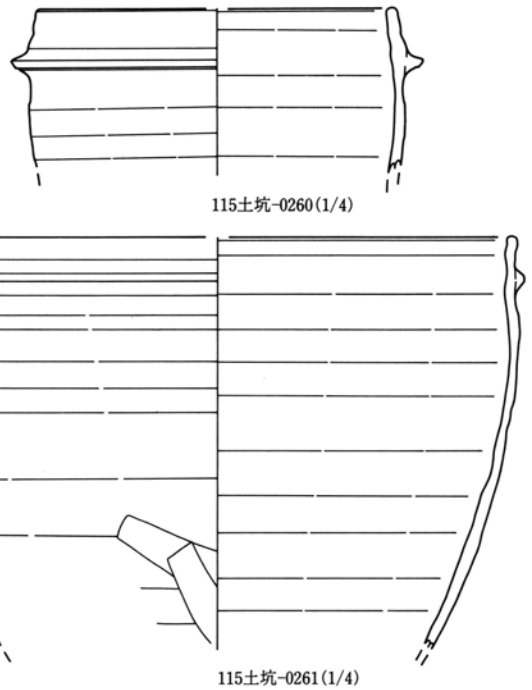
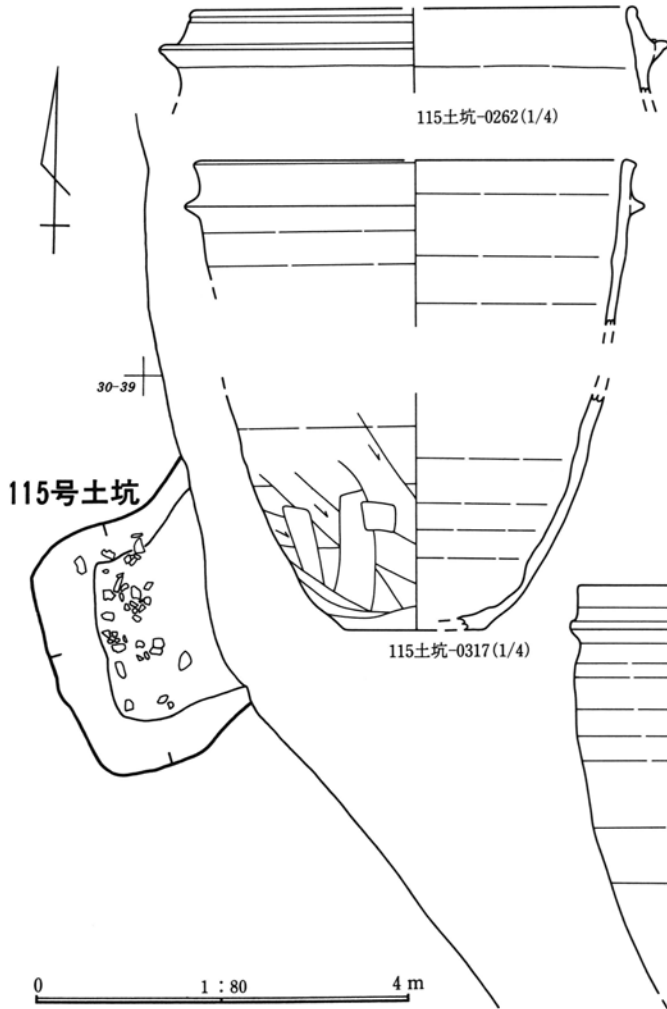
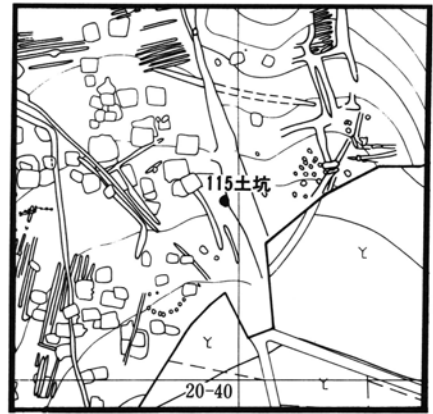
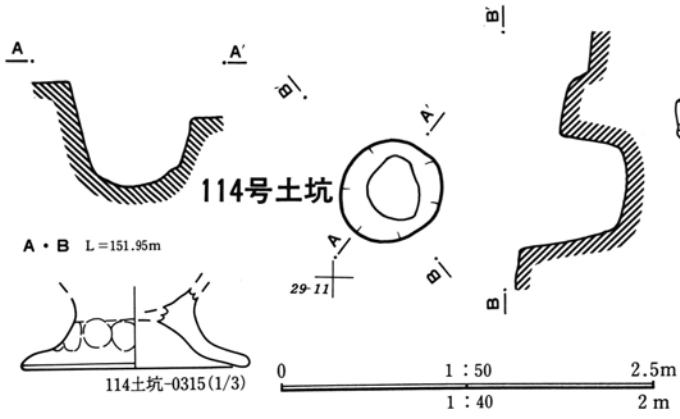
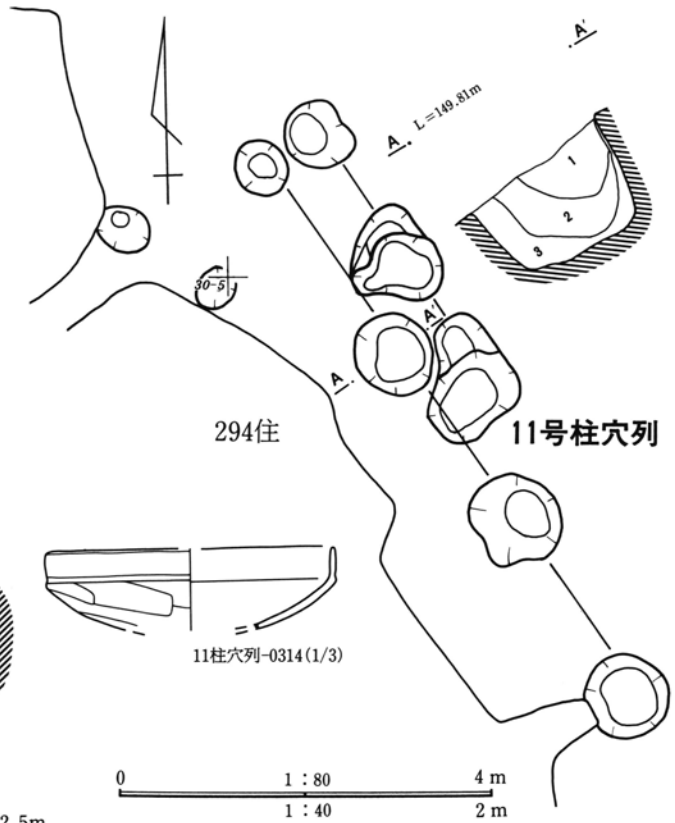
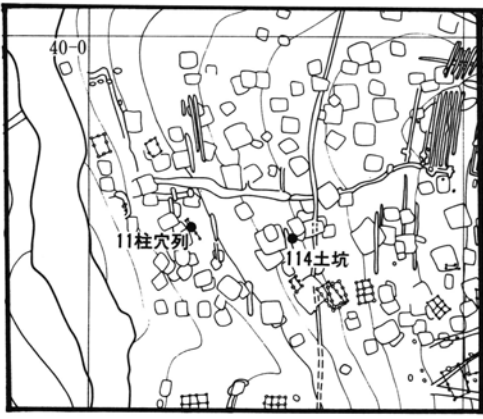
【位置】27-24G 【埋土】不明。【重複】不明。【形態】円形皿状か。【遺物】猿投灰釉碗(0306)・古代須恵器碗(0305)出土。【備考】古代。

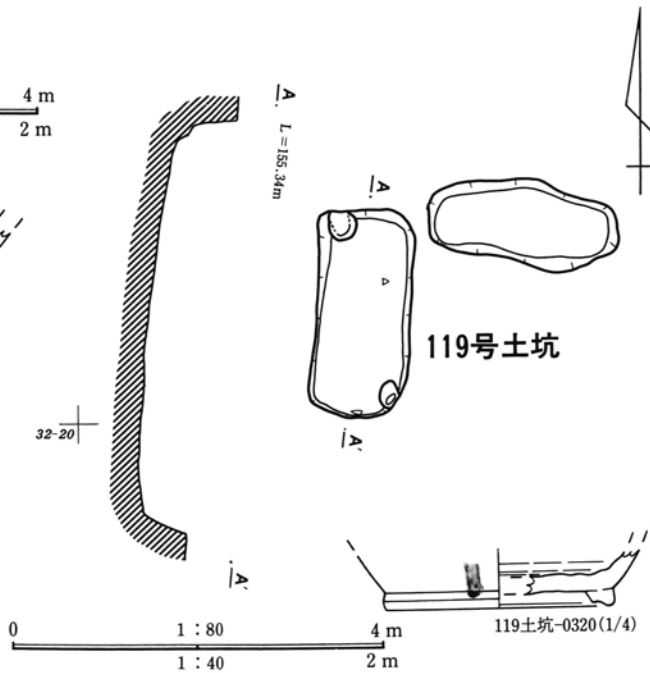
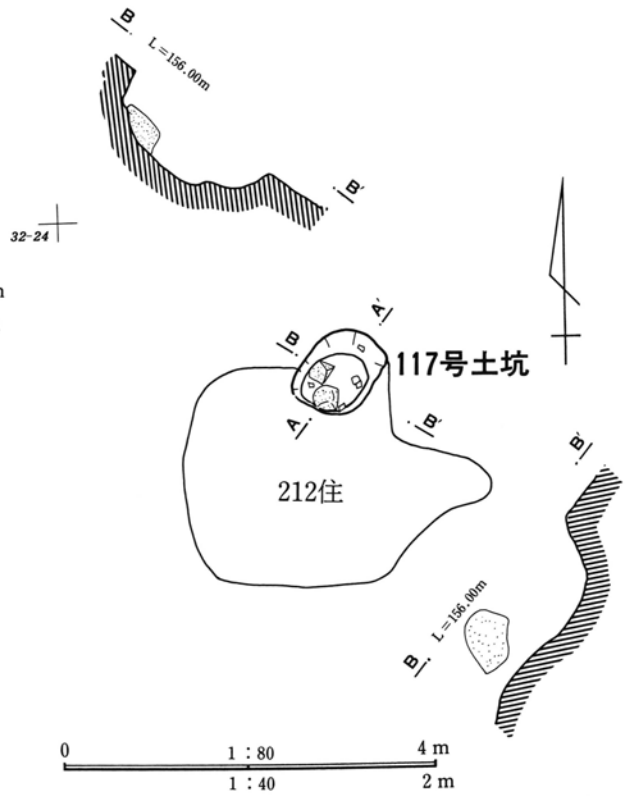
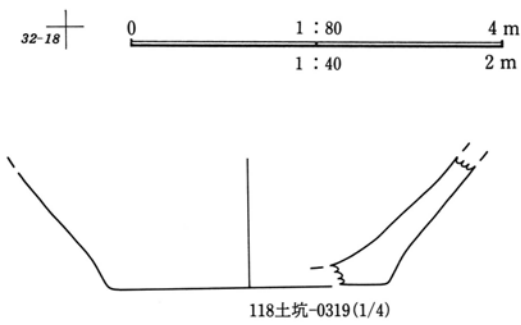
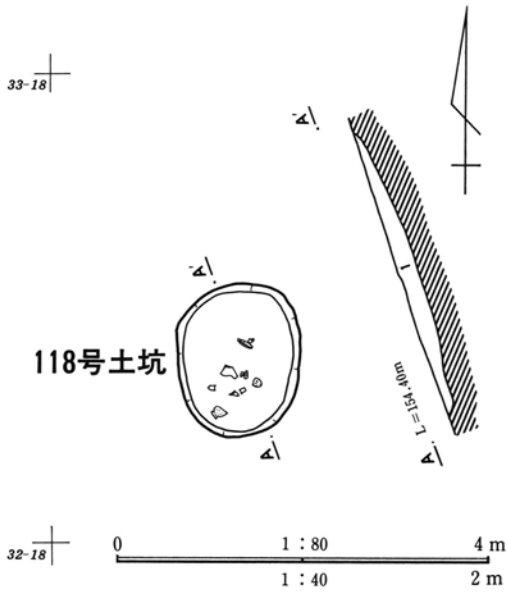
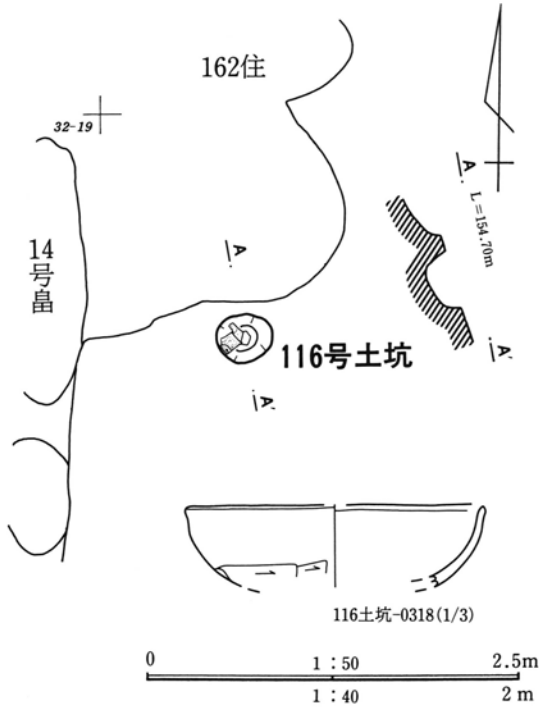
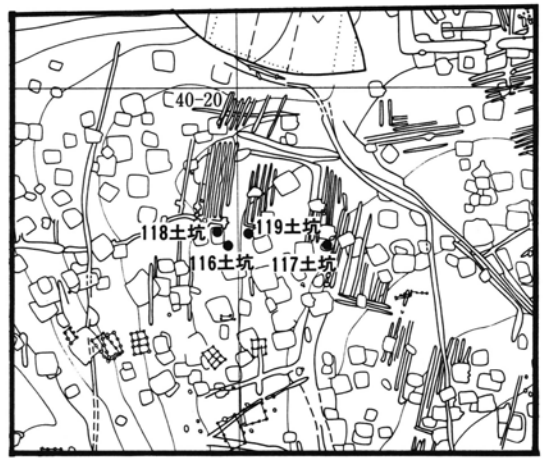




29-28







09号柱穴列 (図P.141 PL.83,84)

【位置】28-20G【埋土】1 暗褐色土ローム粒多 2 同前ローム塊少【重複】未命名畠と重なる。【形態】東西方向に柱穴5個並ぶ(長3.9m)。柱痕に比べ柱穴掘り方はやや大きい(径0.3~0.6m)。【遺物】古代須恵器甕(0307)出土。【備考】調査時には土坑とする。北側に同一方向の柱穴列が4列(長3.2~5.3m)ある。古代。

109号土坑 (図P.141 PL.84)

【位置】28-38G【埋土】不明。【重複】不明。【形態】円形皿状か。【遺物】古代土師器坏(0308)出土。【備考】古代。

110号土坑 (図P.143 PL.84)

【位置】29-05G【埋土】1 黒褐色土浅間B軽石多 2 暗褐色土ローム粒多【重複】なし。【形態】平面隅丸方形で断面レンズ状(4.5×3.8×0.2m)。【遺物】古代須恵器碗(0309,10)・鉄刀子(2069)出土。【備考】古代。

111号土坑 (図P.143 PL.84)

【位置】28-38G【埋土】1 暗褐色土軽石ローム粒少 2 同前ローム塊混軽石少 3 同前ローム粒軽石少【重複】竪穴255,324,361号住近接。【形態】円形皿状(径1.2m深さ0.2m)。【遺物】中世土師器小皿(0311)出土。【備考】中世か。

02号柱穴列 (図P.143 PL.68,85)

【位置】30-30G【埋土】不明。【重複】なし。【形態】東西方向に柱穴4個並ぶ(長4.4m)。柱痕に比べ柱穴掘り方は普通(径0.3~0.5m)。【遺物】古墳時代土師器坏(0316)出土。【備考】北側に同一方向の柱穴列(長3.6m)があり、柱穴状ピットが多い。古墳時代。

10号柱穴列 (図P.143 PL.84)

【位置】29-05G【埋土】不明。【重複】同一方向の建て替えあり。【形態】東西方向に柱穴3個並ぶ(長3.7m)。柱痕に比べ柱穴掘り方は普通(径0.3~0.5m)。【遺物】古墳時代土師器坏(0312)・甕(0313)出土。【備考】周辺に柱穴状ピット多い。古墳時代。

11号柱穴列 (図P.144 PL.85)

【位置】31-06G【埋土】1 黒褐色土ローム粒含 2 暗褐色土ローム塊多 3 褐色土ローム主黒褐色土少【重複】南東側に同一方向の未命名列重複。竪穴294号住近接。【形態】西南西・東北東方向に柱穴4個並ぶ(長6.8m)。柱痕に比べ柱穴掘り方は大きい(径0.6~0.9m)。【遺物】古墳時代土師器坏(0314)出土。【備考】古墳時代か。

114号土坑 (図P.144 PL.85)

【位置】30-12G【埋土】不明。【重複】竪穴259号住と重複。252号住近接。【形態】柱穴状(径0.7m深さ0.6m)【遺物】古代土師器甕(0315)出土。【備考】古代。

115号土坑 (図P.144 PL.86)

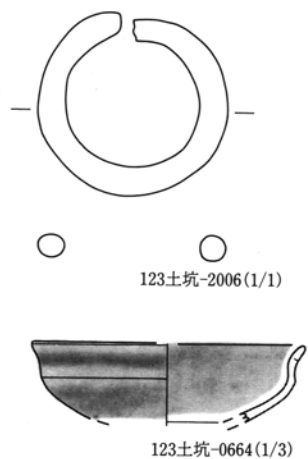
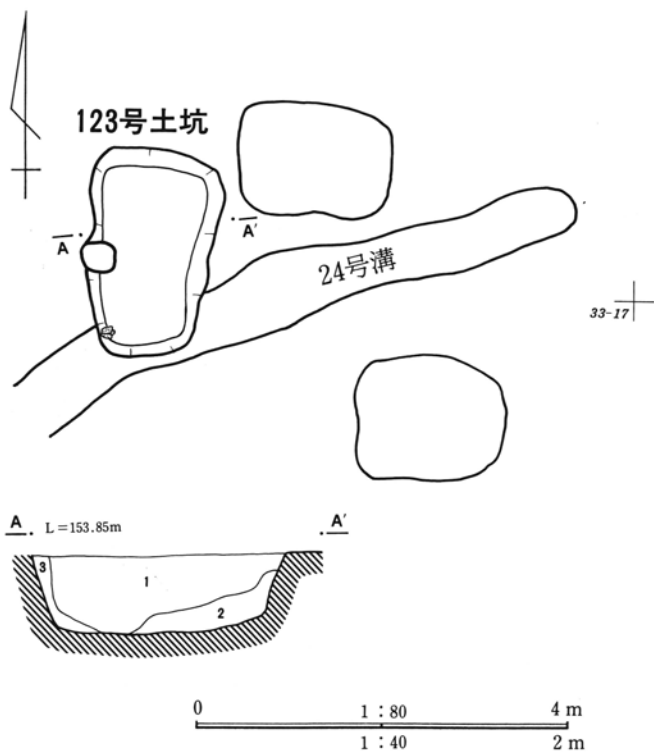
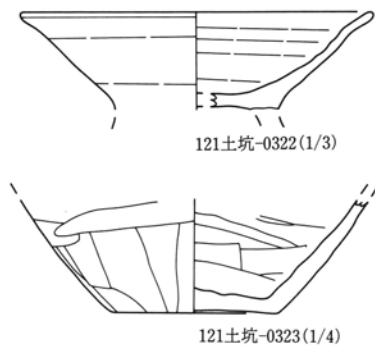
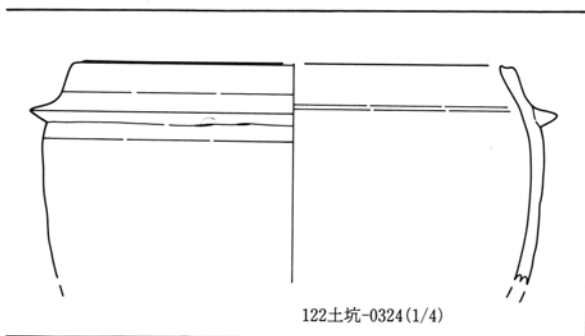
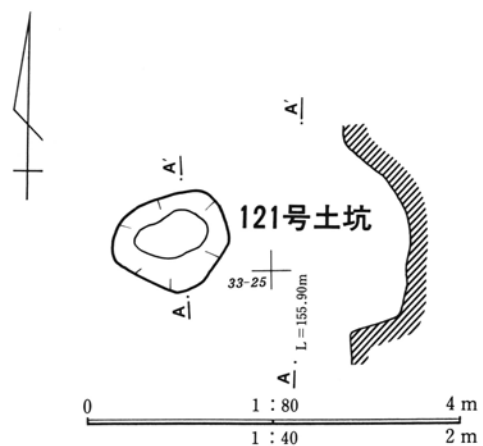
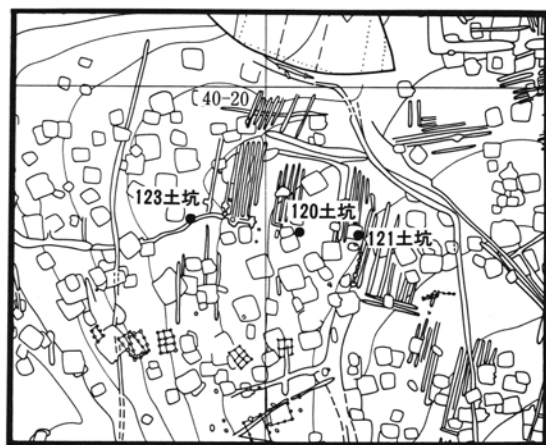
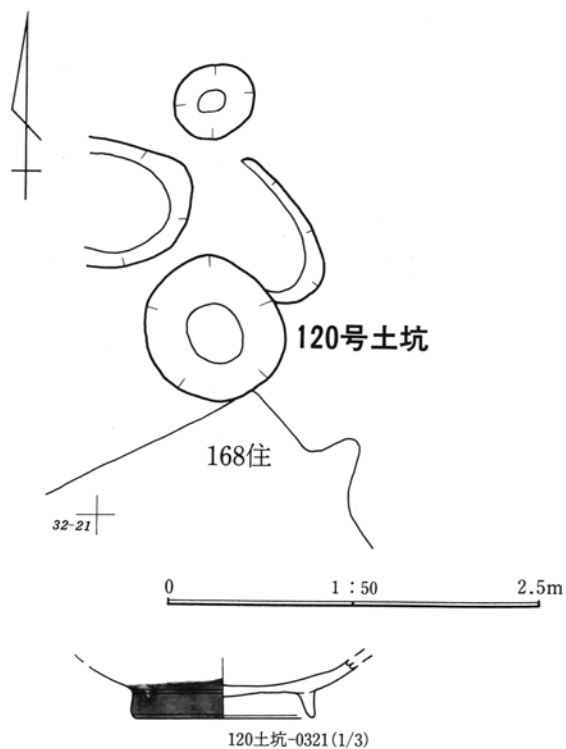
【位置】30-40G【埋土】不明。【重複】01号溝と重複。【形態】平面隅丸方形(2.6×2.0以上m)。断面皿状か。【遺物】古代須恵器羽釜(0260~62,0317)出土。【備考】古代。

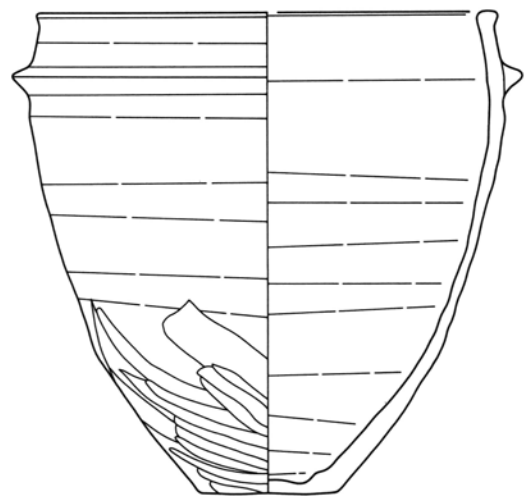
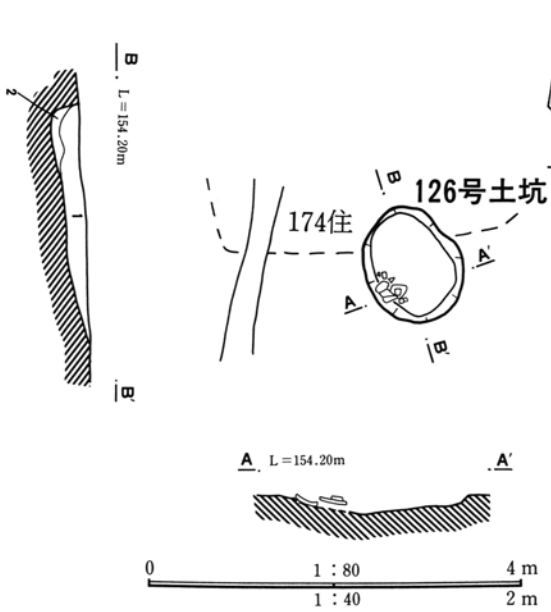
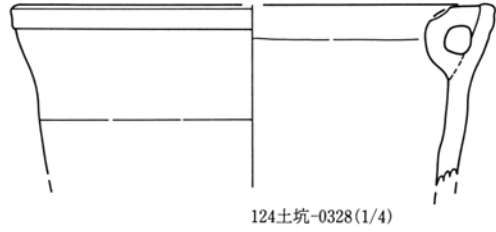
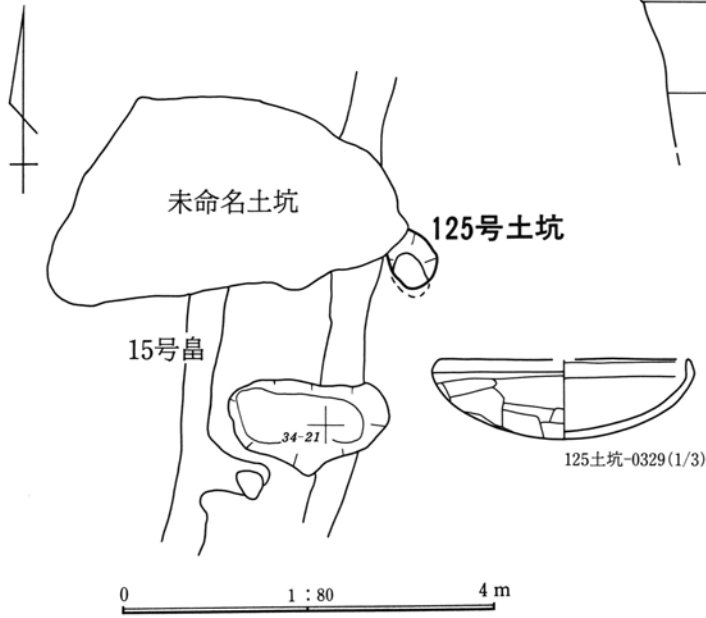
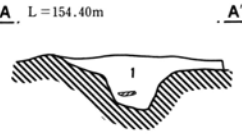
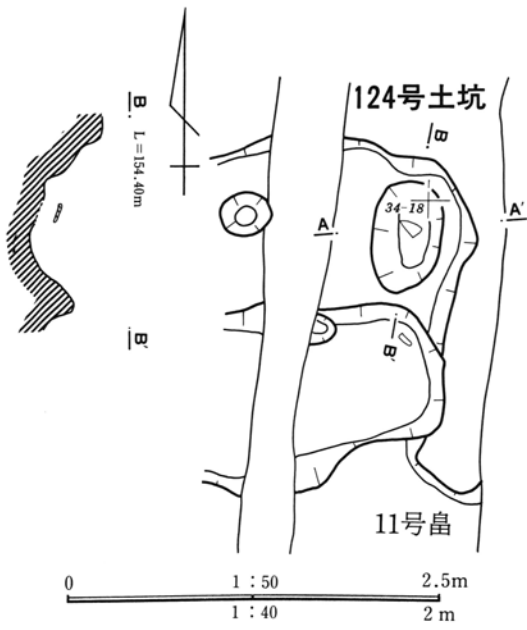
116号土坑 (図P.145 PL.85)

【位置】32-20G【埋土】不明。【重複】竪穴116号住近接。【形態】柱穴状(径0.6m深さ0.1m)。【遺物】古代土師器坏(0318)出土。【備考】古代。

117号土坑 (図P.145 PL.86)

【位置】32-25G【埋土】不明。【重複】竪穴212号住より新。【形態】楕円形(1.0×0.7×0.4m)。【遺物】鉄滓(2120)出土。自然礫2個が内部にあった。【備考】小鍛冶の可能性もあるか。時期不明。







## 118号土坑 (図P.145 PL.86)

【位置】33-19G 【埋土】1 暗褐色土ローム塊多 【重複】なし。【形態】平面楕円形で断面レンズ状 (1.6×1.3×0.1m)。

【遺物】古代須恵器甕(0319) 出土。【備考】古代。

## 119号土坑 (図P.145 PL.86)

【位置】33-21G 【埋土】不明。【重複】両端に小ピット重複。【形態】平面短冊形で底平坦 (2.2×1.0×0.3m)。

【遺物】美濃灰釉瓶(0320) 出土。【備考】近世。

## 120号土坑 (図P.147 PL.86)

【位置】33-22G 【埋土】不明。【重複】竪穴168号住と重複。【形態】平面楕円形 (0.9×0.9m) で断面皿状か。

【遺物】猿投灰釉碗(0321) 出土。【備考】古代。

## 121号土坑 (図P.147 PL.86)

【位置】34-25G 【埋土】不明。【重複】竪穴211号住と重複。【形態】平面楕円形で断面皿状 (1.3×1.1×0.4m)。

【遺物】古代須恵器碗(0322)・土師器甕(0323) 出土。【備考】古代。

## 122号土坑 (図P.147 PL.87)

【位置】34-04G 【埋土】不明。【重複】竪穴と重複か。【形態】平面円形で底平坦か。【遺物】古代須恵器羽釜(0324) 出土。【備考】古代。

【備考】古代。

## 123号土坑 (図P.147 PL.86)

【位置】34-17G 【埋土】1 暗褐色土ローム粒多 2 同前ローム粒最多 3 地山 【重複】小ピット・24号溝と重複。【形態】箱形で底平坦

(2.2×1.2×0.4m)。【遺物】竜泉窯青磁天目碗(0664)・銅製耳環(2006) 出土。【備考】周辺に同様の未命名土坑が4基ほど見られる。中世か。

## 124号土坑 (図P.148 PL.87)

【位置】34-18G 【埋土】1 暗灰色粘質土ローム粒多 【重複】11号畠・未命名土坑と重複。【形態】平面楕円形でやや柱穴状

(0.8×0.5×0.3m)。【遺物】中世土師器埴(0328) 出土。【備考】123号土坑は西10mの位置。周辺に中世建築物が存在した可能性がある。中世。

## 125号土坑 (図P.148 PL.88)

【位置】35-22G 【埋土】不明。【重複】15号畠・未命名土坑と重複。【形態】平面楕円形で傾いた柱穴状 (0.7×0.5×0.5m)。

【遺物】古代土師器坏(0329) 出土。【備考】古代。

## 126号土坑 (図P.148 PL.88)

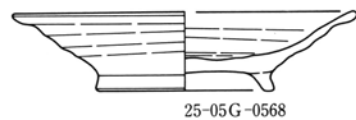
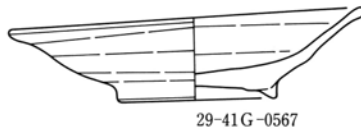
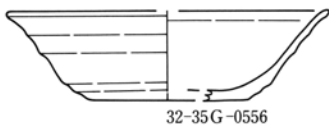
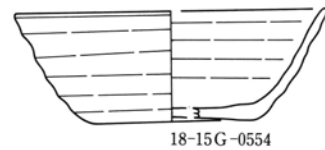
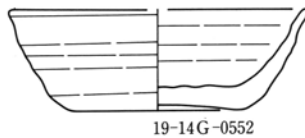
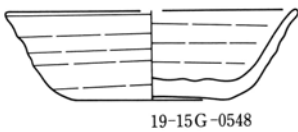
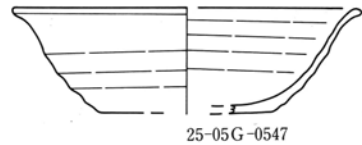
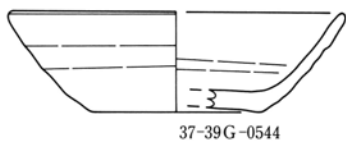
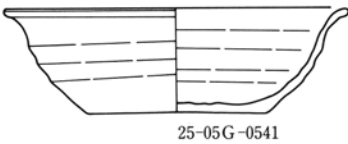
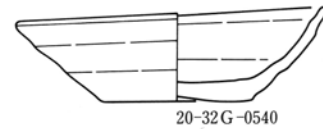
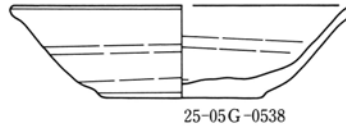
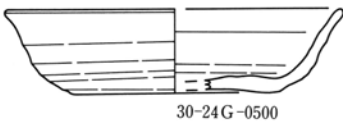
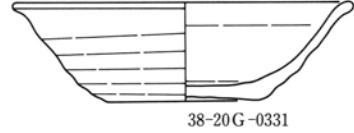
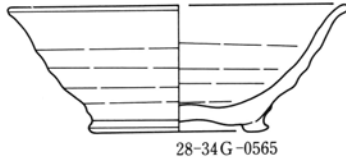
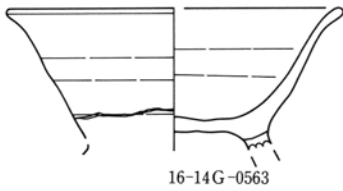
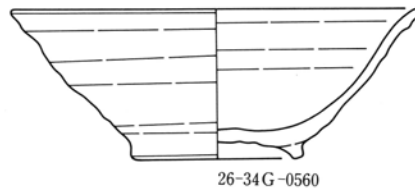
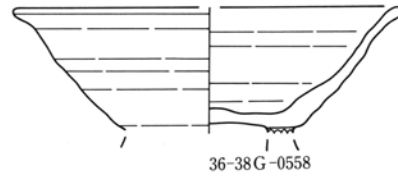
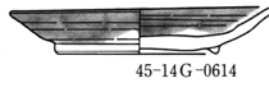
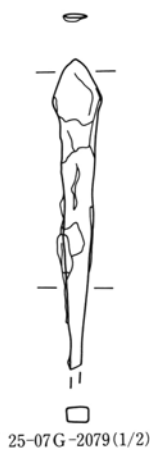
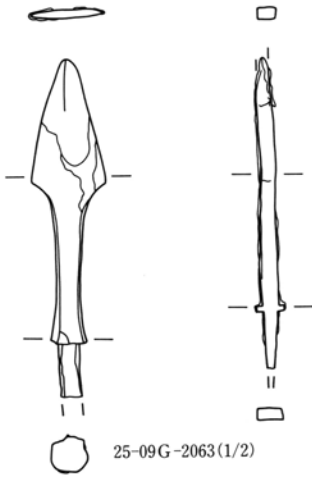
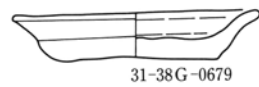
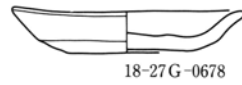
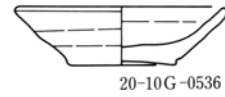
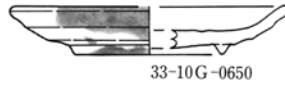
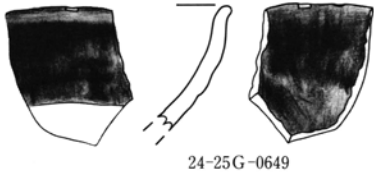
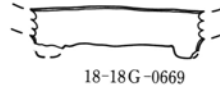
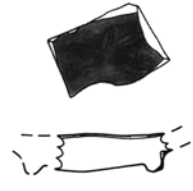
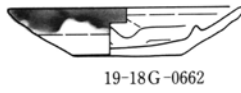
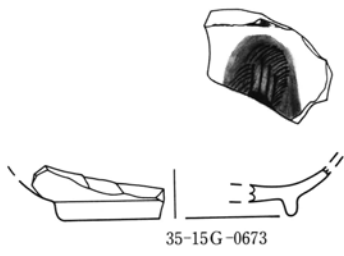
【位置】36-18G 【埋土】1 暗褐色土ローム塊多 2 暗灰色土ローム粒多 【重複】竪穴174号住より新。【形態】平面楕円形で底浅い

(1.2×1.0×0.1m)。【遺物】古代須恵器羽釜(0330) 出土。【備考】古代。

## 遺構外遺物 (図P.150~52 PL.88~90)

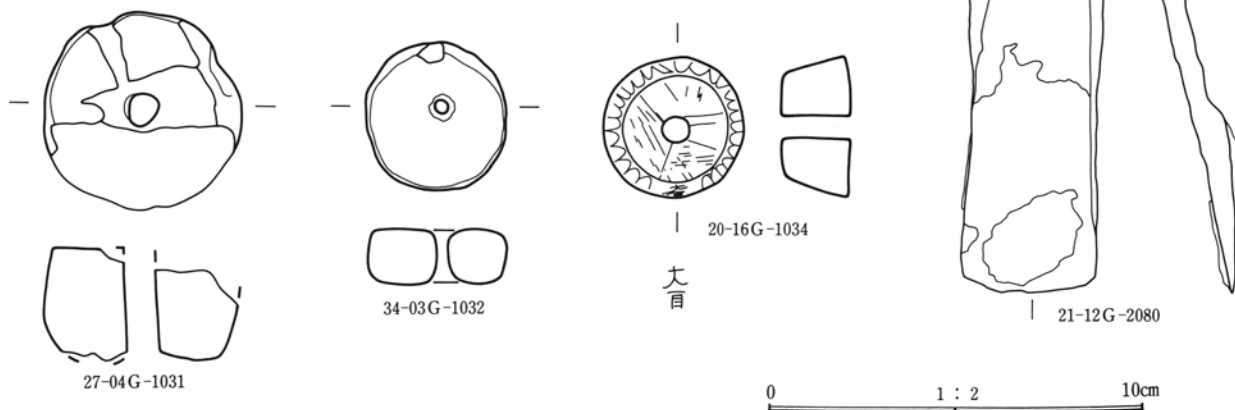
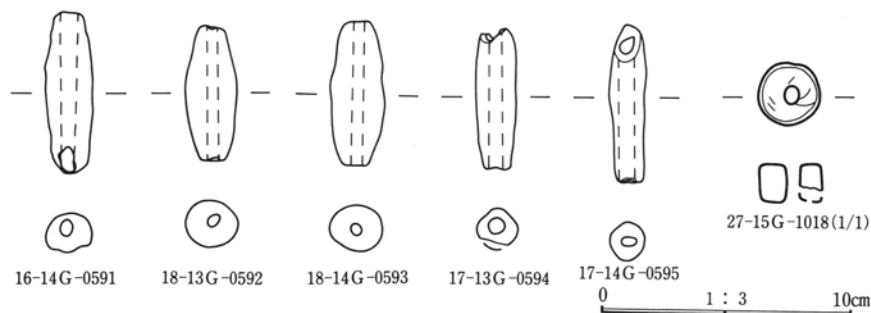
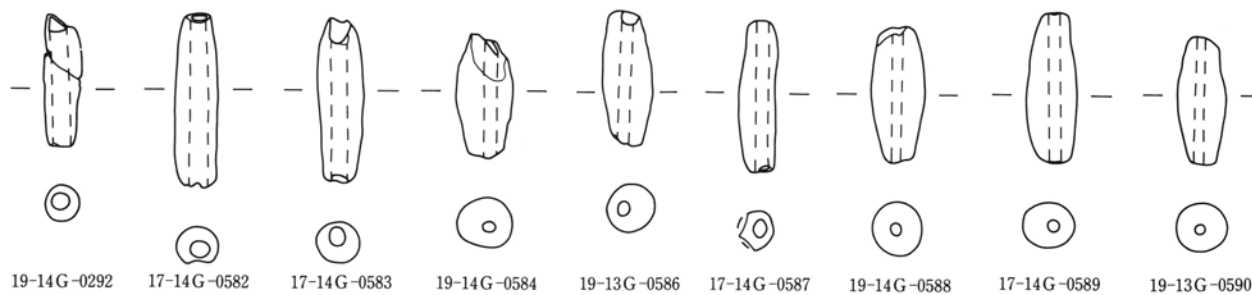
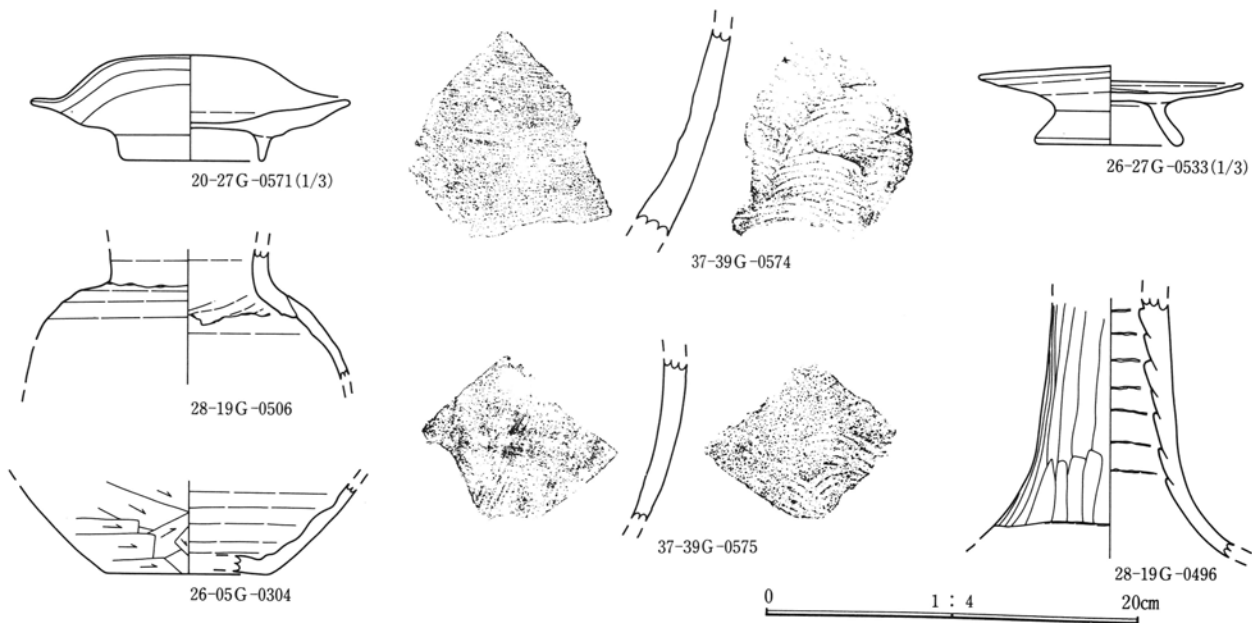
- A 近世 19-18G 志戸呂鍔釉灯明皿(0662) 27-18G 牛齒(3003) 35-15G 肥前染付皿(0673)
- B 中世 18-18G 竜泉窯青磁鉢(0669) 18-27G 中世土師器小皿(0678) 20-10G 中世土師器小皿(0536)
- 24-25G 瀬戸美濃天目釉碗(0649) 25-07G 鉄鍬(2079) 25-09G 鉄鍬(2063)
- 31-38G 中世土師器小皿(0679) 33-10G 瀬戸美濃灰釉小皿(0650)
- 33-37G 竜泉窯青磁碗(0670) 35-15G 竜泉窯青磁蓮弁文碗(0667)
- C 古代 16-14G 須恵器碗(0563)・土錘(0591) 17-13G 土錘(0594) 17-14G 土錘(0582,83,87,89,95)
- 18-13G 土錘(0592) 18-14G 土錘(0593) 18-15G 須恵器坏(0554) 19-13G 土錘(0586,90)
- 19-14G 須恵器坏(0552)・土錘(0292,0584,88) 19-15G 須恵器坏(0548)

第II章 検出遺構と遺物

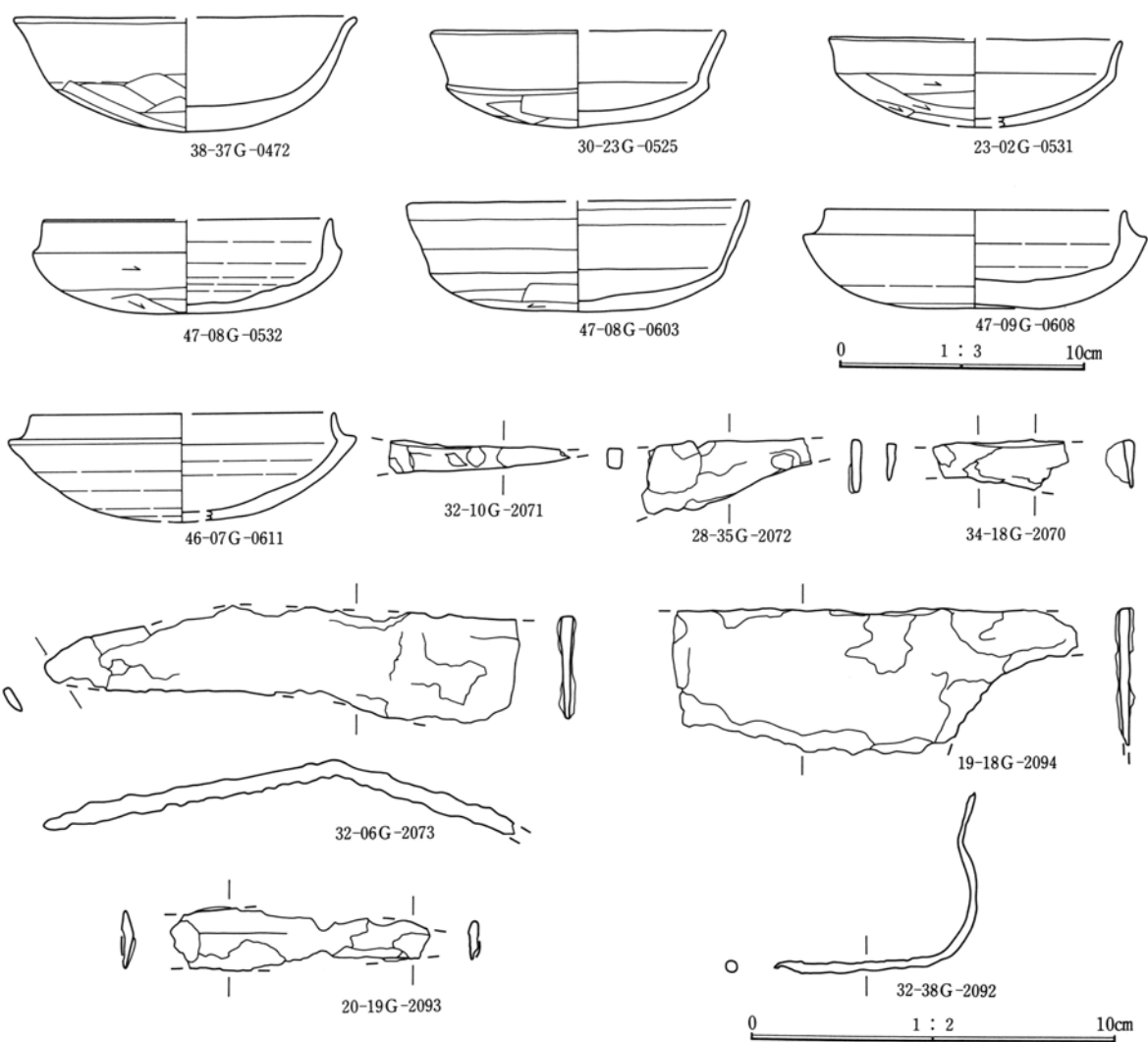


0 1 : 3 10cm

3 小型遺構と遺構外遺物



第II章 検出遺構と遺物



20-16G 線刻滑石片岩紡錘車(1034) 20-27G 須恵器耳皿(0571) 20-32G 須恵器坏(0540)

25-05G 須恵器坏(0538,41,47)・皿(0568) 26-05G 須恵器羽釜(0304)

26-27G 土師器台付小皿(0533) 26-34G 須恵器碗(0560) 27-04G 砂岩紡錘車(1031)

28-19G 須恵器長頸瓶(0506)・土師器高坏(0496) 28-34G 須恵器碗(0565)

29-41G 須恵器皿(0567) 30-24G 須恵器坏(0500) 32-35G 須恵器坏(0556)

34-03G 砂岩紡錘車(1032) 36-38G 須恵器碗(0558) 37-39 須恵器坏(0544)・甕(0574,75)

38-20G 須恵器坏(0331) 45-14G 猿投灰釉小皿(0614)

D 古墳時代 23-02G 土師器坏(0531) 27-15G 滑石白玉(1018) 30-23G 土師器坏(0525)

38-37G 土師器坏(0472) 46-07G 須恵器坏(0611) 47-08G 土師器坏(0532,603)

47-09G 須恵器坏(0608)

E 時期不明 19-18G 鉄製包丁?(2094) 20-19G 鉄製ヤスリ?(2093) 21-12G 袋状鉄斧(2080)

28-35G 刀子(2072) 32-06G 小刀(2073) 32-10G 刀子(2071) 32-38G 針金?(2092)

34-18G 刀子?(2070)

## 4 表面採集遺物

出土位置不明として報告する遺物は、次の通りである。

	土器類		石製品類		金属製品		その他
近代	国産磁器	1			鉄製品	1	
					銭貨	1	
近世	国産磁器	1			鉄製品	2	
	国産陶器	4			銅製品	2	
					銭貨	3	
中世	瓦質土器	1			鉄製品	3	
	土師質土器	1			銭貨	5	
古代	国産陶器	1	紡錘車	7			
	須恵器	13	玉類	1			
	土師器	8	その他	1			
	瓦	2					
古墳	須恵器	2					
	土師器	14					
不明					銅製品	1	
					鉄製品	3	

以上の中で、顕著なものは次の通りである。

近世 銀象嵌銅製矢立蓋(2001)

古代 須恵器円面硯(0581)

土師器暗紋坏(0526)

刻字平瓦(0512,13)

線刻有孔石製品(1026)

なお、次のものは出土地区のみ判明している。

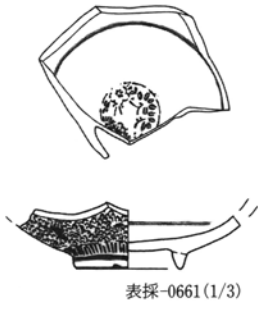
東側 多比良観音山 瀬戸美濃鉄絵皿(0643)

南西側 多胡小蓋林 瀬戸美濃二彩鉢(0644)

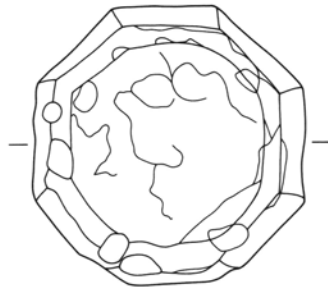
中世土師器埴(0507)・元豊通宝(2056)・皇宋通宝?(2049)・不明銅銭(2057)

須恵器坏(0498)・流紋岩紡錘車(1020)

第II章 検出遺構と遺物



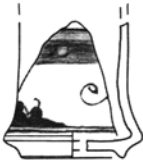
表採-0661(1/3)



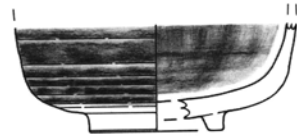
表採-2090(1/1)



表採-2055(1/1)



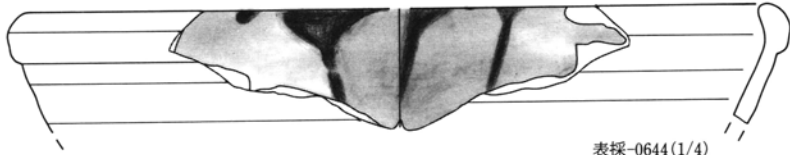
表採-0645(1/3)



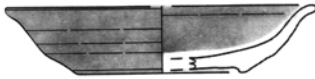
表採-0641(1/3)



表採-0646(1/3)



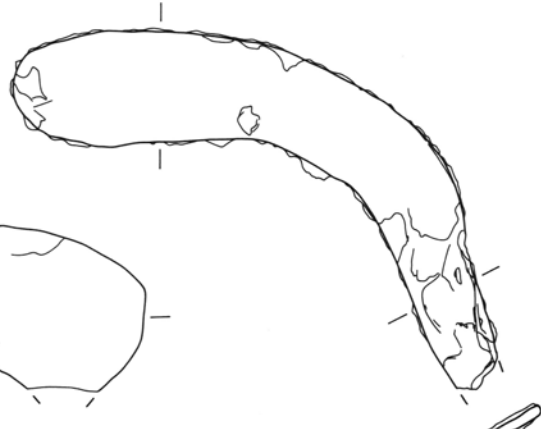
表採-0644(1/4)



表採-0642(1/3)



表採-0652(1/3)



表採-2064(1/2)



表採-0643(1/3)



表採-2077(1/2)



表採-2076(1/2)



表採-2004(1/2)



表採-2001(1/2)



表採-2052(1/1)

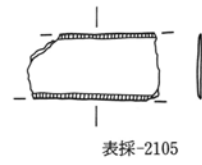
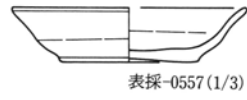
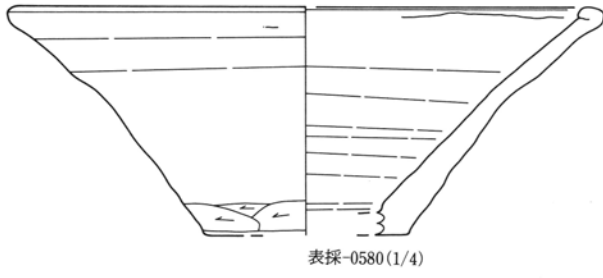


表採-2053(1/1)



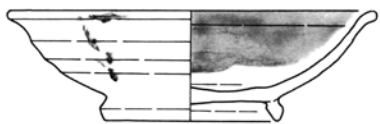
表採-2054(1/1)

4 表面採集遺物

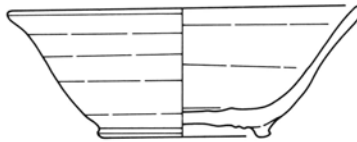


0 1 : 2 10cm

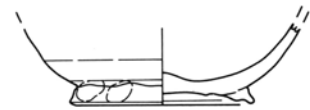
第II章 検出遺構と遺物



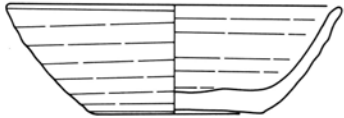
表採-0572



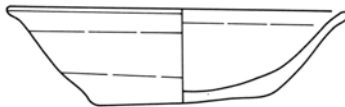
表採-0559



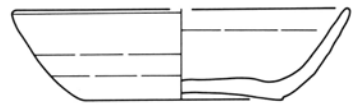
表採-0566



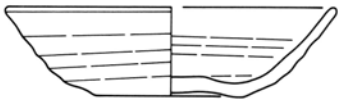
表採-0498



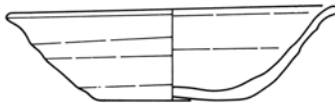
表採-0499



表採-0501



表採-0502



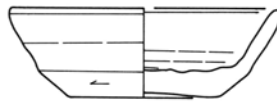
表採-0537



表採-0543



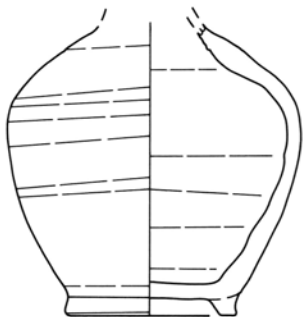
表採-0549



表採-0551



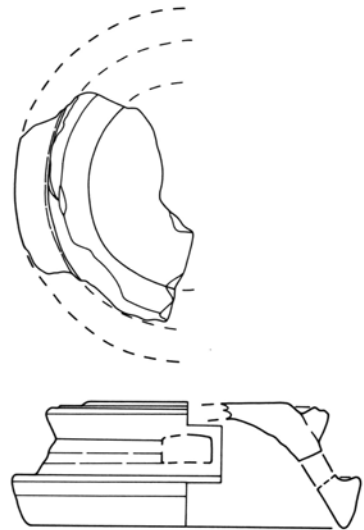
表採-0505 (1/4)



表採-0577 (1/4)



表採-0613 (1/6)



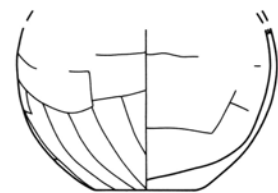
表採-0581



表採-0522



表採-0526



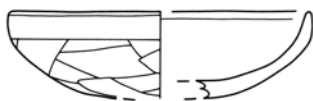
表採-0534 (1/4)



表採-0527



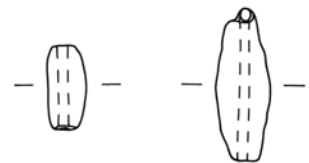
表採-0526



表採-0529



表採-0530



表採-0585

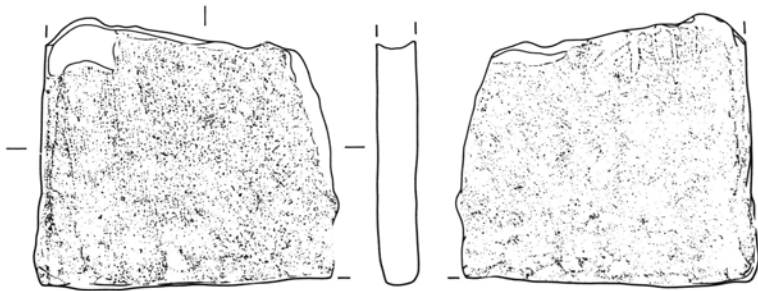


表採-0508

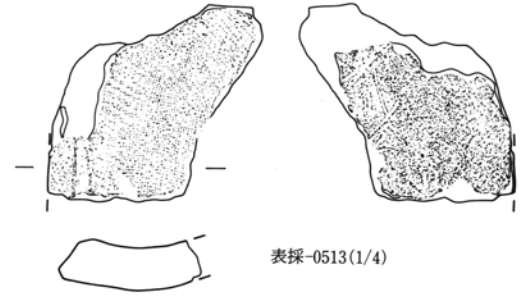
0 1 : 3 10cm



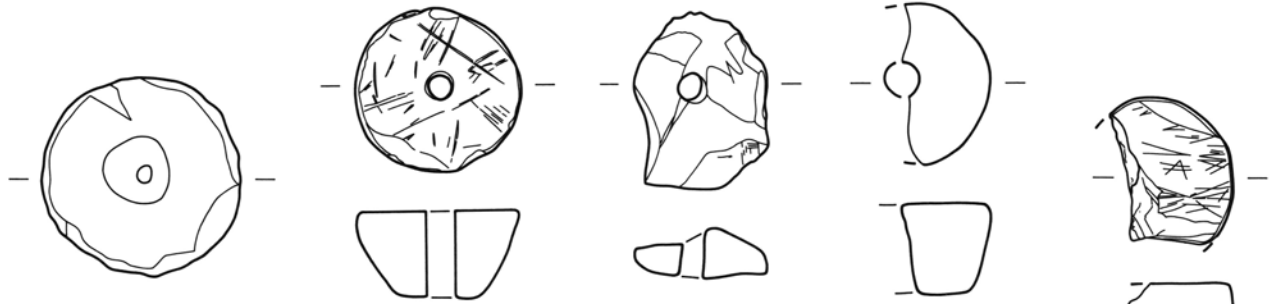
4 表面採集遺物



表採-0512(1/4)



表採-0513(1/4)



表採-1016



表採-1019



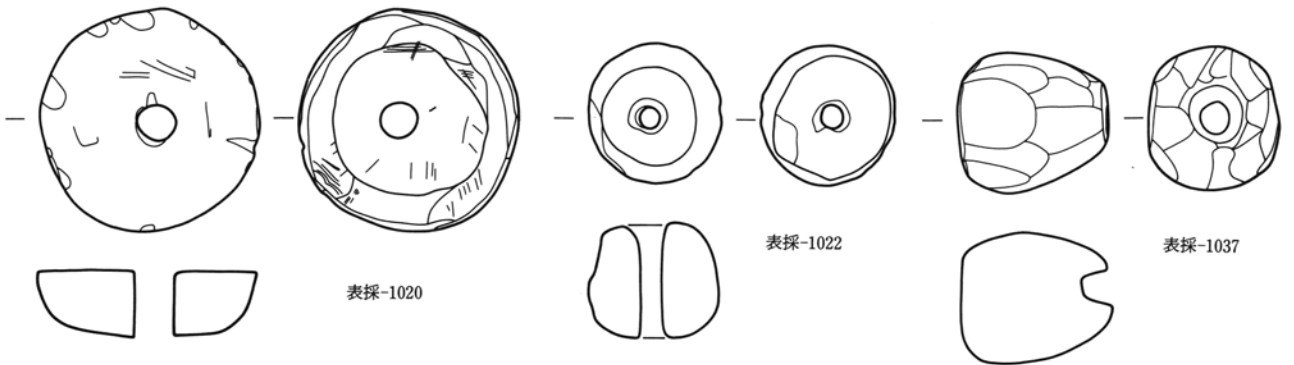
表採-1021



表採-1038



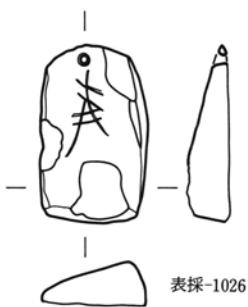
表採-1036



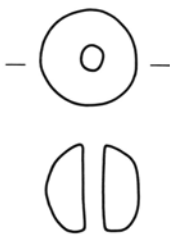
表採-1020

表採-1022

表採-1037



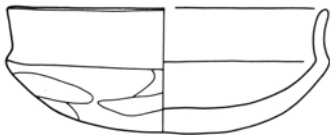
表採-1026



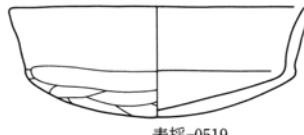
表採-1017(1/1)

0 1 : 2 10cm

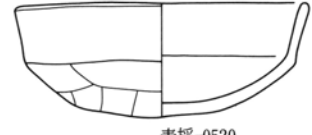
第II章 検出遺構と遺物



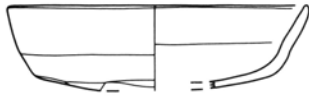
表採-0494



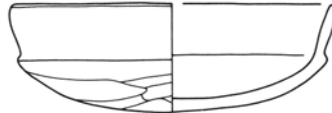
表採-0519



表採-0520



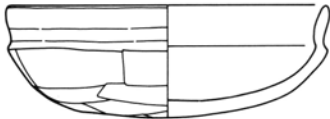
表採-0521



表採-0523



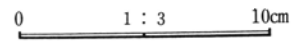
表採-0524



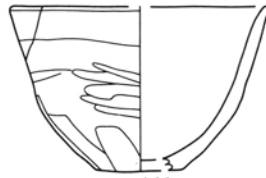
表採-0602



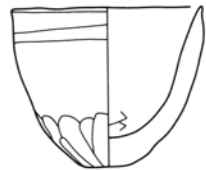
表採-0605



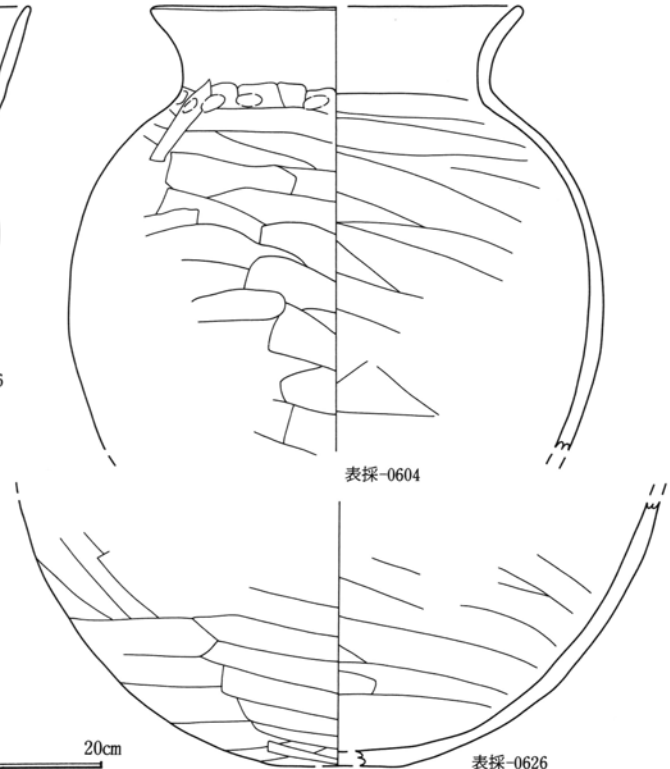
表採-0497



表採-0535

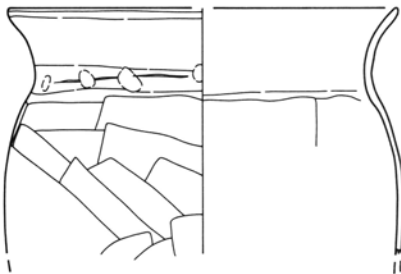


表採-0606

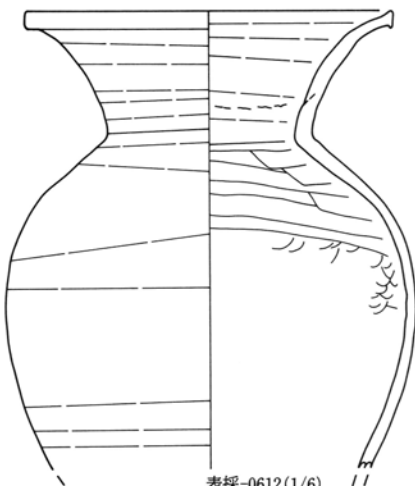


表採-0604

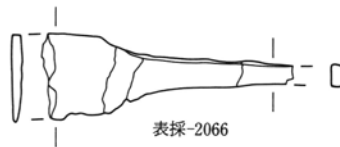
表採-0626



表採-0495



表採-0612(1/6)



表採-2066



表採-2068



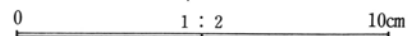
表採-2089



表採-2075



表採-2074



### 第III章 遺物の特徴



# 1 陶磁器

本報告では総数45点の中近世陶磁器を掲載した。これは、中世舶載陶磁については全点であり、その他の近世以後の国産陶磁は代表的なものを抽出した。その内容は、下記の通りである（他に11点の古代陶器を報告したが、これはあくまでも竪穴住居以外の出土だけであり、本報告では全体像を把握しえないことを付記する）。

近代磁器	瀬戸美濃染付碗 1	東北系染付小鉢？ 1	皿 1
近世磁器	肥前染付碗 3	皿 2	手塩皿 1
近世陶器	肥前染付碗 3	二彩刷毛目碗 1	京焼風鉄絵皿 1
	瀬戸美濃飴釉碗 1	二彩腰鏝碗 1	鉄絵皿 1
	灰釉皿 2	志野釉皿 1	志野釉小皿 1
	飴釉小杯 1	透明釉鉢 1	二彩鉢 1
	飴釉香炉？ 1	灰釉仏飯器 1	
	志戸呂鏝釉灯明皿 1		
中世磁器	竜泉窯系青磁碗 5	天目碗 1	鉢 3
中世陶器	瀬戸美濃天目碗 1	灰釉皿 2	飴釉菊皿 1
	灰釉小皿 2		

近世近代の磁器については、それほど顕著な特徴を示さない。見込に花卉文を描いた1650年代の肥前染付皿(0640)そして17世紀末～18世紀初頭頃の印判染付の同手塩皿(0672)が特筆される程度である。18世紀中葉以後爆発的に増大する粗製くらかわんか手の染付碗も、数がかなり少ない。

近世陶器も、瀬戸美濃産のものが大半をしめる状況は、他の遺跡に比べて特に大きな相違点はない。絶対量が少ないことと、17世紀代のものが比較的多い点が見られる程度である。

舶載の中世磁器については、黄褐色系の発色をし高台内無釉で見込に印花などのあるA類と、光沢のある淡青色系の発色で外面に蓮弁文があり高台内を全面施釉するB類に大きく区分できる。2点のみ(0669,70)のA類は他地域の出土状況より13世紀代と考えられ、その他のB類は韓国新安沖沈没船引き揚げ品に類例が多く、14世紀前半代を中心としている。中世陶器は、量が少ないことと、日常食器が大半である点が特徴であり、舶載磁器に並行する時代のもは見られない。

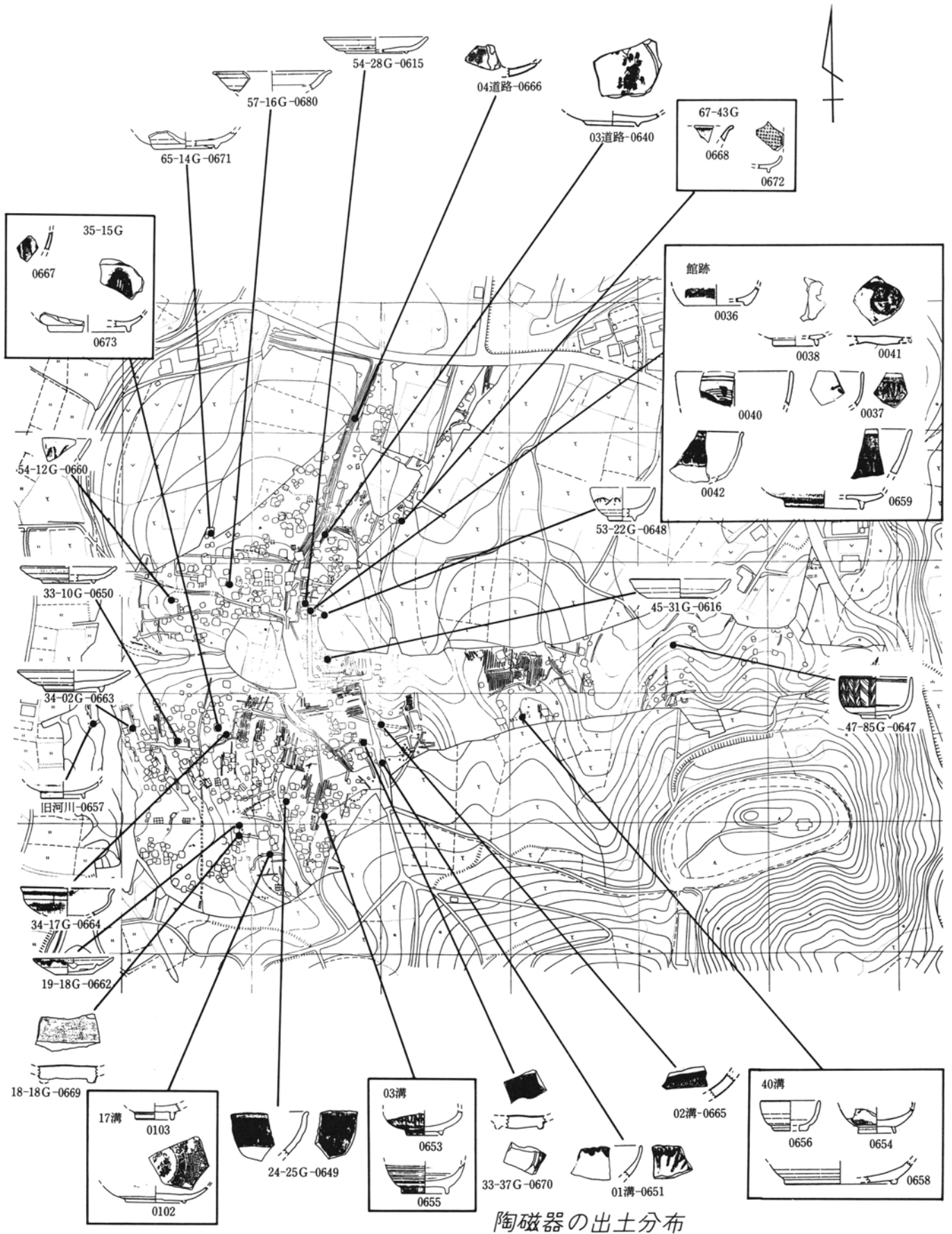
出土遺構の分布は、次の通りである。

北西側地区	館跡堀	東北系染付小鉢？	産地不明染付碗	肥前陶胎染付碗	瀬戸美濃飴釉碗	同灰釉皿	同飴釉香炉？	竜泉窯系青磁鉢	03号道路	肥前染付皿	04号道路	竜泉窯青磁碗	01号溝	瀬戸美濃飴釉菊皿	02号溝	竜泉窯青磁鉢
東側地区	40号溝	肥前染付碗	瀬戸美濃飴釉小杯	同？透明釉鉢												
南西側地区	03号溝	瀬戸美濃腰鏝碗	肥前刷毛目碗	17号溝	東北系染付皿	肥前陶胎染付碗										
	38号土坑	瀬戸美濃灰釉皿	123号土坑	竜泉窯青磁天目碗	01号旧河川	肥前京焼風皿										

館跡堀は、他遺跡でも一般的なように中世以降の各時代のものが出土しているが、近世後期に始まる爆発的な磁器流入は見られない。この居館の形成は14世紀代とするのが妥当である。北西側地区での竜泉窯青磁を出土した遺構も同時期の成立だろう。ただし、調査時には中世の遺構の認識がなかった南西側地区で、14世紀代の123号土坑があり、さらに上述のA類の青磁が共にこの遺構外から出土したことは注意を要する。

東側地区の40号溝は、18世紀中葉のものが見られる。この溝は字界現道に一致する溝であり、現字界の成立時期の下限を示している。南西側地区の03号溝は、大字界現道成立後に形成されているが、ここでもこの溝の成立下限が18世紀後半であることが分かる。

第三章 遺物の特徴



## 2 中近世土器

次のようなもの34点の出土を報告した。

近代土師器 甕蓋? (南西:01号旧河川1)

近世土師器 焙烙 (北西:02号道路1)

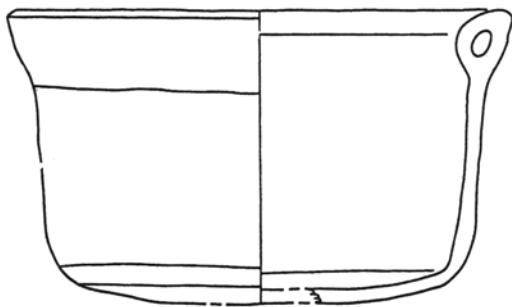
中世瓦質土器 コネ鉢 (北西:11号井戸1・館跡堀2・04号道路2・遺構外1、東:12号井戸3、出土位置不明1)・播り鉢 (北西:館跡堀1)

中世土師器 小皿 (北西:05号道路3、南西:04号溝・111号土坑・遺構外3、出土位置不明1)・  
 塀 (北西:11号井戸3・館跡堀4、東:12号井戸1、南西:07号溝1・124号土坑1・  
 出土位置不明1)

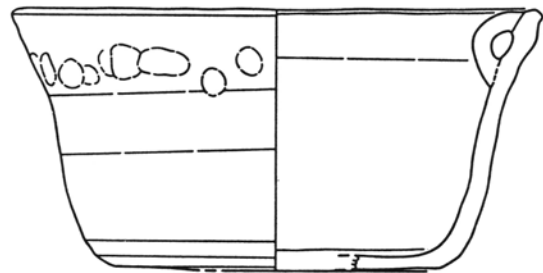
中世瓦 東側遺構外1

全体としては、近世以降のものが極めて少ない。それに対し、中世のものは比較的豊富である。特に基本的な調理具である瓦質土器コネ鉢と土師器塀は、前者が北西側を中心として分布し、後者は南西側も含めて広く見られた。

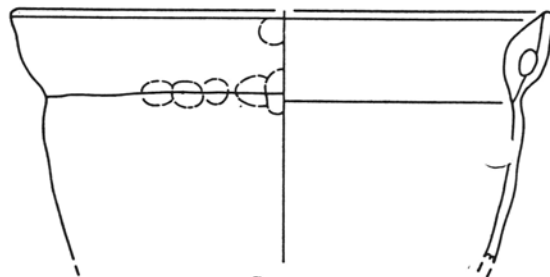
まとめて出土した11号井戸と12号井戸の塀を比較すると、器形的には次の差が見られる。前者は耳が小さく口縁が僅かに外反して内面に稜があり、丸底ぎみである(A種)。後者はやや耳が大きく、口縁は体部からそのまま外傾する形で、平底ぎみである(B種)。残念ながら、両井戸共に年代を確定する共伴遺物はない。一方、館跡堀で4点の塀が出土しているが、両者と共に、さらに耳が大きく内外面に明確な稜があって大きく口縁が広がる器形のもの(C種)も見られる。これらは、14世紀代を上限として、A→B→Cの順で変化したと想定されるが、本遺跡では確実な共伴資料は見られなかった。これは調理方法内容の変化に伴って、蓋構造が変わったことに起因するだろう。なお中ノ原城跡(南東2.5km)では、C種が出土している(吉井町教委、1989『中ノ原城跡』)。



A 11号井戸-0250



B 12号井戸-0259



C 館跡-0028

### 3 銭貨

総数55枚の銭貨の出土を確認した。開元通宝から大正の一銭銅貨まで種類は多様だが、その分布は以下のように偏っている。

	唐銭	北宋銭	南宋銭	明銭	古寛永通宝	新寛永通宝	近代銭	不明銭	計
北西側地区	0	9	1	2	0	0	0	0	12
東側地区	2	23	1	1	0	1	0	0	28
南西側地区	0	4	0	0	0	1	1	1	7
不明	0	3	0	1	3	0	1	0	8
合計	2	39	2	4	3	2	2	1	55

東側地区の北宋銭そして北西側地区の北宋銭が、中心をなしている。北宋銭39枚の中で最多は、元豊通宝の9枚、そして皇宋通宝が7枚と熙寧元宝が6枚、さらに元祐通宝が3枚である。この銭種の傾向は、他遺跡と大きく変化はない。明銭は、永楽通宝3枚と洪武通宝が1枚である。

次に出土遺構ごとの組み合わせは次の通りである。

北西側地区	館跡	明銭1枚	03号小鍛冶	北宋銭1枚	04号道路	北宋銭2枚
	57-12G	北宋銭3枚				
東側地区	81-53G	唐銭2枚・北宋銭23枚・南宋銭1枚				
南西側地区	93号土坑	近代銭1枚	11号墓坑	北宋銭2枚	05号溝	新寛永通宝1枚

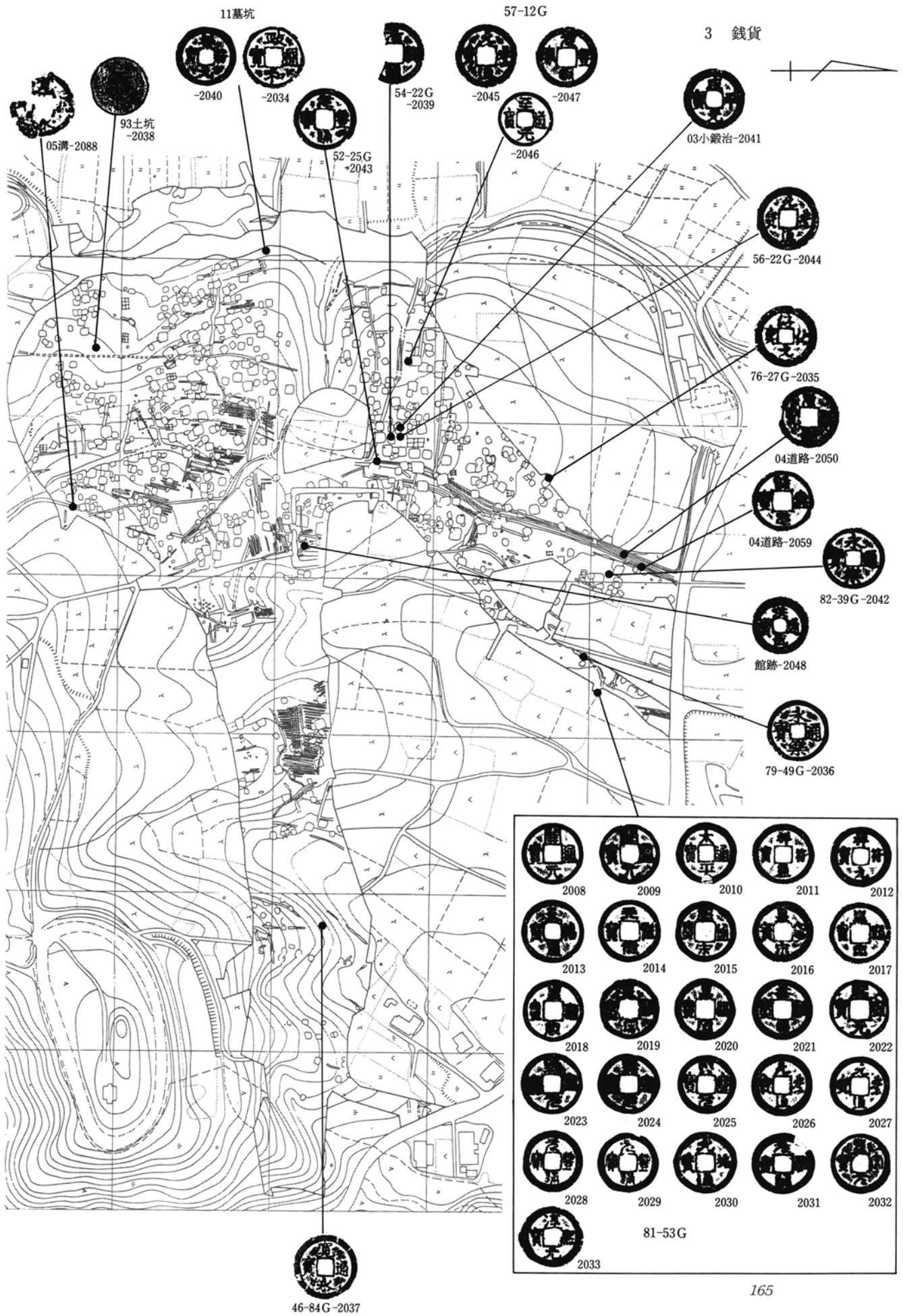
ここで最も注目されるのが、東側地区81-53Gでの26枚の出土である。遺憾ながら、調査時においてこのグリッドでの出土については、あまり十分には精査されていない。数量的には埋納と考えるのが自然だが、容器も含めて具体的な検出状況が記録されていない。最新初鑄銭種は淳熙元宝（1174年）であり、埋納であれば13～14世紀頃になされたものだろう。北西側地区の57-12Gでは、至道元宝1枚と元豊通宝2枚の組み合わせだった。この場合の状況も不明だが、数が少ないため埋納とは言えない。

最も明確な埋納例は、11号墓坑の2枚である。祥符元宝と政和通宝の組み合わせである。ただし、この遺構からはまだ他にも出土したと記録されているため、出土位置不明とされているものの中にここから出た銭が含まれているだろう。いわゆる六道銭である。

また04号道路では側溝から、熙寧元宝が2枚異なった場所から出土した。中世の道路遺構からは比較的銭貨の出土は多く、この道路が一定度の流通路となっていたことを暗示している。館跡の堀からは、洪武通宝が出土した。この館の下限が14世紀末よりは古くならないことを示している。なお、05号溝の新寛永通宝は鉄銭である。

以上のように、本遺跡で確認された銭貨は、決して多くはない。ただし、出土傾向はかなり偏っており、本遺跡地で中世において、経済活動が一定程度盛んであったことを反映している。





## 4 金属製品

銭貨を除く金属製品は、次のようなものの出土を確認した。

鉄製品	刃物	刀子13点・包丁2点
	武器	小刀1点・鞘金具? 2点・鏃10点
	調度具	火打金2点・縮金具2点・釘類4点・バネ1点・ペーゴマ1点
	農具	袋状鉄斧2点・鎌4点・鋸1点・ヤスリ1点
	その他	2点
鉄滓	計14点	(北西側5点・東側1点・南西側8点)
鉛製品	武器	銃弾1点
銅製品	調度具	矢立端部1点・キセル雁首3点
	装身具	耳環1点
	その他	2点

以上のように、数量的には刀子と鏃そして鉄滓が多い。ただし、それぞれ単品で時代を特定できるものは、鉄製品では少なく、僅かにペーゴマやヤスリ程度である。

その中で遺構からの出土は、次のとおりである。

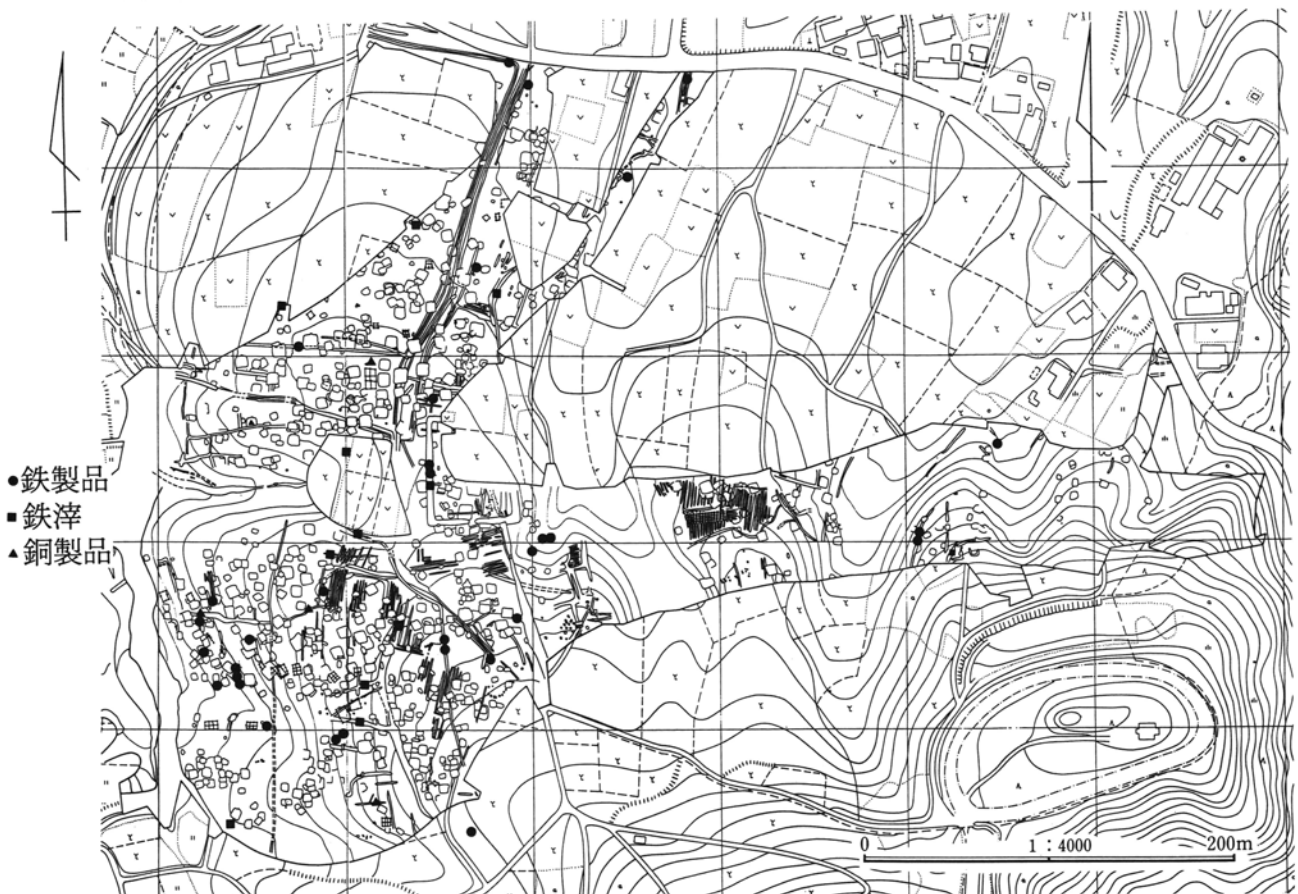
北西側地区	館跡堀	鞘金具? 2点・鉄滓 11号井戸 鉄滓 05号道路 釘片 26号溝 鏃? 49号溝 鉄滓 53号溝 鋸片 61号土坑 鉄滓 63号土坑 銅製有孔円盤 77号土坑 小角釘
東側地区	12号井戸	鏃? 62号溝 鏃? ・不明鉄片 64号溝 鉄滓
南西側地区	10号道路	鉄滓 01号溝 縮金具? 03号溝 刀子・縮金具・鉄滓 15号溝 鉄滓 19号溝 鉄滓 20号溝 鉄滓 39号土坑 火打金? ・キセル 89号土坑 鉄滓 90号土坑 キセル 96号土坑 鉄滓 106号土坑 包丁? ・バネ・小鎌 110号土坑 刀子 117号土坑 鉄滓 123号土坑 銅製耳環 不明遺構 刀子

全体としては、南西側地区の土坑での出土の傾向が高い。同一種類のものの出土は、館跡堀の鞘金具? 2点、そして39号土坑の火打金とキセルの組み合わせがあるが、他はあまり明瞭ではない。

鉄滓の出土が多いことが一つの特徴だが、小鍛冶遺構は次の通りである。

北西側地区 (中世1・古代1)      南西側地区 (古代? 1)

これらの小鍛冶の数に比べ出土鉄滓は広範囲に分布しており、他にも小鍛冶遺構が存在した可能性がある。出土状態が全く記録されていないことが悔やまれるが、銀象嵌矢立蓋の存在は特筆できる。



## 5 石製品類

総数38点の石製品を報告した。その内訳は次の通りである。

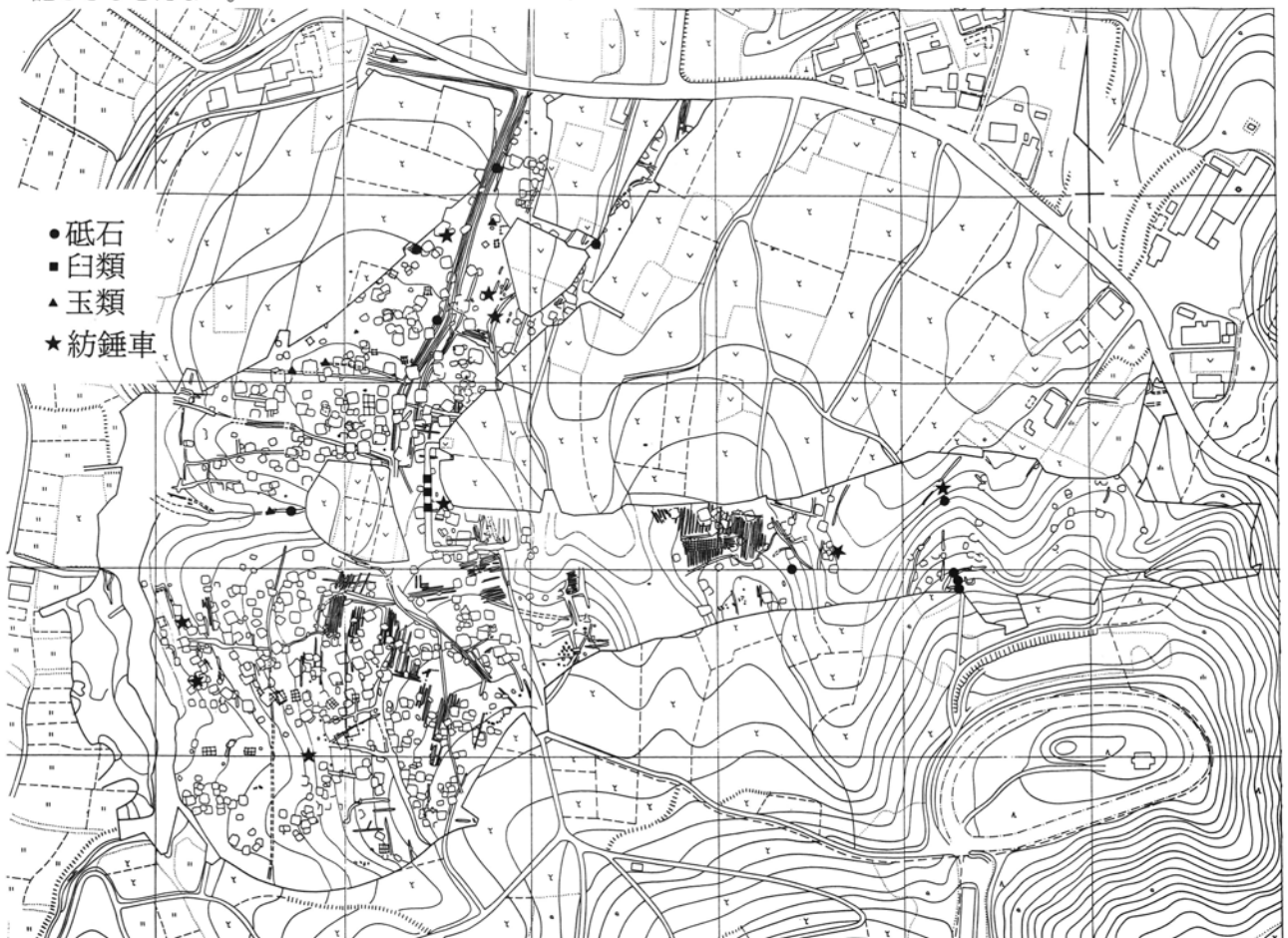
石臼類	石臼（粗粒輝石安山岩1点）・茶臼（粗粒輝石安山岩2点）
砥石類	砥沢石製4点・牛伏砂岩製4点・砂岩製2点（可能性のあるもの含む）
紡錘車類	製品（滑石片岩3点、砂岩2点、流紋岩1点、蛇紋岩1点、安山岩1点、不明3点）・ 未製品（滑石片岩3点、蛇紋岩1点、牛伏砂岩1点、不明1点）
玉類	白玉（滑石4点）・丸玉（蛇紋岩1点）・小玉（滑石1点）
その他	有孔円盤（滑石1点）・有孔石製品（蛇紋岩1点）

報告数は、紡錘車類が17点と最も多いが、これは石製品全体の出土量を反映したものではないと思われる。遺構ごとの、出土遺物は次の通りである。

北西側地区	館跡堀	石臼1・茶臼2	11号井戸	牛伏砂岩砥石	02号道路	砂岩有孔砥石
	04号道路	砥沢石砥石	06号道路	白玉	26号溝	滑石有孔円盤
	48号溝	紡錘車未製品	60号溝	牛伏砂岩砥石・白玉	70号土坑	紡錘車
東側地区	65号溝	牛伏砂岩砥石？2・砂岩砥石？	83号土坑	紡錘車未製品		
南西側地区	なし					

以上のように圧倒的に北西側地区の遺構例が多い。しかし、全体に遺構量が少ない東側地区はともかく、遺構密度の濃い南西側地区で全くない点は、あまりにも不自然である。調査時の記録漏れが、かなり含まれていることが感じられる。

なお、38点の中で10点は、出土状態不明の表面採集遺物である。特に紡錘車類総数17点の内の8点が、その大部分を占めている。また、紡錘車類全体の中で4点は本報告作成時には、所在不明となってしまった。遺憾ながら、石製品類の取り扱い、調査時より整理初段階までの間、十分な配慮が払われなかったことを記さざるをえない。



## 6 獣人骨

宮崎重雄 (群馬県立大間々高等学校)

### A 馬骨

#### 3007 南西側地区03号溝 30-31G (近世か) 出土

左上顎の前臼歯3本、左後臼歯1本および歯種不明の右上顎臼歯数本が検出されている。

前臼歯列長は約88.7mmで、西中川・松本.(1991)の現生在来種の計測値に照合すると、中型在来馬相当であることがわかる。また、性別は不明で、年齢は6～7歳と推定される。第3前臼歯と第4前臼歯の歯根は未完成で、歯髓腔は開いている。

#### 3001,02 北西側地区06号墓坑 (近世か) 出土

ウマの下顎臼歯が6本と第2または第3前臼歯と思われる上顎臼歯1本および下顎骨片、肢骨片など多数が出土している。

全臼歯列長は150.0mmで、西中川・松本.(1991)の現生在来種の計測値に照合すれば、小型在来馬相当である。ただし、本標本は咬耗のかなり進んだ老齡馬であり、全臼歯列長が牡齡馬の頃より小さくなっていることが考えられ、中型在来馬相当である可能性もある。

前臼歯列長は78.0mm、後臼歯列長は72.5mmであるが、これも老齡馬であるため、牡齡馬の頃よりも小さくなっていると思われる。

この他の下顎骨片・肢骨片は保存がきわめて不良で、形態の特徴や計測値などを得ることはできない。

#### 3006 東側地区62号溝 (時代不明) 出土

上顎臼歯・下顎臼歯8本ほどが検出される。保存がきわめて悪く、正確な歯種同定は不可能で、計測値も得られない。

### B 牛骨

#### 3003 南西側地区27-18G (近世か) 出土 3004 北西側地区65号土坑 (近世か) 出土

ウシの右下顎臼歯6本(3003)と数本の左下顎臼歯および上顎臼歯4本(3004)が確認されている。

歯にはセメント質が残存していて保存は良く、あまり古い時代のものとは思われない。下顎全臼歯列長は145.0mm、上顎全臼歯列長136.7mmであり、西中川・松本.(1991)の現生在来種の計測値に照合すると、口之島牛・見島牛など日本の在来牛相当である。年齢は11～13歳程度である。

### C 人骨

#### 3008 北西側地区02号墓坑 (中世か) 出土

頭蓋片・大腿骨骨体部片・脛骨骨体部片・腓骨骨体部片などの人骨と歯が数本検出されている。歯種とその計測値は表に示してある。第3大臼歯には近心に、ごく小さい咬耗による象牙質の露出があり、第2大臼歯にも3つの咬頭に象牙質が露出していて、熟年～老年期に至った個体であることを示している。性別は不明である。

### 文献

西中川駿・松本光春.(1991)「遺跡出土骨同定のための基礎的研究～特に在来種および現代種の骨・歯の計測値の比較～」『古代遺跡出土骨からみた我が国の牛・馬の渡来時期とその経路に関する研究』、平成2年度文部省科学研究費補助金(一般研究B)研究成果報告書、164-188

## 馬 骨 (単位mm)

## 3007 左上顎臼歯

		第2前臼歯	第3前臼歯	第4前臼歯	第1後臼歯
歯冠長	咬合面	31.3+	29.6	27.8	24.4
歯冠幅	咬合面	22.8	23.9	24.0	23.3
	中央	22.2	25.1	26.1	24.3
原錐幅	咬合面		13.3	13.7	12.0
	中央		10.6	11.6	12.0
歯冠高	頬側	63.6	76.3+	69.0+	63.0
	舌側	56.8	63.3+	60.4+	55.3

第2前臼歯～第4前臼歯：88.7mm

右上顎臼歯も幾本か確認される

## 3002 下顎臼歯

		第2前臼歯	第3前臼歯	第4前臼歯	第1後臼歯	第2後臼歯	第3後臼歯
歯冠長		29.0	25.7	24.7	22.5	24.2	30.9
歯冠幅	前葉	13.8	14.5	15.0	15.5	13.3	12.3
歯冠高	頬側	11.5	22.2				
	舌側	8.6	21.3				
下後錐谷長			8.1	7.9	6.3	7.0	7.5
下内錐谷長		13.2	11.3	9.3	7.0	7.5	9.2
下内錐幅		6.2	6.6	6.1	5.1	5.0	

全歯列長：150.0mm

第2前臼歯～第4前臼歯：78.0mm

第1後臼歯～第3後臼歯：72.5mm

下顎骨片・肢骨片など破片多数あり

## 3001 上顎臼歯

		第2又は第3前臼歯
歯冠長		27.0+
歯冠高		49.0

## 牛 骨 (単位mm)

## 3003 右下顎臼歯

		第2前臼歯	第3前臼歯	第4前臼歯	第1後臼歯	第2後臼歯	第3後臼歯
歯冠長		13.5	20.6	24.7	22.3	25.8	38.0
歯冠幅	最大	9.4	12.0	13.3	15.5	16.3	16.5
歯冠高	頬側		18.0	14.2	12.8	18.5	23.5
	舌側	16.2	15.0	16.7	15.2	21.3	25.6
下顎骨体幅			20.1	23.4	27.0	28.4	27.8

左下顎臼歯も何本か確認されている

## 3004 上顎臼歯

		第2前臼歯	第3前臼歯	第2後臼歯	第3後臼歯
左	右	右	右	左	右
歯冠長		19.2	16.9	22.5	30.2
歯冠幅	最大	19.7	20.4	21.0	23.6
歯冠高	頬側	20.3	21.6	14.8	21.2
	舌側	15.9	20.9	13.9	19.3

全歯列長：136.7mm

歯にセメント質残存

## 人 骨 (単位mm)

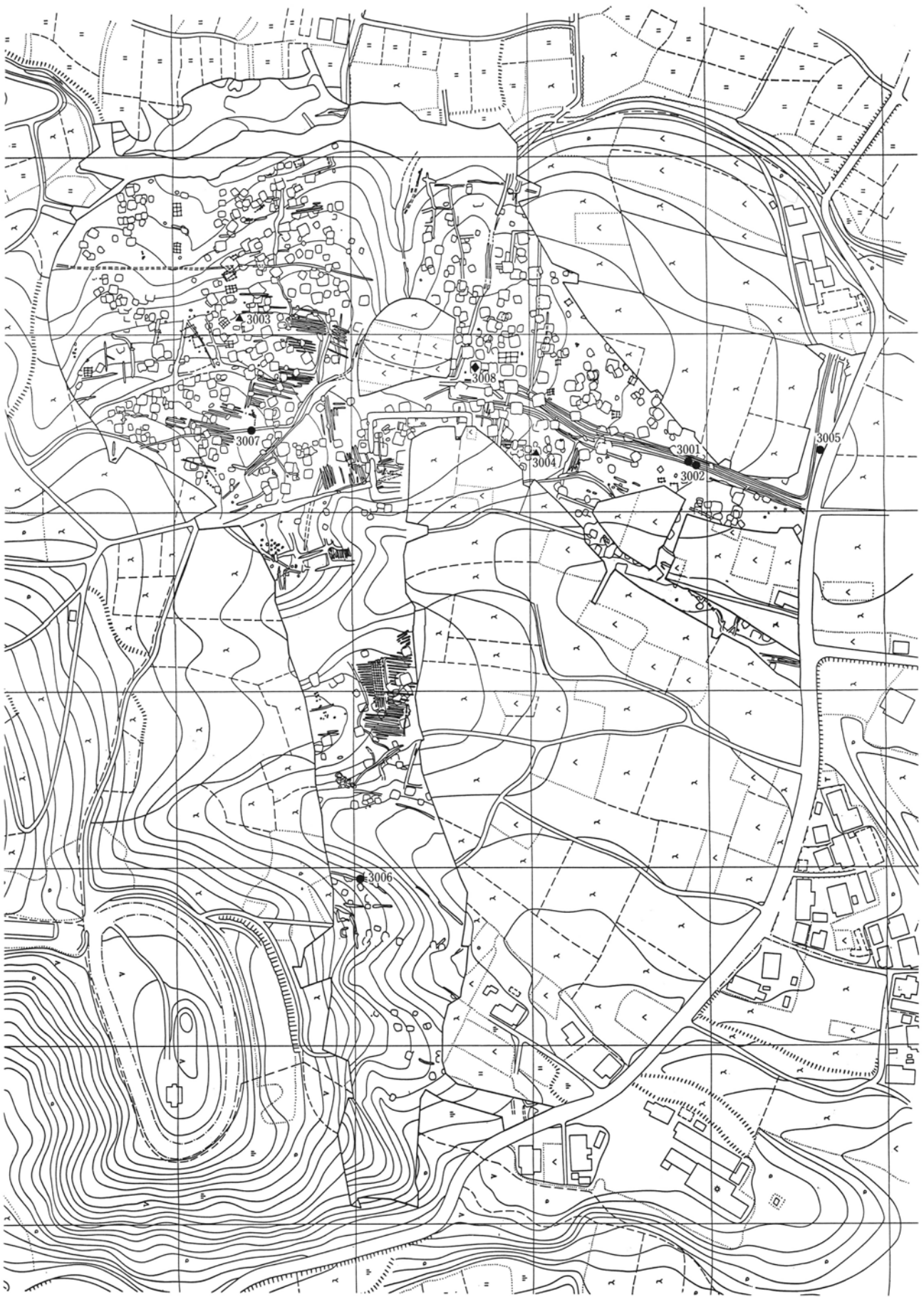
## 3008 歯

		側切歯	犬歯	第1小臼歯	第1小臼歯	第2大臼歯	第3大臼歯
上	下	上	下	下	下	下	下
左	右	左	左	左	右	右	?
歯冠近遠心径		7.4	6.7	6.7	6.8	12.2	12.0
歯冠頬舌径		6.5	7.9	7.8	7.8	11.6	10.8
歯冠高		8.7	9.8	7.6		4.9	5.5
象牙質の露出		切縁に面状	頭に紡錘形	咬頭に面状	咬頭に面状	咬頭に面状	心に極小

この他頭蓋片・大腿骨骨体部・脛骨骨体部・腓骨骨体部あり

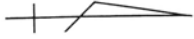
大腿骨骨体中央幅：28.3mm

中央径：22.5mm



人骨・歯	◆
馬 歯	●
牛 歯	▲

獣人骨の出土分布



## 第 IV 章 遺構の特徴





# 1 中世居館と道路

## ア 周辺の城館と字界

これまで判明している周辺の城館は、次のものがある（群馬県教委.1988.『群馬県の中世城館跡』他）。

### 大字矢田

#### 1 天久沢障城（図P.175）

【立地】丘上【存続期間】不明【在城者】不明【文献】なし【字】天久沢【遺構】堀・帯郭

#### 2 矢田城（図P.175）

【立地】段丘端【存続期間】17世紀か【在城者】小林氏【文献】依田文書【字】前畑【遺構】堀・土塁・戸口

#### 3 矢田代官所（図P.175）

【立地】段丘端【存続期間】17～19世紀【在城者】伊奈氏・長谷川氏・小林氏【文献】なし【字】前畑【遺構】堀・土塁・石塁

### 大字多胡

#### 4 多胡下の城（金沢城 一部 図P.175）

【立地】丘上【存続期間】不明【在城者】多胡氏【文献】なし【字】下城【遺構】堀・帯郭・戸口・井戸

#### 5 多胡城（図P.175）

【立地】段丘端【存続期間】不明【在城者】不明【文献】なし【字】城【遺構】不明

#### 6 多胡館（図P.175）

【立地】平坦面【存続期間】12世紀【在城者】（源義賢）【文献】吾妻鏡【字】元郷【遺構】堀・土塁

### 大字多比良

#### 7 一郷山城

【立地】牛伏山頂【存続期間】不明【在城者】多比良氏【文献】なし【字】一郷・見銘寺他【遺構】竪堀・土塁・戸口・堀切・腰郭【備考】新堀城の要害城 近年破壊

#### 8 新堀城（多比良城）

【立地】段丘端【存続期間】不明【在城者】多比良氏・高山泰重【文献】生島足島神社起請文・関東幕注文他4文書【字】中城・新堀・土合川【遺構】堀・竪堀・土塁・戸口・堀切・腰郭・井戸【備考】平井城の副城

#### 9 瀬戸の城（向平城）

【立地】丘上【存続期間】不明【在城者】岡部氏・望月氏【文献】なし【字】向平【遺構】堀跡・土塁

#### 10 中ノ原城

【立地】段丘端【存続期間】15、16世紀間の短期間【存城者】不明【文献】なし【字】中ノ原【遺構】堀跡・土塁・櫓台・掘立柱建物【備考】1987・88年発掘調査 吉井町教委.1989『中ノ原城跡』

### 大字川内

#### 11 川内の砦

【立地】段丘端【存続期間】不明【在城者】牧野英一【文献】なし【遺構】なし

### 大字石神

#### 12 峰山城

【立地】段丘端【存続期間】16世紀【在城者】富田氏【文献】富田文書【字】城・馬場【遺構】堀・土塁・戸口・堀切・腰郭【備考】近年破壊

## 大字下神保

### 13 神保城（植松城）

【立地】段丘端【存続期間】16世紀【在城者】神保氏【文献】なし【字】植松【遺構】堀・石垣・竪堀・土塁・戸口・堀切【備考】1988年発掘調査 群埋文1996.『神保植松遺跡』

## 大字長根

### 14 長根城

【立地】段丘端【存続期間】16世紀【在城者】長根（小幡）氏・小林左馬助【文献】生島足島神社起請文他5文書【字】上の場【遺構】堀・竪堀・土塁・戸口・堀切他

以上の中で、7のみが完全な山頂立地であり、西の城山・旭岳山頂にも続く要害山城である。その他は、1・4・9は丘上ではあるが、丘そのものが段丘端に立地しており、基本的には6を除いてほぼ同様の自然地形を要害としている。今回の調査で検出した館跡（天王原居館）が、6に似た立地の2も含めた単純な方形区画に近い点は、立地条件によっているのだろう。

方形単郭の規模を比較すると2（東西100m南北120m土塁高2.5m）、3（東西120m南北100m）、6（一辺110m西北側は角なし）、7（東西84～90m南北90～93m）とほぼ似ている。

伝承では、6が木曾義仲の父義賢の居住地となっている。その他は、大部分が16世紀中葉の武田信玄の上杉・長野氏攻撃に関わる伝承が『箕輪軍記』などに記されている。1は、信玄の陣城との伝えがある。確実な文書によれば、14は武田方であり、8は上杉・長野方の後に武田方に在城者が変わっている。7は平井城の外堡とされる。矢田村は、近世において天領や吉井藩領などの支配の変化を繰り返すが、2は吉井藩陣屋跡で3は天領期の代官所と言われている。

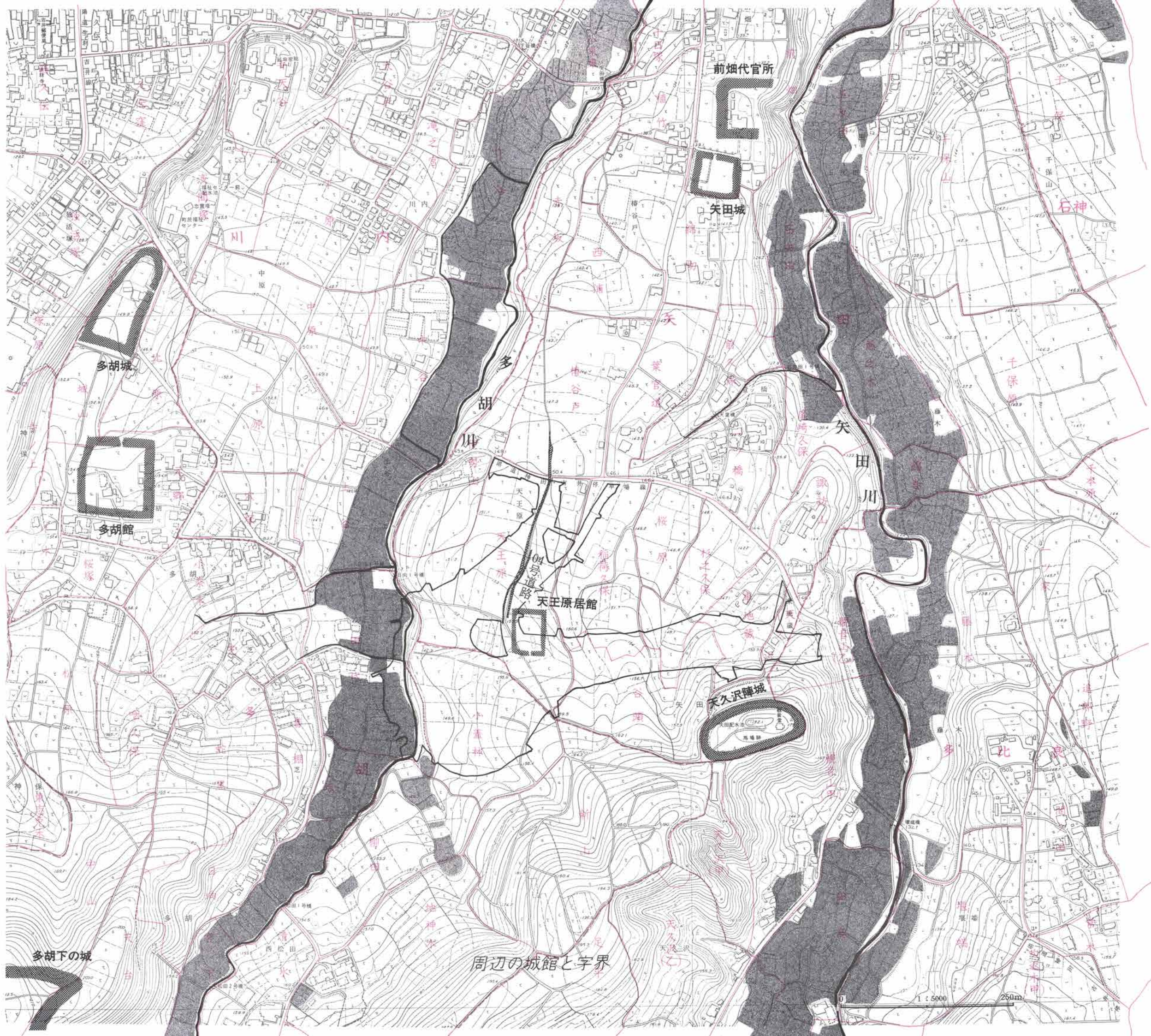
なお、本遺跡地が近世にそれぞれ支配の異なった矢田・多胡・多比良・川内の4大字の境界に位置しており、その結節点の一つが1のある天久山である点は、重要である。

## イ 天王原居館とその周囲

本調査で検出した天王原居館は、単純な長方形の単郭（東西50m南北59m）であることは間違いない。中心部分は調査範囲外であったが、堀・柵跡である柱穴列が東側に少し空間を設けながら堀・土塁内に巡っており、単純な構造の戸口が南面に見られる。土塁と堀・柵の間には、北西側に方形竪穴がある。

このようなあり方は、あまり堅固な防衛構造がない点に特徴があり、船載青磁・土器埴・茶臼など一定度の経済力を持つ居住者が日常的に生活を過ごしたことが明らかである。遺物より考えた13～15世紀の存続期間において確実に並行して存続していた単郭城館は、C種埴の出ている中ノ原城を除いて周辺には存在しない。上述のように近隣に見られる方形単郭の多胡館・中ノ原城・矢田城・矢田代官所は、それぞれ規模はこの天王原居館に比べ約2倍程度の大きさがある。しかし、中ノ原城以外の各城館の伝承による存続期間は、天王原居館とは異なっている。実際に伝承が事実であるかは、現段階では確証がないが、規模にはっきりと差が認められる点は注目して良い。

ほぼ全面調査された中ノ原城の場合、土橋・柱穴列・方形竪穴はなく、僅かに南東隅近くに掘立建物が1棟確認されただけだった。天王原居館より規模は大きいのが、生活痕跡は薄い。（P.177に続く）



前畑代官所

矢田城

多胡城

多胡館

天王原居館

天久沢陣城

多胡下の城

周辺の城館と字界

1 : 5000

250m



(P.174より)

天王原居館で注意すべきは、東にわずか250mの距離しか離れていない天久沢陣城との関係である。近世の軍記物『箕輪軍記』に、信玄の愛馬天久がここで死亡したという伝説が記されている以外に、明確な資料がない。楕円形の堀・腰郭跡が、恐らく近世後期に建立された馬頭観音の境内を取り巻いて見られる。

この天久山の場所が、南西側の丘続き方向を除いた各方向に広い展望があることは、第I章で記した通りである。そのために、信玄軍が東方の新堀城などを攻撃する際の陣となった可能性はもちろん否定できない。ただし、それ以前においてこの場所が全く空間であったかを考えると、本天王原居館の居住者がここを簡単な要害として利用していた可能性は、決して小さくはないと思われる。

今回の調査で検出した中世の遺構を見ると、居館の西面にそって北に向かう04号道路が大きな意味を持っている。恐らくこの道路の延長として意識された近世の04号溝を含めて、やや弧を描きながら南北方向に走る大きな境界の存在を見ることができる。この境界の東側には居館以外には、北に離れて12号井戸がある程度なのに対し、西側では堀を持たない状態での井戸を伴う掘立柱建物群（次節で詳述）が、多胡川に流れる低地を境にして南北に2群認められる。さらにそこに墓や小鍛冶などが点在している。

04号道路はそのまま北に延びて、北の段丘崖下を東西に走る伝鎌倉街道とこの居館をつなぐ重要な道であったことは間違いない。

道路の東側は、少なくとも北に120mほど離れた12号井戸の周辺までは建物が存在しない可能性が高く、居館居住者が直接に管轄する領域であったと考えられる。それに対し、西側は防衛施設に囲われない住宅がまとまる領域であり、そこは居住者たちの生業（鍛冶がその一つ）そして埋葬が同時になされた空間と見ることができる。このような空間分離は、出土遺物の状態から見る限り、全く異なった時代のことではなく、同時並行した可能性が極めて高い。そうであるならば、この分離状況から見る限り、居館居住者と西側の集落居住者の関係は、相互に混在のできない身分差のようなものであったかもしれない。

また、西側の南北二つのグループは、建物の主軸が明らかに異なっており、相互に別の集団を形成していた感じがある。この区分意識が近世まで何らかの状態で引き継がれ、大字矢田と多胡の境界がその間に残されたことになったように思われる。

とするなら、ではなぜ重要な境であった04号道路は、近世以降に大字境にならなかったのか。それを合理的に解釈するためには、居館が西側の集落よりも先に廃絶したことしか考えられない。実際に今回判明しただけでも、南西側の多胡川端の10号掘立のように近世の建物と推定されるものがあり、完全な集落の存続はないだろうが、居館の廃絶よりもかなり後まで集落が続いた可能性が高い。

もう一つの問題として、指呼の距離にある多胡館の存続期間がある。仮に天王原居館と並行する期間があるなら、南西側の集落の帰属・支配については、多胡館居住者が関わってくる可能性がある。その場合、天王原居館と多胡館の両居住者は、複雑な関係を持っていたことになる。

中世文献に登場するこの地域の武士団は、多胡氏と多比良氏である。多胡館は、地上に残る遺構からは中世初期のものと考えられている。そのため、「多胡先生<sup>せんじょう</sup>」の異名を持つ源義賢との関係が想定されてはいるが、多胡氏・多比良氏は共に吾妻鏡に登場しており、特に多胡氏の登場は12世紀末まで遡る。そのため、多胡館の居住者は多胡氏であった可能性もある。矢田川を越えた東側の多比良氏の本拠地側との関係は、今回の調査でも中世に関しては希薄である。従って、本天王原居館の居住者は、その多胡氏の一族であったと考えるのが自然であろう。



## 2 掘立柱建物

本報告の執筆時までに確認した掘立柱建物と柱穴列は、次の通りである。

	近世		中世		古代		古墳		時期不明		合計	
	掘立	柱穴列	掘立	柱穴列	掘立	柱穴列	掘立	柱穴列	掘立	柱穴列	掘立	柱穴列
北西側	1	0	7	5	1	0	0	0	2	0	11	5
東側	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
南西側	0	1	4	0	8	2	0	3	0	0	12	6
計	1	1	11	5	9	2	0	3	2	0	23	11

単純な分布は、東側地区では全く見られず、北西側と南西側のみに分かれていることになる。時期別では、中近世と古代に大きく分かれ、掘立・柱穴列共に中世が多い。時期別の地域差は、共に完全に偏っているわけではないが、中世の主体が北西側にあるのに対し、古代以前は南西側が中心となっている。

構造別では、掘立の場合に次のような特徴が見られる。

近世	主軸：南北	間数：2×3間	柱穴掘り方：普通
中世	主軸：東西7・南北3・北東南西1	間数：1×2間5・2×2間1・2×2間総柱1・2×3間総柱4	柱穴掘り方：普通6 小5
古代	主軸：南北1・東西1・北西南東7	間数：1×1間1・1×2間1・2×2間1・2×3間3・2×3間総柱3・2×4間1	柱穴掘り方：大6 普通2 小1

即ち、中世は東西方向を主軸に持つものが多く、小型（1×2間）と大型（2×3間総柱）にほぼ分かれる。小型は北西側に多く、大型は南西側が中心である。柱穴掘り方は大体あまり大きくない。これに対し、古代は北西・南東方向を主軸に持つものが圧倒的に多く、全体としては大型（2×3間）が中心だが、総柱のものとはそうでないものに分かれる。掘り方は、大部分が大きい。中ノ原城では東西主軸の2×3間（4.1×7.3m）の建物が見られ、掘り方はやや大きい。

柱穴列は、単純には比較できない。中世のものは、館跡内に設置された同一の遺構であり、確認した間数は2～3間程度かつ間隔は不揃いであり、掘り方は小さい。当然、主軸は館跡堀に平行して各方向に走っている。これは、文字通り堀や柵の主柱の跡であろう。古代の場合、検出した2基は、いずれも東西走向だが、特に09号は同一方向に5回の並び替えがある。柱穴掘り方は大きい。これらは、掘立建物の一部である可能性を否定できない。一方、古墳時代のものは、東西方向が2、北西・南東方向が1である。後者の11号は掘り方も大きく、遺物から古墳時代としたが、上記古代の掘立の傾向に似ている。

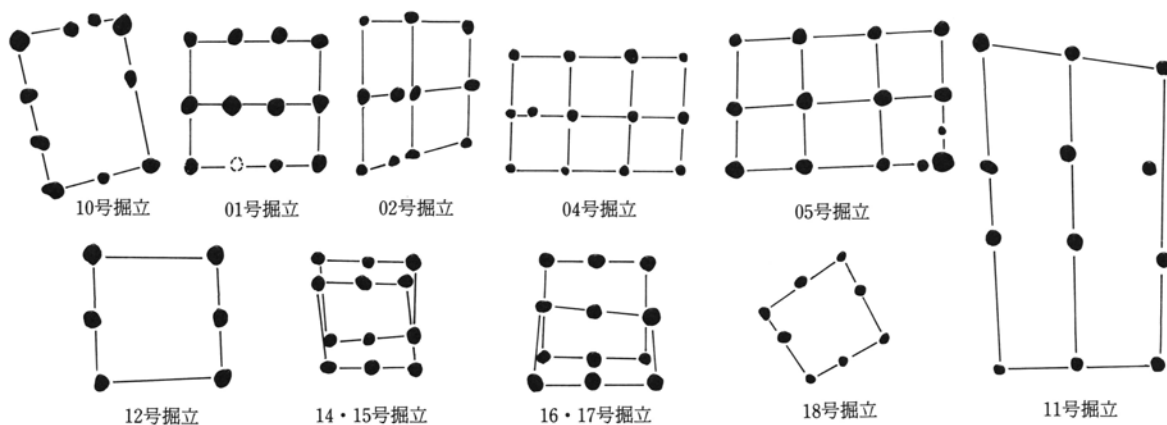
ここで検討した掘立と柱穴列は出土遺物が多くはないため、細部に至っては厳密には時期判別が妥当でない可能性も残すが、全体としては中世と古代で傾向が大きく異なる状況は指摘することができる。

だが、調査上の問題として、竪穴住居以外の遺構が全て「ピット」という呼称により単独で処理されてきたことがある。それらの「ピット」の中で列をなすことが整理中に分かったものは、21～23号掘立と全ての柱穴列である。しかし、それはあくまで顕著な遺物の見られた「ピット」のみを検討した結果であり、実際には子細に注意を払えば、まだかなり多くの掘立や柱穴列を確認できる可能性は極めて大きい。

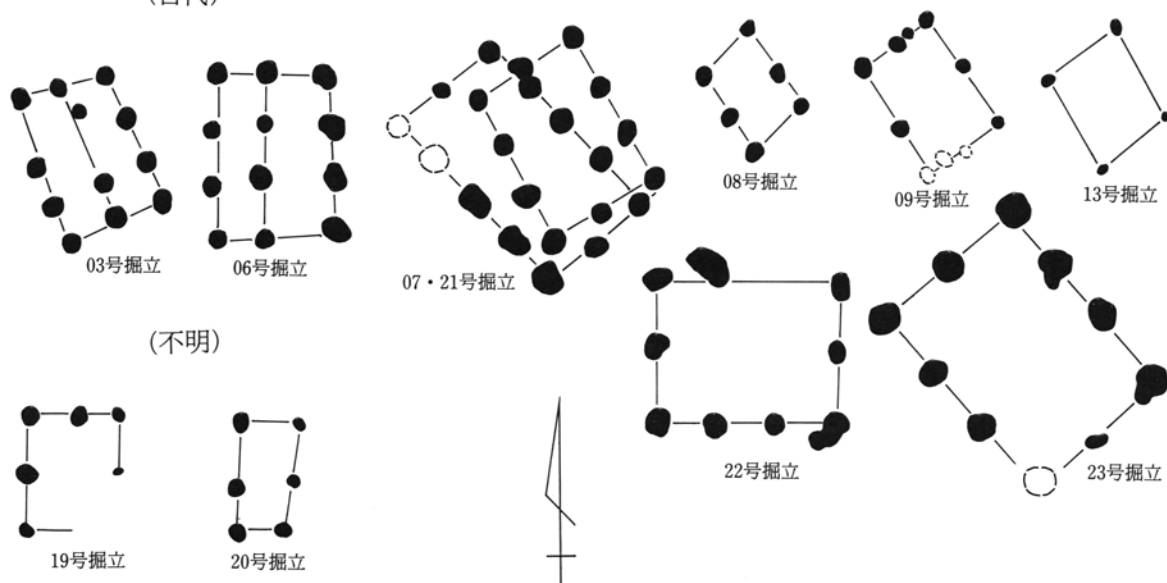
「竪穴住居の集落」として調査されたことで、少なからず見落とされた事実の存在を感じざるを得ない。

# 掘立柱建物

(近世・中世)



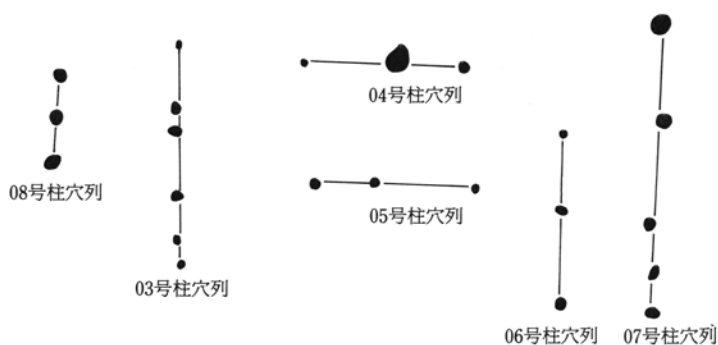
(古代)



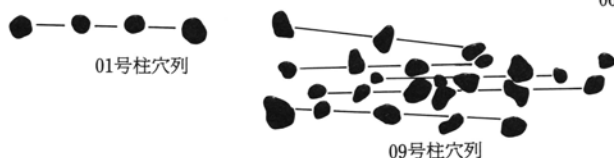
(不明)

# 柱穴列

(近世・中世)



(古代)



(古墳)



0    1 : 250    12.5m



### 3 景観復元

本報告の目的の一つは、主な対象である溝などの長大な遺構の理解であった。そのために、特に重点的に周辺の地形がどのようなものであり、それが過去の生活とどのような関係があったかを検討しようとした。

その目的に近づくために、ここでは二つの方法で接近を試みた。一つが、コンピューターグラフィックによる鳥瞰周辺地形復元図の作成であり、もう一つがイラストレーション図による景観復元である。それらの概要は次の通りである。

#### ア 鳥瞰周辺地形復元図 (PL3,4)

ここでは、調査地を中心にした範囲（東西1.1km南北0.9km）の鳥瞰図を4方向から作成した。その要点の一つは、多胡川と矢田川の両河川と段丘との関係、南側の天久山丘陵と段丘平坦面の関係という両重要地形要素を立体的に理解することである。もう一つは、調査で検出した溝や道路が地形とどのような関係で存在したかを明らかにすることであった。

実際には、その二つの目的を同時に達成することは簡単ではない。自然地形は広い範囲の大きな変化を捉えることが重要であり、俯角を上げ、高度を強調し、縮小率は大きくした方が理解しやすい。しかし、道路はもちろん溝でさえ、遺構として検出したものは自然地形に比べ変化の率は極めて小さい。そのため、遺構理解には、範囲を狭くして縮小率を下げ、俯角を下げて高度を強調しない方が実際の感じに近い。

そのような二律背反的な要件を同時に満たすような形で、今回の復元図を試みに作成した。

結果的には、次のことが少なくとも理解できる。

- 1 南側の天久山丘陵の存在が極めて大きい。
- 2 多くの遺構はあまり微地形に関わりなく形成されている。

つまり、南側にかなり意識される丘があるため、居住者の生活視点は、常に北に向かっているとすることが分かり、またその大きな視点の意識の中では、多少の細かい地形変化はそれほど注意を払わない、と想定することができた。

#### イ 景観復元イラストレーション (図P.182)

上記の鳥瞰図による結果を踏まえて、実際の生活の様子を人間のアイレベルでどのように映っていたかを想定して描いた。当然、その設定時代は、本報告の中心となった中世である。

本調査地のある矢田段丘は中央の道路を境にして、東西に大きく分かれている。東側には堀で囲まれた居館のみがあり、西側は防衛施設を持たない集落である。

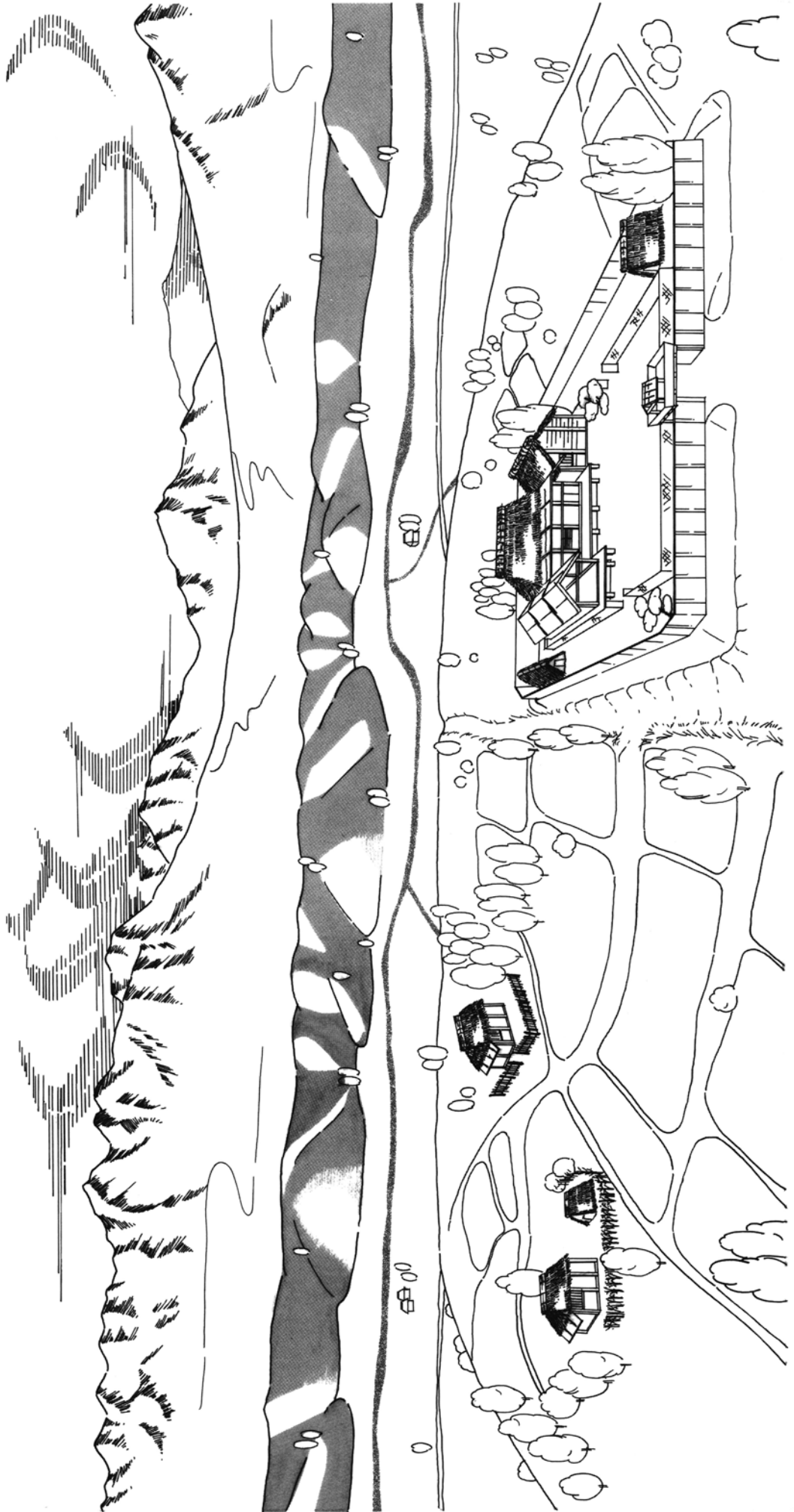
これらに居住する人々が天久山丘陵の中腹くらいに登れば、まず眼前には段丘端の向こうに広く東西に延びる鑄川低地（甘楽回廊）が見渡せる。そこにはいわゆる鎌倉街道が段丘の下を走っている。

鑄川の背後には低い岩野谷丘陵（観音山丘陵）があまり高度に変化のない状態で横に延びている。この丘陵は決して通過にそれほど困難を伴うわけではないが、途切れることなく連なっていることで、この地域の居住者にとって精神的には大きな境となっている。

そのような丘陵の背後の遠くに、榛名・子持・武尊・赤城の上野北部の連山が屹立して見渡せる。これらの山並みは、岩野谷丘陵に比べ、あまりにも荒々しい姿であり、甘楽回廊一帯の穏やかな生活とは一変する生活があることを連想させる姿である。

視野の中に岩野谷丘陵を越えた世界は常に見ることができるとは、そこに存在するものはかなり異なった世界であることも感じざるをえないような景観でもある。

中世の景観想定図



## 第 V 章 調査成果まとめ



# 1 近世以降

すでに述べたように、本遺跡の調査は古代以前の竪穴住居を対象として実施された。そのため、近代はもちろん近世についてさえ、積極的な意味で調査されてはいない。その最も顕著な例は、本報告で畠としたものが、耕作痕としてのみ記され結果的には掘り込みが実測されてはいるものの、それぞれを遺構単位として認識は全くされていなかったことに見られる。

本報告では、すでにこれまでに各箇所でも報告したように、それらを多数の畠遺構とした。その大部分は天明年間の浅間山爆発以後に作られたもので、その地割りは調査前の地境にほとんど一致している。つまり、18世紀末以降の近世後期から近代そして現代に至る景観は、少なくとも地境に関する限り、ほとんど変化していないと考えることができる。

そのような中で最も興味深いのは、当然のことかもしれないが、天明の大災害以前に形成された道路や地境は、特に重要な中世の04号道路以来の部分を除いて、そのままの形で復旧していない点である。

また、全体として、畠での農耕生産に関する遺構と遺物が大部分であって、出土位置不明の銀象嵌矢立のような少数の例外を除いて、居住生活に関係するものは多くない点が上げられる。

各地域ごとの遺構分布の特徴は、次の通りである。

## 【北西側地区】

ここでの最も中心は、道路である。特に中世の04号道路の部分は何回も改修されている。この道路も含めて、調査時には主体的に取り上げられた遺物は古代の須恵器類であるが、竪穴住居集落を壊して形成された道路の側溝であれば、そのような遺物が混入しているのは当然である。道路の側溝を単独の溝として捉え、しかも量的に多い須恵器類を中心に考え、中世はもちろん近世・近代の遺物を「攪乱」のような形で意識してしまえば、これらは性格不明の溝が平行して出てきたことにのみなってしまう。

残念ながらそのような状態であったため、路面の確認や改修などの資料が抽出できなかったことは、極めて遺憾である。

## 【東側地区】

ここでは、土坑類の検出が中心である。近世から近代にかけて上野地方では普遍的に畠地の縁辺あるいは屋敷構えの外郭にそって短冊形の土坑が見られる。これは、いわゆるイモ穴などと呼ばれる貯蔵用を中心とする畠地農耕に伴った遺構と考えられる。

本地区で検出された土坑の多くは、そのような短冊形の土坑である。これも調査時には、長いものについては溝として捉えられたため、重複する単位などが不明確になってしまったものも多い。

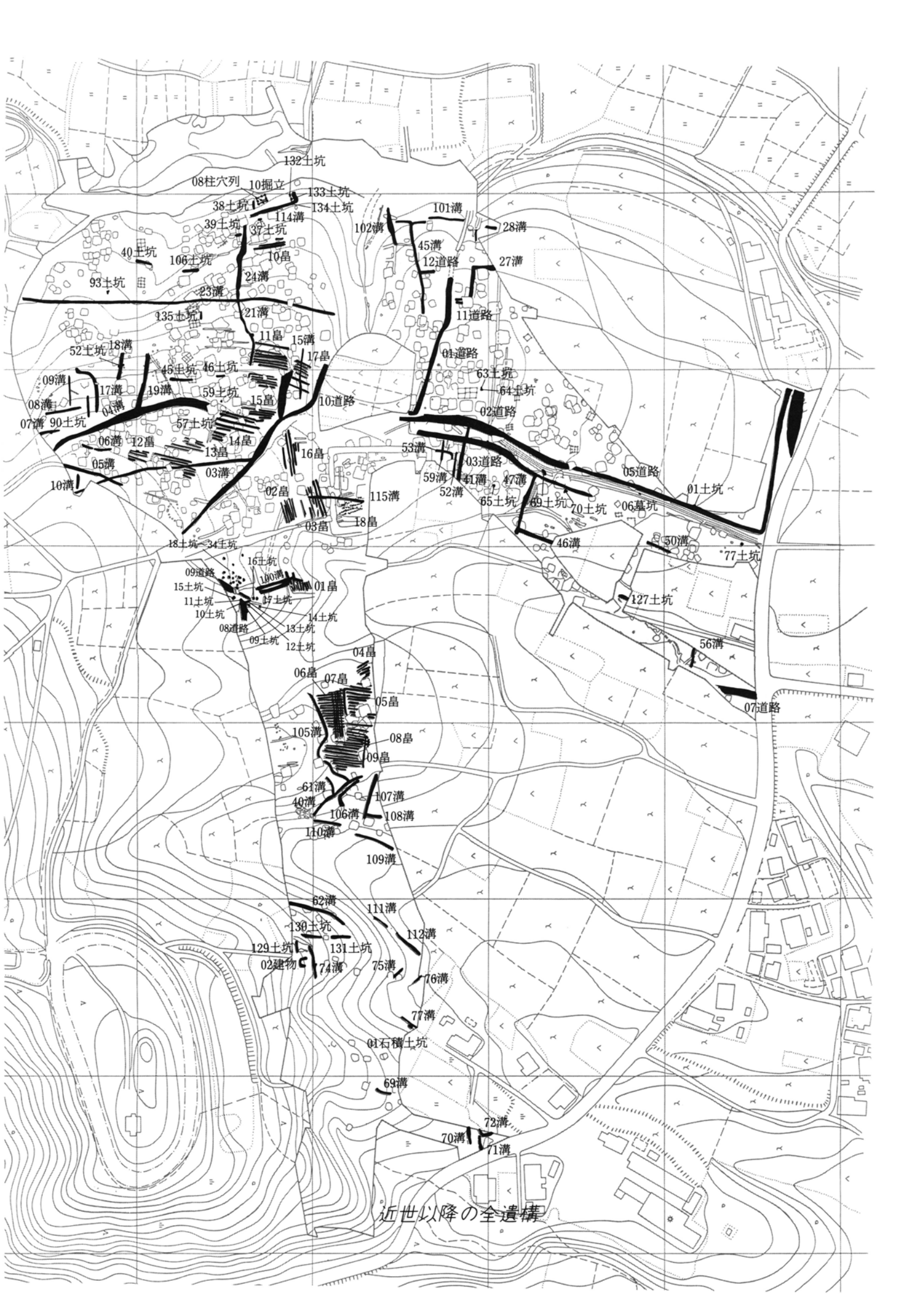
性格不明なものだが、1基検出された石積土坑は、かなりの労力をもって築かれたものである。今後の類例の発見をもって、検討を続ける必要がある。

平面U字形の溝をもって、建物跡とした。これも正確には建物本体ではないため、今後の考察を要する。

## 【南西側地区】

ここで多く検出したのは、前段で述べたような地境の溝である。また畠も多く、短冊形土坑も少なからず見られる。それ以外では、10号掘立が近世唯一の建物となる。掘立の柱穴そのものからの遺物の出土はないが、周辺を囲む溝の存在から近世のものであることはほぼ確かだろう。

全体としては本地区での近世以降の要素は、以上を除いてあまり顕著ではない。



近世以降の全遺構

## 2 中世

この時期については、すでに前章でその要点について詳述した。ここでは、地区ごとに検出遺構・遺物の概要をまとめる。

### 【北西側地区】

ここでの中心は、04号道路と館跡そして04号道路西側の掘立建物群である。

館跡は、残念ながら主屋想定部分が範囲外となったが、全体規模を推定できる程度には堀を検出することができ、また内部施設についても3方向を区画する柵・堀跡の柱穴列と方形竪穴を確認した。本地域の中世城館の調査としては、規模は小さいものの植松城・中ノ原城に次ぐ検出となった。

出土遺物は上野地方の中世城館の他例に漏れず、決して多くはない。しかし、少数ではあるが14世紀代の竜泉窯青磁片や茶臼類など一定度、存続期間と性格を想定する資料を確認した。ただし、調査時において中世と認識されていたのは堀だけであり、遺物についても本報告で掲載したものが完全に全てではない可能性は残る。

道路の西側に展開する井戸を伴う掘立建物群は、道路とほぼ並行の南北方向を主軸とするものが多い。基本的には館跡の存続期間と同時の存続が考えられる。規模・形状の異なる個々の建物の性格を特定することはできないが、館居住者に従属的な人たちの住居群であることは間違いない。また、その生業の一つに鍛冶があったことも確かである。

建物群の周縁では自然石を敷いた2基の墓坑が東西に見られた。東側のものに残っていた熟年～老年期の人骨は、この建物群居住者と考えられる。

南北方向に延びる堀底の道路の使用は、その後現代まで継続されている。

### 【東側地区】

ここでは、中世の遺構は極めて希薄である。わずかに矢田稻荷久保地区で1基の井戸を確認しただけである。調査範囲の形状から考えれば、館跡の直接東側部分は、他に中世の遺構が存在した可能性は乏しい。ただし、稻荷久保の12号井戸周辺の調査範囲は狭く、井戸という遺構の性格から考えて、この周辺に建物群などがあったかもしれない。

その傍証で、この井戸のやや南側で14世紀前半の竜泉窯青磁碗片を確認している。また井戸のすぐ近くでは、13～14世紀の銅銭埋納が見られたことも、関係しているだろう。

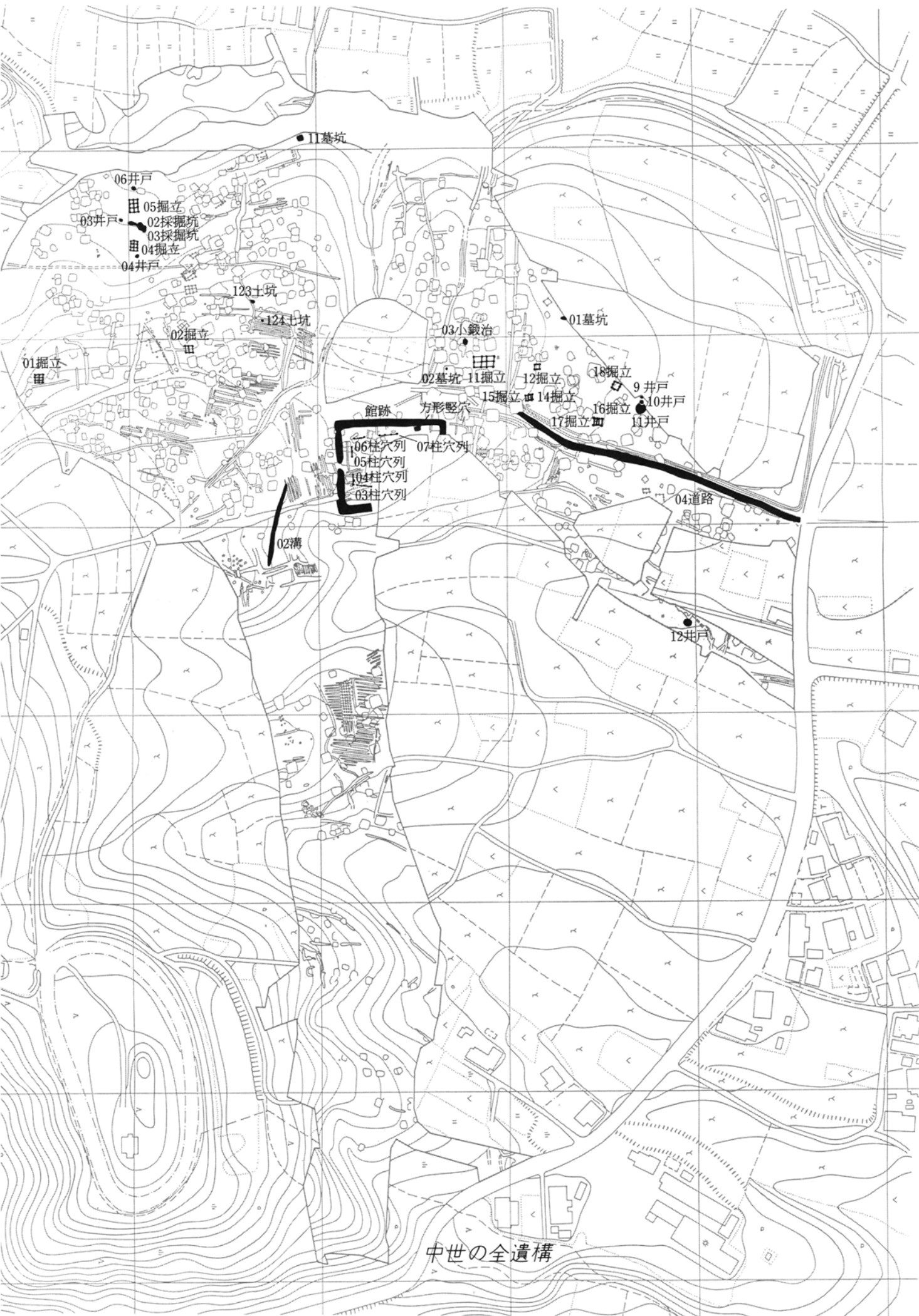
東端の天久沢陣城の直下の傾斜地には、関連する遺構は全く見られなかった。

### 【南西側地区】

掘立建物群が中心である。この建物群は、さらに井戸を伴って集中する東西方向主軸の南西部分グループとそれ以外に分かれる。まださらに多くの建物があった可能性は高い。重要なことは、出土舶載陶磁よりこの建物群の一部が、北西側地区より古い13世紀に遡りうること、そして別の一部は近世初頭までの継続が想定しうることである。他地域より長い存続期間は、この地区が少なくとも近世には他と分かれて多胡村の領域に入ったこととの関係が考えられる。

多胡川と北西部分との境をなす低地に囲まれた先端部分には、六道銭を埋納する墓坑があった。

全体として、この地区はさらに多くの時期の異なった建物群と墓坑が存在した可能性が高い。西の多胡館と北西側地区の館跡(天王原居館)の関係を考える重要な役割があったことを考えることができ、調査時の検出が一部にとどまったことが惜まれる。



中世の全遺構



## 3 古代以前

第1章第1節で述べたように、本書ではこの時代の全体像を記述することはできない。「竪穴住居以外」とされた報告遺構を、以下地区ごとにまとめる。なお古墳時代は後期のみ、また縄文時代は晩期のみである。

### 【北西側地区】

A 古代 土器類を多く出土した溝の大部分は中世以降のもので、確実な人為的遺構は、東側の低地際を北から南に向かう水路01号と48・49号溝（両者は同一遺構で、東側地区の57号溝に続く可能性あり）のみである。竪穴集落と重複する東西方向の区画溝31号については性格時期ともに確定しがたい。他には、小鍛冶遺構と土器集積が見られるが、詳細については不明である。南西側地区との境界をなす多胡川へ流れる流路(60号溝)は、この時代には形成されていた可能性が高い。

顕著な遺物としては、「小子貳?」を刻字した平瓦・須恵器円面硯(01号溝)が見られた。本地区の古代遺物の数量は多いが、竪穴を壊した中世以降の遺構への流入であり、確実な古代遺構は少ない。

### B 古墳時代

東西方向に直線状に走る26号溝からややまとまって須恵器が出ている。一応、古墳時代の溝としたが、流入の可能性はある。また、遺構に伴わない状態で滑石白玉が数点出土した。

### 【東側地区】

A 古代 低地部への斜面で2カ所、土器集積が見られた。これは、基本的にはそれぞれ1個の須恵器大甕が壊れたものである。水汲みなどの用途での作業中に故意ではなく破損したものであり、低地部分の湧水の利用の跡と考えるのが自然である。北側の溝57号は、北西側地区の48・49号溝の延長の可能性はある。

顕著な遺物としては、軒丸瓦(05号溝)がある。

B 古墳時代 遺構・遺物ともに不明。

C 縄文時代 低地を望む斜面左岸で、東信濃地方の晩期水式土器甕片を含んだ方形の81号土坑を検出した。同期の土器片が他にも存在した可能性は残る。

### 【南西側地区】

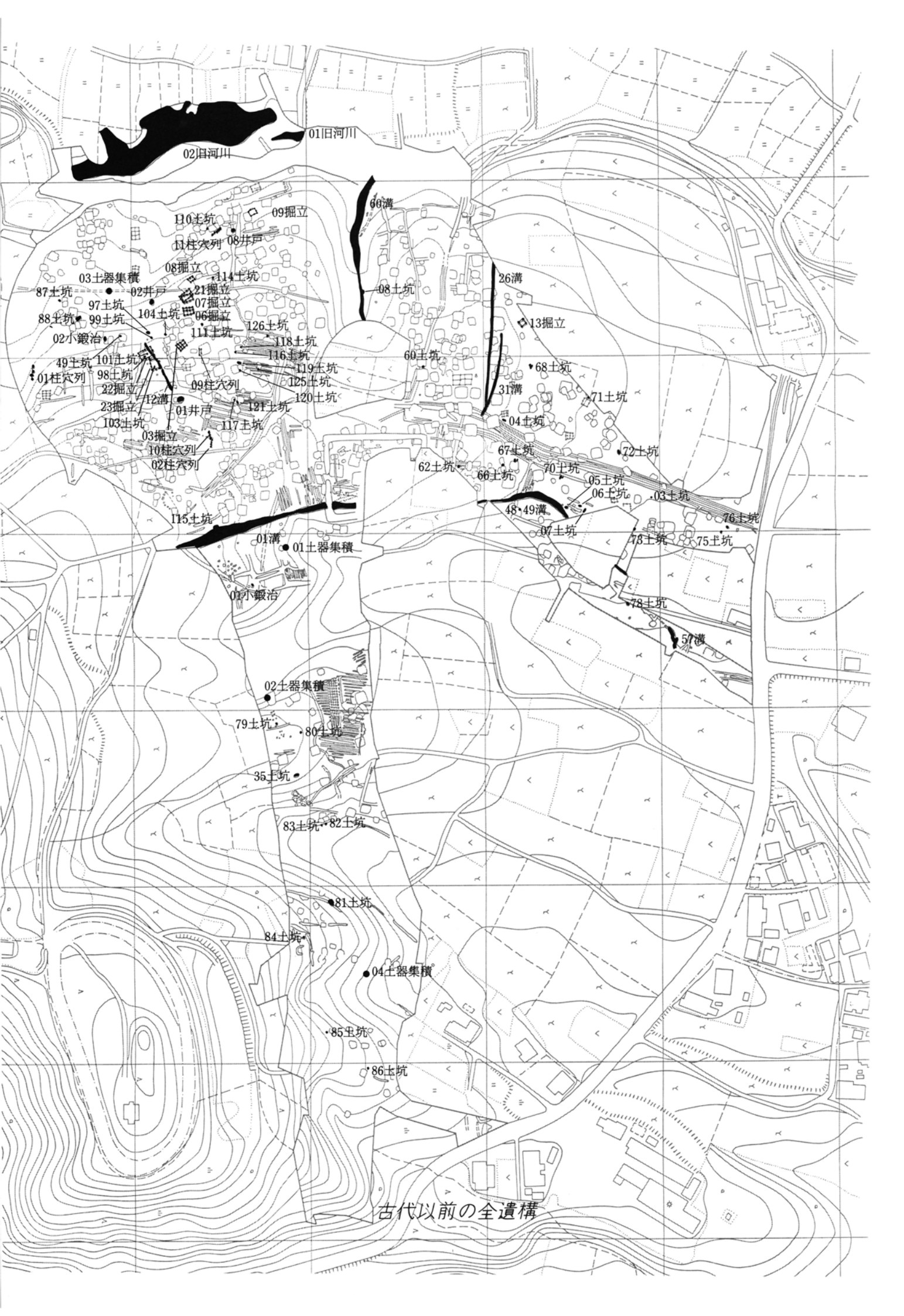
A 古代 掘立建物群が展開している。竪穴住居の集落は大きく南北2群に分かれるが、掘立は北側に集中している。大型の掘り方を持つ柱穴と北北西・南南東方向の主軸を特徴とする。本報告で記した8棟以外にも多数存在する可能性があり、竪穴住居との重複を含めて古代の集落を考える上で極めて重要な遺構群であるが、調査時また竪穴整理では遺憾ながらほとんど考慮されていない。

また竪穴の空白部分で土器集積があった。これは明らかに須恵器坏を中心に意図的な配置が見られ、さらに土師質の土錘も集中している。ただし、特殊な器形のものはなく、全て日常生活具である。その他に小鍛冶遺構も見られ、本地区の古代の集落はかなり多様な姿を見せる。

顕著な遺物としては、刻字平瓦(01号井戸)、鉄製刀子(110号土坑)、また遺構外出土の刻字滑石片岩紡錘車がある。

B 古墳時代 掘立建物になる可能性もある柱穴列が、3基見られる。また多胡川の旧河川を確認し、そこに石敷遺構があった。生活水の取水場所であろうか。銅製耳環を出土した123号土坑があった。

【備考】 以上のように掲載遺跡の最も多い古代の遺構は、南西側地区の掘立群と土器集積そして北西側地区から東側地区に続く南から北への水路が最も顕著な人為的遺構である。竪穴集落とこれらとの関係を再検討することが、本遺跡の古代を明らかにするための必須の手続きと考えられる。



古代以前の全遺構

## 第 VI 章 索引



## 遺構索引(時代・分類順)

分類	種類	時代	地区	本文	写真	分類	種類	時代	地区	本文	写真	分類	種類	時代	地区	本文	写真
交通	01道路	近代	北西	26	17	不明	72溝	近世?	東	79	52	居住	10井戸	中世	北西	35	28
交通	03道路	近代	北西	26	19	不明	74溝	近世?	東	74	49	居住	11井戸	中世	北西	35	28
交通	09道路	近代	北西	56	なし	不明	75溝	近世?	東	74	なし	埋葬	01墓坑	中世?	北西	40	29
交通	11道路	近代	北西	34	なし	不明	76溝	近世	東	74	50	埋葬	02墓坑	中世?	北西	27	24
交通	12道路	近代	北西	49	36	不明	77溝	近世	東	74	50	生産	03小鍛冶	中世	北西	44	31
生産	01畠	近代	北西	56	なし	不明	111溝	近世	東	74	47	交通	04道路	中世	北西	26	20
生産	02畠	近代	北西	56	なし	不明	09土坑	近世	東	61	42	不明	02溝	中世?	北西	56	なし
生産	03畠	近代	北西	56	なし	不明	13土坑	近世	東	61	42	居住	12井戸	中世	東	68	44
生産	18畠	近代	北西	52	なし	不明	10土坑	近世?	東	61	42	居住	01掘立	中世?	南西	106	65
不明	27溝	近代	北西	34	27	不明	11土坑	近世?	東	61	42	居住	02掘立	中世?	南西	102	63
不明	28溝	近代	北西	34	27	不明	12土坑	近世?	東	61	42	居住	04掘立	中世?	南西	90	56
不明	45溝	近代	北西	49	36	不明	14土坑	近世?	東	61	42	居住	05掘立	中世?	南西	90	56
不明	46溝	近代	北西	45	33	不明	15土坑	近世?	東	61	42	居住	03井戸	中世?	南西	90	56
不明	47溝	近代	北西	45	33	不明	16土坑	近世?	東	61	42	居住	04井戸	中世?	南西	93	57
不明	50溝	近代	北西	45	34	不明	17土坑	近世?	東	61	42	居住	06井戸	中世?	南西	90	56
不明	59溝	近代	北西	45	35	不明	18土坑	近世?	東	61	42	埋葬	11墓坑	中世	南西	82	54
不明	100溝	近代	北西	56	なし	不明	19土坑	近世?	東	61	42	生産	02採掘坑	中世?	南西	90	57
不明	70土坑	近代?	北西	122	73	不明	20土坑	近世?	東	61	42	生産	03採掘坑	中世?	南西	90	57
生産	04畠	近代	東	72	なし	不明	21土坑	近世?	東	61	42	不明	123土坑	中世	南西	147	87
生産	05畠	近代	東	72	なし	不明	22土坑	近世?	東	61	42	不明	124土坑	中世	南西	148	87
生産	06畠	近代	東	72	なし	不明	23土坑	近世?	東	61	42	居住	13掘立	古代?	北西	40	29
生産	07畠	近代	東	72	なし	不明	24土坑	近世?	東	61	42	生活	01土器集積	古代	北西	60	41
生産	08畠	近代	東	72	なし	不明	25土坑	近世?	東	61	42	生産	01小鍛冶	古代	北西	61	42
生産	09畠	近代	東	72	なし	不明	26土坑	近世?	東	61	42	不明	01溝	古代	北西	56	39
不明	62溝	近代	東	74	47	不明	27土坑	近世?	東	61	42	不明	31溝	古代	北西	26	17
不明	105溝	近代	東	72	なし	不明	28土坑	近世?	東	61	42	不明	48溝	古代	北西	45	33
不明	106溝	近代	東	72	46	不明	29土坑	近世?	東	61	42	不明	49溝	古代	北西	45	33
不明	107溝	近代	東	72	なし	不明	30土坑	近世?	東	61	42	不明	60溝	古代?	北西	49	36
不明	108溝	近代	東	72	なし	不明	31土坑	近世?	東	61	42	不明	03土坑	古代	北西	35	なし
不明	109溝	近代	東	72	なし	不明	32土坑	近世?	東	61	42	不明	04土坑	古代	北西	42	30
不明	110溝	近代	東	72	なし	不明	33土坑	近世?	東	61	42	不明	05土坑	古代	北西	45	32
不明	112溝	近代?	東	74	47	不明	34土坑	近世?	東	61	42	不明	06土坑	古代?	北西	45	32
生産	10畠	近代	南西	82	なし	不明	129土坑	近世?	東	74	48	不明	07土坑	古代?	北西	45	32
生産	11畠	近代	南西	82	87	不明	130土坑	近世?	東	74	48	不明	08土坑	古代	北西	50	なし
生産	12畠	近代	南西	109	68	不明	131土坑	近世?	東	74	48	不明	60土坑	古代	北西	118	71
生産	13畠	近代	南西	109	68	居住	10掘立	近世?	南西	85	54	不明	62土坑	古代	北西	118	71
生産	14畠	近代	南西	109	68	居住	08柱穴列	近世?	南西	85	54	不明	66土坑	古代	北西	120	なし
生産	15畠	近代	南西	109	なし	交通	10道路	近世	南西	109	68	不明	67土坑	古代	北西	122	72
生産	17畠	近代	南西	109	68	不明	03溝	近世	南西	109	68	不明	68土坑	古代	北西	122	なし
不明	10溝	近代	南西	109	なし	不明	04溝	近世	南西	109	66	不明	70土坑	古代?	北西	122	73
不明	17溝	近代	南西	100	62	不明	05溝	近世	南西	109	67	不明	71土坑	古代	北西	124	なし
不明	21溝	近代	南西	82	なし	不明	06溝	近世	南西	109	67	不明	72土坑	古代	北西	124	74
不明	45土坑	近代	南西	100	62	不明	07溝	近世?	南西	100	61	不明	73土坑	古代	北西	124	74
不明	46土坑	近代	南西	100	なし	不明	08溝	近世	南西	100	なし	不明	75土坑	古代	北西	124	74
不明	93土坑	近代	南西	136	81	不明	09溝	近世?	南西	100	61	不明	76土坑	古代	北西	126	74
不明	132土坑	近代?	南西	82	なし	不明	15溝	近世?	南西	109	68	生活	02土器集積	古代	東	70	45
不明	133土坑	近代?	南西	82	なし	不明	18溝	近世	南西	100	62	生活	04土器集積	古代	東	76	50
不明	134土坑	近代?	南西	82	なし	不明	19溝	近世	南西	100	62	不明	57溝	古代	東	66	43
埋葬	06墓坑	近世?	北西	26	25	不明	23溝	近世?	南西	82	53	不明	35土坑	古代?	東	72	77
交通	02道路	近世	北西	26	18	不明	24溝	近世	南西	82	53	不明	78土坑	古代	東	128	76
交通	05道路	近世	北西	26	21	不明	114溝	近世?	南西	82	54	不明	79土坑	古代	東	130	77
交通	06道路	近世	北西	26	23	不明	37土坑	近世	南西	85	54	不明	82土坑	古代?	東	133	なし
生産	16畠	近世?	北西	109	68	不明	38土坑	近世	南西	85	54	不明	83土坑	古代	東	133	78
不明	41溝	近世	北西	45	35	不明	39土坑	近世	南西	86	85	不明	84土坑	古代	東	133	78
不明	52溝	近世	北西	45	35	不明	40土坑	近世	南西	90	57	不明	85土坑	古代	東	134	79
不明	53溝	近世?	北西	45	35	不明	52土坑	近世	南西	106	62	不明	86土坑	古代	東	134	79
不明	101溝	近世	北西	49	36	不明	57土坑	近世?	南西	112	66	居住	03掘立	古代	南西	102	63
不明	102溝	近世	北西	49	36	不明	59土坑	近世?	南西	112	66	居住	06掘立	古代	南西	88	55
不明	115溝	近世?	北西	52	なし	不明	90土坑	近世	南西	136	80	居住	07掘立	古代	南西	88	55
不明	01土坑	近世?	北西	27	25	不明	106土坑	近世	南西	141	83	居住	08掘立	古代?	南西	88	なし
不明	63土坑	近世?	北西	120	72	不明	135土坑	近世	南西	88	55	居住	09掘立	古代	南西	85	54
不明	64土坑	近世?	北西	120	72	居住	館跡	中世	北西	52	37	居住	21掘立	古代	南西	88	55
不明	65土坑	近世?	北西	120	72	居住	03柱穴列	中世	北西	52	37	居住	22掘立	古代	南西	139	なし
不明	69土坑	近世	北西	122	73	居住	04柱穴列	中世	北西	52	37	居住	23掘立	古代	南西	139	なし
不明	77土坑	近世	北西	126	75	居住	05柱穴列	中世	北西	52	37	居住	01柱穴列	古代	南西	106	65
不明	127土坑	近世	北西	46	34	居住	06柱穴列	中世	北西	52	37	居住	09柱穴列	古代	南西	141	84
居住	02建物	近世?	東	74	49	居住	07柱穴列	中世	北西	52	37	居住	01井戸	古代	南西	102	64
生活	01石積土坑	近世	東	78	51	居住	方形整穴	中世	北西	52	37	居住	02井戸	古代	南西	93	57
交通	07道路	近世	東	66	43	居住	11掘立	中世?	北西	44	30	居住	08井戸	古代?	南西	86	55
交通	08道路	近世?	東	56	なし	居住	12掘立	中世?	北西	41	29	生産	02小鍛冶	古代?	南西	106	65
不明	40溝	近世	東	72	46	居住	14掘立	中世?	北西	42	29	生活	03土器集積	古代	南西	94	58
不明	56溝	近世?	東	66	43	居住	15掘立	中世?	北西	42	29	不明	12溝	古代	南西	100	62
不明	61溝	近世?	東	72	46	居住	16掘立	中世?	北西	35	28	不明	49土坑	古代?	南西	106	なし
不明	69溝	近世	東	79	52	居住	17掘立	中世?	北西	35	28	不明	87土坑	古代	南西	136	79
不明	70溝	近世	東	79	52	居住	18掘立	中世?	北西	35	28	不明	88土坑	古代	南西	136	79
不明	71溝	近世	東	79	52	居住	09井戸	中世?	北西	35	28	不明	89土坑	古代?	南西	136	80

第VI章 索引

分類	種類	時代	地区	本文	写真
不明	91土坑	古代	南西	136	80
不明	92土坑	古代	南西	136	80
不明	97土坑	古代	南西	139	81
不明	98土坑	古代	南西	139	81
不明	99土坑	古代	南西	139	82
不明	101土坑	古代	南西	139	82
不明	103土坑	古代	南西	139	83
不明	104土坑	古代	南西	139	83
不明	107土坑	古代	南西	141	84
不明	109土坑	古代	南西	141	84
不明	110土坑	古代	南西	143	84
不明	111土坑	古代	南西	143	84
不明	114土坑	古代	南西	144	85
不明	115土坑	古代	南西	144	85
不明	116土坑	古代	南西	145	なし
不明	117土坑	古代	南西	145	86
不明	118土坑	古代	南西	145	なし
不明	119土坑	古代	南西	145	86
不明	120土坑	古代	南西	147	86
不明	121土坑	古代	南西	147	86
不明	122土坑	古代	南西	147	87
不明	125土坑	古代	南西	148	88
不明	126土坑	古代	南西	148	88
不明	26溝	古墳	北西	26	16

分類	種類	時代	地区	本文	写真
不明	80土坑	古墳	東	130	77
居住	02柱穴列	古墳	南西	143	68
居住	10柱穴列	古墳	南西	143	なし
居住	11柱穴列	古墳	南西	144	85
自然	01旧河川	古墳	南西	115	69
自然	02旧河川	古墳	南西	115	69
不明	81土坑	縄文	東	131	77
居住	19掘立	不明	北西	35	27
居住	20掘立	不明	北西	35	27
生活	01集石	不明	東	68	45
生産	01採掘坑	不明	東	72	46
不明	55溝	不明	東	66	43
不明	58溝	不明	東	66	44
不明	64溝	不明	東	74	48
不明	65溝	不明	東	74	48
不明	104溝	不明	東	72	なし
不明	128土坑	不明	東	68	44
居住	05井戸	不明	南西	106	64
不明	20溝	不明	南西	100	63
不明	25溝	不明	南西	82	53
不明	113溝	不明	南西	82	54
不明	36土坑	不明	南西	85	なし
不明	41土坑	不明	南西	100	なし
不明	42土坑	不明	南西	100	62

分類	種類	時代	地区	本文	写真
不明	43土坑	不明	南西	100	62
不明	44土坑	不明	南西	100	62
不明	47土坑	不明	南西	102	なし
不明	48土坑	不明	南西	103	なし
不明	50土坑	不明	南西	106	なし
不明	51土坑	不明	南西	106	なし
不明	53土坑	不明	南西	106	62
不明	54土坑	不明	南西	106	なし
不明	55土坑	不明	南西	106	なし
不明	56土坑	不明	南西	112	66
不明	58土坑	不明	南西	112	66
不明	94土坑	不明	南西	136	81
不明	95土坑	不明	南西	136	81
不明	96土坑	不明	南西	136	81
居住	01建物	不明	北西	27	24
居住	14井戸	不明	北西	50	37
不明	103溝	不明	北西	49	36
不明	02土坑	不明	北西	35	なし
不明	61土坑	不明	北西	118	71
不明	74土坑	不明	北西	124	なし
不明	01不明	不明	北西	34	26
自然	01風倒木	不明	北西	36	なし

遺物索引

番号	種類	地区	器形	特徴	本文	写真
0661	PM	不明	碗	染付	154	6
0036	PM	北西	小鉢?	染付	54	6
0102	PM	南西	皿	染付	102	6
0492	HM	南西	壺蓋?		116	70
0037	PE	北西	碗	染付	54	6
0654	PE	東	碗	染付くわんか	72	6
0647	PE	東	丸碗	染付	133	6
0673	PE	南西	皿	染付	150	6
0640	PE	北西	皿	染付	30	6
0672	PE	東	手塩皿	染付	129	6
0648	PE	北西	小杯	染付	127	6
0645	PE	不明	瓶	染付	154	6
0040	CE	北西	碗	染付	54	6
0103	CE	南西	碗	染付	102	6
0655	CE	南西	碗	二彩刷毛目	113	6
0646	CE	不明	碗	染付	154	6
0042	CE	北西	碗	胎軸	54	6
0653	CE	南西	碗	二彩腰筋	113	6
0641	CE	不明	碗	胎軸	154	6
0657	CE	南西	皿	鉄絵京焼風	116	6
0038	CE	北西	皿	灰軸	54	6
0643	CE	東	皿	鉄絵	154	6
0663	CE	南西	皿	灰軸	86	6
0642	CE	不明	皿	志野	154	6
0616	CE	北西	小皿	志野	127	6
0656	CE	東	小杯	胎軸	72	6
0658	CE	東	鉢	透明軸	72	6
0644	CE	南西	鉢	二彩	154	6
0662	CE	南西	灯明皿	錆軸	150	6
0041	CE	北西	香炉?	胎軸	54	6
0652	CE	不明	仏飯器	灰軸	154	6
0117	HE	北西	焙烙		29	18
0660	PI	北西	碗	青磁	127	5
0666	PI	北西	碗	青磁	30	5
0668	PI	東	碗	青磁	129	5
0670	PI	南西	碗	青磁	150	5
0667	PI	南西	碗	青磁	150	5
0664	PI	南西	天目碗	青磁	147	5
0659	PI	北西	鉢	青磁	54	5
0665	PI	北西	鉢	青磁	59	5
0669	PI	南西	鉢	青磁	150	5
0649	CC	南西	碗	天目	150	6
0680	CC	北西	皿	灰軸	127	6
0671	CC	北西	皿	灰軸	127	6
0651	CC	北西	菊皿	胎軸	58	6
0615	CC	北西	小皿	灰軸	127	6
0650	C	南西	小皿	灰軸	150	6
0579	G	北西	コネ鉢		127	75
0252	G	北西	コネ鉢		39	28
0017	G	北西	コネ鉢		54	38
0029	G	北西	コネ鉢		54	38

番号	種類	地区	器形	特徴	本文	写真
0133	G	北西	コネ鉢		30	20
0134	G	北西	コネ鉢		30	20
0254	G	東	コネ鉢		69	44
0255	G	東	コネ鉢		69	44
0256	G	東	コネ鉢?		69	44
0580	G	不明	コネ鉢		155	91
0032	G	北西	播り鉢		54	38
0675	HC	北西	小皿		31	21
0676	HC	北西	小皿		31	21
0677	HC	北西	小皿		31	21
0077	HC	南西	小皿		114	67
0311	HC	南西	小皿		143	84
0678	HC	南西	小皿		150	88
0536	HC	南西	小皿		150	88
0679	HC	南西	小皿		150	88
0557	HC	不明	小皿		155	91
0249	HC	北西	塙		39	28
0250	HC	北西	塙		39	28
0251	HC	北西	塙		39	28
0027	HC	北西	塙		54	38
0028	HC	北西	塙		54	38
0030	HC	北西	塙		54	38
0031	HC	北西	塙		54	38
0259	HC	東	塙		69	44
0092	HC	南西	塙		102	61
0328	HC	南西	塙		148	87
0507	HC	南西	塙		155	91
0674	KC	東	平瓦		133	79
0039	CD	北西	碗	灰軸	54	5
0056	CD	北西	碗	灰軸	58	5
0301	CD	南西	碗	灰軸	139	5
0306	CD	南西	碗	灰軸	141	5
0321	CD	南西	碗	灰軸	147	5
0572	CD	不明	碗	灰軸	156	5
0614	CD	南西	小皿	灰軸	150	5
0345	CD	北西	耳皿	灰軸	126	5
0128	CD	北西	瓶	灰軸	29	5
0135	CD	北西	瓶	灰軸	30	5
0320	CD	南西	瓶	灰軸	145	5
0622	KD	東	軒丸瓦		130	76
0087	KD	南西	軒丸瓦		114	67
0144	KD	北西	丸瓦		31	20
0171	KD	北西	丸瓦		32	23
0343	KD	北西	丸瓦		36	26
0070	KD	北西	丸瓦		59	41
0179	KD	北西	丸瓦		47	33
0188	KD	北西	丸瓦		48	34
0199	KD	東	丸瓦		66	43
0600	KD	東	丸瓦		135	79
0601	KD	東	丸瓦		135	79
0142	KD	北西	平瓦		30	20

番号	種類	地区	器形	特徴	本文	写真
0143	KD	北西	平瓦	刻字	30	20
0161	KD	北西	平瓦		32	23
0024	KD	北西	平瓦	刻字	55	39
0067	KD	北西	平瓦	刻字「小子区?」	59	41
0068	KD	北西	平瓦		59	41
0069	KD	北西	平瓦		59	41
0189	KD	北西	平瓦		48	34
0599	KD	東	平瓦	線刻	132	78
0238	KD	南西	平瓦	刻字	105	64
0512	KD	不明	平瓦	刻字	157	92
0513	KD	不明	平瓦	刻字	157	92
0202	KD	東	特殊瓦		66	43
0248	SD	北西	碗		39	28
0185	SD	北西	碗		47	34
0194	SD	北西	碗		47	34
0046	SD	北西	碗		58	40
0047	SD	北西	碗		58	40
0048	SD	北西	碗		58	40
0050	SD	北西	碗		58	40
0052	SD	北西	碗		58	40
0053	SD	北西	碗	転用硯	58	40
0635	SD	北西	碗		62	42
0272	SD	北西	碗		119	71
0281	SD	北西	碗		123	72
0283	SD	北西	碗		123	72
0276	SD	北西	碗		123	73
0280	SD	北西	碗		123	73
0562	SD	北西	碗		127	75
0564	SD	北西	碗		127	75
0176	SD	北西	碗		127	75
0610	SD	北西	碗		127	75
0352	SD	東	碗		71	45
0335	SD	東	碗		135	79
0561	SD	東	碗		130	76
0609	SD	東	碗		133	78
0432	SD	南西	碗		96	58
0433	SD	南西	碗		96	58
0434	SD	南西	碗		96	58
0227	SD	南西	碗		105	64
0228	SD	南西	碗		105	64
0229	SD	南西	碗		105	64
0287	SD	南西	碗		108	65
0078	SD	南西	碗		114	67
0366	SD	南西	碗		137	79
0295	SD	南西	碗		139	82
0305	SD	南西	碗		141	84
0309	SD	南西	碗		143	84
0310	SD	南西	碗		143	84
0322	SD	南西	碗		147	86
0563	SD	南西	碗		150	88
0560	SD	南西	碗		150	88

## 遺物索引

番号	種類	地区	器形	特徴	本文	写真	番号	種類	地区	器形	特徴	本文	写真	番号	種類	地区	器形	特徴	本文	写真
0565	S D	南西	碗		150	88	0406	S D	南西	坏		97	59	0218	S D	南西	坏蓋		90	55
0558	S D	南西	碗		150	88	0407	S D	南西	坏		97	59	0302	S D	南西	坏蓋		139	83
0505	S D	不明	碗		156	91	0408	S D	南西	坏		97	59	0288	S D	南西	坏蓋		137	79
0559	S D	不明	碗		156	91	0409	S D	南西	坏		97	59	0448	S D	南西	小型坏蓋		98	60
0566	S D	不明	碗		156	91	0410	S D	南西	坏		97	59	0104	S D	南西	蓋		102	63
0055	S D	北西	碗?		58	40	0411	S D	南西	坏		97	59	0116	S D	北西	蓋	転用硯	29	18
0351	S D	東	碗?		71	45	0412	S D	南西	坏		97	59	0054	S D	北西	皿		58	40
0278	S D	北西	小型碗		43	30	0413	S D	南西	坏		97	59	0569	S D	北西	皿		127	75
0504	S D	北西	小型碗		47	32	0414	S D	南西	坏		97	59	0503	S D	北西	皿		127	75
0049	S D	北西	小型碗		58	40	0415	S D	南西	坏		97	59	0568	S D	南西	皿		150	89
0435	S D	南西	小型碗		96	58	0416	S D	南西	坏		97	59	0567	S D	南西	皿		150	89
0246	S D	北西	坏		39	28	0417	S D	南西	坏		97	59	0132	S D	北西	皿?		30	20
0247	S D	北西	坏		39	28	0418	S D	南西	坏		97	59	0571	S D	南西	耳皿		151	89
0182	S D	北西	坏		47	34	0419	S D	南西	坏		97	59	0193	S D	北西	盤		47	34
0183	S D	北西	坏		47	34	0420	S D	南西	坏		97	59	0347	S D	北西	盤		125	73
0184	S D	北西	坏		47	34	0421	S D	南西	坏		97	59	0450	S D	南西	脚付盤		98	60
0190	S D	北西	坏		47	34	0422	S D	南西	坏		97	59	0451	S D	南西	脚付盤		98	60
0044	S D	北西	坏		58	40	0423	S D	南西	坏		97	59	0452	S D	南西	脚付盤		98	60
0045	S D	北西	坏		58	40	0424	S D	南西	坏		97	59	0186	S D	北西	瓶		47	34
0634	S D	北西	坏		62	42	0425	S D	南西	坏		97	59	0008	S D	北西	瓶		55	38
0270	S D	北西	坏		119	71	0426	S D	南西	坏		97	59	0123	S D	北西	瓶		29	18
0341	S D	北西	坏		125	73	0427	S D	南西	坏		97	59	0170	S D	東	瓶		31	21
0342	S D	北西	坏		125	73	0428	S D	南西	坏		97	59	0356	S D	東	瓶		71	45
0348	S D	北西	坏		125	73	0429	S D	南西	坏		97	59	0454	S D	南西	瓶		98	60
0005	S D	北西	坏		54	38	0430	S D	南西	坏		97	59	0079	S D	南西	瓶		114	67
0148	S D	北西	坏		31	21	0431	S D	南西	坏		97	59	0051	S D	北西	瓶?		58	40
0550	S D	北西	坏		127	75	0462	S D	南西	坏		97	59	0009	S D	北西	長頸瓶		55	38
0542	S D	北西	坏		127	75	0467	S D	南西	坏		97	59	0057	S D	北西	長頸瓶		58	40
0555	S D	北西	坏		127	75	0468	S D	南西	坏		97	59	0576	S D	東	長頸瓶		133	78
0545	S D	北西	坏		127	75	0091	S D	南西	坏		114	67	0578	S D	東	長頸瓶		133	78
0350	S D	東	坏		71	45	0099	S D	南西	坏		102	62	0506	S D	南西	長頸瓶		151	89
0553	S D	東	坏		130	76	0365	S D	南西	坏		137	79	0577	S D	不明	長頸瓶		156	91
0607	S D	東	坏		130	76	0303	S D	南西	坏		138	83	0058	S D	北西	円面硯		58	40
0546	S D	東	坏		132	78	0554	S D	南西	坏		150	89	0581	S D	不明	円面硯		156	91
0539	S D	東	坏		133	78	0552	S D	南西	坏		150	89	0025	S D	北西	硯		55	38
0219	S D	南西	坏		105	64	0548	S D	南西	坏		150	89	0096	S D	南西	転用硯		102	62
0220	S D	南西	坏		105	64	0540	S D	南西	坏		150	89	0060	S D	北西	壺		59	40
0221	S D	南西	坏		105	64	0538	S D	南西	坏		150	88	0061	S D	北西	壺		59	40
0222	S D	南西	坏		105	64	0541	S D	南西	坏		150	89	0062	S D	北西	壺		59	40
0223	S D	南西	坏		105	64	0547	S D	南西	坏		150	89	0064	S D	北西	壺		59	41
0224	S D	南西	坏		105	64	0500	S D	南西	坏		150	88	0065	S D	北西	壺		59	41
0240	S D	南西	坏		93	57	0556	S D	南西	坏		150	89	0066	S D	北西	壺		59	41
0243	S D	南西	坏		88	55	0544	S D	南西	坏		150	89	0120	S D	北西	壺		29	17
0376	S D	南西	坏		96	58	0331	S D	南西	坏		150	88	0121	S D	北西	壺		29	17
0377	S D	南西	坏		96	58	0498	S D	南西	坏		156	91	0178	S D	北西	壺		47	33
0378	S D	南西	坏		96	58	0499	S D	不明	坏		156	91	0180	S D	北西	壺		47	33
0379	S D	南西	坏		96	58	0501	S D	不明	坏		156	91	0181	S D	北西	壺		47	33
0380	S D	南西	坏		96	58	0502	S D	不明	坏		156	91	0187	S D	北西	壺		47	34
0381	S D	南西	坏		96	58	0537	S D	不明	坏		156	91	0195	S D	北西	壺		47	34
0382	S D	南西	坏		96	58	0543	S D	不明	坏		156	91	0196	S D	北西	壺		47	34
0383	S D	南西	坏		96	58	0549	S D	不明	坏		156	91	0010	S D	北西	壺		55	38
0384	S D	南西	坏		96	58	0551	S D	不明	坏		156	91	0011	S D	北西	壺		55	38
0385	S D	南西	坏		96	58	0006	S D	北西	坏蓋		54	38	0012	S D	北西	壺		55	38
0386	S D	南西	坏		96	58	0007	S D	北西	坏蓋		54	38	0013	S D	北西	壺		55	38
0387	S D	南西	坏		96	58	0353	S D	東	坏蓋		71	45	0014	S D	北西	壺		55	38
0388	S D	南西	坏		96	58	0364	S D	東	坏蓋		77	50	0015	S D	北西	壺		55	38
0389	S D	南西	坏		96	58	0570	S D	東	坏蓋		130	77	0016	S D	北西	壺		55	38
0390	S D	南西	坏		96	58	0198	S D	東	坏蓋		66	43	0019	S D	北西	壺		55	39
0391	S D	南西	坏		96	58	0230	S D	南西	坏蓋	転用硯	105	64	0020	S D	北西	壺		55	39
0392	S D	南西	坏		96	59	0231	S D	南西	坏蓋		105	64	0021	S D	北西	壺		55	39
0393	S D	南西	坏		96	59	0436	S D	南西	坏蓋		97	60	0022	S D	北西	壺		55	39
0394	S D	南西	坏		96	59	0437	S D	南西	坏蓋		97	60	0023	S D	北西	壺		55	39
0395	S D	南西	坏		96	59	0438	S D	南西	坏蓋		98	60	0205	S D	北西	壺		50	36
0396	S D	南西	坏		96	59	0439	S D	南西	坏蓋		98	60	0282	S D	北西	壺		123	72
0397	S D	南西	坏		96	59	0440	S D	南西	坏蓋		98	60	0284	S D	北西	壺		123	73
0398	S D	南西	坏		96	59	0441	S D	南西	坏蓋		98	60	0118	S D	北西	壺		29	19
0399	S D	南西	坏		96	59	0442	S D	南西	坏蓋		98	60	0119	S D	北西	壺		29	19
0400	S D	南西	坏		96	59	0443	S D	南西	坏蓋		98	60	0126	S D	北西	壺		29	19
0401	S D	南西	坏		96	59	0444	S D	南西	坏蓋		98	60	0127	S D	北西	壺		29	19
0402	S D	南西	坏		96	59	0445	S D	南西	坏蓋		98	60	0136	S D	北西	壺		30	20
0403	S D	南西	坏		96	59	0446	S D	南西	坏蓋		98	60	0137	S D	北西	壺		30	20
0404	S D	南西	坏		96	59	0447	S D	南西	坏蓋		98	60	0138	S D	北西	壺		30	20
0405	S D	南西	坏		96	59	0449	S D	南西	坏蓋		98	60	0139	S D	北西	壺		30	20

第VI章 索引

番号	種類	地区	器形	特徴	本文	写真
0140	SD	北西	甕		30	20
0141	SD	北西	甕		30	20
0145	SD	北西	甕		30	20
0147	SD	北西	甕		30	20
0175	SD	北西	甕		30	20
0150	SD	北西	甕		31	22
0151	SD	北西	甕		31	22
0152	SD	北西	甕		31	22
0153	SD	北西	甕		31	22
0154	SD	北西	甕		31	22
0155	SD	北西	甕		31	22
0156	SD	北西	甕		31	22
0157	SD	北西	甕		31	22
0158	SD	北西	甕		32	22
0159	SD	北西	甕		32	22
0160	SD	北西	甕		32	23
0162	SD	北西	甕		32	23
0163	SD	北西	甕		32	23
0165	SD	北西	甕		32	23
0166	SD	北西	甕		32	23
0167	SD	北西	甕		32	23
0168	SD	北西	甕		32	23
0169	SD	北西	甕		32	23
0573	SD	北西	甕		127	75
0337	SD	北西	甕		121	75
0257	SD	東	甕		69	44
0258	SD	東	甕		69	44
0354	SD	東	甕		71	45
0355	SD	東	甕		71	45
0264	SD	東	甕		72	77
0265	SD	東	甕		72	77
0285	SD	東	甕		129	76
0334	SD	東	甕		135	79
0232	SD	南西	甕		105	64
0233	SD	南西	甕		105	64
0234	SD	南西	甕		105	64
0235	SD	南西	甕		105	64
0236	SD	南西	甕		105	64
0237	SD	南西	甕		105	64
0241	SD	南西	甕		93	57
0244	SD	南西	甕		88	55
0245	SD	南西	甕		88	55
0456	SD	南西	甕		98	60
0457	SD	南西	甕		98	60
0458	SD	南西	甕		99	60
0459	SD	南西	甕		99	60
0460	SD	南西	甕		99	61
0461	SD	南西	甕		99	61
0216	SD	南西	甕		90	55
0217	SD	南西	甕		90	55
0073	SD	南西	甕		113	66
0074	SD	南西	甕		113	66
0075	SD	南西	甕		113	66
0076	SD	南西	甕		113	66
0080	SD	南西	甕		114	67
0081	SD	南西	甕		114	67
0082	SD	南西	甕		114	67
0083	SD	南西	甕		114	67
0084	SD	南西	甕		114	67
0085	SD	南西	甕		114	67
0086	SD	南西	甕		114	67
0100	SD	南西	甕		102	62
0101	SD	南西	甕		102	62
0105	SD	南西	甕		102	63
0098	SD	南西	甕		102	62
0299	SD	南西	甕		139	83
0319	SD	南西	甕		145	86
0574	SD	南西	甕		151	89
0575	SD	南西	甕		151	89
0613	SD	不明	甕		156	91
0063	SD	北西	甕?		59	41
0018	SD?	北西	甕?		55	39
0097	SD	南西	甕?		102	62

番号	種類	地区	器形	特徴	本文	写真
0453	SD	南西	小型甕		99	61
0455	SD	南西	小型甕		99	61
0493	SD	南西	小型甕		116	70
0357	SD	東	大甕		71	45
0363	SD	東	大甕		77	50
0470	SD	南西	大甕		98	60
0471	SD	南西	大甕		98	60
0326	SD	南西	短頸甕		86	54
0059	SD	北西	羽釜		58	40
0263	SD	北西	羽釜		58	40
0071	SD	北西	羽釜		58	40
0197	SD	北西	羽釜		47	34
0273	SD	北西	羽釜		119	71
0336	SD	北西	羽釜		121	72
0124	SD	北西	羽釜		29	18
0125	SD	北西	羽釜		29	19
0173	SD	北西	羽釜		32	23
0177	SD	北西	羽釜		127	75
0266	SD	東	羽釜		133	78
0325	SD	南西	羽釜		86	54
0327	SD	南西	羽釜		86	54
0260	SD	南西	羽釜		144	85
0261	SD	南西	羽釜		144	85
0262	SD	南西	羽釜		144	85
0317	SD	南西	羽釜		144	85
0324	SD	南西	羽釜		147	87
0330	SD	南西	羽釜		148	88
0304	SD	南西	羽釜		151	89
0277	HD	北西	碗		43	30
0043	HD	北西	坏		59	41
0279	HD	北西	坏		43	30
0275	HD	北西	坏		123	73
0286	HD	北西	坏		125	74
0344	HD	北西	坏	暗紋	125	74
0122	HD	北西	坏		30	19
0172	HD	北西	坏		32	23
0528	HD	北西	坏	暗紋	128	75
0225	HD	南西	坏		105	64
0226	HD	南西	坏		105	64
0242	HD	南西	坏	暗紋	88	55
0367	HD	南西	坏		99	61
0368	HD	南西	坏		99	61
0369	HD	南西	坏		99	61
0370	HD	南西	坏		99	61
0371	HD	南西	坏		99	61
0372	HD	南西	坏		99	61
0373	HD	南西	坏		99	61
0469	HD	南西	坏		99	61
0211	HD	南西	坏		103	63
0212	HD	南西	坏		103	63
0214	HD	南西	坏		90	55
0215	HD	南西	坏		90	55
0296	HD	南西	坏		139	82
0088	HD	南西	坏		114	67
0089	HD	南西	坏		114	67
0090	HD	南西	坏		114	67
0093	HD	南西	坏		102	62
0294	HD	南西	坏		139	81
0297	HD	南西	坏		139	82
0308	HD	南西	坏		141	84
0318	HD	南西	坏		145	85
0329	HD	南西	坏		148	88
0300	HD	南西	坏		138	83
0526	HD	不明	坏	暗紋	156	91
0522	HD	不明	坏		156	91
0527	HD	不明	坏		156	91
0529	HD	不明	坏		156	91
0530	HD	不明	坏		156	91
0533	HD	南西	台付小皿		151	89
0298	HD	南西	鉢		139	82
0094	HD	南西	盤?		102	62
0496	HD	南西	高坏		151	89
0293	HD	南西	土釜		139	81

番号	種類	地区	器形	特徴	本文	写真
0001	HD	北西	甕		55	38
0374	HD	北西	甕		29	17
0130	HD	北西	甕		32	23
0149	HD	北西	甕		32	23
0164	HD	北西	甕		32	23
0201	HD	東	甕		66	43
0358	HD	東	甕		76	50
0359	HD	東	甕		77	50
0360	HD	東	甕		77	50
0361	HD	東	甕		76	50
0362	HD	東	甕		77	50
0200	HD	東	甕		66	43
0239	HD	南西	甕		93	57
0213	HD	南西	甕		90	55
0106	HD	南西	甕		83	53
0268	HD	北西	甕		119	71
0271	HD	北西	甕		119	71
0274	HD	北西	甕		119	71
0290	HD	南西	甕		137	80
0291	HD	南西	甕		137	80
0289	HD	南西	甕		137	80
0307	HD	南西	甕		141	84
0315	HD	南西	甕		144	85
0323	HD	南西	甕		147	86
0107	HD?	北西	甕?		29	16
0375	HD	北西	小型甕		61	41
0534	HD	不明	小型甕		156	91
0026	HD	北西	土鍾		56	39
0618	HD	北西	土鍾		128	75
0617	HD	北西	土鍾		128	75
0463	HD	南西	土鍾		99	61
0464	HD	南西	土鍾		99	61
0465	HD	南西	土鍾		99	61
0466	HD	南西	土鍾		99	61
0591	HD	南西	土鍾		151	89
0594	HD	南西	土鍾		151	89
0582	HD	南西	土鍾		151	89
0583	HD	南西	土鍾		151	89
0587	HD	南西	土鍾		151	89
0589	HD	南西	土鍾		151	89
0595	HD	南西	土鍾		151	89
0592	HD	南西	土鍾		151	89
0593	HD	南西	土鍾		151	89
0586	HD	南西	土鍾		151	89
0590	HD	南西	土鍾		151	89
0292	HD	南西	土鍾		151	89
0584	HD	南西	土鍾		151	89
0588	HD	南西	土鍾		151	89
0508	HD	不明	土鍾		156	91
0585	HD	不明	土鍾		156	91
0636	HD	北西	輪		62	42
0637	HD	北西	輪		62	42
0638	HD	北西	輪		62	42
0639	HD	北西	輪		62	42
0611	SF	南西	坏		152	90
0608	SF	南西	坏		152	90
0108	SF	北西	坏蓋		29	16
0111	SF	北西	瓶		29	16
0112	SF	北西	瓶		29	16
0114	SF	北西	瓶		29	16
0612	SF	不明	壺		158	93
0110	SF	北西	甕		29	16
0113	SF	北西	甕		29	16
0115	SF	北西	甕		29	16
0204	SF	不明	甕		66	44
0316	HF	南西	坏		143	85
0312	HF	南西	坏		143	84
0314	HF	南西	坏		144	85
0131	HF	北西	坏		31	20
0174	HF	北西	坏		31	20
0203	HF	東	坏		66	44
0332	HF	東	坏		130	77
0072	HF	南西	坏		113	66



遺物索引

番号	種類	地区	器形	特徴	本文	写真
0095	H F	南西	坏		102	62
0473	H F	南西	坏		116	70
0474	H F	南西	坏		116	70
0475	H F	南西	坏		116	70
0476	H F	南西	坏		116	70
0477	H F	南西	坏		116	70
0479	H F	南西	坏		116	70
0480	H F	南西	坏		116	70
0481	H F	南西	坏		116	70
0483	H F	南西	坏		116	70
0484	H F	南西	坏		116	70
0486	H F	南西	坏		116	70
0478	H F	南西	坏		116	70
0482	H F	南西	坏		116	70
0485	H F	南西	坏		116	70
0531	H F	南西	坏		152	90
0525	H F	南西	坏		152	90
0472	H F	南西	坏		152	90
0532	H F	南西	坏		152	90
0533	H F	南西	坏		152	90
0494	H F	不明	坏		158	93
0519	H F	不明	坏		158	93
0520	H F	不明	坏		158	93
0521	H F	不明	坏		158	93
0523	H F	不明	坏		158	93
0524	H F	不明	坏		158	93
0602	H F	不明	坏		158	93
0003	H F	北西	高坏		56	39
0004	H F	北西	高坏		56	39
0339	H F	北西	高坏		125	73
0605	H F	不明	小型鉢		158	93
0606	H F	不明	小型鉢		158	93
0002	H F	北西	大型鉢?		55	39
0346	H F	北西	壺		125	74
0349	H F	東	壺		71	45
0313	H F	南西	壺		143	84
0487	H F	南西	壺		116	70
0489	H F	南西	壺		116	70
0490	H F	南西	壺		116	70
0491	H F	南西	壺		116	70
0495	H F	不明	壺		158	93
0604	H F	不明	壺		158	93
0626	H F	不明	壺		158	93
0488	H F	南西	壺?		116	70
0340	H F	北西	小型壺		125	73
0497	H F	不明	小型壺		158	93
0535	H F	不明	小型壺?		158	93
0267	J	東	壺		132	77
1003	石製品	北西	石臼		54	38
1001	石製品	北西	茶臼		54	38
1002	石製品	北西	茶臼		54	38
1006	石製品	北西	砥石		30	19
1029	石製品	東	砥石		128	76
1030	石製品	東	砥石		132	78
1028	石製品	東	砥石		133	78
1013	石製品	北西	砥石		39	28
1008	石製品	北西	砥石		50	36
1005	石製品	北西	有孔砥石		30	19
1010	石製品	東	砥石?		75	48
1011	石製品	東	砥石?		75	48
1012	石製品	東	砥石?		75	48
1007	石製品	北西	紡錘車	未製品	48	34
1015	石製品	北西	紡錘車		123	73
1025	石製品	北西	紡錘車		128	76
1033	石製品	北西	紡錘車		128	76
1014	石製品	東	紡錘車	未製品	133	78
1035	石製品	東	紡錘車		132	78
1031	石製品	南西	紡錘車		151	89
1032	石製品	南西	紡錘車		151	89
1034	石製品	南西	紡錘車	刻字	151	90
1020	石製品	南西	紡錘車		157	92
1016	石製品	不明	紡錘車	未製品	157	92
1019	石製品	不明	紡錘車		157	92

番号	種類	地区	器形	特徴	本文	写真
1021	石製品	不明	紡錘車	未製品	157	92
1036	石製品	不明	紡錘車	未製品	157	92
1037	石製品	不明	紡錘車	未製品	157	92
1038	石製品	不明	紡錘車		157	92
1022	石製品	不明	紡錘車?		157	92
1026	石製品	不明	有孔石製品	線刻	157	92
1009	石製品	北西	白玉		50	36
1024	石製品	北西	白玉		32	23
1023	石製品	北西	白玉		128	76
1018	石製品	南西	白玉		151	89
1017	石製品	不明	丸玉		157	92
1027	石製品	北西	小玉		128	76
1004	石製品	北西	有孔円盤		29	16
2007	鉛	北西	銃弾		127	75
2001	銅	不明	矢立	銀象嵌	154	6,90
2002	銅	南西	煙管雁首		87	85
2003	銅	南西	煙管雁首		137	80
2004	銅	不明	煙管雁首		154	90
2006	銅	南西	耳環		147	87
2008	銅	東	錢	開元通宝	129	94
2009	銅	東	錢	開元通宝	129	94
2010	銅	東	錢	太平通宝	129	94
2046	銅	北西	錢	至道元宝	127	94
2041	銅	北西	錢	咸平元宝	44	94
2011	銅	東	錢	祥符通宝	129	94
2058	銅	不明	錢	景德元宝	155	94
2012	銅	東	錢	祥符元宝	129	94
2040	銅	南西	錢	祥符元宝	83	94
2013	銅	東	錢	天禧通宝	129	94
2014	銅	東	錢	天聖元宝	129	94
2060	銅	不明	錢	天聖元宝	155	94
2015	銅	東	錢	皇宋通宝	129	94
2016	銅	東	錢	皇宋通宝	129	94
2017	銅	東	錢	皇宋通宝	129	94
2018	銅	東	錢	皇宋通宝	129	94
2019	銅	東	錢	皇宋通宝	129	94
2049	銅	南西	錢	皇宋通宝?	155	94
2051	銅	不明	錢	皇宋通宝	155	94
2020	銅	東	錢	嘉祐通宝	129	94
2021	銅	東	錢	嘉祐通宝	129	94
2059	銅	北西	錢	熙寧元宝	30	94
2050	銅	北西	錢	熙寧元宝?	30	94
2022	銅	東	錢	熙寧元宝	129	94
2023	銅	東	錢	熙寧元宝	129	94
2024	銅	東	錢	熙寧元宝	129	94
2025	銅	東	錢	熙寧元宝	129	94
2043	銅	北西	錢	元豐通宝	127	94
2044	銅	北西	錢	元豐通宝	127	94
2045	銅	北西	錢	元豐通宝	127	94
2047	銅	北西	錢	元豐通宝	127	94
2048	銅	東	錢	元豐通宝	129	94
2027	銅	東	錢	元豐通宝	129	94
2028	銅	東	錢	元豐通宝	129	94
2029	銅	東	錢	元豐通宝	129	94
2056	銅	南西	錢	元豐通宝	155	94
2039	銅	北西	錢	元祐通宝	127	94
2030	銅	東	錢	元祐通宝	129	94
2031	銅	東	錢	元祐通宝	129	94
2032	銅	東	錢	聖宋元宝	129	94
2034	銅	南西	錢	政和通宝	83	94
2033	銅	東	錢	淳熙元宝	129	94
2035	銅	北西	錢	淳熙元宝	127	94
2048	銅	北西	錢	洪武通宝	54	38
2042	銅	北西	錢	永樂通宝	127	94
2036	銅	東	錢	永樂通宝	129	94
2061	銅	不明	錢	永樂通宝	155	94
2052	銅	不明	錢	古寛永通宝	154	94
2053	銅	不明	錢	古寛永通宝	154	94
2054	銅	不明	錢	古寛永通宝	154	94
2037	銅	東	錢	新寛永通宝	132	94
2038	銅	南西	錢	一銭	138	94
2055	銅	不明	錢	一銭?	154	94
2057	銅	南西	錢	不明	153	94

番号	種類	地区	器形	特徴	本文	写真
2105	銅	不明	薄板片		155	91
2005	銅	北西	有孔円盤		121	72
2088	鉄	南西	錢	新寛永通宝	114	94
2073	鉄	南西	小刀		152	90
2106	鉄	北西	鞘金具?		54	38
2107	鉄	北西	鞘金具?		54	38
2082	鉄	南西	包丁?		141	83
2094	鉄	南西	包丁状		152	90
2087	鉄	南西	刀子		113	66
2069	鉄	南西	刀子		143	84
2067	鉄	南西	刀子		138	81
2072	鉄	南西	刀子		152	90
2071	鉄	南西	刀子		152	90
2066	鉄	不明	刀子		158	93
2074	鉄	不明	刀子		158	93
2075	鉄	不明	刀子		158	93
2089	鉄	不明	刀子		158	93
2085	鉄	北西	刀子?		128	76
2078	鉄	東	刀子?		130	76
2070	鉄	南西	刀子?		152	90
2068	鉄	不明	刀子?		158	93
2079	鉄	南西	鏃		150	88
2063	鉄	南西	鏃		150	88
2065	鉄	不明	鏃		155	91
2095	鉄	不明	鏃		155	91
2099	鉄	北西	鏃?		29	16
2100	鉄	北西	鏃?		127	75
2101	鉄	東	鏃?		69	44
2091	鉄	東	鏃?		75	47
2102	鉄	不明	鏃?		155	91
2108	鉄	不明	大型鏃?		155	91
2086	鉄	南西	締金具		113	66
2098	鉄	北西	締金具?	凸形	59	41
2080	鉄	南西	斧	袋状	151	90
2084	鉄	北西	斧	袋状	128	76
2062	鉄	東	鎌		133	78
2064	鉄	不明	鎌		154	90
2077	鉄	不明	短鎌		154	90
2081	鉄	南西	小鎌		141	83
2110	鉄	北西	鋸片		48	35
2093	鉄	南西	ヤスリ?		152	90
2076	鉄	不明	火打金		154	90
2096	鉄	南西	火打金?		87	85
2103	鉄	北西	角釘		128	76
2097	鉄	北西	角釘?		128	76
2104	鉄	北西	小角釘		126	75
2109	鉄	北西	釘片		31	21
2083	鉄	南西	バネ		141	83
2090	鉄	不明	ペーゴマ	八角形	154	90
2092	鉄	南西	針金状		152	90
2111	鉄	東	不明鉄片		75	47
2125	鉄	北西	鉄滓		39	28
2115	鉄	北西	鉄滓		118	71
2124	鉄	北西	鉄滓		45	34
2122	鉄	北西	鉄滓		53	39
2123	鉄	北西	鉄滓		126	73
2114	鉄	東	鉄滓		75	48
2119	鉄	南西	鉄滓		111	66
2112	鉄	南西	鉄滓		113	68
2117	鉄	南西	鉄滓		100	62
2121	鉄	南西	鉄滓		100	63
2116	鉄	南西	鉄滓		136	80
2113	鉄	南西	鉄滓		136	81
2120	鉄	南西	鉄滓		146	86
2118	鉄	南西	鉄滓		111	68
3001	骨	北西	馬歯		35	26
3002	骨	北西	馬歯		35	26
3004	骨	北西	牛歯		120	72
3005	骨	北西	馬歯	なし	76	
3006	骨	東	馬歯		75	47
3007	骨	南西	馬歯		111	66
3003	骨	南西	牛歯	なし	88	
3008	骨	北西	人骨・歯		33	24

## Summary

### 1. Outline of the Site

This Yata site is located at Tennohara (the Northwest part), Inarikubo, Yatsugashira, Suginokubo, Kurumajizoh, Amakuzawa sections of Yata, Kannon-yama section of Taira (the East part), and Kobutabayasi section of Tago (the Southwest part), on Yoshii town, Gunma Pref. The excavation area consists of fields and low lands at the foot of Amakuyama hill, on the Yata terrace, one of the right bank in the Kanra corridor.

The archaeological excavation was held from April 1st 1986 to August 27th 1990 as the first time and from November 5th to 26th as the second time, by our team. And recently the location of this site had changed the Yosii interchange on the Johshin-etsu Highway.

The results of several hundreds hole type dwellings before the of Ancient times on this site was already published as "Yata site vol. I/VII" from 1990 to 97.

### 2. Number of Main Monuments and Artifacts

*After Pre-Modern Ages* : 19 fields, 50 gutters, 11 roads and a horse tomb ; a writing brush case of bronze inlaid silver

*the Middle Age* : a residence of surrounding rectangle moat, 11 buildings, 7 wells, 3 tombs, and 2 roads ; 9 shards of Longquan celadon bowls and Chinese coins

*the Ancient time* : 9 buildings, 5 wells, 4 concentrated potteries, a smithery and 7 ditches ; roof tile and spindle ring with characters, terracotta sinkers, big jars of Sueki stoneware

*Kofun Period* : 3 fences and 2 old rivers with a flag part ; bronze earring and stone beads

*Johmon Period* : a small hole of the Latest stage ; a shard of Koori type jar from east part of ancient Shinano district

### 3. Characteristic Results

#### A. After The Pre Modern Ages

On these ages, we could confirmed many fields at the Southwest and the East part. Most of them were reclaimed after the worst eruption of Asama volcano at 1783, and those border were almost same with recently fields.

#### B. The Middle Age

At the residence of surrounding rectangle moat (50×59m) not found the strong defensive structure, and according to artifacts, imported ceramics and millstones for tea, its clearly showed that the residents, probably Tago family, had a few economic power and daily had been staid in here from 13th to 15th centuries.

Along the west side of the residence we found the old road toward the Kamakura highway at north, as a interesting facts, in the west part of this road there were 2 groups of buildings with wells and no defensive structure.

By those facts showed us that on this time the residencial separation was very evidently on both side of the old road as a border, probably because of difference on social/politic class.

And according to those results, we could described a picture of scene on this time. (p.182)

#### C. The Ancient Time

On the limited data in this book, exception of several hundreds hole type dwellings, we can not think to reconstruction of the human activities at this time.

At the Ancient time, we have to write finding not less than 9 buildings in 2 groups, and major part of them overlap with hole type dwellings. It means that this village consisted of not only hole type dwellings but also buildings too, and the time relation for both monuments had a little difference. Because of those fact, if want to reconstruct a view of this village on the Ancient time, we must study to the subject of buildings, possibility much more existed.

And the others, we find a long ditch along east side of the village or the left bank of Inarikubo low land from south to north.

(Sakai T.)

## 報告書抄録

書名	矢田遺跡Ⅷ
副書名	関越自動車道(上越線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書
巻	第43集
シリーズ名	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団発掘報告
シリーズ番	第216集
編著者名	坂井 隆 宮崎重雄
編集機関	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
編集機関所在地	〒377 群馬県勢多郡北橘村下箱田784-2
発行年	1997年

フリガナ 所収遺跡	フリガナ 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡					
矢田	たの よしい 多野郡吉井町 大字矢田字天王 原・稲荷久保・ 谷頭・杉之久 保・車地藏・天 久沢・大字多比 良字観音山・大 字多胡字小蓋林	103632	10005- 00124	361427	1385945	19860401～ 19900827 19911105～ 19911126	90,000m <sup>2</sup>	高速道路 建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項
矢田	生産 交通 埋葬	近世近代	畠	19	銀象嵌銅製矢立端部	1	近世後期浅間山爆 発を前後する畠地 と字境の変化
			溝	50	馬骨	1	
	居住 埋葬 交通	中世	環濠居館	1	竜泉窯青磁碗鉢片	9	方形居館と道路を 境に接する掘立柱 建物群が顕著に分 かれる
			掘立柱建物	11	人骨	1	
	生活 生産	古代	井戸	7	埋納銅銭		
			墓坑	3			
道路			2				
自然 居住	古墳	掘立柱建物	9	刻字瓦・紡錘車		縦穴住居群に重複 する大型掘立柱建 物群と低地際に走 る水路	
		井戸	5	土錘			
生活	縄文	土器集積	4	鉄滓			
		小鍛冶 溝	1 7	須恵器大甕 鉄刀子			
生活	縄文	旧河川	2	銅耳環		川際に石敷遺構	
		柱穴列	3	滑石白玉			
生活	縄文	土坑	1	晩期水式甕		弥生前期並行	



## 二 写真図版





牛伏山から北方向 中央に遺跡地



西方向 手前中央が遺跡地

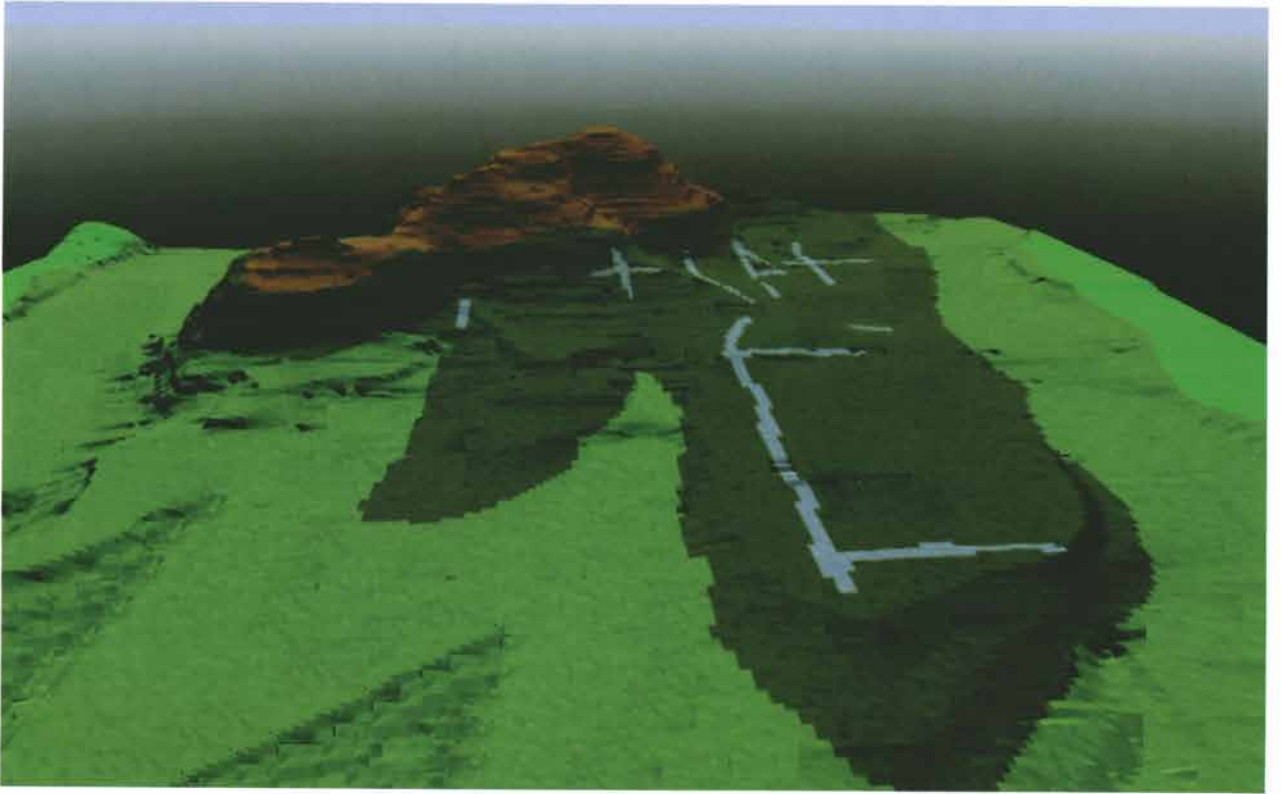


北方向の景観

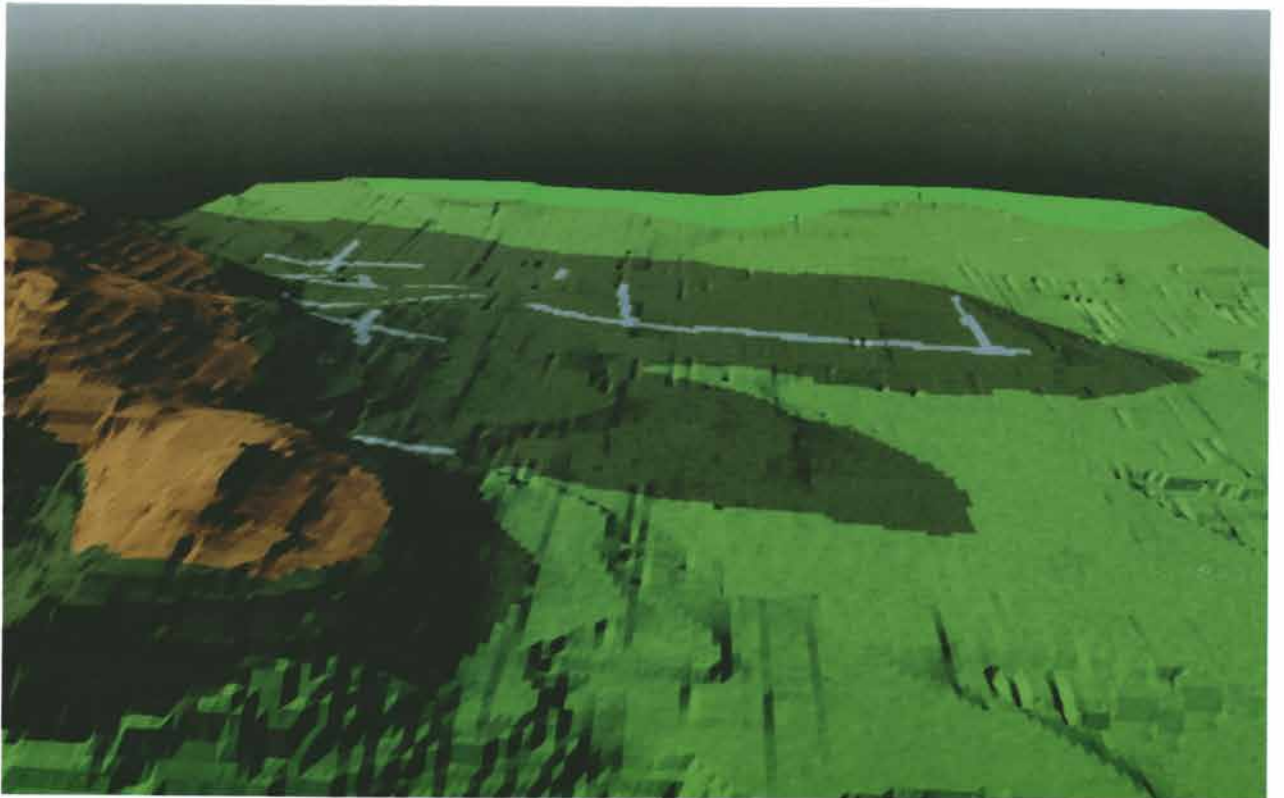


東側調査地（西から）





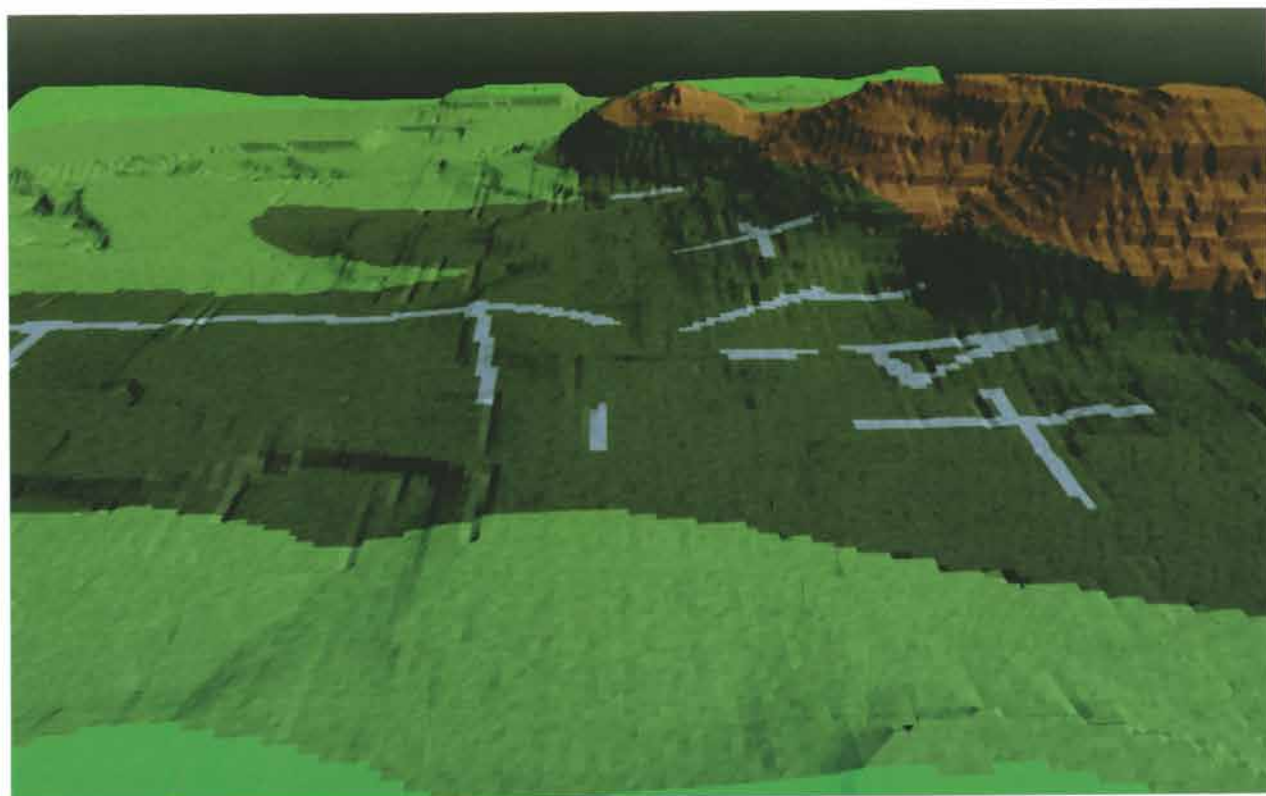
周辺地形復元（北から）



周辺地形復元（東から）



周辺地形復元（南から）

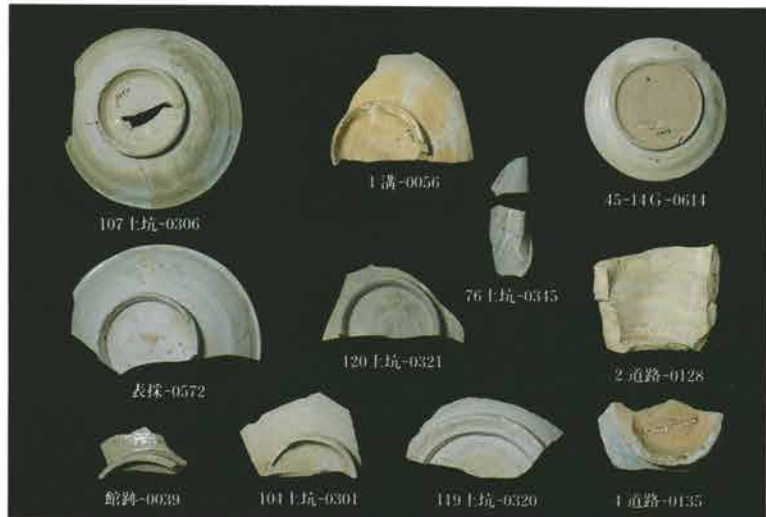
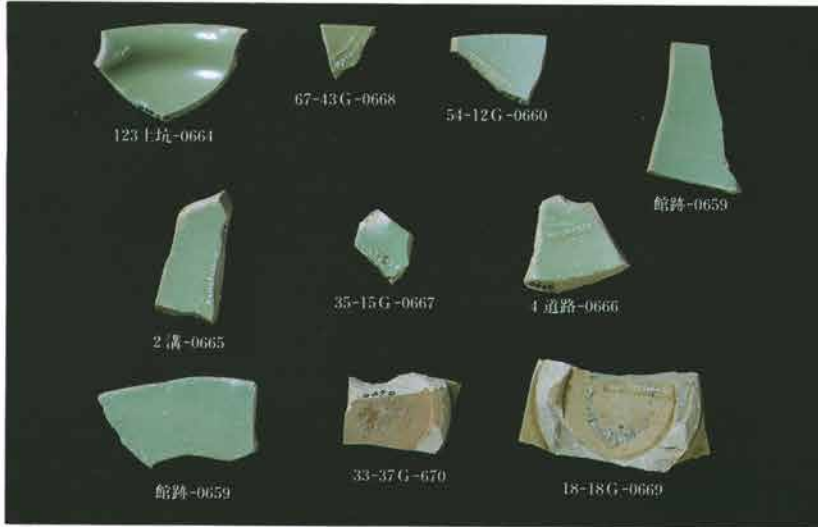


周辺地形復元（西から）

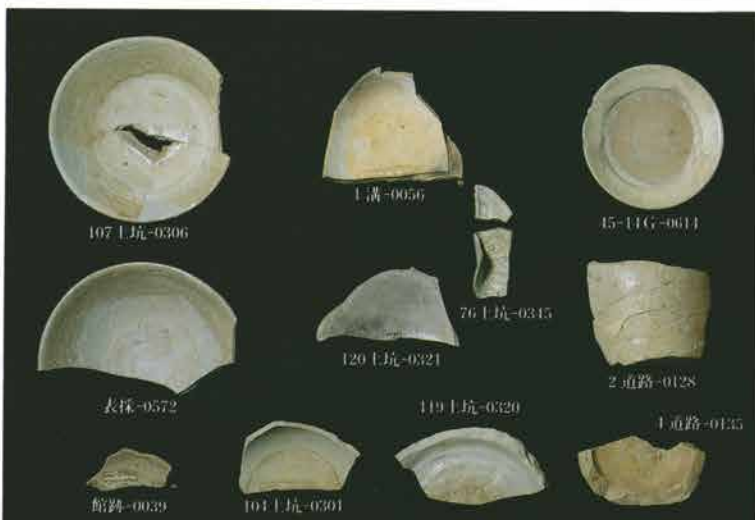
出土陶磁器

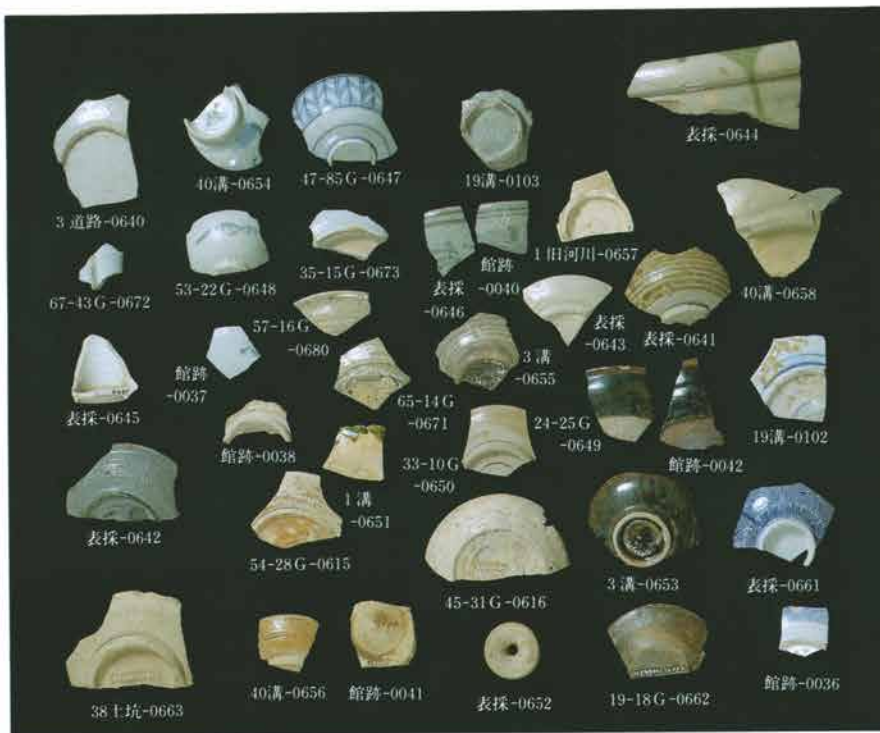


中世船載陶磁 (上・左)

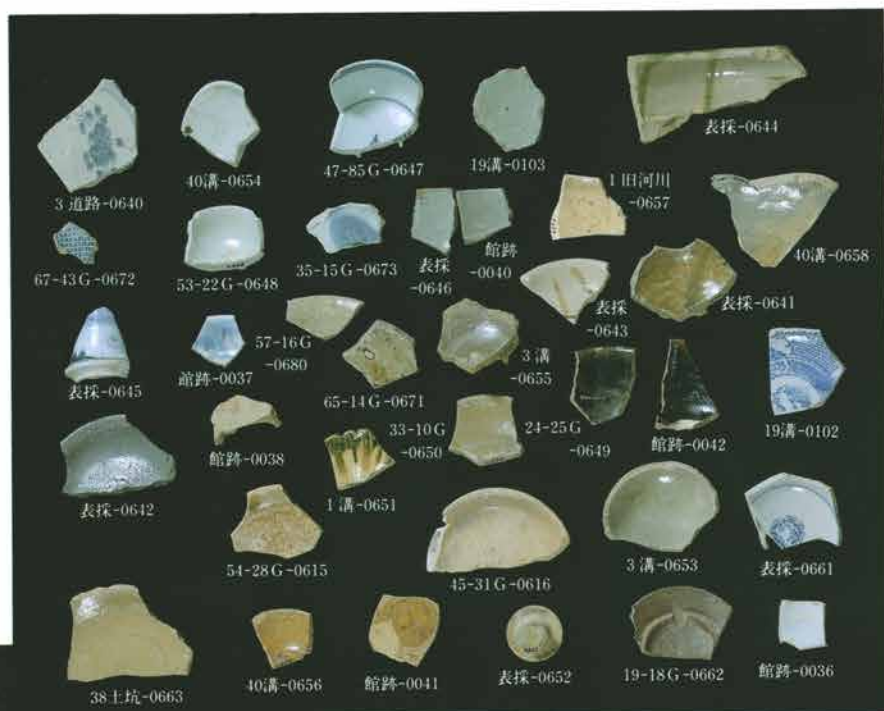


古代灰釉陶器 (上・左)





近世近代 国産陶磁  
(上・右)



銀象嵌銅製矢立蓋 (表面採集)

# 遺跡地遠望



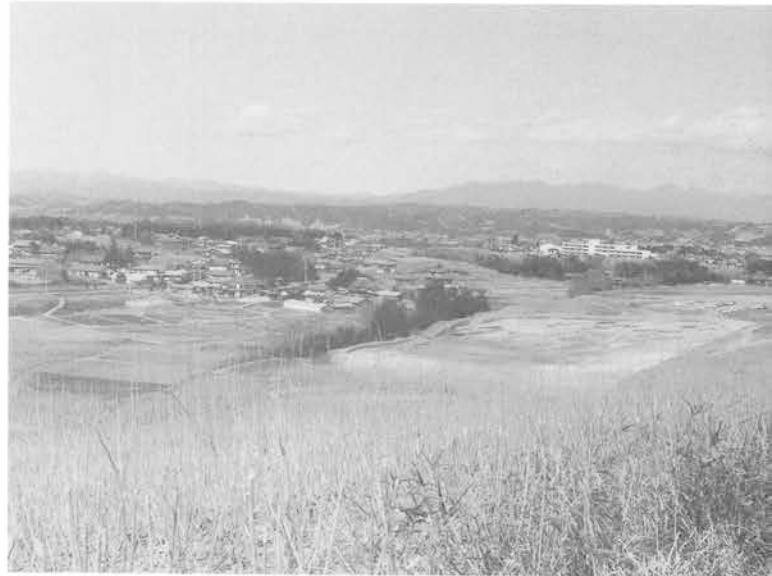
調査地と周辺



南方向から

牛伏山から遺跡地

南東方向から



中央が遺跡地南西地区 左が多胡川



北からの矢田台地

南方向から

正面が榛名山





遺跡からの眺望

北方向

北方向



北方向

北東方向



北東方向

北東方向





調査地東端と東方向

東方向



中央丘が天久沢陣城跡

南東方向

南方向



南方向

復元住居群



南西方向

左奥が牛伏山 右下に多胡川の谷



西方向

中央左奥が荒船山 手前が多胡集落



北西方向

中央が多胡集落

北西方向

右端が榛名山





遺跡地全景



矢田天王原中央東側（北から）



矢田天王原中央東側（北から）



矢田天王原中央西側（東から）



矢田天王原南西側（南から）



矢田天王原南東側（南東から）



矢田天王原南東側（西から）



矢田天王原南端（北西から）



矢田稲荷久保南側（西から）



矢田谷頭西側（北から）



矢田谷頭東側（北西から）



矢田杉之久保北側（南から）

矢田杉之久保北側（東から）





矢田車地藏（西から）調査地東側



矢田車地藏（西から）



矢田車地藏（南東から）



矢田車地藏（西から）



多比良観音山（南から）



多胡小蓋林北側（北から）



多胡小蓋林中央部（北西から）



多胡小蓋林西側（南西から）



多胡小蓋林南西端（北から）

多胡小蓋林南東側（北から）

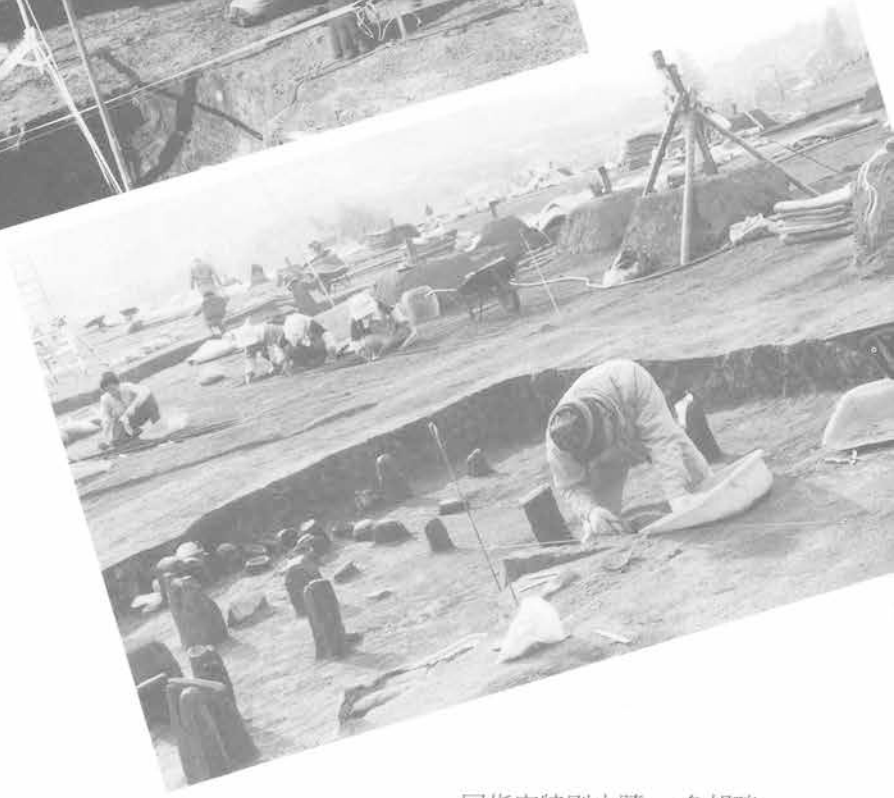


多胡小蓋林南東側（北西から）

作業風景



調査



国指定特別史蹟 多胡碑

復元住居群



PL. 16



26号溝 掘り上がり（西から）

北西側地区大型遺構と遺物



26号溝 掘り上がり（東から）



26号溝 遺物出土状態（西から）



26溝-2099



26溝-0107



26溝-0108



26溝-0111



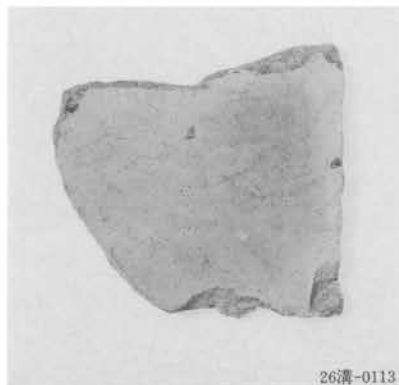
26溝-0112



26溝-0114



26溝-0110



26溝-0113



26溝-0115



26溝-1004



31号溝 掘り上がり (西から)



31溝-0120



31溝-0121



31号溝 セクション (西から)

01号道路 掘り上がり (北西から)



01号道路 掘り上がり (北東から)



1道路-0374

PL.18



01号道路 遺物出土状態 (西から)



01号道路(集石部分) (西から)



02号道路 掘り上がり (南西から)



02道路-0117



02道路-0116



02道路-0123



02道路-0124

02号道路 遺物出土状態 (南から)







02号道路 掘り上がり (南から)



02道路-0125



02道路-0118



02道路-0122



02道路-0119



02道路-0127



02道路-0126



02道路-1005



03号道路 掘り上がり (北東から)



04号道路 掘り上がり (南西から)



04道路-1006



04道路-0133



04道路-0134



04道路-0132



04道路-0136



04道路-0137



04道路-0138



04道路-0139



04道路-0140



04道路-0141



04道路-0145



04道路-0147



04道路-0175



04道路-0142



04道路-0143



04道路-0144



04道路-0131



04道路-0174



04号道路 掘り上がり (北東から)



04号道路 掘り上がり (北東から)



05号道路 掘り上がり (東から)



05号道路 掘り上がり (西から)



05号道路 全景 (東から)



05号道路 遺物出土状態 (東から)



05号道路 掘り上がり (南から)



05道路-2109



05道路-0675



05道路-0148



05道路-0676



05道路-0677



05道路-0170



05号道路 全景 (北から)



05号道路 掘り上がり (北から)



05道路-0151



05道路-0150



05道路-0152



05道路-0153



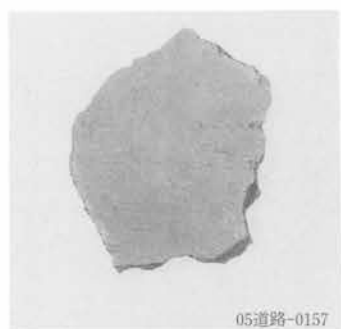
05道路-0154



05道路-0155



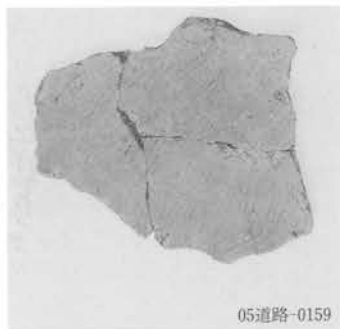
05道路-0156



05道路-0157



05道路-0158



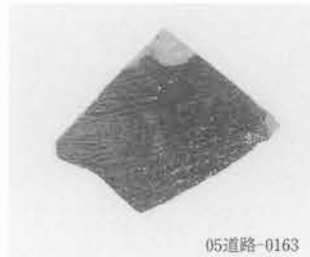
05道路-0159



05道路-0160



05道路-0162



05道路-0163



05道路-0165



05道路-0166



05道路-0167



05道路-0168



05道路-0169



05道路-0130



05道路-0172



05道路-0149



05道路-0164



05道路-0171



05道路-0161



06号道路 掘り上がり (東から)



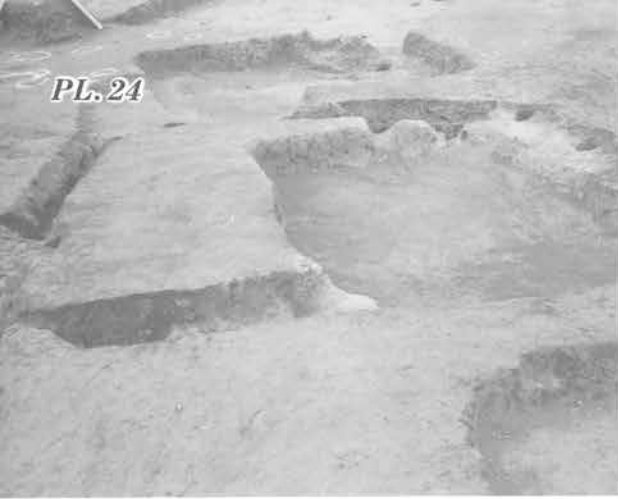
06号道路 掘り上がり (東から)



06道路-0173



06道路-1024



01号建物 掘り上がり（西から）



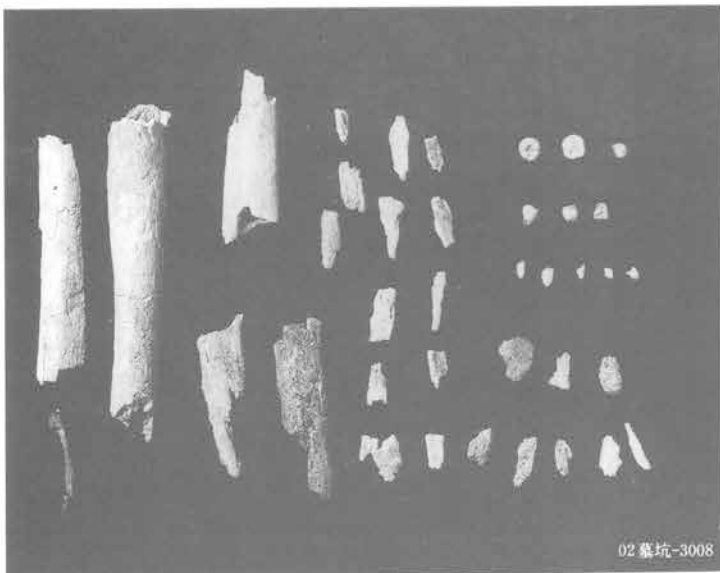
01号建物 掘り上がり（北から）



02号墓坑 検出状態（東から）



02号墓坑 人骨出土状態（南から）



02号墓坑-3008



01号土坑 遺物出土状態 (北から)

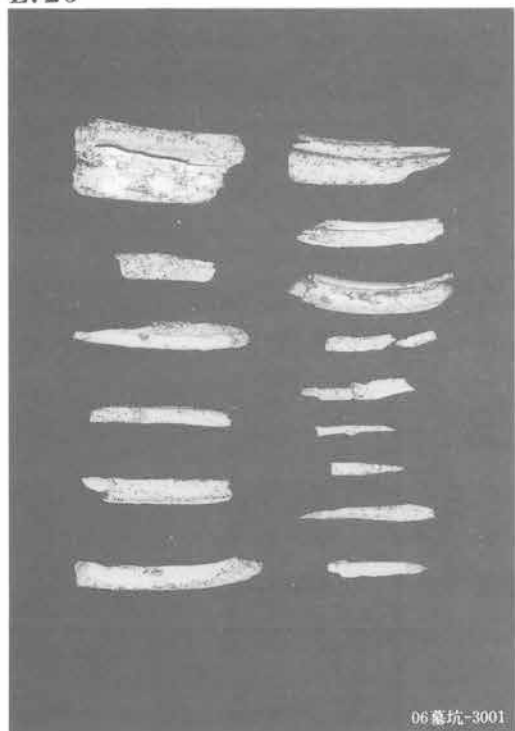


06号墓坑 馬骨出土状態 (北東から)

06号墓坑 馬骨出土状態 (北東から)



06号墓坑 馬骨出土状態 (西から)



06墓坑-3001



06墓坑-3002



01号不明遺構 全景 (南から)



03土坑-0343



01号不明遺構 セクション (東から)



01号不明遺構 掘り上がり (東から)





27号溝 掘り上がり (南東から)

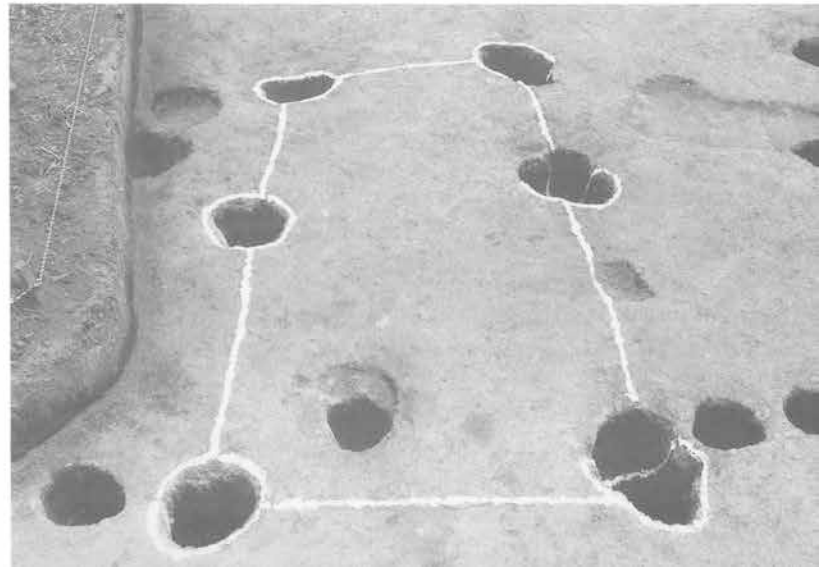


28号溝 掘り上がり  
(南から)



19号掘立 掘り上がり  
(西から)

20号掘立 掘り上がり  
(北から)





09号井戸 掘り上がり (西から)



09井戸-0246



09井戸-0247



10(左)・11(右)号井戸 掘り上がり (南西から)



10井戸-0248



11井戸-0249



11井戸-0250



11井戸-0251



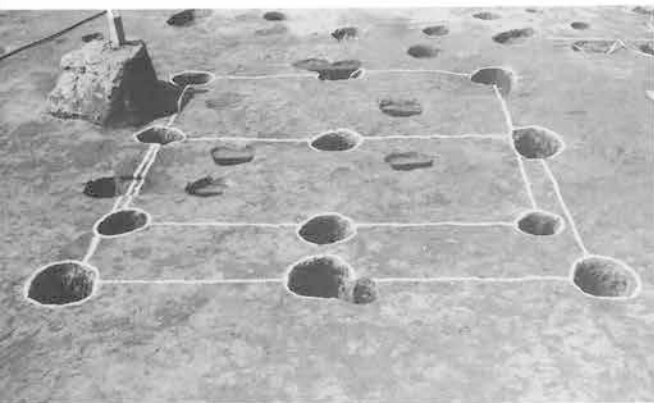
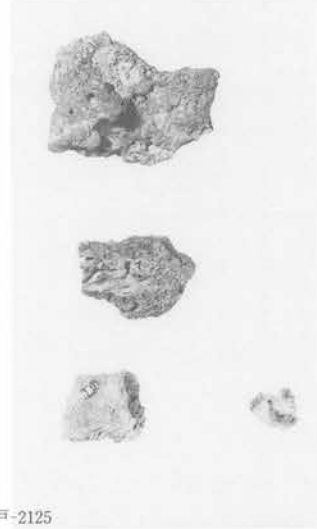
11井戸-0252



11井戸-1013

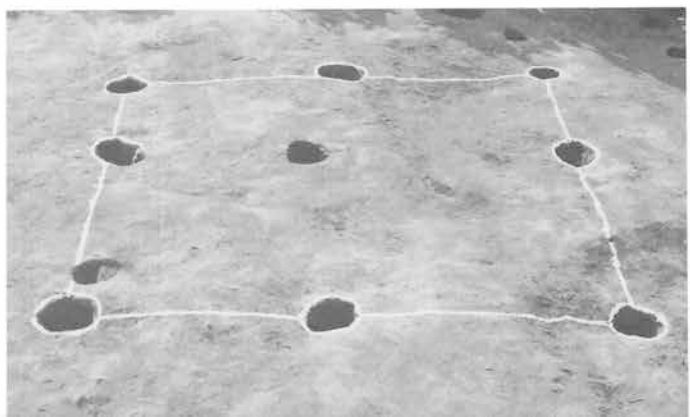


11井戸-2125



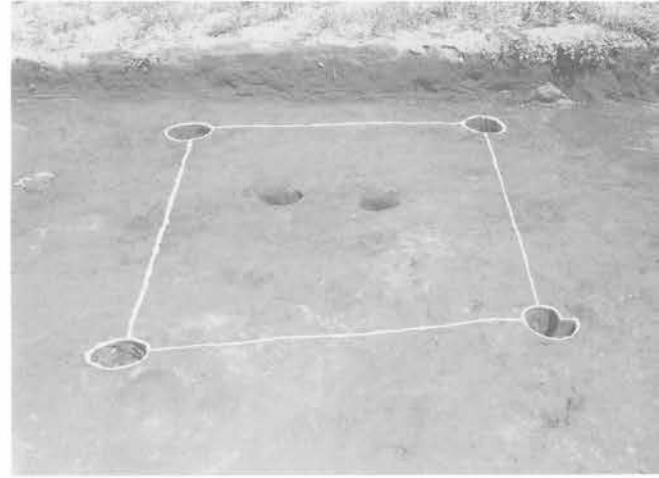
16(奥)・17(手前)号掘立 掘り上がり (南から)

18号掘立 掘り上がり (南東から)





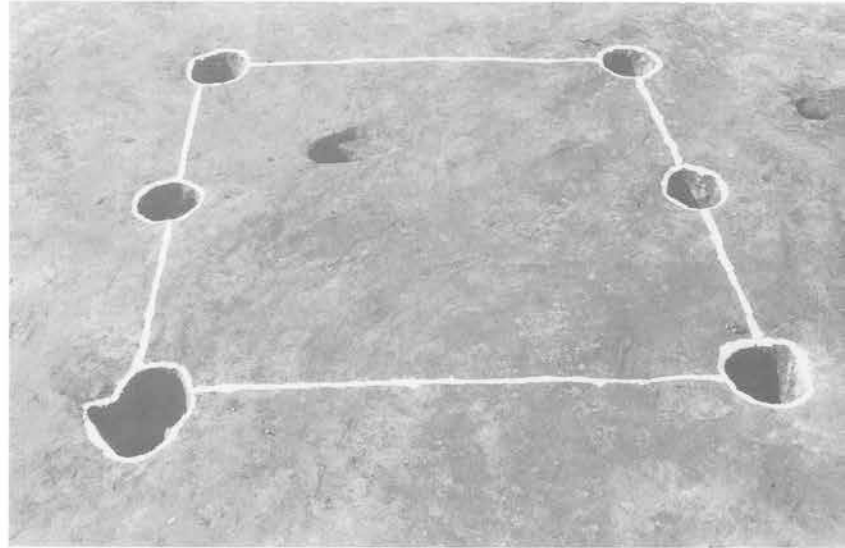
01号墓坑 検出状態 (北から)



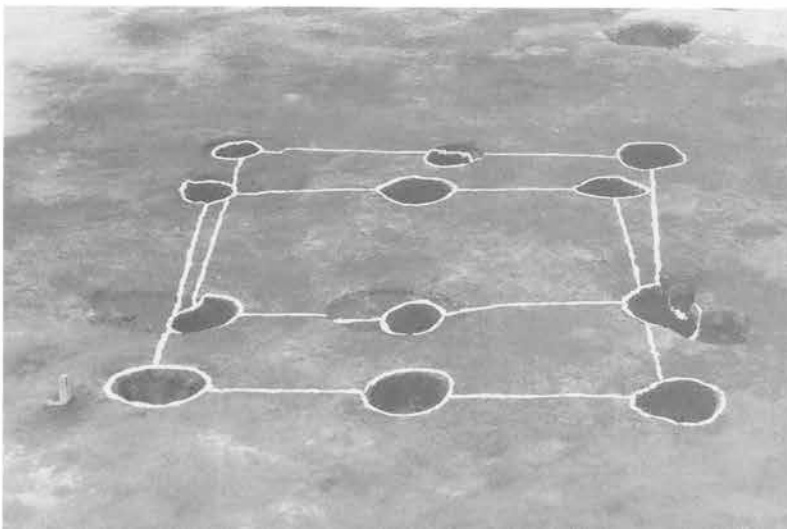
13号掘立 掘り上がり (南東から)



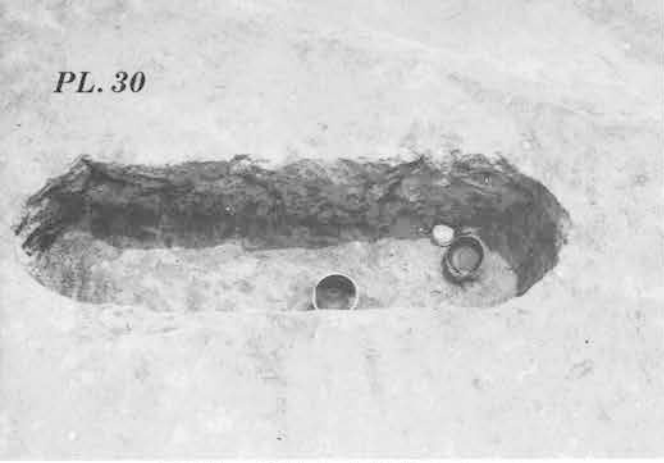
01号墓坑 掘り上がり (北から)



12号掘立 掘り上がり (南から)



14・15号掘立 (奥から)  
掘り上がり (南から)



04号土坑 遺物出土状態 (西から)



04号土坑 セクション (南から)



04土坑-0277



04土坑-0278



04土坑-0279



11号掘立 全景 (南から)



11号掘立 掘り上がり (南から)



03号小鍛冶 遺物出土状態 (東から)



03号小鍛冶 炉体セクション (西から)



03号小鍛冶 炉体 (南から)



03号小鍛冶 掘り上がり (西から)



05号土坑 掘り上がり (南西から)



05号土坑 遺物出土状態 (南から)



05土坑-0504



07号土坑 掘り上がり (北西から)

06号土坑 掘り上がり (南から)





46溝-0178



46溝-0179



46号溝 掘り上がり (南から)



47号溝 掘り上がり (西から)



46号溝 掘り上がり (南から)



47溝-0181



47溝-0180



48・49号溝 遺物出土状態 (西から)



48溝-0185



48・49溝-0194



48溝-0182



48溝-0183



48溝-0184



48溝-0190



48・49溝-0193



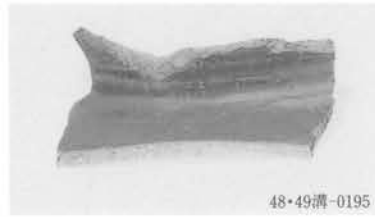
48溝-0186



48・49溝-0197



48溝-0187



48・49溝-0195



48・49溝-0196



48溝-0188



48・49号溝 遺物出土状態 (北東から)



48溝-0189



48溝-1007



49溝-2124



50号溝 掘り上がり (南から)



127号土坑 掘り上がり (南から)





41号溝 掘り上がり (西から)



41号溝 遺物出土状態 (東から)



53溝-2110



53号溝 掘り上がり (南から)



59号溝 掘り上がり (西から)



52号溝 掘り上がり  
(西から)



60号溝 全景 (東から)



08土坑-0205



60溝-1008



60溝-1009



101・102・103号溝・12号道路 全景 (北東から)



102号溝 セクション (西から)



45号溝 掘り上がり (北から)



14号井戸 掘り上がり (北から)



館跡 掘り上がり (東から)



館跡 全景 (南西から)



館跡 全景 (南から)  
(03~07号柱穴列・方形竪穴)

館跡堀 セクション (南西から)





館跡-0017



館跡-0029



館跡-0032



館跡-0027



館跡-0028



館跡-0030



館跡-0031



館跡-1001



館跡-1002



館跡-1003



館跡-2106



館跡-2107



館跡-0005



館跡-0006



館跡-0007



館跡-0008



館跡-0009



館跡-0025



館跡-0001



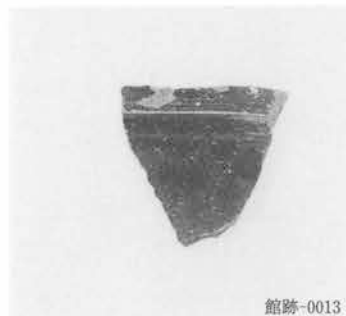
館跡-0010



館跡-0011



館跡-0012



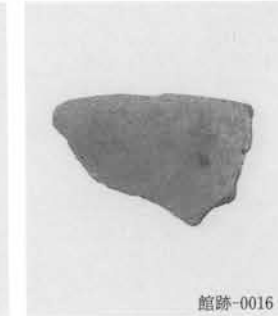
館跡-0013



館跡-0014



館跡-0015



館跡-0016



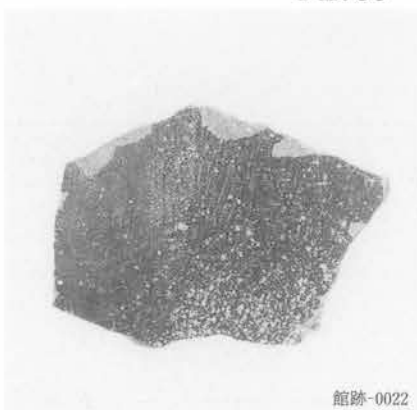
館跡-0019



館跡-0020



館跡-0021



館跡-0022



館跡-0023



館跡-0018



館跡-0024



館跡-0003



館跡-0004



館跡-2122



館跡-0026



館跡-0002



01号溝 掘り上がり (南から)



01号溝 遺物出土状態 (北から)



01溝-0046



01溝-0047



01溝-0048



01溝-0050



01溝-0052



01溝-0053



01溝-0055



01溝-0049



01溝-0044



01溝-0045



01溝-0057



01溝-0058



01溝-0054



01溝-0051



01溝-0058



01溝-0071



01溝-0263



01溝-0059



01溝-0060



01溝-0061



01溝-0062



01溝-0064



01溝-0065



01溝-0066



01溝-0063



01溝-0043



01溝-0070



01溝-0067



01号溝付近ピット群 (北から)



01溝-0068



01溝-0069



01溝-2098



01号土器集積 検出状態 (南西から)

01号土器集積 検出状態 (北から)



01土集-0375



01号小鍛冶 検出状態（南から）



01小鍛冶-0635



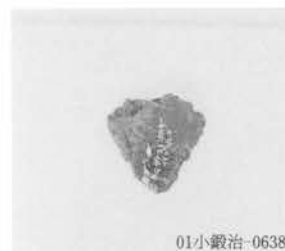
01小鍛冶-0634



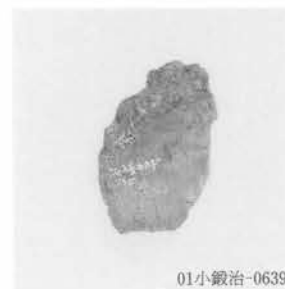
01小鍛冶-0636



01小鍛冶-0637



01小鍛冶-0638



01小鍛冶-0639



01号小鍛冶 掘り上がり（南から）



円形桶土坑群（9～34号土坑） 全景（西から）

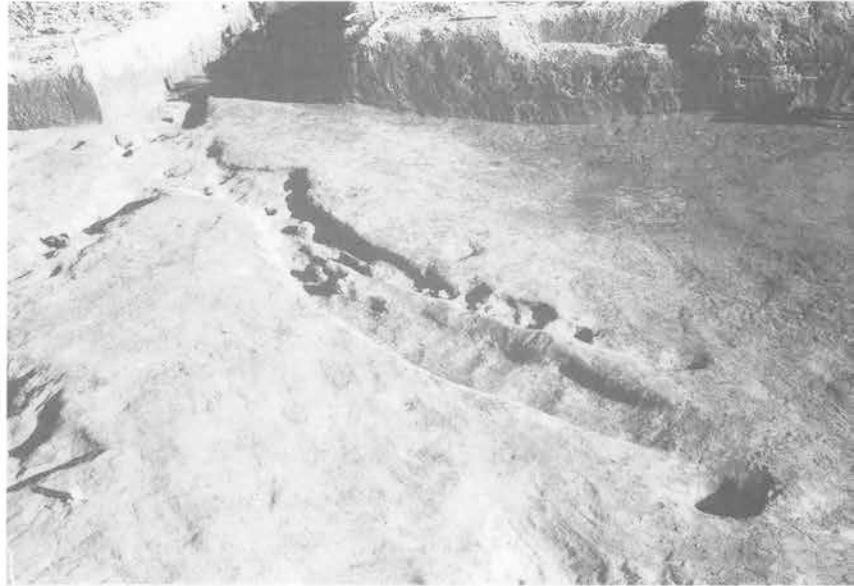


東側地区大型遺構と遺物



07号道路 遺物出土状態 (北から)

57号溝 遺物出土状態 (西から)



55(左)・56(右)号溝 全景 (東から)



55(左)・56(右)号溝 掘り上がり (東から)





58号溝 遺物出土状態 (南から)



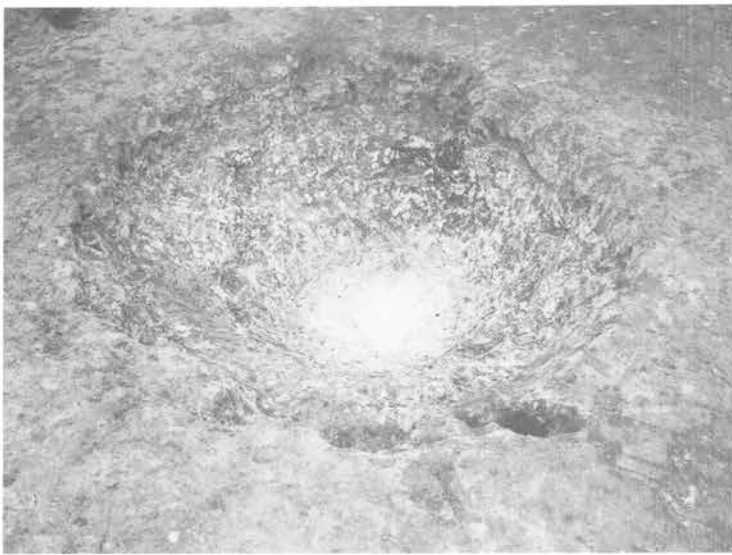
58溝-0203



58溝-0204



12井戸-0254



12号井戸 掘り上がり (南から)



12井戸-0255



12井戸-0256



12井戸-0259



12井戸-2101



12井戸-0257



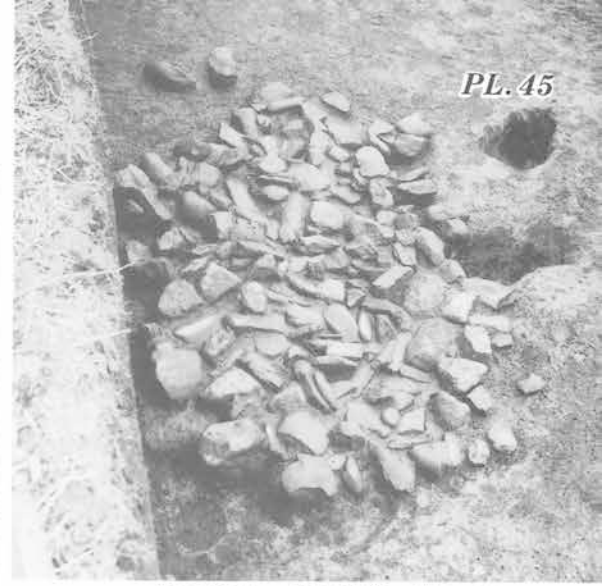
12井戸-0258



128号土坑 遺物出土状態 (東から)



01号集石 検出状態 (西から)



01号集石 検出状態 (北から)



02土集-0351



02土集-0350



02土集-0352



02土集-0353



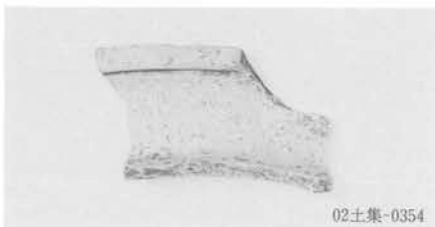
02土集-0356



02土集-0355



02号土器集積 検出状態 (北から)



02土集-0354



02土集-0349



02土集-0357



40号溝 遺物出土状態 (北西から)

40(右)・106(左)号溝 掘り上がり (北西から)



40(中央)・61(手前)・106(奥)号溝 全景 (西から)



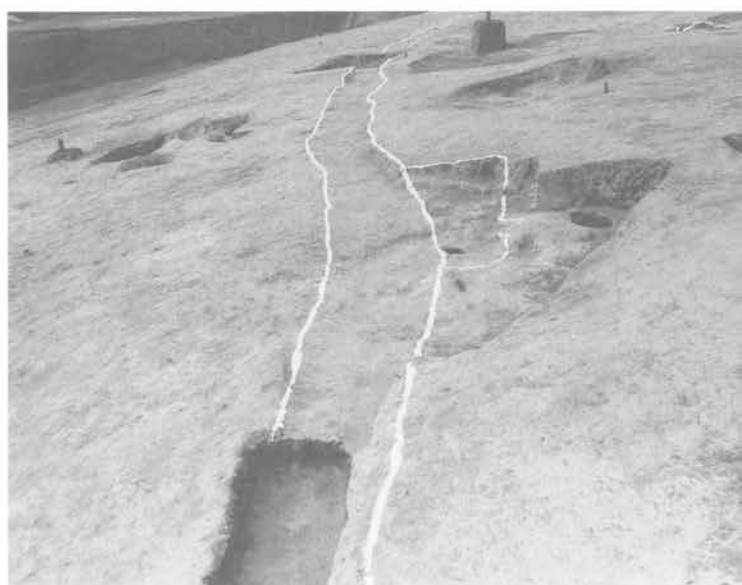
01号採掘坑 全景 (北西から)

01号採掘坑 掘り上がり (北西から)





62号溝 全景 (北から)



62号溝 掘り上がり (南から)



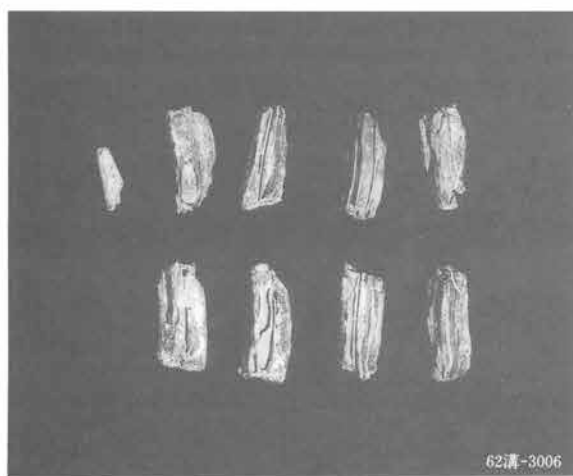
62号溝 馬歯出土状態 (西から)



62溝-2091



62溝-2111



62溝-3006



111・112号溝 掘り上がり (南西から)



130号土坑 掘り上がり (南から)



130号土坑 掘り上がり (北から)



131号土坑 掘り上がり (北から)



64溝-2114

64(右)・65(左)号溝・129号土坑(中央奥)  
掘り上がり (北から)



64号溝 遺物出土状態 (北から)



64号溝 遺物出土状態 (東から)



65溝-1010



65溝-1011



65溝-1012



02号建物(手前)・74号溝(奥) 掘り上がり (南から)



02号建物 遺物出土状態 (東から)



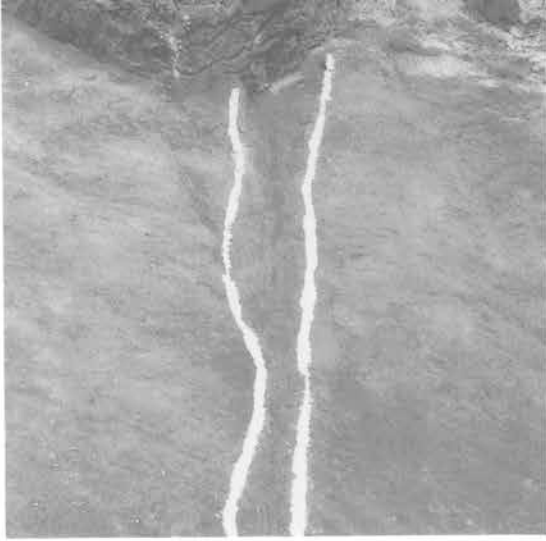
02号建物 遺物出土状態 (南から)



02号建物(奥)・74号溝(手前) 掘り上がり (北西から)

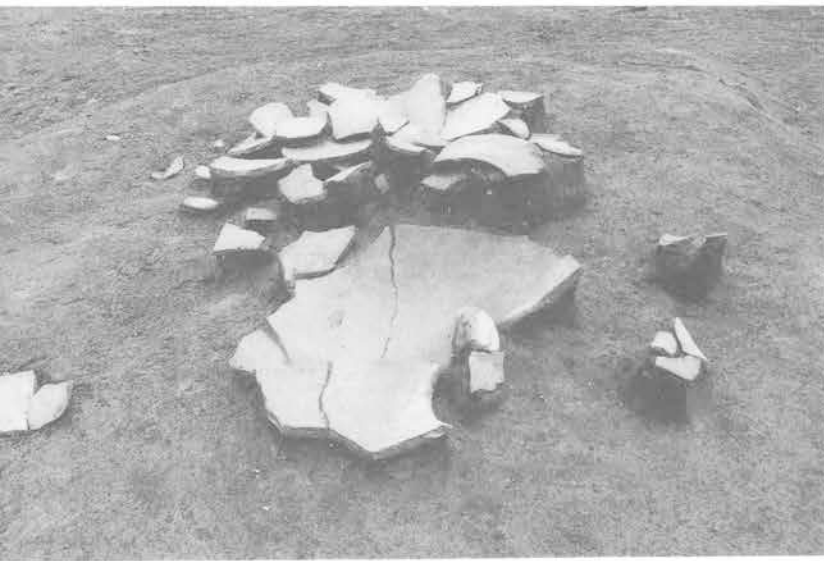
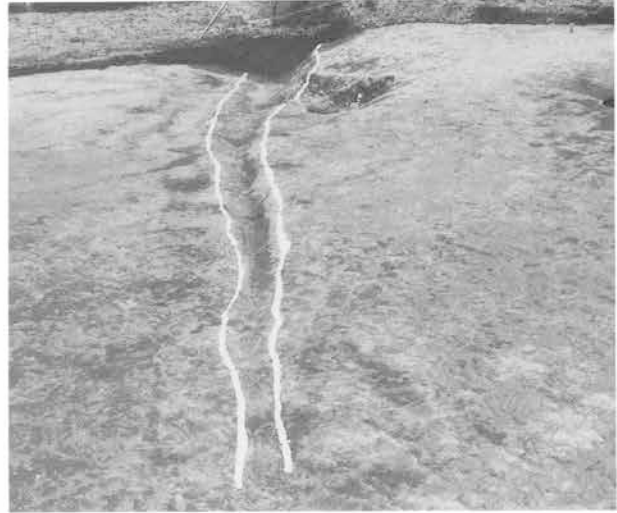


74号溝 掘り上がり (西から)



76号溝 掘り上がり (南東から)

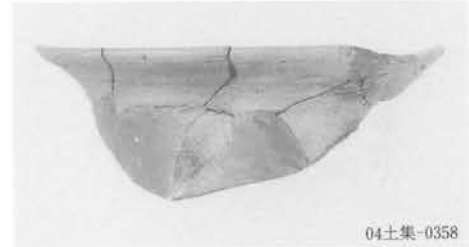
77号溝 掘り上がり (南西から)



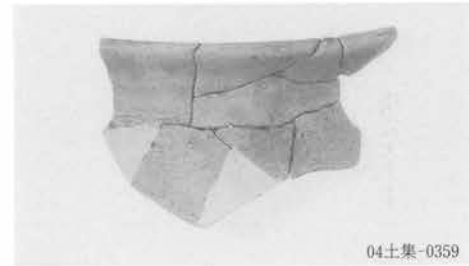
04号土器集積 検出状態 (西から)



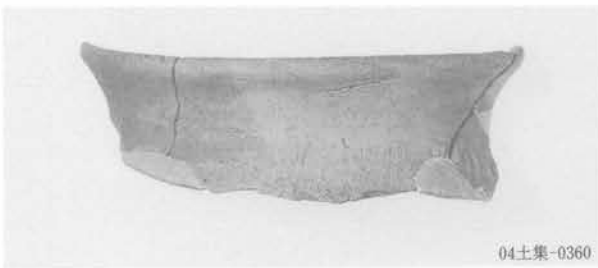
04土集-0364



04土集-0358



04土集-0359



04土集-0360



04土集-0362



04土集-0361



04土集-0363





01号石積土坑 検出状態 (西から)



01号石積土坑 検出状態 (北から)



01号石積土坑 検出状態 (東から)



01号石積土坑 掘り上がり (北から)



69号溝 掘り上がり (南から)



70号溝 遺物出土状態 (西から)



71号溝 掘り上がり (南から)



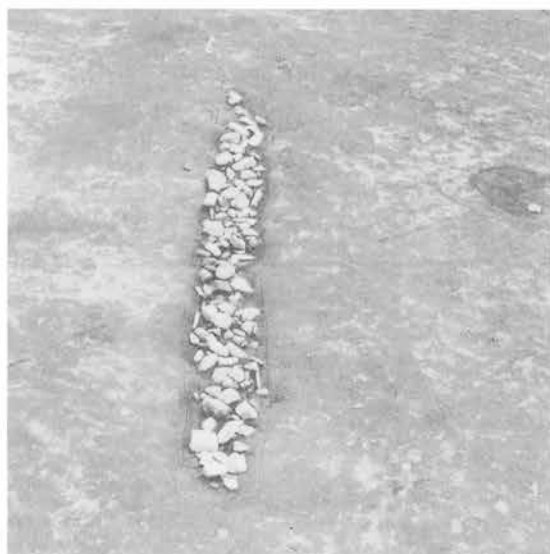
72号溝 掘り上がり (南から)



23号溝 全景 (北から)



23号溝 検出状態(北から)



23号溝 集石部分検出状態 (北から)



23号溝 集石部分検出状態 (南から)



24(右)・25(左)号溝 掘り上がり (西から)



24溝-0106



113号溝 全景 (南から)



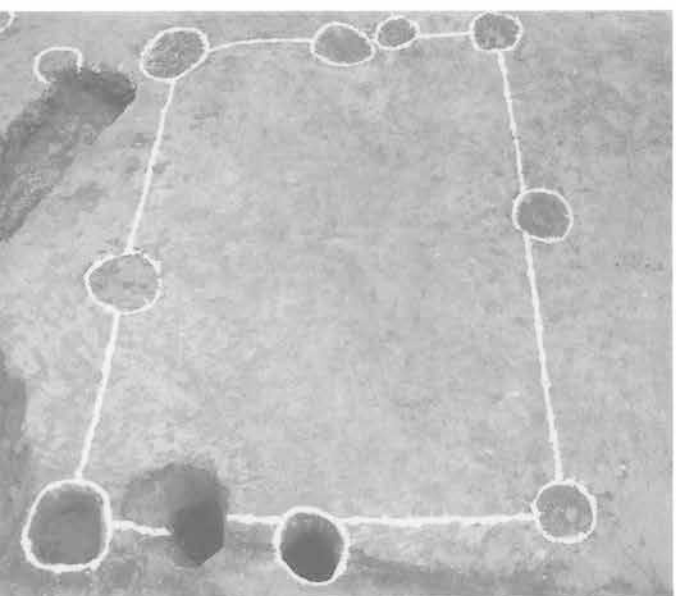
113号溝 掘り上がり (北東から)



114号溝(手前)・10号掘立(奥) 掘り上がり (東から)



114号溝・10号掘立・11号墓坑(右)・08号柱穴列(掘立内)・38号土坑(奥) 掘り上がり (北から)



09号掘立(中央)・37号土坑(左上) 掘り上がり (南東から)



09掘立-0325



09掘立-0326



09掘立-0327



08井戸-0242



08井戸-0243



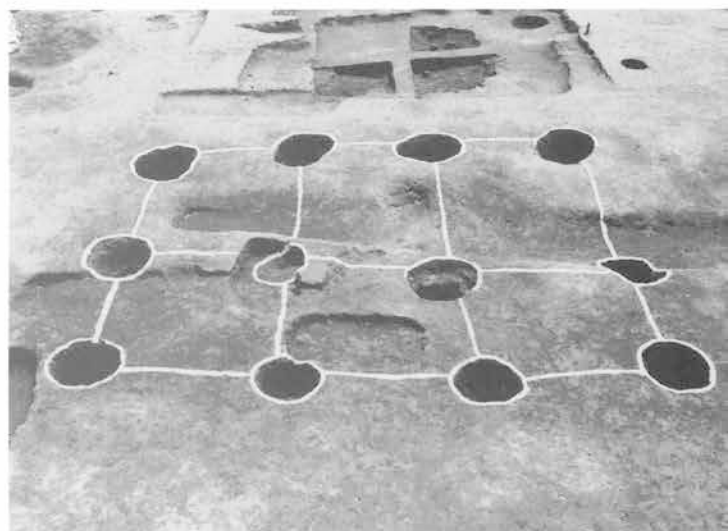
08井戸-0244



08号井戸 掘り上がり (西から)



08井戸-0245



06号掘立 掘り上がり (西から)



06掘立-0216



06掘立-0217



06掘立-0214



06掘立-0215



06掘立-0213



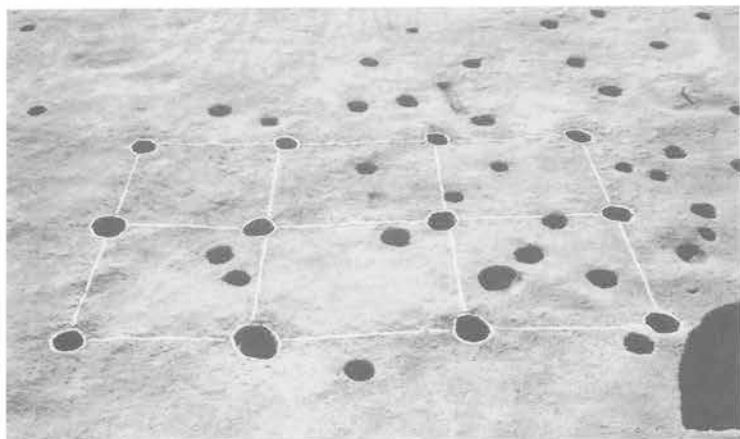
07掘立-0218

135号土坑(左上)・21号掘立 (未検出)  
07号掘立・掘り上がり (西から)

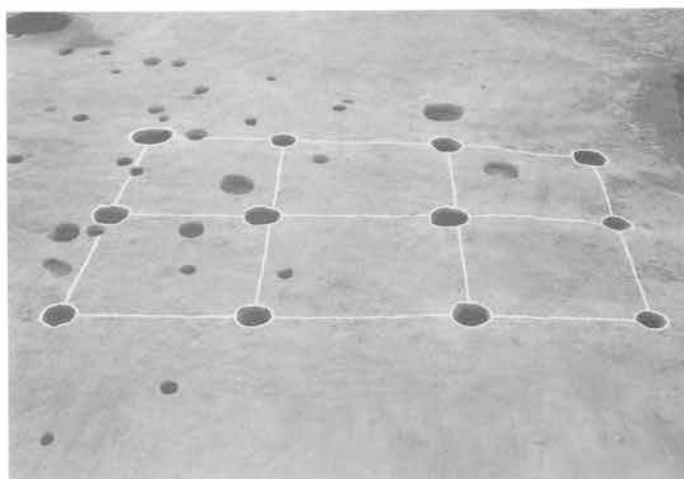
PL.56



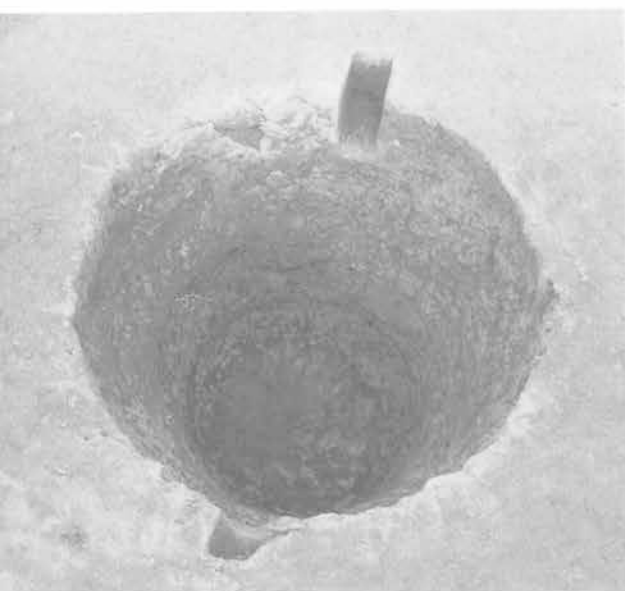
04(左)・05(右)号掘立 全景 (南から)



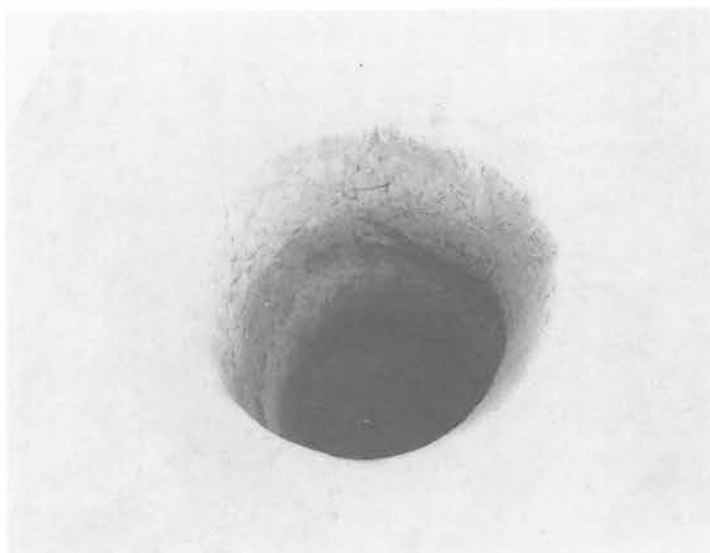
04号掘立 掘り上がり (北から)



05号掘立 掘り上がり (北から)



03号井戸 掘り上がり (南から)



06号井戸 掘り上がり (西から)



02号採掘坑(中央)40号土坑(手前) 掘り上がり (南西から)



03号採掘坑(中央)40号土坑(手前) 掘り上がり (北西から)



02号井戸 掘り上がり (南から)



02井戸-0240



02井戸-0239



04号井戸 掘り上がり (東から)



04井戸-0241



03号土器集積 検出状態 (西から)  
(上・下)



03土集-0432



03土集-0433



03土集-0434



03土集-0435



03土集-0376



03土集-0377



03土集-0378



03土集-0379



03土集-0380



03土集-0381



03土集-0382



03土集-0383



03土集-0384



03土集-0385



03土集-0386



03土集-0387



03土集-0388



03土集-0389

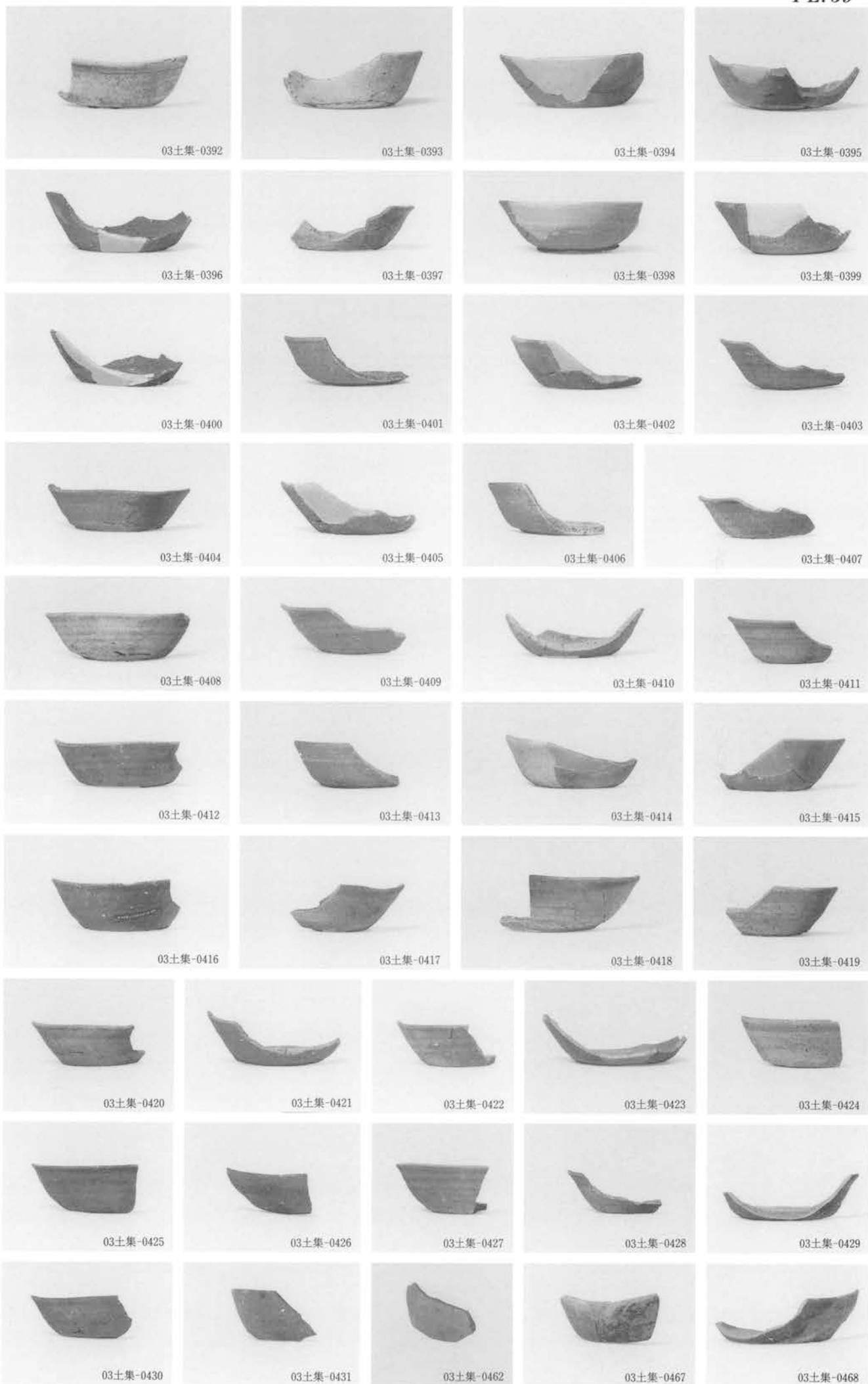


03土集-0390



03土集-0391







03土集-0436



03土集-0437



03土集-0438



03土集-0439



03土集-0440



03土集-0441



03土集-0442



03土集-0443



03土集-0444



03土集-0445



03土集-0446



03土集-0447



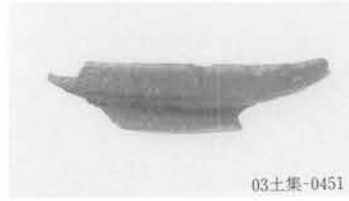
03土集-0448



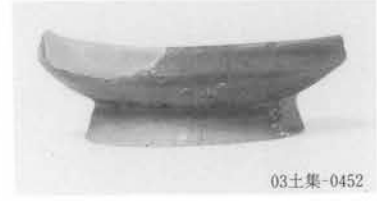
03土集-0449



03土集-0450



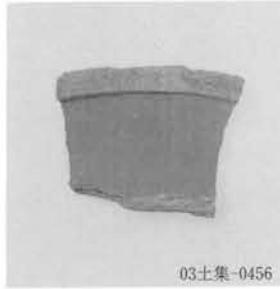
03土集-0451



03土集-0452



03土集-0454



03土集-0456



03土集-0457



03土集-0458



03土集-0459



03土集-0471



03土集-0470



03土集-0460



03土集-0461



03土集-0453



03土集-0455



03土集-0367



03土集-0368



03土集-0369



03土集-0370



03土集-0371



03土集-0372



03土集-0373



03土集-0469



03土集-0463



03土集-0464



03土集-0465

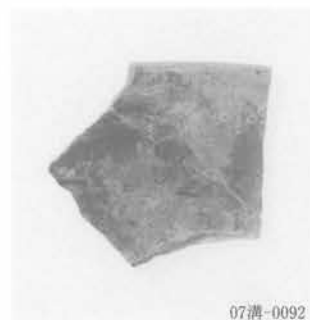


03土集-0466



07号溝 遺物出土状態 (北から)

09号溝 セクション (西から)



07溝-0092